

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

( 調 書 )

# 薬学教育評価 基礎資料

(平成30年5月1日現在)

城西大学薬学部

## 「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。  
平成31年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成30年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]・脚注を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]・脚注は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第3位を四捨五入して小数点第2位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
  - ・基本的にA4判で作成してください。
  - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号を付してください。
  - ・両面印刷して、加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
  - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
  - ・PDFファイルに変換したデータを、「自己点検・評価書」と同じCD-Rに保存し、提出してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1～9
基礎資料 2	修学状況 2-1 在籍状況      2-2 学生受入状況 2-3 学籍異動状況      2-4 学士課程修了(卒業)状況	10～13
基礎資料 3-1	薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目	14～47
基礎資料 3-2	実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目	48～51
基礎資料 3-3	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目	52～95
基礎資料 4-1	カリキュラム・ツリー ①2018年度入学生    ②2014年度入学生	96～97
基礎資料 4-2	カリキュラム・マップ ①2018年度入学生    ②2017年度入学生    ③2015・2016年度入学生	98～100
基礎資料 4-3	科目対応表 ①2018年度入学生    ②2017年度入学生    ③2015・2016年度入学生	101～103
基礎資料 5	語学教育の要素	104～106
基礎資料 6-1	実務実習事前学習のスケジュール（新カリキュラム）	107～117
基礎資料 6-2	実務実習事前学習のスケジュール（旧カリキュラム）	118～128
基礎資料 7	学生受入状況について（入学試験種類別）	129
基礎資料 8	教員・職員の数	130
基礎資料 9	専任教員の構成	131
基礎資料10	教員の教育担当状況（担当する授業科目と担当時間）	132～146
基礎資料11	卒業研究の配属状況および研究室の広さ	147
基礎資料12	講義室等の数と面積	148～149
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	150
基礎資料14	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	151
基礎資料15	専任教員の教育および研究活動の業績	152～269

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

1 年 次									
科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
コミュニケーション基礎英語 A	前期	13-31	9	252	演			2	
コミュニケーション基礎英語 B	後期	13-31	9	252	演			2	
コミュニケーション基礎英語 C	前期	31-32	8	254	演			2	
コミュニケーション基礎英語 D	後期	31-32	8	254	演			2	
(選) 自校史研究 (建学の精神と大学の理念)	後期		1	1	コ			2	
(選) 物理学 A	前期	22	1	22	コ			2	
(選) 物理学 B	後期	11	1	11	コ			2	
(選) 地学実験 (コンピュータ活用含む)	前期		1	5	実			1	
(選) 物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	前期		1	5	実			1	
(選) English Communication I A	前期		3	4	コ	S		2	
(選) English Communication I B	後期		2	3	コ			2	
(選) ドイツ語 I A	前期		7	43	コ			2	
(選) ドイツ語 I B	後期		7	31	コ			2	
(選) フランス語 I A	前期		2	4	演			2	
(選) フランス語 I B	後期		1	3	演			2	
(選) 中国語 I A	前期		4	17	演			2	
(選) 中国語 I B	後期		3	12	演			2	
(選) スペイン語 I A	前期		2	2	演			2	
(選) スペイン語 I B	後期		1	2	演			2	
(選) 韓国語 I A	前期		5	38	コ	演		2	
(選) 韓国語 I B	後期		3	25	コ	演		2	
(選) ハンガリー語 I A	前期		1	2	コ			2	
(選) ハンガリー語 I B	後期		1	1	コ			2	
(選) 倫理とは何か	前期		1	76	コ			2	
(選) 現代社会と法 I (日本国憲法)	前期		2	19	コ			2	
(選) 現代社会と法 II (国際法を含む)	後期		1	12	コ			2	
(選) 地圏環境	前期		1	16	コ			2	
(選) スポーツ科学 I	前期	21-49	5	191	コ	技		2	
(選) スポーツ科学 II	後期	11-53	6	186	コ	技		2	
(選) ジェンダー文化論	後期		1	28	コ	演		2	
(選) 人と文化	前期	92	1	84	コ			2	
(選) 地域と大学	後期		1	15	コ			2	
(選) グローバル社会と女性	後期		1	29	コ			2	
(選) 女性とダイバーシティ (女性の働き方)	後期		1	1	コ			2	
(選) 近世の日本史 I	前期		1	8	コ			2	
(選) 心理学 I	前期		1	39	コ			2	
薬学概論	前期	122-130	2	252	コ	演	S	1	
化学 A	前期	128-133	2	261	コ			2	
化学 B	後期	135-146	2	281	コ			2	
物理化学 A	前期	144-155	2	299	コ	演		2	
生物学 A	前期	145-150	2	295	コ			2	
生物学 B	前期	145-179	2	324	コ			2	
細胞生理学	後期	132-141	2	273	コ			2	
解剖学	後期	128-137	2	265	コ			2	
生理学 A	後期	133-144	2	277	コ			2	
微生物学	後期	143-163	2	306	コ			2	
生物学入門	前期	130-145	2	275	コ			1	
生化学 A	前期	131-139	2	270	コ			2	
生化学 B	後期	138-147	2	285	コ			2	
(選) 基礎化学	前期	107-118	2	225	コ			1	
(選) 基礎物理学	前期	194	1	194	コ			1	
(選) 薬学数学	前期	138	1	138	コ			2	
(選) 医療における栄養	前期	165	1	165	コ			2	
薬学実習 A (コンピュータ活用を含む)	前期	253	1	253	実	演	S	2	
薬学実習 B	後期	254	1	258	コ	実	演	2	
フレッシュマンセミナー (薬学) A	前期	120-130	2	253	コ	演	S	1	
フレッシュマンセミナー (薬学) B	後期	256	1	256	講	S		1	
化学 A 演習	前期	132-142	2	274	コ	演		1	
化学 B 演習	後期	151-155	2	306	演			1	
基礎有機化学演習	後期	137-149	2	286	コ	演		1	
単位数の合計	(必須科目)							41	
	(選択科目)							68	
	合計							109	

※複数学年開講科目は下位学年で表示

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実 実技=技  
講演会=講 TBL=T 研究、発表=研 インターンシップ=イ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
- 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

		2 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	(選) フランス語ⅡA	前期	11	1	1	1	演		2
	(選) TOEICイングリッシュⅡA	前期	23	2	4	4	演		2
	(選) TOEICイングリッシュⅡB	後期	17	2	4	4	演		2
薬学専門教育	基礎薬理学	前期	134-146	2	280	コ			1
	分析化学A	前期	125-132	2	257	コ			2
	分析化学B	後期	127-130	2	257	コ	演		2
	物理化学B	前期	119-125	2	244	コ	演		2
	物理薬剤学A	後期	123-150	2	273	コ			2
	物理薬剤学B	後期	117-129	2	246	コ			2
	免疫学	前期	112-120	2	232	コ			2
	有機化学A	前期	111-119	2	230	コ			2
	有機化学B	後期	128-132	2	260	コ			2
	生理学B	前期	113-123	2	236	コ			2
	薬理学A	後期	123-130	2	253	コ			2
	病原微生物学	前期	118-126	2	244	コ			2
	生薬学	後期	120-124	2	244	コ			2
	基礎栄養学	後期	121-126	2	247	コ			2
	病態学	後期	113	2	226	コ			2
	薬学英語入門	前期	55-59	4	231	コ			1
	(選) 総合生物	後期	113-114	2	227	コ			2
(選) 化粧品・医薬部外品学A	前期	225	1	225	コ			2	
実習	(選) 選択実験	後期	3	1	2	実	演		1
	薬学実習C (コンピュータ活用含む)	前期	228	1	228	コ	実	演	2
	薬学実習D	後期	230	1	230	コ	実	演	2
演習	(選) 情報科学 (演習含む)	後期	5	1	5	コ	演		2
	薬学総合演習A	後期	116-125	2	241	演	S	T	1
	解剖学演習	前期	111-119	2	230	コ	演		1
単位数の合計								(必須科目)	36
								(選択科目)	13
								合計	

※複数学年開講科目は下位学年で表示

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実 実技=技  
講演会=講 TBL=T 研究、発表=研 インターンシップ=イ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

色	科目の識別
黄	ヒューマニズム教育・医療倫理教育
紫	教養教育科目
緑	語学教育科目
青	医療安全教育科目
赤	生涯学習の意欲醸成科目
白	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。  
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S  
6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

		3 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育		公衆衛生学A (含放射化学)	前期	123-124	2	247	コ		2
		有機化学C	前期	128-130	2	258	コ		2
		生化学C	前期	121-124	2	245	コ	演	2
		薬物治療学A	前期	119-123	2	242	コ		2
		薬物治療学B	後期	122-125	2	247	コ		2
		薬理学B	前期	120-124	2	244	コ		2
		異物代謝学	前期	140-144	2	284	コ		2
		薬理学C	後期	122-124	2	246	コ		2
		中毒学	後期	132-136	2	268	コ		2
		調剤処方学	後期	126-130	2	256	コ		2
		生物薬剤学	前期	129-136	2	265	コ		2
		薬物動態学	後期	136-145	2	281	コ		2
		漢方薬	後期	121-122	2	243	コ		1
		コミュニティファーマシー論	前期	143-144	2	287	コ	演	1
		薬剤師関係法制度概論	前期	134-139	2	273	コ		2
		実用薬学英語	前期	60-62	4	245	コ		1
		(選) 栄養学	後期	23	1	23	コ		2
		(選) 化粧品・医薬部外品学B	後期	88	1	88	コ		2
		(選) 食品機能学A	後期	19	1	19	コ		2
		(選) 食品機能学B	前期	56	1	56	コ		2
	(選) 臨床心理学	前期	6-8	2	14	コ		2	
	(選) 天然物化学	前期	69	1	69	コ		1	
実習		(選) 選択実験	後期	3	1	1	実	演	
		薬学実習E	前期	237	1	234	実	S	2
		薬学実習F	後期	240	1	240	実	S	2
演習		看護/介護/社会福祉演習	前期	121-125	2	246	コ	演	1
		薬学総合演習B	後期	121-125	2	246	演	S T	1
		医薬品化学演習	後期	127	2	254	コ	演	1
		生物有機化学演習	後期	119-123	2	242	演		1
		生物統計学演習A	後期	123-125	2	248	コ	演	1
		病態学演習A	前期	120-121	2	241	コ	演	1
		病態学演習B	後期	120-123	2	243	コ	演	1
		(選) 有機化学演習	後期	66	1	66	コ	演	1
単位数の合計								(必須科目)	40
								(選択科目)	12
								合計	52

※複数学年開講科目は下位学年で表示

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実 実技=技  
講演会=講 TBL=T 研究、発表=研 インターンシップ=イ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	ヒューマニズム教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。  
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。  
下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S  
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

		4 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育		薬物治療学C	前期	74-90	2	164	コ		2
		医療栄養学	前期	104-119	2	223	コ		2
		医薬品情報学	前期	111-122	2	233	コ		2
		製剤材料学	前期	113-126	2	239	コ		2
		製剤管理学	前期	112-126	2	238	コ		2
		社会と薬学	後期	112-125	2	237	コ	演	2
		公衆衛生学B	前期	75-90	2	165	コ		2
		卒業研究	通年	-	-	-	研		
		(選) コミュニティ・ファーマシー・インターンシップ	前期	20	1	20	コ	イ S	1
		(選) 緩和医療学	後期	8	1	8	コ		2
		(選) 臨床検査学	前期	19	1	17	コ		2
		(選) 臨床分析学	前期	6	1	5	コ		2
		(選) 食品医薬品相互作用論	前期	8	1	8	コ		2
		(選) 公衆衛生学C	後期	4	1	4	コ		2
		(選) ハーブ論	後期	4	1	4	コ		2
		(選) ITグローバル化論	前期	2	1	1	コ	演	2
		(選) 医薬品・食品・化粧品マーケティング論	後期	5	1	5	コ		2
	(選) バイオインフォマティクス	前期	6	1	4	コ	演	2	
実習	(選) 放射化学実習	前期	1	1	1	コ	実 演	1	
演習		コミュニケーション体験演習	通年	165	1	165	演	S T	1
		薬物治療演習	後期	116-124	2	240	コ	演	1
		調剤処方演習	前期	105-120	2	225	コ	演	1
		(選) 医療栄養学演習	後期	2	1	2	コ	演	1
		(選) 物理化学演習	後期	5	1	5	コ	演	1
		薬事法制度概論演習	後期	107-121	2	228	コ	演	1
		薬学総合演習C	後期	165	1	165	コ	演	1
		薬学総合実習・演習A	前期	165	1	165	コ	演	1
	薬学総合実習・演習B	前期	165	1	165	演		1	
	薬学総合実習・演習C	前期	165	1	165	演		1	
単位数の合計								(必須科目)	22
								(選択科目)	23
								合計	45

※卒業研究については6年次でカウント

※複数学年開講科目は下位学年で表示

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実 実技=技  
講演会=講 TBL=T 研究、発表=研 インターンシップ=イ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
2 下記の「科目の識別」に、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。  
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
5 表には下の「授業方法」の表記に、主な方法を記入してください。  
下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S  
6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

		5 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
教養教育・語学教育										
薬学専門教育	卒業研究	通年	—	—	—	—	研			
	(選) コミュニティファーマシーインターンシップ	前期	20	1	0	0	コ	イ	S	
	(選) 緩和医療学	後期	10	1	0	0	コ			
	(選) 臨床検査学	前期	19	1	1	1	コ			
	(選) 臨床分析学	前期	6	1	0	0	コ			
	(選) 食品医薬品相互作用論	前期	9	1	0	0	コ			
	(選) 公衆衛生学Ⅲ	後期	6	1	0	0	コ			
	(選) ハーブ論	後期	6	1	0	0	コ			
	(選) ITグローバルイノベーション論	前期	2	1	1	1	コ	演		
	(選) 医薬品・食品・化粧品マーケティング論	後期	6	1	0	0	コ			
	(選) バイオインフォマティクス	前期	6	1	0	0	コ	演		
実習	薬局実習	通年	221	1	221	221	実		10	
	病院実習	通年	221	1	221	221	実		10	
	(選) 放射化学実習	前期	1	1	0	0	コ	実	演	
演習	導入講義・演習	前期	221	1	221	221	コ	演	1	
	(選) 統合演習	後期	136	1	128	128	演	S	T	
	(選) 医療栄養学演習	後期	2	1	0	0	コ	演		
	(選) 物理化学演習	後期	5	1	0	0	コ	演		
単位数の合計							(必須科目)			22
							(選択科目)			0
							合計			22

※卒業研究については6年次でカウント

※複数学年開講科目は下位学年で表示

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実 実技=技
講演会=講 TBL=T 研究、発表=研 インターンシップ=イ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。  
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S  
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

		6 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	卒業研究	通年	259			259	研		6
	医薬品開発治験論	前期	259	1	259	コ			1
	社会保険制度・コミュニティファーマシー論	前期	259	1	259	コ			1
	(選) コミュニティファーマシーインターンシップ	前期	20	1	0	コ	イ	S	
	(選) 緩和医療学	後期	8	1	0	コ			
	(選) 臨床検査学	前期	19	1	1	コ			
	(選) 臨床分析学	前期	6	1	1	コ			
	(選) 食品医薬品相互作用論	前期	8	1	0	コ			
	(選) 公衆衛生学Ⅲ	後期	4	1	0	コ			
	(選) ハーブ論	後期	4	1	0	コ			
	(選) ITグローバルイノベーション論	前期	2	1	0	コ	演		
	(選) 医薬品・食品・化粧品マーケティング論	後期	5	1	0	コ			
	(選) バイオインフォマティクス	前期	6	1	2	コ	演		
実習	(選) 放射化学実習	前期	1	1	0	コ	実	演	
演習	薬学総合演習Ⅳ	後期	249	1	249	コ	演		1
	学内実務実習演習	前期	249	1	249	コ	演		2
	(選) 統合演習	後期	136	1	8	演	S	T	
	(選) 医療栄養学演習	後期	2	1	0	コ	演		
	(選) 物理化学演習	後期	5	1	0	コ	演		
単位数の合計								(必須科目)	11
								(選択科目)	0
								合計	11

※卒業研究については6年次でカウント  
 ※複数学年開講科目は下位学年で表示

(凡例)	
講義=コ	PBL/SGD=S 演習=演 実習=実 実技=技
講演会=講	TBL=T 研究、発表=研 インターンシップ=イ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。  
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。  
 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S  
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目 (新カリキュラム)

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	11	13
教養教育科目	18	34
語学教育科目	23	44
医療安全教育科目	9	13
生涯学習の意欲醸成科目	6	6
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	10	11

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	41	68	109
2 年 次	36	13	49
3 年 次	40	12	52
4 年 次	22	23	45
5 年 次	22	0	22
6 年 次	11	0	11
合計	172	116	288

(基礎資料1-7) 学年別授業科目 (旧カリキュラム)

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	7	9
教養教育科目	19	36
語学教育科目	32	58
医療安全教育科目	9	13
生涯学習の意欲醸成科目	5	5
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	8	9

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	37	85	122
2 年 次	39	13	52
3 年 次	41	13	54
4 年 次	20	28	48
5 年 次	23	0	23
6 年 次	9	3	12
合計	169	142	311

(基礎資料2-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 <sup>1)</sup>		250	250	250	250	250	250
入学時の学生数 <sup>2)</sup>	A	254	277	311	290	327	375
在籍学生数 <sup>3)</sup>	B	316	267	289	257	218	295
過年度在籍者数 <sup>4)</sup>	留年による者 C	62	63	80	110	49	88
	休学による者 D	(11)	(12)	(4)	(33)	(3)	(3)
編入学などによる在籍者数	E	0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 <sup>5)</sup>	F	254	204	209	147	169	207
ストレート在籍率 <sup>6)</sup>	F/A	100%	73.65%	67.20%	50.69%	51.68%	55.20%
過年度在籍率 <sup>7)</sup>	(C+D)/B	24.41%	22.74%	25.72%	37.93%	14.98%	23.47%

※Dの人数はCに含む

- 1)各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2)当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3)評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4)過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5)(在籍学生数) - {(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)}を記載してください。  
ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}
- 6)(ストレート在籍者数)/(入学時の学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。
- 7)(過年度在籍者数)/(在籍学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料2-2) 直近6年間の学生受入状況

入学年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均値 <sup>5)</sup>
入学定員 A	250	250	250	250	250	250	250
実入学者数 <sup>1)</sup> B	375	327	290	311	277	254	306
入学定員充足率 <sup>2)</sup> B/A	1.50	1.31	1.16	1.24	1.11	1.02	1.22
編入学定員	-	-	-	-	-	-	
編入学者数 <sup>3)</sup> C+D+E	0	0	0	0	0	0	0
編入学した学年別の内数 <sup>4)</sup>	2年次 C						
	3年次 D						
	4年次 E						

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入学者数の編入学受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料2-3) 評価実施年度の直近5年間における学年別の学籍異動状況

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	377	341	357	336	319
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	3	1	3	6
	退学者数 <sup>2)</sup>	24	32	33	34	34
	留年者数 <sup>2)</sup>	36	26	33	62	53
	進級率 <sup>3)</sup>	84.08%	82.11%	81.23%	70.54%	70.85%
2年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	402	368	329	319	272
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	0	1	0	4
	退学者数 <sup>2)</sup>	19	20	33	25	24
	留年者数 <sup>2)</sup>	38	40	54	42	62
	進級率 <sup>3)</sup>	85.82%	83.70%	73.25%	79.00%	66.91%
3年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	274	338	323	288	290
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	0	0	1	1
	退学者数 <sup>2)</sup>	14	13	11	11	20
	留年者数 <sup>2)</sup>	35	42	43	49	48
	進級率 <sup>3)</sup>	81.75%	83.73%	83.28%	78.82%	76.21%
4年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	238	234	280	273	277
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	1	5	0	14
	退学者数 <sup>2)</sup>	4	0	3	1	11
	留年者数 <sup>2)</sup>	21	42	37	54	22
	進級率 <sup>3)</sup>	89.50%	81.62%	83.93%	79.85%	83.03%
5年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	217	217	216	262	218
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	0	0	0	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	0	0	1	1	0
	留年者数 <sup>2)</sup>	15	23	12	1	2
	進級率 <sup>3)</sup>	93.09%	89.40%	93.98%	99.24%	99.08%

1) 在籍者数は、当該年度当初(4月1日)における1年次から5年次に在籍していた学生数を記載してください。

2) 休学者数、退学者数、留年者数については、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載してください。  
ただし、同一学生に複数の事象が発生した場合は、後の事象だけに算入してください。  
なお、前期に休学して後期から復学した学生については、進級できなかった場合は休学として算入し、進級した場合は算入しないでください。

3) 進級率は、次式で計算した結果を、小数点以下第2位まで記入してください。  

$$\{(\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数})\} / (\text{在籍者数})$$

(基礎資料2-4) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 <sup>1)</sup> A		274	220	220	217	263
学士課程修了(卒業)者数 B		231	199	187	182	224
卒業率 <sup>2)</sup> B/A		84.31%	90.45%	85.00%	83.87%	85.17%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 <sup>3)</sup>	6年 C	219	180	158	162	196
	7年	11	19	21	10	26
	8年	1	0	7	8	1
	9年以上	0	0	1	2	1
入学時の学生数(実入学者数) <sup>4)</sup> D		334	277	259	311	375
ストレート卒業率 <sup>5)</sup> C/D		65.57%	64.98%	61.00%	52.09%	52.27%

d

- 1) 9月卒業などの卒業延期生、休退学者を除いた数字を記載してください。
- 2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値 (B/A) を小数点以下第2位まで記載してください。
- 3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。
- 4) それぞれの年度の6年次学生 (C) が入学した年度の実入学者数 (編入学者を除く) を記載してください。
- 5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値 (C/D) を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。  
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ</b>						
<b>(1) 生と死</b>						
<b>【生命の尊厳】</b>						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)	薬学概論 薬学実習 I					
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。	薬学概論 薬学実習 I					医薬品開発・治験論
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	薬学実習 I		看護／介護／社会福祉			医薬品開発・治験論
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。	薬学概論 フレッシュマンセミナー(薬学) I、II 薬学実習 I		看護／介護／社会福祉			医薬品開発・治験論
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)	薬学概論 フレッシュマンセミナー(薬学) I 薬学実習 I					
<b>【医療の目的】</b>						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	薬学概論 薬学実習 I					
<b>【先進医療と生命倫理】</b>						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。	薬学概論					医薬品開発・治験論
<b>(2) 医療の担い手としてのこころ構え</b>						
<b>【社会の期待】</b>						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	薬学概論 フレッシュマンセミナー(薬学) I、II					
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)	フレッシュマンセミナー(薬学) II					
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)	フレッシュマンセミナー(薬学) II					
<b>【医療行為に関わるこころ構え】</b>						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。						医薬品開発・治験論
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。						医薬品開発・治験論
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。						医薬品開発・治験論
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)						医薬品開発・治験論
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	薬学概論					
<b>【研究活動に求められるこころ構え】</b>						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	フレッシュマンセミナー(薬学) II					卒業研究
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)	薬学概論					卒業研究
3) 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)	薬学概論					卒業研究
<b>【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】</b>						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)	薬学概論					
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	フレッシュマンセミナー(薬学) II					
<b>【自己学習・生涯学習】</b>						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)	薬学概論 フレッシュマンセミナー(薬学) I、II					
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)	フレッシュマンセミナー(薬学) II					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) 信頼関係の確立を目指して</b>						
<b>【コミュニケーション】</b>						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) I					
<b>【相手の気持ちに配慮する】</b>						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) I					
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) I					
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) I、II					
<b>【患者の気持ちに配慮する】</b>						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) I					
<b>【チームワーク】</b>						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) I 薬学実習 I		異物代謝学 看護／介護／社会福祉			
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) I、II 薬学実習 I		看護／介護／社会福祉	医療栄養学		
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) I 薬学実習 I					
<b>【地域社会の人々との信頼関係】</b>						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	薬学概論					
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)	薬学概論					
<b>B イントロダクション</b>						
<b>(1) 薬学への招待</b>						
<b>【薬学の歴史】</b>						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学概論					
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	薬学概論					
<b>【薬剤師の活動分野】</b>						
1) 薬剤師の活動分野 (医療機関、製薬企業、衛生行政など) について概説できる。	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) II					
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) II			医療栄養学		
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	薬学概論					
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) II			公衆衛生学 II		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【薬について】</b>						
1) 「薬とは何か」を概説できる。	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) II			公衆衛生学 II		
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	薬学概論					
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。	薬学概論					
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
<b>【現代社会と薬学との接点】</b>						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) II					
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	薬学概論		中毒学			
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) II		中毒学			
<b>【日本薬局方】</b>						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。	薬学概論					
<b>【総合演習】</b>						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) II					
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)	フレッシュマンセミナー (薬学) I					
<b>(2) 早期体験学習</b>						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) I、II					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) I、II					
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) I、II					
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)	薬学概論 フレッシュマンセミナー (薬学) I、II					
<b>C 薬学専門教育</b>						
<b>【物理系薬学を学ぶ】</b>						
<b>C1 物質の物理的性質</b>						
<b>(1) 物質の構造</b>						
<b>【化学結合】</b>						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	化学 I 基礎有機化学演習					
2) 軌道の混成について説明できる。	化学 I 基礎有機化学演習					
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。	化学 I 基礎有機化学演習					
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。	化学 I 基礎有機化学演習					
<b>【分子間相互作用】</b>						
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	化学 I 演習	物理化学 II 物理薬剤学 I				
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。	化学 I 演習	物理化学 II 物理薬剤学 I				
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	化学 I 演習	物理化学 II 物理薬剤学 I				
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	化学 I 演習	物理化学 II 物理薬剤学 I				
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	化学 I 演習	物理化学 II 物理薬剤学 I				
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。		物理化学 II				
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		物理化学 II 物理薬剤学 I				
<b>【原子・分子】</b>						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		物理化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		物理化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。		物理化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。		物理化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)		物理化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
6) 偏光および旋光性について説明できる。		物理化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
7) 散乱および干渉について説明できる。		物理化学Ⅱ				
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。		物理化学Ⅱ				
<b>【放射線と放射能】</b>						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。			公衆衛生学Ⅰ			
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。			公衆衛生学Ⅰ			
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。			公衆衛生学Ⅰ			
4) 核反応および放射平衡について説明できる。			公衆衛生学Ⅰ			
5) 放射線の測定原理について説明できる。			公衆衛生学Ⅰ			
<b>(2) 物質の状態Ⅰ</b>						
<b>【総論】</b>						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理化学Ⅰ					
<b>【エネルギー】</b>						
1) 系、外界、境界について説明できる。	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
3) 仕事および熱の概念を説明できる。	物理化学Ⅰ					
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)	物理化学Ⅰ					
7) エンタルピーについて説明できる。	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。	物理化学Ⅰ					
<b>【自発的な変化】</b>						
1) エントロピーについて説明できる。	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物理化学Ⅰ					
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)	物理化学Ⅰ					
4) 熱力学第三法則について説明できる。	物理化学Ⅰ					
5) 自由エネルギーについて説明できる。	物理化学Ⅰ 物理薬理学Ⅰ					
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)	化学Ⅰ 演習 物理化学Ⅰ					
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。	物理化学Ⅰ					
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。	物理化学Ⅰ					
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。	物理化学Ⅰ					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) 物質の状態 II</b>						
<b>【物理平衡】</b>						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。	化学 I 演習 物理化学 I					
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理薬剤学 I				
3) 代表的な状態図 (一成分子系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。		物理薬剤学 I				
4) 物質の溶解平衡について説明できる。		物理薬剤学 I				
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。	化学 I 演習	物理薬剤学 I				
6) 界面における平衡について説明できる。		物理薬剤学 I				
7) 吸着平衡について説明できる。		物理薬剤学 I				
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		薬学実習 IV				
<b>【溶液の化学】</b>						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。		物理薬剤学 I				
2) 活量と活量係数について説明できる。		物理薬剤学 I				
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理薬剤学 I				
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。		物理薬剤学 I				
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。		物理薬剤学 I				
6) イオン強度について説明できる。		物理薬剤学 I				
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。		物理薬剤学 I				
<b>【電気化学】</b>						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		物理薬剤学 I				
2) 標準電極電位について説明できる。	化学 II 化学 II 演習	物理薬剤学 I				
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。		物理薬剤学 I				
4) Nernstの式が誘導できる。	化学 II 化学 II 演習					
5) 濃淡電池について説明できる。		物理薬剤学 I				
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。	細胞生理学		薬学実習 V			
<b>(4) 物質の変化</b>						
<b>【反応速度】</b>						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	化学 I 演習	物理薬剤学 II 薬学実習 IV				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理薬剤学 II 薬学実習 IV				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理薬剤学 II 薬学実習 IV				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理薬剤学 II 薬学実習 IV				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理薬剤学 II				
6) 反応速度と温度との関係 (Arrheniusの式) を説明できる。		物理薬剤学 II				
7) 衝突理論について概説できる。		薬学実習 IV				
8) 遷移状態理論について概説できる。		薬学実習 IV				
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。		物理薬剤学 II				
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		薬学実習 III				
<b>【物質の移動】</b>						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		薬学実習 IV				
2) 沈降現象について説明できる。		薬学実習 IV				
3) 流動現象および粘度について説明できる。		物理薬剤学 II		製剤材料学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C2 化学物質の分析</b>						
<b>(1) 化学平衡</b>						
<b>【酸と塩基】</b>						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	化学Ⅰ 演習 化学Ⅱ 化学Ⅱ 演習 薬学実習Ⅰ					
2) 溶液の水素イオン濃度 (pH) を測定できる。(技能)	化学Ⅱ 薬学実習Ⅱ					
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)	化学Ⅰ 演習 化学Ⅱ 化学Ⅱ 演習 薬学実習Ⅱ					
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	化学Ⅱ 薬学実習Ⅱ					
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	化学Ⅰ 演習 化学Ⅱ 薬学実習Ⅱ					
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。	化学Ⅱ 化学Ⅱ 演習	薬学実習Ⅳ				
<b>【各種の化学平衡】</b>						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	化学Ⅱ 化学Ⅱ 演習					
2) 沈殿平衡 (溶解度と溶解度積) について説明できる。	化学Ⅰ 演習 化学Ⅱ 化学Ⅱ 演習	薬学実習Ⅳ				
3) 酸化還元電位について説明できる。	化学Ⅱ 化学Ⅱ 演習	薬学実習Ⅳ				
4) 酸化還元平衡について説明できる。	化学Ⅱ 化学Ⅱ 演習					
5) 分配平衡について説明できる。	化学Ⅱ 化学Ⅱ 演習	薬学実習Ⅳ				
6) イオン交換について説明できる。	化学Ⅱ 化学Ⅱ					
<b>(2) 化学物質の検出と定量</b>						
<b>【定性試験】</b>						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	薬学実習Ⅰ	薬学実習Ⅳ				
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		薬学実習Ⅳ				
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学Ⅰ 薬学実習Ⅳ				
<b>【定量の基礎】</b>						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)		薬学実習Ⅳ				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学Ⅰ				
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		分析化学Ⅰ 薬学実習Ⅳ				
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。		分析化学Ⅰ 薬学実習Ⅳ				
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		薬理学Ⅰ	薬理学Ⅲ			
<b>【容量分析】</b>						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬学実習Ⅱ	分析化学Ⅰ				
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ				
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ				
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ				
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬学実習Ⅱ	分析化学Ⅰ				
6) 電気滴定 (電位差滴定、電気伝導度滴定など) の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬学実習Ⅱ	分析化学Ⅰ				
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)	薬学実習Ⅱ					
<b>【金属元素の分析】</b>						
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【クロマトグラフィー】</b>						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅲ				
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅲ				
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅲ				
<b>(3) 分析技術の臨床応用</b>						
<b>【分析の準備】</b>						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)		分析化学Ⅱ				
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		分析化学Ⅱ				
<b>【分析技術】</b>						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		分析化学Ⅱ		製剤管理学		
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ		製剤管理学		
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		分析化学Ⅱ	薬学実習Ⅵ	製剤管理学		
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		分析化学Ⅱ	薬学実習Ⅵ			
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。				製剤管理学		
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。				製剤管理学		
7) 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。				製剤管理学		
8) 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。			薬理学Ⅲ	製剤管理学		
9) 薬学領域で緊用されるその他の分析技術(パライメーシング、マイクロチップなど)について概説できる。			薬学実習Ⅵ			
<b>【薬毒物の分析】</b>						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			中毒学			
2) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。			中毒学			
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)			中毒学			
<b>C3 生体分子の姿・かたちをとらえる</b>						
<b>(1) 生体分子を解析する手法</b>						
<b>【分光分析法】</b>						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅲ 薬学実習Ⅳ				
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		分析化学Ⅱ				
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		分析化学Ⅱ				
4) 電子スピン共鳴(ESR)スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
5) 旋光度測定法(旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
6) 代表的な生体分子(核酸、タンパク質)の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
<b>【核磁気共鳴スペクトル】</b>						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。		分析化学Ⅱ				
<b>【質量分析】</b>						
1) 質量分析法の原理を説明できる。		分析化学Ⅱ				
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。		分析化学Ⅱ				
<b>【X線結晶解析】</b>						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。		分析化学Ⅱ				
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。		分析化学Ⅱ				
<b>【相互作用の解析法】</b>						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。		生化学Ⅰ				
<b>(2) 生体分子の立体構造と相互作用</b>						
<b>【立体構造】</b>						
1) 生体分子(タンパク質、核酸、脂質など)の立体構造を概説できる。		生化学Ⅰ				
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。		生化学Ⅰ				
3) タンパク質の立体構造を規定する因子(疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など)について、具体例を用いて説明できる。		生化学Ⅰ				
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。		生化学Ⅰ				
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生物学Ⅱ	生化学Ⅰ				
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ				
<b>【相互作用】</b>						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	生物学 I 細胞生理学					
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生物学 II 細胞生理学					
3) 脂質の水中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。	細胞生理学	物理薬理学 I				
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。	細胞生理学					
<b>C4 化学物質の性質と反応</b>						
<b>(1) 化学物質の基本的性質</b>						
<b>【基本事項】</b>						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。				有機化学 I		
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。				有機化学 I		
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。				有機化学 I		
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。	基礎有機化学演習					
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。				有機化学 I		
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。				有機化学 I		
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。				有機化学 I		
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。				有機化学 I		
<b>【有機化合物の立体構造】</b>						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
2) キラリティーと光学活性を概説できる。				有機化学 I 薬学実習 IV		
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。				有機化学 I		
5) 絶対配置の表示法を説明できる。				有機化学 I		
6) Fischer 投影式と Newman 投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
<b>【無機化合物】</b>						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	化学 I					
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。	化学 I					
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学 I					
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学 I					
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。	化学 I 化学 II					
<b>【錯体】</b>						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	化学 I 化学 II					
2) 配位結合を説明できる。	化学 I 化学 II					
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。	化学 I 化学 II					
4) 錯体の安定度定数について説明できる。	化学 I 化学 II					
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。	化学 I 化学 II					
6) 錯体の反応性について説明できる。	化学 I 化学 II					
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。	化学 II					
<b>(2) 有機化合物の骨格</b>						
<b>【アルカン】</b>						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基を IUPAC の規則に従って命名することができる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	基礎有機化学演習			有機化学 I		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【アルケン・アルキンの反応性】</b>						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。						
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。						
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。						
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
<b>【芳香族化合物の反応性】</b>						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。						
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。						
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						
<b>(3) 官能基</b>						
<b>【概説】</b>						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)						
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。						
<b>【有機ハロゲン化合物】</b>						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 求核置換反応 ( $S_N1$ および $S_N2$ 反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3) ハロゲン化アルキルの親ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff 則) を説明できる。						
<b>【アルコール・フェノール・チオール】</b>						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
<b>【エーテル】</b>						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
<b>【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】</b>						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。						
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
<b>【アミン】</b>						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
<b>【官能基の酸性度・塩基性度】</b>						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。						
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(4) 化学物質の構造決定</b>						
<b>【総論】</b>						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
<b>【<sup>1</sup>H NMR】</b>						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。		薬学実習Ⅳ				
5) <sup>1</sup> H NMRの積分値の意味を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
6) <sup>1</sup> H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
7) <sup>1</sup> H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
8) 代表的化合物の部分構造を <sup>1</sup> H NMR から決定できる。(技能)		薬学実習Ⅳ				
<b>【<sup>13</sup>C NMR】</b>						
1) <sup>13</sup> C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
<b>【IRスペクトル】</b>						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		分析化学Ⅱ				
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
<b>【紫外可視吸収スペクトル】</b>						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
<b>【マスマスペクトル】</b>						
1) マスマスペクトルの概要と測定法を説明できる。		分析化学Ⅱ				
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。		分析化学Ⅱ				
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。		分析化学Ⅱ				
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスマスペクトルの特徴を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。		分析化学Ⅱ				
6) 高分解能マスマスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
7) 基本的な化合物のマスマスペクトルを解析できる。(技能)		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
<b>【比旋光度】</b>						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。		分析化学Ⅱ				
<b>【総合演習】</b>						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		分析化学Ⅱ 薬学実習Ⅳ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>G5 ターゲット分子の合成</b>						
<b>(1) 官能基の導入・変換</b>						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ	薬学実習Ⅴ			
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ	薬学実習Ⅴ			
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)			薬学実習Ⅴ			
<b>(2) 複雑な化合物の合成</b>						
<b>【炭素骨格の構築法】</b>						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		有機化学Ⅱ	薬学実習Ⅴ			
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
<b>【位置および立体選択性】</b>						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
<b>【保護基】</b>						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
<b>【光学活性化合物】</b>						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
<b>【総合演習】</b>						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)			有機化学Ⅲ 薬学実習Ⅴ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C6 生体分子・医薬品を化学で理解する</b>						
<b>(1) 生体分子のコアとパーツ</b>						
<b>【生体分子の化学構造】</b>						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合(アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など)および相互作用について説明できる。	生物学 I	生化学 I 物理化学 II				
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。		生化学 I				
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。		生化学 I				
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。		生化学 I 物理化学 II				
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。		生化学 I				
<b>【生体内で機能する複素環】</b>						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。		生化学 I				
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。	生物学 II	生化学 I				
3) 複素環を含む代表的な補酵素(フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など)の機能を化学反応性と関連させて説明できる。	生物学 I	生化学 I				
<b>【生体内で機能する錯体・無機化合物】</b>						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。		生化学 I				
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。	化学 I		中毒学			
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。	化学 I					
<b>【化学から観る生体ダイナミクス】</b>						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。		生化学 I				
2) 代表的な酵素(キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど)の作用機構を分子レベルで説明できる。		生化学 I				
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。		生化学 I				
<b>(2) 医薬品のコアとパーツ</b>						
<b>【医薬品のコンポーネント】</b>						
1) 代表的な医薬品のコア構造(ファーマコフォア)を指摘し、分類できる。	基礎有機化学演習					
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。	基礎有機化学演習					
<b>【医薬品に含まれる複素環】</b>						
1) 医薬品として複素環化合物が採用される根拠を説明できる。		有機化学 II				
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。		有機化学 II				
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学 II				
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。		有機化学 II				
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。		有機化学 II				
<b>【医薬品と生体高分子】</b>						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。		物理化学 II				
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。		物理化学 II				
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。(知識・技能)	薬学実習 I		薬学実習 V			
<b>【生体分子を模倣した医薬品】</b>						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		薬理学 I				
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		薬理学 I				
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		薬理学 I				
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		薬理学 I				
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		薬理学 I				
<b>【生体内分子と反応する医薬品】</b>						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。		薬理学 I	薬理学 III 中毒学			
2) インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。			薬理学 III 中毒学			
3) $\beta$ -ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。	微生物学		薬理学 III			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>G7 自然が生み出す薬物</b>						
<b>(1) 薬になる動植物</b>						
<b>【生薬とは何か】</b>						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。			生薬学			
2) 生薬の歴史について概説できる。			生薬学			
3) 生薬の生産と流通について概説できる。			生薬学			
<b>【薬用植物】</b>						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)			生薬学			
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。			生薬学			
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。			生薬学			
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)			生薬学			
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。			生薬学			
<b>【植物以外の医薬資源】</b>						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。			生薬学			
<b>【生薬成分の構造と生合成】</b>						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。			生薬学			
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			生薬学			
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			生薬学			
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			生薬学			
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			生薬学			
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			生薬学			
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			生薬学			
<b>【農薬、化粧品としての利用】</b>						
1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。			生薬学			
<b>【生薬の同定と品質評価】</b>						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。			生薬学			
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)			生薬学 薬学実習 V			
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)	薬学実習 I		薬学実習 V			
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)			薬学実習 V			
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。			生薬学			
<b>(2) 薬の宝庫としての天然物</b>						
<b>【シーズの探索】</b>						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。			生薬学			
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。			生薬学			
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。			生薬学			
<b>【天然物質の取扱い】</b>						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)			生薬学 薬学実習 V			
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			生薬学			
<b>【微生物が生み出す医薬品】</b>						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。	微生物学		生薬学			
<b>【発酵による医薬品の生産】</b>						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。						
<b>【発酵による有用物質の生産】</b>						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。	微生物学					
<b>(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬</b>						
<b>【漢方医学の基礎】</b>						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。			生薬学			
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。			生薬学			
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。			生薬学			
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。			生薬学			
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。			生薬学			
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。			生薬学			
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。			生薬学			
<b>【漢方処方の応用】</b>						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。			生薬学			
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。			生薬学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【生物系薬学を学ぶ】</b>						
<b>C8 生命体の成り立ち</b>						
(1) ヒトの成り立ち						
<b>【概論】</b>						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	生物学 I 解剖学					
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	生物学 I 解剖学					
<b>【神経系】</b>						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生理学 I	解剖学演習 薬理学 I				
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生理学 I 解剖学	薬理学 I				
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生理学 I 解剖学	薬理学 I				
<b>【骨格系・筋肉系】</b>						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	生理学 I 解剖学					
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	生理学 I 解剖学					
<b>【皮膚】</b>						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I 解剖学					
<b>【循環器系】</b>						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I 解剖学					
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I 解剖学					
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。		解剖学演習 生理学 II				
<b>【呼吸器系】</b>						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I 解剖学					
<b>【消化器系】</b>						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I 解剖学	解剖学演習 基礎栄養学				
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I 解剖学	基礎栄養学				
<b>【泌尿器系】</b>						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	生理学 II				
<b>【生殖器系】</b>						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	解剖学演習 生理学 II				
<b>【内分泌系】</b>						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	生理学 II				
<b>【感覚器系】</b>						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	解剖学演習 生理学 II				
<b>【血液・造血器系】</b>						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	解剖学演習 生理学 II				
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
<b>【細胞と組織】</b>						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	解剖学 生物学 I					
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	解剖学 生物学 I					
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)	薬学実習 I					
<b>【細胞膜】</b>						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	生物学 I					
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	生物学 I					

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。	生物学 I 細胞生理学		異物代謝学			
<b>【細胞内小器官】</b>						
1) 細胞内小器官 (核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど) の構造と機能を説明できる。	生物学 I					
<b>【細胞の分裂と死】</b>						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	生物学 I 生物学 II					
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。	生物学 I 生物学 II					
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	生物学 I 生物学 II		異物代謝学 中毒学			
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。	生物学 II		中毒学			
<b>【細胞間コミュニケーション】</b>						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生物学 I					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。	生物学 I					
<b>(3) 生体の機能調節</b>						
<b>【神経・筋の調節機構】</b>						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	生理学 I 細胞生理学					
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。	生理学 I 細胞生理学					
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	生物学 I					
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。		解剖学演習				
<b>【ホルモンによる調節機構】</b>						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		解剖学演習 生理学 II				
2) 血糖の調節機構を説明できる。		生理学 II 基礎栄養学				
<b>【循環・呼吸系の調節機構】</b>						
1) 血圧の調節機構を説明できる。	生理学 I	解剖学演習				
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。		生理学 II				
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。		解剖学演習 生理学 II				
<b>【体液の調節機構】</b>						
1) 体液の調節機構を説明できる。		解剖学演習 生理学 II				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。		解剖学演習 生理学 II				
<b>【消化・吸収の調節機構】</b>						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。		解剖学演習 生理学 II				
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。		基礎栄養学 基礎栄養学				
<b>【体温の調節機構】</b>						
1) 体温の調節機構を説明できる。		生理学 II				
<b>(4) 小さな生き物たち</b>						
<b>【総論】</b>						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。	微生物学	病原微生物学				
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。	微生物学					
<b>【細菌】</b>						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。	微生物学					
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。	微生物学					
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。	微生物学					
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。	微生物学	病原微生物学				
5) 腸内細菌の役割について説明できる。	微生物学	病原微生物学				
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質転換) について説明できる。	微生物学					
<b>【細菌毒素】</b>						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。	微生物学	病原微生物学				
<b>【ウイルス】</b>						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。	微生物学					
2) ウイルスの分類法について概説できる。	微生物学					
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。	微生物学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【真菌・原虫・その他の微生物】</b>						
1) 主な真菌の性状について説明できる。	微生物学					
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。	微生物学					
<b>【消毒と滅菌】</b>						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。	微生物学	薬学実習Ⅲ				
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)	薬学実習Ⅱ	薬学実習Ⅲ				
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)	薬学実習Ⅱ					
<b>【検出方法】</b>						
1) グラム染色を実施できる。(技能)	薬学実習Ⅱ					
2) 無菌操作を実施できる。(技能)	薬学実習Ⅱ	薬学実習Ⅲ				
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)	薬学実習Ⅱ	薬学実習Ⅲ				
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。	微生物学					
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)	薬学実習Ⅱ					
<b>C9 生命をミクロに理解する</b>						
<b>(1) 細胞を構成する分子</b>						
<b>【脂質】</b>						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ 基礎栄養学				
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ 基礎栄養学				
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ 基礎栄養学				
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。		生化学Ⅰ				
<b>【糖質】</b>						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ 基礎栄養学				
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ 基礎栄養学				
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ 基礎栄養学				
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		薬学実習Ⅲ				
<b>【アミノ酸】</b>						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ 薬学実習Ⅲ 基礎栄養学				
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ 基礎栄養学				
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		薬学実習Ⅲ				
<b>【ビタミン】</b>						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。		基礎栄養学				
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。		基礎栄養学				
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。		基礎栄養学				
<b>(2) 生命情報を担う遺伝子</b>						
<b>【ヌクレオチドと核酸】</b>						
1) 核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。		生化学Ⅱ				
2) DNAの構造について説明できる。	生物学Ⅰ 生物学Ⅱ					
3) RNAの構造について説明できる。	生物学Ⅱ					
<b>【遺伝情報を担う分子】</b>						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	生物学Ⅰ 生物学Ⅱ		異物代謝学			
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	生物学Ⅱ		異物代謝学			
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	生物学Ⅱ		異物代謝学			
4) 染色体の構造を説明できる。	生物学Ⅱ					
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。	生物学Ⅱ		異物代謝学			
6) RNAの種類と働きについて説明できる。	生物学Ⅱ					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【転写と翻訳のメカニズム】</b>						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	生物学Ⅱ		異物代謝学			
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。	生物学Ⅱ		異物代謝学			
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。	生物学Ⅱ		異物代謝学			
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	生物学Ⅰ 生物学Ⅱ		異物代謝学			
5) リボソームの構造と機能について説明できる。	生物学Ⅰ 生物学Ⅱ					
<b>【遺伝子の複製・変異・修復】</b>						
1) DNAの複製の過程について説明できる。	生物学Ⅱ					
2) 遺伝子の変異 (突然変異) について説明できる。	生物学Ⅱ					
3) DNAの修復の過程について説明できる。	生物学Ⅱ					
<b>【遺伝子多型】</b>						
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。	生物学Ⅱ		異物代謝学			
<b>(3) 生命活動を担うタンパク質</b>						
<b>【タンパク質の構造と機能】</b>						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ				
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ				
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	生物学Ⅰ					
<b>【酵素】</b>						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ				
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ				
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅰ 基礎栄養学				
4) 酵素反応速度論について説明できる。		生化学Ⅰ 薬学実習Ⅲ				
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。		生化学Ⅰ				
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)		薬学実習Ⅲ				
<b>【酵素以外の機能タンパク質】</b>						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。	生物学Ⅰ 細胞生理学					
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	生物学Ⅰ 細胞生理学					
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。		基礎栄養学				
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	細胞生理学					
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	生物学Ⅰ					
<b>【タンパク質の取扱い】</b>						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)		薬学実習Ⅲ				
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)			薬学実習Ⅵ			
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。		薬学実習Ⅲ				
<b>(4) 生体エネルギー</b>						
<b>【栄養素の利用】</b>						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		基礎栄養学				
<b>【ATPの産生】</b>						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅱ				
2) 解糖系について説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅱ 基礎栄養学				
3) クエン酸回路について説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅱ 基礎栄養学				
4) 電子伝達系 (酸化的リン酸化) について説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅱ 基礎栄養学				
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。		生化学Ⅱ 基礎栄養学				
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅱ 基礎栄養学				
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅱ				
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅱ				
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	生物学Ⅰ	生化学Ⅱ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【飢餓状態と飽食状態】</b>						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。		生化学Ⅱ 基礎栄養学				
2) 糖新生について説明できる。		生化学Ⅱ 基礎栄養学				
3) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		生化学Ⅱ 基礎栄養学				
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学Ⅱ 基礎栄養学				
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。		生化学Ⅰ 基礎栄養学				
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。		基礎栄養学				
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。		生化学Ⅱ 基礎栄養学				
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。		生化学Ⅱ 基礎栄養学				
<b>(5) 生理活性分子とシグナル分子</b>						
<b>【ホルモン】</b>						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。			生化学演習			
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。			生化学演習			
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。			生化学演習			
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。		解剖学演習	生化学演習			
<b>【オータコイドなど】</b>						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。			薬理学Ⅱ 生化学演習			
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。			薬理学Ⅱ 生化学演習			
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義(生理活性)を説明できる。			薬理学Ⅱ 生化学演習			
4) 主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の生合成と役割について説明できる。			薬理学Ⅱ 生化学演習			
5) 主な生理活性ペプチド(アンジオテンシン、ブラジキニンなど)の役割について説明できる。			薬理学Ⅱ 生化学演習			
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。			薬理学Ⅱ 生化学演習			
<b>【神経伝達物質】</b>						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。			生化学演習			
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。			生化学演習			
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。			生化学演習			
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。			生化学演習			
<b>【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】</b>						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			生化学演習			
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。			生化学演習			
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			生化学演習			
<b>【細胞内情報伝達】</b>						
1) 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	細胞生理学					
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。	細胞生理学					
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。	細胞生理学					
4) 代表的な細胞内(核内)受容体の具体例を挙げて説明できる。	細胞生理学		異物代謝学			
<b>(6) 遺伝子进行操作する</b>						
<b>【遺伝子操作の基本】</b>						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。		生化学Ⅱ	薬学実習Ⅵ	公衆衛生学Ⅱ		
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)		生化学Ⅱ	薬学実習Ⅵ			
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)			薬学実習Ⅵ			
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)			薬学実習Ⅵ			
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)			薬学実習Ⅵ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【遺伝子のクローニング技術】</b>						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		生化学Ⅱ				
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。		生化学Ⅱ				
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。		生化学Ⅱ				
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		生化学Ⅱ	薬学実習Ⅵ			
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。		生化学Ⅱ				
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。		生化学Ⅱ				
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)		生化学Ⅱ				
<b>【遺伝子機能の解析技術】</b>						
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。		生化学Ⅱ				
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。		生化学Ⅱ				
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。		生化学Ⅱ				
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。		生化学Ⅱ				
<b>C10 生体防御</b>						
<b>(1) 身体をまもる</b>						
<b>【生体防御反応】</b>						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。		生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。		免疫学Ⅰ				
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。	解剖学	生理学Ⅱ				
5) クローン選択説を説明できる。		生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。		免疫学Ⅰ				
<b>【免疫を担当する組織・細胞】</b>						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。		生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	解剖学	生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。		生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
<b>【分子レベルで見た免疫のしくみ】</b>						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。		生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。		生理学Ⅱ 免疫学Ⅰ				
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構(遺伝子再構成)を概説できる。		免疫学Ⅰ				
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。		免疫学Ⅰ				
<b>(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用</b>						
<b>【免疫系が関係する疾患】</b>						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。		生理学Ⅱ	免疫学Ⅱ	公衆衛生学Ⅱ		
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学Ⅱ			
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。			免疫学Ⅱ			
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。			免疫学Ⅱ			
<b>【免疫応答のコントロール】</b>						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。			免疫学Ⅱ			
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫学Ⅱ			
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			免疫学Ⅱ			
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。			免疫学Ⅱ			
<b>【予防接種】</b>						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			免疫学Ⅱ			
2) 主なワクチン(生ワクチン、不活化ワクチン、トキシイド、混合ワクチン)について基本的特徴を説明できる。			免疫学Ⅱ			
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。			免疫学Ⅱ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【免疫反応の利用】</b>						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。						
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)						
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)						
<b>(3) 感染症にかかる</b>						
<b>【代表的な感染症】</b>						
1) 主なDNAウイルス(Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス)が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
2) 主なRNAウイルス(Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルスΔムンプスウイルス)が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
3) レトロウイルス(HIV、HTLV)が引き起こす疾患について概説できる。						
4) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5) グラム陰性球菌(淋菌、Δ髄膜炎菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
6) グラム陽性桿菌(破傷風菌、Δガス壊疽菌、ボツリヌス菌、Δジフテリア菌、Δ炭疽菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
7) グラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、Δチフス菌、Δペスト菌、コレラ菌、Δ百日咳菌、腸炎ピブリオ菌、緑膿菌、Δフルセラ菌、レジオネラ菌、Δインフルエンザ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
8) グラム陰性スピリルム属病原菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9) 抗酸菌(結核菌、非定型抗酸菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、Δムーコル)の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
<b>【感染症の予防】</b>						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。						
<b>【健康と環境】</b>						
<b>C11 健康</b>						
<b>(1) 栄養と健康</b>						
<b>【栄養素】</b>						
1) 栄養素(三大栄養素、ビタミン、ミネラル)を列挙し、それぞれの役割について説明できる。						
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値(栄養価)を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。						
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
<b>【食品の品質と管理】</b>						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。						
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)						
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)						
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【食中毒】</b>						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	微生物学	病原微生物学				
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。				公衆衛生学Ⅱ		
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			中毒学	公衆衛生学Ⅱ		
<b>(2) 社会・集団と健康</b>						
<b>【保健統計】</b>						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				公衆衛生学Ⅱ		
2) 人口静態と人口動態について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
<b>【健康と疾病をめぐる日本の現状】</b>						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)				公衆衛生学Ⅱ		
<b>【疫学】</b>						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)				公衆衛生学Ⅱ		
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)				公衆衛生学Ⅱ		
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。				公衆衛生学Ⅱ		
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。				公衆衛生学Ⅱ		
<b>(3) 疾病の予防</b>						
<b>【健康とは】</b>						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
2) 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。				公衆衛生学Ⅱ		
<b>【疾病の予防とは】</b>						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。			病原微生物学			
3) 新生児マスキリングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。				公衆衛生学Ⅱ		
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)	薬学概論	病原微生物学				
<b>【感染症の現状とその予防】</b>						
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴について説明できる。	微生物学	病原微生物学				
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。	微生物学	病原微生物学				
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。		病原微生物学				
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	微生物学	病原微生物学				
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。	微生物学	病原微生物学				
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。		病原微生物学				
<b>【生活習慣病とその予防】</b>						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。				公衆衛生学Ⅱ		
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
<b>【職業病とその予防】</b>						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
<b>C12 環境</b>						
<b>(1) 化学物質の生体への影響</b>						
<b>【化学物質の代謝・代謝的活性化】</b>						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。				異物代謝学 中毒学		
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			薬学実習Ⅲ	異物代謝学		
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。				異物代謝学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【化学物質による発がん】</b>						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		薬学実習Ⅲ	異物代謝学 中毒学			
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		薬学実習Ⅲ	中毒学			
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。			中毒学			
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。			中毒学			
<b>【化学物質の毒性】</b>						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			中毒学			
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。			異物代謝学 中毒学	公衆衛生学Ⅱ		
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			異物代謝学 中毒学	公衆衛生学Ⅱ		
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			異物代謝学 中毒学			
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOEL) などについて概説できる。			中毒学	公衆衛生学Ⅱ		
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。			中毒学	公衆衛生学Ⅱ		
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。			中毒学			
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)				公衆衛生学Ⅰ		
<b>【化学物質による中毒と処置】</b>						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			中毒学			
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)			中毒学			
<b>【電離放射線の生体への影響】</b>						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。				公衆衛生学Ⅰ		
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子 (酸素効果など) について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。				公衆衛生学Ⅰ		
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。					製剤管理学	
<b>【非電離放射線の生体への影響】</b>						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。				公衆衛生学Ⅰ		
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
<b>(2) 生活環境と健康</b>						
<b>【地球環境と生態系】</b>						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。				公衆衛生学Ⅰ		
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)				公衆衛生学Ⅰ		
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。				公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生学Ⅱ	
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。				公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生学Ⅱ	
7) 環境中に存在する主な放射性核種 (天然、人工) を挙げ、人の健康への影響について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
<b>【水環境】</b>						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
2) 水の浄化法について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)				公衆衛生学Ⅰ		
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	薬学実習Ⅲ			公衆衛生学Ⅰ		
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)				公衆衛生学Ⅰ		
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。	薬学実習Ⅲ			公衆衛生学Ⅰ		
<b>【大気環境】</b>						
1) 空気の成分を説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)				公衆衛生学Ⅰ		
4) 大気汚染に影響する気象要因 (逆転層など) を概説できる。				公衆衛生学Ⅰ		
<b>【室内環境】</b>						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)				公衆衛生学Ⅰ		
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。				公衆衛生学Ⅰ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) シックハウス症候群について概説できる。			公衆衛生学 I			
<b>【廃棄物】</b>						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。			公衆衛生学 I			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			公衆衛生学 I			
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)			公衆衛生学 I			
4) マニフェスト制度について説明できる。			公衆衛生学 I			
5) PRTR法について概説できる。			公衆衛生学 I			
<b>【環境保全と法的規制】</b>						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			公衆衛生学 I			
2) 環境基本法の理念を説明できる。			公衆衛生学 I			
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。			公衆衛生学 I			
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。			公衆衛生学 I			
<b>【薬と疾病】</b>						
<b>C13 薬の効くプロセス</b>						
<b>【薬の作用】</b>						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学 I	薬物治療学 III			
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。		薬理学 I	薬物治療学 III			
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。		薬理学 I	薬物治療学 III			
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。		薬理学 I	薬物治療学 III			
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。		薬理学 I				
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。		薬理学 I	異物代謝学			
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。		薬理学 I	異物代謝学			
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 I				
<b>【薬の運命】</b>						
1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。				薬物治療学 III 生物薬剤学 異物代謝学		
2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。				生物薬剤学		
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。				生物薬剤学		
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。				生物薬剤学		
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。				生物薬剤学 異物代謝学		
<b>【薬の副作用】</b>						
1) 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。				薬理学 III		
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。				薬理学 III		
<b>【動物実験】</b>						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)	薬学実習 I					
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	薬学実習 I					
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)				薬学実習 V		
<b>(2) 薬の働き方 I</b>						
<b>【中枢神経系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。				薬学実習 V		
<b>【自律神経系に作用する薬】</b>						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない				薬学実習 V		
<b>【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】</b>						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)			薬学実習V			
<b>【循環器系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬物治療演習		
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬物治療演習		
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬物治療演習		
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬物治療演習		
<b>【呼吸器系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II			
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II			
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II			
<b>【化学構造】</b>						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学I				
<b>(3) 薬の働き方II</b>						
<b>【ホルモンと薬】</b>						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理学II			
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬理学I				
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬理学I				
<b>【消化器系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II			
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II			
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学II			
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II			
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II			
<b>【腎に作用する薬】</b>						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。				薬物治療演習		
<b>【血液・造血器系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学II			
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学II			
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学II			
<b>【代謝系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療演習		
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療演習		
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療演習		
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物治療学II			
<b>【炎症・アレルギーと薬】</b>						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬物治療学II			
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬物治療学II			
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。			薬物治療学II			
<b>【化学構造】</b>						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学I				
<b>(4) 薬物の臓器への到達と消失</b>						
<b>【吸収】</b>						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。				生物薬剤学		
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。				生物薬剤学		
3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。		薬理学I		生物薬剤学		
4) 能動輸送の特徴を説明できる。				生物薬剤学		
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。				生物薬剤学		
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。				生物薬剤学		
<b>【分布】</b>						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。				生物薬剤学		
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。				生物薬剤学		
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。				生物薬剤学		
4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。				生物薬剤学		
5) 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。				生物薬剤学		
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。				生物薬剤学		
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)				生物薬剤学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【代謝】</b>						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			生物薬剤学			
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。			生物薬剤学			
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。			生物薬剤学			
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。			生物薬剤学			
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。			生物薬剤学			
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。			生物薬剤学			
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。			生物薬剤学			
8) 初回通過効果について説明できる。			生物薬剤学			
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。			生物薬剤学			
<b>【排泄】</b>						
1) 腎における排泄機構について説明できる。			生物薬剤学			
2) 腎クリアランスについて説明できる。			生物薬剤学			
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。			生物薬剤学			
4) 胆汁中排泄について説明できる。			生物薬剤学			
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。			生物薬剤学			
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。			生物薬剤学			
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。			生物薬剤学			
<b>【相互作用】</b>						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			生物薬剤学			
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			生物薬剤学			
<b>(5) 薬物動態の解析</b>						
<b>【薬動学】</b>						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物動態学			
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。			薬物動態学			
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態学 薬学実習VI			
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態学			
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。			薬物動態学			
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物治療学III			
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物治療学III			
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。			薬物治療学III			
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。			薬物治療学III			
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)			薬学実習VI			
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)			薬物動態学 薬学実習VI			
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)			薬物動態学			
<b>【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】</b>						
1) 治療的薬物モニタリング(TDM)の意義を説明できる。			薬物治療学III			
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。			薬物治療学III			
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)			薬物治療学III			
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。			薬物治療学III			
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)			薬物治療学III 薬学実習VI			
<b>G14 薬物治療</b>						
<b>(1) 体の変化を知る</b>						
<b>【症候】</b>						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心、嘔吐、嚔下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			病態学演習II	医療栄養学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【症候と臨床検査値】</b>						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			薬物治療学Ⅲ			
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			薬物治療学Ⅲ			
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			薬物治療学Ⅲ			
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			薬物治療学Ⅲ			
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			薬物治療学Ⅲ			
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			薬物治療学Ⅲ			
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。			薬物治療学Ⅲ			
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。				薬物治療演習		
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。				薬学総合実習・演習Ⅱ		
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。				薬学総合実習・演習Ⅱ		
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。				薬学総合実習・演習Ⅱ		
<b>(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)</b>						
<b>【薬物治療の位置づけ】</b>						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。		薬物治療学Ⅰ				
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)				薬物治療演習		
<b>【心臓・血管系の疾患】</b>						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療演習		
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療演習		
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療演習		
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学演習Ⅱ	薬物治療演習		
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学演習Ⅱ	薬物治療演習		
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック			病態学演習Ⅱ			
<b>【血液・造血系の疾患】</b>						
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学Ⅲ			
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態学		薬物治療演習		
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態学 薬物治療学Ⅰ				
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態学		薬物治療演習		
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓		病態学				
<b>【消化器系疾患】</b>						
1) 消化器系の部位別 (食道・胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。		病態学		薬物治療演習		
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態学		薬物治療演習		
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態学		薬物治療演習		
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態学 薬物治療学Ⅰ				
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態学 薬物治療学Ⅰ				
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病		病態学	病態学演習Ⅰ	薬物治療演習		
<b>【総合演習】</b>						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)			病態学演習Ⅰ	薬物治療演習		
<b>(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)</b>						
<b>【腎臓・尿路の疾患】</b>						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療演習		
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学演習Ⅱ	薬物治療演習		
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学演習Ⅱ	薬物治療演習		
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石			薬物治療学Ⅲ 病態学演習Ⅱ			
<b>【生殖器疾患】</b>						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学Ⅱ 病態学演習Ⅰ			
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅱ 病態学演習Ⅰ			
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症			薬物治療学Ⅱ 病態学演習Ⅰ			
<b>【呼吸器・胸部の疾患】</b>						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療演習		
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学演習 I	薬物治療演習		
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌			病態学演習 I	薬物治療演習		
<b>【内分泌系疾患】</b>						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。		薬理学 I				
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I	病態学演習 II			
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I				
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療演習		
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病				薬物治療演習		
<b>【代謝性疾患】</b>						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学演習 II	薬物治療演習		
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学演習 II	薬物治療演習		
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学演習 II	薬物治療演習		
<b>【神経・筋の疾患】</b>						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療演習		
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 III 病態学演習 II			
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療演習		
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学演習 II	薬物治療演習		
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I	病態学演習 II			
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆				薬物治療演習		
<b>【総合演習】</b>						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				薬物治療演習		
<b>(4) 疾患と薬物治療(精神疾患等)</b>						
<b>【精神疾患】</b>						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。				薬物治療演習		
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学	薬物治療演習		
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学	薬物治療演習		
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症			病態学 薬物治療学 I			
<b>【耳鼻咽喉の疾患】</b>						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬理学 III			
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態学	薬物治療学 II			
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎		病態学	薬物治療学 II 病態学演習 I			
<b>【皮膚疾患】</b>						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態学	薬理学 III		
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学 薬物治療学 I			
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態学 薬物治療学 I			
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症			病態学 薬物治療学 I			
<b>【眼疾患】</b>						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療学 I		
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学 I		
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬理学 III		
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症				薬物治療演習		
<b>【骨・関節の疾患】</b>						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療学 II 病態学演習 I		
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学 II 病態学演習 I		
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学 II 病態学演習 I		
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症				薬物治療学 II 病態学演習 I		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【アレルギー・免疫疾患】</b>						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。			薬物治療学Ⅱ			
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅱ 病態学演習Ⅰ			
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅱ 病態学演習Ⅰ			
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅱ 病態学演習Ⅰ			
<b>【移植医療】</b>						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅱ 病態学演習Ⅰ			
<b>【緩和ケアと長期療養】</b>						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅱ 病態学演習Ⅰ			
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。			薬物治療学Ⅱ 病態学演習Ⅰ			
<b>【総合演習】</b>						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)				薬物治療演習		
<b>(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う</b>						
<b>【感染症】</b>						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。			薬物治療学Ⅲ			
<b>【抗菌薬】</b>						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。			薬物治療学Ⅲ			
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。			薬理学Ⅲ			
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。			薬物治療学Ⅲ			
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。			薬物治療学Ⅲ			
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。			薬物治療学Ⅲ			
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。			薬物治療学Ⅲ			
7) ビリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。			薬物治療学Ⅲ			
8) サルファ薬 (S1合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。			薬物治療学Ⅲ			
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。			薬物治療学Ⅲ			
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。			薬物治療学Ⅲ			
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。			薬物治療学Ⅲ			
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。			薬物治療学Ⅲ			
<b>【抗原虫・寄生虫薬】</b>						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			薬物治療学Ⅲ			
<b>【抗真菌薬】</b>						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			薬物治療学Ⅲ			
<b>【抗ウイルス薬】</b>						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			薬物治療学Ⅲ			
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。			薬物治療学Ⅲ			
<b>【抗菌薬の耐性と副作用】</b>						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。			薬物治療学Ⅲ			
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。				薬物治療演習		
<b>【悪性腫瘍の病態と治療】</b>						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。				薬物治療演習		
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。				薬物治療演習		
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。				薬物治療演習		
<b>【抗悪性腫瘍薬】</b>						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。				薬物治療演習		
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。				薬物治療演習		
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。				薬物治療演習		
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。				薬物治療演習		
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。				薬物治療演習		
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。				薬物治療演習		
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。				薬物治療演習		
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。				薬物治療演習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】</b>						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						薬物治療演習
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						薬物治療演習
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						薬物治療演習
<b>C15 薬物治療に役立つ情報</b>						
<b>(1) 医薬品情報</b>						
<b>【情報】</b>						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。						医薬品情報学
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						医薬品情報学
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						医薬品情報学
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						医薬品情報学
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。						医薬品情報学
<b>【情報源】</b>						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。						医薬品情報学
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						医薬品情報学
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						医薬品情報学
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。						医薬品情報学
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						医薬品情報学
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						医薬品情報学
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）						調剤処方演習
<b>【収集・評価・加工・提供・管理】</b>						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）						調剤処方演習
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						医薬品情報学
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）						調剤処方演習
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）						調剤処方演習
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						調剤処方演習
<b>【データベース】</b>						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。						医薬品情報学
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）						調剤処方演習
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）						調剤処方演習
<b>【EBM (Evidence-Based Medicine)】</b>						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。						医薬品情報学
2) EBM実践のプロセスを概説できる。						医薬品情報学
3) 臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。						医薬品情報学
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）						医薬品情報学
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						医薬品情報学
6) 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。						医薬品情報学
<b>【総合演習】</b>						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。						調剤処方演習
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）						調剤処方演習
<b>(2) 患者情報</b>						
<b>【情報と情報源】</b>						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。						医薬品情報学
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						医薬品情報学
<b>【収集・評価・管理】</b>						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。						医薬品情報学
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。（技能）						薬学総合実習・演習Ⅱ
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。（技能）						薬学総合実習・演習Ⅱ
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。（知識・技能）						薬学総合実習・演習Ⅱ
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。（技能）						薬学総合実習・演習Ⅱ
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。（態度）						薬学総合実習・演習Ⅱ
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。（知識・態度）						薬学総合実習・演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) テーラーメイド薬物治療を目指して</b>						
<b>【遺伝的素因】</b>						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			生化学演習			
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			生化学演習			
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			生化学演習			
<b>【年齢的素因】</b>						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学			
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学			
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学			
<b>【生理的素因】</b>						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学			
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学			
3) 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療栄養学		
<b>【合併症】</b>						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学			
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学			
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学			
<b>【投与計画】</b>						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）			薬物動態学 薬学実習VI			
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。			薬物動態学			
3) 薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）			薬物動態学 薬学実習VI			
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。			薬物動態学			
<b>【医薬品をつくる】</b>						
<b>C16 製剤化のサイエンス</b>						
<b>(1) 製剤材料の性質</b>						
<b>【物質の溶解】</b>						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。			物理薬剤学 I			
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。			物理薬剤学 II			
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。			物理薬剤学 II			
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。			物理薬剤学 I			
<b>【分散系】</b>						
1) 界面の性質について説明できる。			物理薬剤学 I			
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。			物理薬剤学 I			
3) 乳剤の型と性質について説明できる。			物理薬剤学 II			
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。			物理薬剤学 II			
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。			物理薬剤学 II			
<b>【製剤材料の物性】</b>						
1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。					製剤材料学	
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。					製剤材料学	
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。					製剤材料学	
4) 粉体の性質について説明できる。			物理薬剤学 II			
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。					製剤材料学	
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学 II			
7) 粉末×線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。			分析化学 II 分析化学 II 薬学実習IV			
8) 製剤材料の物性を測定できる。（技能）						
<b>(2) 剤形をつくる</b>						
<b>【代表的な製剤】</b>						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。					製剤材料学	
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。					製剤材料学	
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。					製剤材料学	
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。					製剤材料学	
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。					製剤材料学	
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。					製剤材料学	
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。					製剤材料学	
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。					製剤材料学	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【製剤化】</b>						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。				製剤材料学		
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)		薬学実習Ⅳ				
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。				製剤材料学		
<b>【製剤試験法】</b>						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。				製剤材料学		
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)		薬学実習Ⅳ		製剤材料学		
<b>(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)</b>						
<b>【DDSの必要性】</b>						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。				製剤材料学		
2) DDSの概念と有用性について説明できる。				製剤材料学		
<b>【放出制御型製剤】</b>						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。				製剤材料学		
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。		物理薬理学Ⅱ				
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。		物理薬理学Ⅱ				
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。				製剤材料学		
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる				製剤材料学		
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。				製剤材料学		
<b>【ターゲティング】</b>						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。				製剤材料学		
2) 代表的なドラッグキャリアを列挙し、そのメカニズムを説明できる。				製剤材料学		
<b>【プロドラッグ】</b>						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。				製剤材料学		
<b>【その他のDDS】</b>						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。				製剤材料学		
<b>C17 医薬品の開発と生産</b>						
<b>(1) 医薬品開発と生産のながれ</b>						
<b>【医薬品開発のコンセプト】</b>						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。						医薬品開発・治験論
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						医薬品開発・治験論
<b>【医薬品市場と開発すべき医薬品】</b>						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。						医薬品開発・治験論
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						医薬品開発・治験論
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						医薬品開発・治験論
4) 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。						医薬品開発・治験論
<b>【非臨床試験】</b>						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						医薬品開発・治験論
<b>【医薬品の承認】</b>						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						医薬品開発・治験論
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						医薬品開発・治験論
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。						医薬品開発・治験論
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)について概説できる。						医薬品開発・治験論
<b>【医薬品の製造と品質管理】</b>						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。						医薬品開発・治験論
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。						医薬品開発・治験論
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						医薬品開発・治験論
<b>【規範】</b>						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。						医薬品開発・治験論
<b>【特許】</b>						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。						医薬品開発・治験論
<b>【薬害】</b>						
1) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど)について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)						医薬品開発・治験論
<b>(2) リード化合物の創製と最適化</b>						
<b>【医薬品創製の歴史】</b>						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。						医薬品開発・治験論

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【標的生体分子との相互作用】</b>						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。				生化学演習		
2) 医薬品と標的の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。				生化学演習		
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。				生化学演習		
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。				生化学演習		
<b>【スクリーニング】</b>						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				生化学演習		
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。				生化学演習		
<b>【リード化合物の最適化】</b>						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。				生化学演習		
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。				生化学演習		
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。				生化学演習		
<b>(3) バイオ医薬品とゲノム情報</b>						
<b>【組換え体医薬品】</b>						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				生化学演習		
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。				生化学演習		
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。				生化学演習		
<b>【遺伝子治療】</b>						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				生化学演習		
<b>【細胞を利用した治療】</b>						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				生化学演習		
<b>【ゲノム情報の創薬への利用】</b>						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。				生化学演習		
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。				生化学演習		
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサブプロット法など) について概説できる。				生化学演習		
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。				生化学演習		
<b>【疾患関連遺伝子】</b>						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。				生化学演習		
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。				生化学演習		
<b>(4) 治験</b>						
<b>【治験の意義と業務】</b>						
1) 治験に関してヘルシンギ宣言が意図するところを説明できる。						医薬品開発・治験論
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。						医薬品開発・治験論
3) 治験 (第 I、II、および III 相) の内容を説明できる。					薬理学 III	医薬品開発・治験論
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。					薬理学 III	
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)						医薬品開発・治験論
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						医薬品開発・治験論
<b>【治験における薬剤師の役割】</b>						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。						医薬品開発・治験論
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						医薬品開発・治験論
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						医薬品開発・治験論
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)						医薬品開発・治験論
<b>(5) バイオスタティスティクス</b>						
<b>【生物統計の基礎】</b>						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。						生物統計学 I
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						生物統計学 I
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U 検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						生物統計学 I
4) $\chi^2$ 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						生物統計学 I
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)						生物統計学 I
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett 検定、Tukey 検定など) の概要を説明できる。						生物統計学 I
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。						生物統計学 I

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【臨床への応用】</b>						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。			生物統計学 I			
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。			生物統計学 I			
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。			生物統計学 I			
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 (知識・技能)			生物統計学 I			
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier 曲線など) の特徴を説明できる。			生物統計学 I			
<b>C18 薬学と社会</b>						
<b>(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度</b>						
<b>【医療の担い手としての使命】</b>						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)	薬学概論		薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
<b>【法律と制度】</b>						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。	薬学概論		薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		医薬品開発・治験論
7) 製造物責任法を概説できる。			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		医薬品開発・治験論
<b>【管理薬】</b>						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			中毒学 薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			中毒学 薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。			中毒学 薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
<b>【放射性医薬品】</b>						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。			公衆衛生学 I			
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。			公衆衛生学 I			
<b>(2) 社会保障制度と薬剤経済</b>						
<b>【社会保障制度】</b>						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。	薬学概論			社会と薬学		社会保険制度・コミュニティファーマシー論
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。				社会と薬学		社会保険制度・コミュニティファーマシー論
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。				薬事法制度概論演習 社会と薬学		社会保険制度・コミュニティファーマシー論
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。				薬事法制度概論演習 社会と薬学		社会保険制度・コミュニティファーマシー論

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【医療保険】</b>						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。				薬事法制度概論演習 社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
2) 医療保険のしくみを説明できる。				薬事法制度概論演習 社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
3) 医療保険の種類を列挙できる。				薬事法制度概論演習 社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。				社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
<b>【薬剤経済】</b>						
1) 国民医療費の動向を概説できる。	薬学概論			社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。				社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。				社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
4) 医療費の内訳を概説できる。				社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。				社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)				社会と薬学		社会保険制度・コ ミュニティーファ ーマシー論
<b>(3) コミュニティーファーマシー</b>						
<b>【地域薬局の役割】</b>						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。			コミュニティファ ーマシー論			
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。			コミュニティファ ーマシー論			
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。			コミュニティファ ーマシー論			
<b>【医薬分業】</b>						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。			コミュニティファ ーマシー論			
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)			コミュニティファ ーマシー論			
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。			コミュニティファ ーマシー論			
<b>【薬局の業務運営】</b>						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。			コミュニティファ ーマシー論			
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。			コミュニティファ ーマシー論			
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。			コミュニティファ ーマシー論			
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。			コミュニティファ ーマシー論			
<b>【OTC薬・セルフメディケーション】</b>						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)			コミュニティファ ーマシー論			
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。			コミュニティファ ーマシー論			
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。			コミュニティファ ーマシー論			

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習)SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
<b>D 実務実習教育</b>			
<b>(I) 実務実習事前学習</b>			
<b>(1) 事前学習を始めるにあたって</b>			
<b>《薬剤師業務に注目する》</b>			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。			導入講義・演習
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			導入講義・演習
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)			導入講義・演習
<b>《チーム医療に注目する》</b>			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。			導入講義・演習
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			導入講義・演習
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		薬学総合実習・演習 I	
<b>《医薬分業に注目する》</b>			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	コミュニティーファーマシー論		導入講義・演習
<b>(2) 処方せんと調剤</b>			
<b>《処方せんの基礎》</b>			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	調剤処方学		
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。	調剤処方学		
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	調剤処方学		
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。	調剤処方学		
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)		調剤処方演習	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。	調剤処方学		
<b>《医薬品の用法・用量》</b>			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		調剤処方演習	
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)	調剤処方学		
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。	調剤処方学		
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)		薬学総合実習・演習 I	
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。	調剤処方学		

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
<b>《服薬指導の基礎》</b>			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	調剤処方学		
<b>《調剤室業務入門》</b>			
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。（技能）		薬学総合実習・演習Ⅲ	
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。（技能）		薬学総合実習・演習Ⅲ	
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。（技能）		薬学総合実習・演習Ⅲ	
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。（技能）		薬学総合実習・演習Ⅲ	
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。（態度）		薬学総合実習・演習Ⅰ	
<b>（3）疑義照会</b>			
<b>《疑義照会の意義と根拠》</b>			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	調剤処方学		
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		製剤管理学	
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。（技能）		製剤管理学	
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	調剤処方学		
<b>《疑義照会入門》</b>			
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。（態度）		調剤処方演習	
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		調剤処方演習	
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		調剤処方演習	
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		調剤処方演習	
9. 疑義照会の流れを説明できる。		調剤処方演習	
10. 疑義照会をシミュレートする。（技能・態度）		調剤処方演習	
<b>（4）医薬品の管理と供給</b>			
<b>《医薬品の安定性に注目する》</b>			
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	調剤処方学		
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		製剤管理学	
<b>《特別な配慮を要する医薬品》</b>			
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		薬学総合実習・演習Ⅰ	
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		薬学総合実習・演習Ⅰ	
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		薬学総合実習・演習Ⅰ	
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		薬学総合実習・演習Ⅰ	
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		製剤管理学	
8. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		製剤管理学	
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）			導入講義・演習
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		製剤管理学	
11. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		製剤管理学	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
<b>《製剤化の基礎》</b>			
12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		製剤管理学	
13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		製剤管理学	
14. 代表的な院内製剤を調製できる。（技能）		薬学総合実習・演習Ⅲ	
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）		薬学総合実習・演習Ⅲ	
16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）		薬学総合実習・演習Ⅲ	
<b>《注射剤と輸液》</b>			
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		製剤管理学	
18. 代表的な配合変化を検出できる。（技能）		製剤管理学	
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		製剤管理学	
20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）		製剤管理学	
<b>《消毒薬》</b>			
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		製剤管理学	
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。		製剤管理学	
<b>（5）リスクマネージメント</b>			
<b>《安全管理に注目する》</b>			
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。			
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。			導入講義・演習
3. 院内感染の回避方法について説明できる。			導入講義・演習
<b>《副作用に注目する》</b>			
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		薬学総合実習・演習Ⅱ	
<b>《リスクマネージメント入門》</b>			
5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		薬学総合実習・演習Ⅰ	
6. リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）		薬学総合実習・演習Ⅰ	
7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）		薬学総合実習・演習Ⅰ	
<b>（6）服薬指導と患者情報</b>			
<b>《服薬指導に必要な技能と態度》</b>			
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。			導入講義・演習
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		薬学総合実習・演習Ⅱ	
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		薬学総合実習・演習Ⅱ	
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）		薬学総合実習・演習Ⅰ	
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）		薬学総合実習・演習Ⅰ	
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）		薬学総合実習・演習Ⅰ	
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		薬学総合実習・演習Ⅱ	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
<b>《患者情報の重要性に注目する》</b>			
8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		薬学総合実習・演習Ⅱ	
9. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		薬学総合実習・演習Ⅱ	
10. 医師、看護師などの情報の共有化の重要性を説明できる。		薬学総合実習・演習Ⅱ	
<b>《服薬指導入門》</b>			
11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		薬学総合実習・演習Ⅱ	
12. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		薬学総合実習・演習Ⅱ	
13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		薬学総合実習・演習Ⅱ	
14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		薬学総合実習・演習Ⅱ	
<b>（7）事前学習のまとめ</b>			

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。  
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>A 基本事項</b>						
<b>(1) 薬剤師の使命</b>						
<b>【①医療人として】</b>						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学概論、フレッシュマンセミナー(薬学)B	薬学総合演習A	薬学総合演習B			
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)						
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	フレッシュマンセミナー(薬学)B			薬学総合実習・演習B、薬学総合実習・演習C		
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	フレッシュマンセミナー(薬学)B					
<b>【②薬剤師が果たすべき役割】</b>						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)						
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬学概論、フレッシュマンセミナー(薬学)B				医薬品開発・治験論	
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。						
4) 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。		基礎薬理学				
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	フレッシュマンセミナー(薬学)B				医薬品開発・治験論	
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論、フレッシュマンセミナー(薬学)B					
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	フレッシュマンセミナー(薬学)B					
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)				薬学総合実習・演習B、薬学総合実習・演習C		
<b>【③患者安全と薬害の防止】</b>						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	フレッシュマンセミナー(薬学)B			薬学総合実習・演習B、薬学総合実習・演習C		
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。					導入講義・演習	
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	薬学概論、フレッシュマンセミナー(薬学)B		看護/介護/社会福祉演習			
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。			調剤処方学			
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)						

6) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	フレッシュマンセミナー（薬学）B		中毒学				医薬品開発・治験論
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）							
<b>【④薬学の歴史と未来】</b>							
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学概論						
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。							
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。							
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）	フレッシュマンセミナー（薬学）B						
<b>(2) 薬剤師に求められる倫理観</b>							
<b>【①生命倫理】</b>							
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）	薬学概論，フレッシュマンセミナー（薬学）B, 薬学実習A		看護／介護／社会福祉演習, 薬学実習E				
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。	薬学概論，薬学実習A		看護／介護／社会福祉演習				
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）	薬学概論，フレッシュマンセミナー（薬学）B, 薬学実習A		看護／介護／社会福祉演習				
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	薬学概論，薬学実習A						医薬品開発・治験論
<b>【②医療倫理】</b>							
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。	薬学概論		看護／介護／社会福祉演習				医薬品開発・治験論
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習			
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。							医薬品開発・治験論
<b>【③患者の権利】</b>							
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）	薬学概論，フレッシュマンセミナー（薬学）B						医薬品開発・治験論
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。			看護／介護／社会福祉演習				
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学概論		調剤処方学，看護／介護／社会福祉演習				
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度）			調剤処方学				
<b>【④研究倫理】</b>							
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	薬学概論		看護／介護／社会福祉演習，薬学実習E				医薬品開発・治験論
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。							
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）					卒業研究	卒業研究	卒業研究
<b>(3) 信頼関係の構築</b>							
<b>【①コミュニケーション】</b>							
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。			看護／介護／社会福祉演習，薬学総合演習R				
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。			看護／介護／社会福祉演習，薬学総合演習R				

3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) A		看護/介護/社会福祉演習, 薬学総合演習B			
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。			看護/介護/社会福祉演習, 薬学総合演習B	コミュニケーション体験演習		
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)			薬学総合演習B			
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)			薬学総合演習B			
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) A, 薬学実習A		薬学総合演習B			
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) A, フレッシュマンセミナー (薬学) B, 薬学実習A		薬学総合演習B			
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)			薬学総合演習B			
<b>【②患者・生活者と薬剤師】</b>						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	薬学概論, フレッシュマンセミナー (薬学) B		看護/介護/社会福祉演習			
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)				コミュニケーション体験演習		
<b>(4) 多職種連携協働とチーム医療</b>						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。			看護/介護/社会福祉演習, 薬学総合演習B	医療栄養学, コミュニケーション体験演習		
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	フレッシュマンセミナー (薬学) B		看護/介護/社会福祉演習, 薬学総合演習B			
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。			看護/介護/社会福祉演習, 薬学総合演習B			
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) A, フレッシュマンセミナー (薬学) B	薬学総合演習A	薬学総合演習B			
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) A, フレッシュマンセミナー (薬学) B, 薬学実習A		薬学総合演習B, 薬学実習E	コミュニケーション体験演習		
<b>(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成</b>						
<b>【①学習の在り方】</b>						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) A, フレッシュマンセミナー (薬学) B			コミュニケーション体験演習		
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	フレッシュマンセミナー (薬学) A					
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)						
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	フレッシュマンセミナー (薬学) A, 薬学実習A			コミュニケーション体験演習		
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	フレッシュマンセミナー (薬学) A					
<b>【②薬学教育の概要】</b>						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学概論, フレッシュマンセミナー (薬学) A	薬学総合演習A	薬学総合演習B			
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)				コミュニケーション体験演習		
<b>【③生涯学習】</b>						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	フレッシュマンセミナー			コミュニケーション		

2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	ナー(薬学)A			体験演習		
<b>【④次世代を担う人材の育成】</b>						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)				コミュニケーション 体験演習		
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
<b>B 薬学と社会</b>						
<b>(1) 人と社会に関わる薬剤師</b>						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	フレッシュマンセミ ナー(薬学)B					
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)						
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)						
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)				薬学総合実習・演習 B, 薬学総合実習・ 演習C		
<b>(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範</b>						
<b>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</b>						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。						
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。						
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。						
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。			薬剤師関係法制度概論	薬事法制度概論演習		医薬品開発・治験論
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。						医薬品開発・治験論
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。			薬剤師関係法制度概論			
<b>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</b>						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。			薬剤師関係法制度概論			
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。						
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。						
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。				薬事法制度概論演習		医薬品開発・治験論
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。						
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。						
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。			薬剤師関係法制度概論			
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。						
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。						
10) 健康被害救済制度について説明できる。				薬事法制度概論演習		医薬品開発・治験論
11) レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。		薬学実習D	中毒学	公衆衛生学B		
<b>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</b>						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。			中毒学、薬剤師関係 法制度概論			
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。				薬事法制度概論演習		

3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。			薬剤師関係法制度概論		
<b>(3) 社会保障制度と医療経済</b>					
<b>【①医療、福祉、介護の制度】</b>					
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。	薬学概論			社会と薬学, 薬事法制度概論演習	社会保険制度・コミュニティファーマシー論
2) 医療保険制度について説明できる。					
3) 療養担当規則について説明できる。					
4) 公費負担医療制度について概説できる。					
5) 介護保険制度について概説できる。				社会と薬学, 薬事法制度概論演習	社会保険制度・コミュニティファーマシー論
6) 薬価基準制度について概説できる。				社会と薬学	医薬品開発・治験論, 社会保険制度・コミュニティファーマシー論
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。					社会保険制度・コミュニティファーマシー論
<b>【②医薬品と医療の経済性】</b>					
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	薬学概論			社会と薬学	医薬品開発・治験論
2) 国民医療費の動向について概説できる。					
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。					
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。				社会保険制度・コミュニティファーマシー論	
<b>(4) 地域における薬局と薬剤師</b>					
<b>【①地域における薬局の役割】</b>					
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	薬学概論		コミュニティファーマシー論		
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。			コミュニティファーマシー論		
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。			コミュニティファーマシー論		
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。			コミュニティファーマシー論		
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。					
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。				コミュニティファーマシー論	
<b>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</b>					
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。	薬学概論		コミュニティファーマシー論		
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。			コミュニティファーマシー論		
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。			コミュニティファーマシー論		
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。			コミュニティファーマシー論	薬学総合実習・演習B	
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)				薬学総合実習・演習C	

<b>C 薬学基礎</b>						
<b>C1 物質の物理的性質</b>						
<b>(1) 物質の構造</b>						
<b>【①化学結合】</b>						
1) 化学結合の様式について説明できる。	化学A, 薬学実習A					
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	化学A					
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	基礎有機化学演習					
<b>【②分子間相互作用】</b>						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	化学A演習	物理薬剤学A				
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。		物理化学B, 物理薬剤学A				
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4) 分散力について例を挙げて説明できる。						
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。		物理化学B				
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		物理化学B, 物理薬剤学A				
<b>【③原子・分子の挙動】</b>						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	化学A	物理化学B, 薬学実習D				
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。		物理化学B				
5) 光の散乱および干渉について説明できる。						
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。						
<b>【④放射線と放射能】</b>						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		公衆衛生学A				
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線測定の実原理と利用について概説できる。						
<b>(2) 物質のエネルギーと平衡</b>						
<b>【①気体の微視的状態と巨視的状态】</b>						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	化学A演習, 物理化学A	物理化学B				
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理化学A					
<b>【②エネルギー】</b>						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	化学A演習, 物理化学A					
2) 熱力学第一法則を説明できる。						
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	物理化学A					
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6) エンタルピーについて説明できる。	化学A演習, 物理化学A					

7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
<b>【③自発的な変化】</b>						
1) エントロピーについて説明できる。	化学A演習, 物理化学A					
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物理化学A					
3) 熱力学第三法則について説明できる。	物理化学A					
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	物理化学A, 薬学実習A	物理薬剤学A				
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	化学A演習, 物理化学A					
<b>【④化学平衡の原理】</b>						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物理化学A	物理薬剤学A				
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。						
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。						
4) 共役反応の原理について説明できる。						
<b>【⑤相平衡】</b>						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。	化学A演習	物理薬剤学A				
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 状態図について説明できる。						
<b>【⑥溶液の性質】</b>						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。	化学A演習	物理薬剤学A				
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。						
4) イオン強度について説明できる。						
<b>【⑦電気化学】</b>						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		物理薬剤学A				
2) 電極電位（酸化還元電位）について説明できる。	化学B, 化学B演習					
<b>(3) 物質の変化</b>						
<b>【①反応速度】</b>						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	化学A演習	物理薬剤学B, 薬学実習D				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)						
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理薬剤学B				
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。	化学A演習					
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。						
<b>C2 化学物質の分析</b>						
<b>(1) 分析の基礎</b>						
<b>【①分析の基本】</b>						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	薬学実習A, 薬学実習B	薬学実習C, 薬学実習D				
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	薬学実習A, 薬学実習B	薬学実習D				
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学A				
<b>(2) 溶液中の化学平衡</b>						

<b>【①酸・塩基平衡】</b>						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	化学A演習, 化学B, 化学B演習	物理薬剤学A, 薬学実習D				
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	化学A演習, 化学B, 化学B演習, 薬学実習B	薬学実習D				
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	化学B, 化学B演習, 薬学実習B					
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	化学A演習, 化学B, 化学B演習, 薬学実習B					
<b>【②各種の化学平衡】</b>						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	化学B, 化学B演習					
2) 沈殿平衡について説明できる。	化学A演習, 化学B, 化学B演習	物理薬剤学A, 薬学実習D				
3) 酸化還元平衡について説明できる。						
4) 分配平衡について説明できる。	化学B, 化学B演習	薬学実習D				
<b>(3) 化学物質の定性分析・定量分析</b>						
<b>【①定性分析】</b>						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		薬学実習D				
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
<b>【②定量分析(容量分析・重量分析)】</b>						
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬学実習B	分析化学A				
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬学実習B					
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)						
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学A, 薬学実習D				
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
<b>(4) 機器を用いる分析法</b>						
<b>【①分光分析法】</b>						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学A, 薬学実習C, 薬学実習D				
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分析化学A				
3) 赤外吸収(IR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学B				
4) 原子吸光度法、誘導結合プラズマ(ICP)発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学A				
5) 旋光度測定法(旋光分散)の原理および応用例を説明できる。		分析化学B, 薬学実習D				
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		薬学実習C, 薬学実習D				
<b>【②核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法】</b>						
1) 核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学B, 薬学実習D				
<b>【③質量分析法】</b>						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学B, 薬学実習D				

<b>【④X線分析法】</b>					
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		分析化学B			
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。					
<b>【⑤熱分析】</b>					
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		有機化学A, 物理化学B			
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。					
<b>(5) 分離分析法</b>					
<b>【①クロマトグラフィー】</b>					
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。					
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学B, 薬学実習C			
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。					
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学B			
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		分析化学B, 薬学実習C			
<b>【②電気泳動法】</b>					
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		分析化学B			
<b>(6) 臨床現場で用いる分析技術</b>					
<b>【①分析の準備】</b>					
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		分析化学B			
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		薬学実習D			
<b>【②分析技術】</b>					
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。					
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。					
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		分析化学B, 薬学実習D			
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。					
5) 代表的な画像診断技術(X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など)について概説できる。					
<b>C3 化学物質の性質と反応</b>					
<b>(1) 化学物質の基本的性質</b>					
<b>【①基本事項】</b>					
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎有機化学演習		有機化学C		
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	基礎有機化学演習, 薬学実習A				
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	基礎有機化学演習				
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。					
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	基礎有機化学演習, 薬学実習A				
6) 基本的な有機反応(置換、付加、脱離)の特徴を理解し、分類できる。	基礎有機化学演習				
7) 炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル)の構造と性質を説明できる。					
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	基礎有機化学演習	有機化学A			
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)			薬学実習E		
<b>【②有機化合物の立体構造】</b>					

1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	基礎有機化学演習	有機化学A				
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。		有機化学A, 薬学実習D				
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。		有機化学A				
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。						
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)		有機化学A, 薬学実習D	薬学実習E			
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。						
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	基礎有機化学演習		薬学実習E			
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。						
<b>(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応</b>						
<b>【①アルカン】</b>						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	薬学実習A	有機化学A				
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)			薬学実習E			
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。						
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	基礎有機化学演習		薬学実習E			
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
<b>【②アルケン・アルキン】</b>						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学B				
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
<b>【③芳香族化合物】</b>						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	薬学実習A	有機化学B				
2) 芳香族性の概念を説明できる。						
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。			医薬品化学演習			
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						
<b>(3) 官能基の性質と反応</b>						
<b>【①概説】</b>						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。			有機化学C, 薬学実習E			
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)			薬学実習E			
<b>【②有機ハロゲン化合物】</b>						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学A				
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。		有機化学A, 有機化学B				
3) 脱離反応の特徴について説明できる。						
<b>【③アルコール・フェノール・エーテル】</b>						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学実習A	有機化学A, 有機化学B	有機化学C			
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学A				
<b>【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】</b>						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学実習A		有機化学C, 薬学実			

2) カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。			習E			
3) カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学C			
<b>【⑤アミン】</b>						
1) アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学C, 薬学実習E			
<b>【⑥電子効果】</b>						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。		有機化学A	薬学実習E			
<b>【⑦酸性度・塩基性度】</b>						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。			有機化学C, 薬学実習E			
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。			有機化学C			
<b>(4) 化学物質の構造決定</b>						
<b>【①核磁気共鳴 (NMR)】</b>						
1) <sup>1</sup> H および <sup>13</sup> C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。						
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。			分析化学B, 薬学実習D			
3) <sup>1</sup> H NMR の積分値の意味を説明できる。						
4) <sup>1</sup> H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する基本的な分裂様式を説明できる。						
5) 代表的な化合物の部分構造を <sup>1</sup> H NMR から決定できる。(技能)	薬学実習A	薬学実習D	薬学実習E			
<b>【②赤外吸収 (IR)】</b>						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。						
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		分析化学B				
<b>【③質量分析】</b>						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学B			
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)						
3) ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明できる。			分析化学B, 薬学実習D			
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)						
<b>【④総合演習】</b>						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)			薬学実習D			
<b>(5) 無機化合物・錯体の構造と性質</b>						
<b>【①無機化合物・錯体】</b>						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。						
2) 代表的な無機酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。						
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						
<b>C4 生体分子・医薬品の化学による理解</b>						
<b>(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質</b>						
<b>【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】</b>						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。						
2) 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。		物理化学B	生物有機化学演習			

<b>【②生体内で機能する小分子】</b>					
1) 細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。			生物有機化学演習		
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。					
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。					
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。					
<b>(2) 生体反応の化学による理解</b>					
<b>【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】</b>					
1) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。			生物有機化学演習		
2) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。					
<b>【②酵素阻害剤と作用様式】</b>					
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学A		生物有機化学演習		
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。					
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。					
<b>【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】</b>					
1) 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。			生物有機化学演習		
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。					
<b>【④生体内で起こる有機反応】</b>					
1) 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			生物有機化学演習		
2) 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。			生物有機化学演習、 異物代謝学	公衆衛生学B	
<b>(3) 医薬品の化学構造と性質、作用</b>					
<b>【①医薬品と生体分子の相互作用】</b>					
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。		物理化学B			
<b>【②医薬品の化学構造に基づく性質】</b>					
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。	基礎有機化学演習		有機化学C		
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			生物薬剤学		
<b>【③医薬品のコンポーネント】</b>					
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			医薬品化学演習		
2) バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。					
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。					
<b>【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】</b>					
1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学演習		
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
4) キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
5) $\beta$ -ラクタム構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
6) ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					

<b>【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】</b>					
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学演習		
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
<b>【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】</b>					
1) DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			中毒学、医薬品化学演習		
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。					
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			医薬品化学演習		
<b>【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】</b>					
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。			医薬品化学演習		
<b>05 自然が生み出す薬物</b>					
<b>（1）薬になる動植物</b>					
<b>【①薬用植物】</b>					
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。		生薬学			
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。（知識、技能）					
3) 植物の主な内部形態について説明できる。	薬学実習A				
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。					
<b>【②生薬の基原】</b>					
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		生薬学	薬学実習E		
<b>【③生薬の用途】</b>					
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。		生薬学	薬学実習E		
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。					
<b>【④生薬の同定と品質評価】</b>					
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学			
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。					
3) 代表的な生薬を鑑別できる。（技能）					
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。				薬学実習E	
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。					
<b>（2）薬の宝庫としての天然物</b>					
<b>【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】</b>					
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学			
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					
<b>【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】</b>					

1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。	微生物学	生薬学				
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
<b>【③天然生物活性物質の取扱い】</b>						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)			薬学実習E			
<b>【④天然生物活性物質の利用】</b>						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		生薬学				
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。						
3) 農業や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。						
<b>C6 生命現象の基礎</b>						
<b>(1) 細胞の構造と機能</b>						
<b>【①細胞膜】</b>						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生物学入門, 生物学A, 細胞生理学		異物代謝学			
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	細胞生理学		生物薬剤学			
<b>【②細胞小器官】</b>						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生物学入門, 生物学A					
<b>【③細胞骨格】</b>						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生物学A					
<b>(2) 生命現象を担う分子</b>						
<b>【①脂質】</b>						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学入門, 生物学A, 生化学A	基礎栄養学				
<b>【②糖質】</b>						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学入門, 生物学A, 生化学A	基礎栄養学				
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学A, 生化学A	基礎栄養学				
<b>【③アミノ酸】</b>						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学入門, 生物学A, 生化学A	基礎栄養学, 薬学実習C				
<b>【④タンパク質】</b>						
1) タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生物学入門, 生物学A, 生化学A					
<b>【⑤ヌクレオチドと核酸】</b>						
1) ヌクレオチドと核酸(DNA, RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	生物学入門, 生物学A					
<b>【⑥ビタミン】</b>						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。		基礎栄養学				
<b>【⑦微量元素】</b>						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生物学入門	基礎栄養学				
<b>【⑧生体分子の定性、定量】</b>						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		薬学実習C	薬学実習F			
<b>(3) 生命活動を担うタンパク質</b>						
<b>【①タンパク質の構造と機能】</b>						

1) 多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	生化学A		異物代謝学			
<b>【②タンパク質の成熟と分解】</b>						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。	生物学A					
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						
<b>【③酵素】</b>						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。		薬学実習C				
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生物学A, 生化学A					
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		薬学実習C				
<b>【④酵素以外のタンパク質】</b>						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生物学A, 細胞生理学		異物代謝学			
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		基礎栄養学				
<b>(4) 生命情報を担う遺伝子</b>						
<b>【①概論】</b>						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生物学B					
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。			異物代謝学			
<b>【②遺伝情報を担う分子】</b>						
1) 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。						
2) 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。	生物学B		異物代謝学			
3) RNAの種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。						
<b>【③遺伝子の複製】</b>						
1) DNAの複製の過程について説明できる。	生物学B					
<b>【④転写・翻訳の過程と調節】</b>						
1) DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。			異物代謝学			
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。						
3) 転写因子による転写制御について説明できる。	生物学B		異物代謝学			
4) RNAのプロセシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。						
5) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。			異物代謝学, 薬学実習F			
<b>【⑤遺伝子の変異・修復】</b>						
1) DNAの変異と修復について説明できる。	生物学B					
<b>【⑥組換えDNA】</b>						
1) 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を概説できる。			生化学C, 薬学実習F			
2) 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。			生化学C	公衆衛生学B		
<b>(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系</b>						
<b>【①概論】</b>						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生物学A, 生化学B	基礎栄養学				
<b>【②ATPの産生と糖質代謝】</b>						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。						

2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。	生物学A, 生化学B					
3) 電子伝達系(酸化的リン酸化)とATP合成酵素について説明できる。		基礎栄養学				
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。	生化学B					
5) 糖新生について説明できる。	生物学A, 生化学B					
<b>【③脂質代謝】</b>						
1) 脂肪酸の生合成と $\beta$ 酸化について説明できる。	生化学B	基礎栄養学				
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。						
<b>【④飢餓状態と飽食状態】</b>						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。	生化学B	基礎栄養学				
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
<b>【⑤その他の代謝系】</b>						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。	生物学A, 生化学B	基礎栄養学				
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。	生化学B					
3) ペントースリン酸回路について説明できる。						
<b>(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達</b>						
<b>【① 概論】</b>						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	生物学A					
<b>【②細胞内情報伝達】</b>						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	細胞生理学					
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
<b>【③細胞間コミュニケーション】</b>						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生物学A					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。						
<b>(7) 細胞の分裂と死</b>						
<b>【①細胞分裂】</b>						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	生物学入門, 生物学A, 生物学B					
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。						
<b>【②細胞死】</b>						
1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	生物学A, 生物学B		異物代謝学, 中毒学			
<b>【③がん細胞】</b>						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	生物学B		中毒学			
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。						
<b>C7 人体の成り立ちと生体機能の調節</b>						
<b>(1) 人体の成り立ち</b>						
<b>【①遺伝】</b>						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。						
2) 遺伝子多型について概説できる。	生物学B		生化学C, 異物代謝学, 薬学実習F			

3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。			生化学C, 異物代謝学			
<b>【②発生】</b>						
1) 個体発生について概説できる。	生物学A					
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。						
<b>【③器官系概論】</b>						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	生物学入門, 生物学A, 解剖学	解剖学演習				
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。		解剖学演習	生物薬剤学, 薬学実習E			
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）	薬学実習A		薬学実習E			
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）						
<b>【④神経系】</b>						
1) 中枢神経系について概説できる。	生物学入門, 生理学A, 解剖学, 薬学実習A	薬理学A, 解剖学演習				
2) 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。	生物学入門, 生理学A, 解剖学	基礎薬理学				
<b>【⑤骨格系・筋肉系】</b>						
1) 骨、筋肉について概説できる。	生物学入門, 生理学A, 解剖学, 薬学実習A	解剖学演習				
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	生物学入門, 解剖学	解剖学演習				
<b>【⑥皮膚】</b>						
1) 皮膚について概説できる。		解剖学演習	生物薬剤学			
<b>【⑦循環器系】</b>						
1) 心臓について概説できる。	生物学入門, 生理学A, 解剖学, 薬学実習A	解剖学演習				
2) 血管系について概説できる。		解剖学演習				
3) リンパ管系について概説できる。	生物学入門, 解剖学	生理学B, 解剖学演習				
<b>【⑧呼吸器系】</b>						
1) 肺、気管支について概説できる。	生物学入門, 解剖学	生理学B, 解剖学演習				
<b>【⑨消化器系】</b>						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	生物学入門, 生化学B, 生理学A, 解剖学, 薬学実習A	基礎栄養学, 解剖学演習				
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	生物学入門, 生理学A, 解剖学, 薬学実習A					
<b>【⑩泌尿器系】</b>						
1) 泌尿器系について概説できる。	生物学入門, 解剖学, 薬学実習A	生理学B, 解剖学演習				
<b>【⑪生殖器系】</b>						
1) 生殖器系について概説できる。	生物学入門, 解剖学, 薬学実習A	生理学B, 解剖学演習				
<b>【⑫内分泌系】</b>						
1) 内分泌系について概説できる。	生物学入門, 解剖学	生理学B, 解剖学演習				
<b>【⑬感覚器系】</b>						
1) 感覚器系について概説できる。	生物学入門, 解剖学	生理学B, 解剖学演習				

<b>【⑭血液・造血系】</b>					
1) 血液・造血系について概説できる。	解剖学	生理学B, 解剖学演習			
<b>(2) 生体機能の調節</b>					
<b>【①神経による調節機構】</b>					
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	生物学入門, 生理学A, 細胞生理学	薬理学A			
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生物学入門, 細胞生理学		生化学C		
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	生物学入門				
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	生物学入門, 生理学A		薬学実習E		
<b>【②ホルモン・内分泌系による調節機構】</b>					
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	生物学入門	生理学B, 基礎栄養学	生化学C		
<b>【③オータコイドによる調節機構】</b>					
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		薬理学A	生化学C, 薬理学B		
<b>【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】</b>					
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		薬理学A	生化学C, 薬理学B		
<b>【⑤血圧の調節機構】</b>					
1) 血圧の調節機構について概説できる。	生物学入門, 生理学A				
<b>【⑥血糖の調節機構】</b>					
1) 血糖の調節機構について概説できる。	生物学入門	生理学B, 基礎栄養学			
<b>【⑦体液の調節】</b>					
1) 体液の調節機構について概説できる。	生物学入門	生理学B, 基礎栄養学			
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		生理学B			
<b>【⑧体温の調節】</b>					
1) 体温の調節機構について概説できる。	生物学入門				
<b>【⑨血液凝固・線溶系】</b>					
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		生理学B	薬学実習E		
<b>【⑩性周期の調節】</b>					
1) 性周期の調節機構について概説できる。	生物学入門	生理学B	薬学実習E		
<b>C8 生体防御と微生物</b>					
<b>(1) 身体をまもる</b>					
<b>【①生体防御反応】</b>					
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	生物学入門	生理学B, 免疫学			
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。					
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。					
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。					
<b>【②免疫を担当する組織・細胞】</b>					
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。					
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	解剖学	生理学B, 免疫学			

3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。					
<b>【③分子レベルで見た免疫のしくみ】</b>					
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		免疫学			
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		生理学B, 免疫学			
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。		免疫学			
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。		生理学B, 免疫学			
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		免疫学			
<b>【② 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用】</b>					
<b>【① 免疫応答の制御と破綻】</b>					
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学			
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。			公衆衛生学B		
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。					
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。					
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。					
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。					
<b>【② 免疫反応の利用】</b>					
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。		免疫学, 病原微生物学			
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。		免疫学			
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。		免疫学, 病原微生物学			
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）		免疫学	薬学実習F	公衆衛生学B	
<b>【③ 微生物の基本】</b>					
<b>【① 総論】</b>					
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	生物学入門, 微生物学	病原微生物学			
<b>【② 細菌】</b>					
1) 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。	微生物学				
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。					
3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。					
4) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。					
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		病原微生物学	薬理学C		
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。					
<b>【③ ウイルス】</b>					
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。	微生物学				
<b>【④ 真菌・原虫・蠕虫】</b>					
1) 真菌の性状を概説できる。	微生物学				
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。					
<b>【⑤ 消毒と滅菌】</b>					
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	微生物学	薬学実習C			
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。					
<b>【⑥ 検出方法】</b>					

1) グラム染色を実施できる。(技能)	薬学実習B					
2) 無菌操作を実施できる。(技能)		薬学実習C				
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
<b>(4) 病原体としての微生物</b>						
<b>【①感染の成立と共生】</b>						
1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。	微生物学	病原微生物学				
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。						
<b>【②代表的な病原体】</b>						
1) DNA ウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		病原微生物学				
2) RNA ウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。						
3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など)について概説できる。						
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。						
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。						
6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。						
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。						
8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。						
9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。						
<b>D 衛生薬学</b>						
<b>D1 健康</b>						
<b>(1) 社会・集団と健康</b>						
<b>【①健康と疾病の概念】</b>						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				公衆衛生学B		
<b>【②保健統計】</b>						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				公衆衛生学B		
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。						
3) 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。						
<b>【③疫学】</b>						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				公衆衛生学B		
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。						
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。						
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)						
<b>(2) 疾病の予防</b>						
<b>【①疾病の予防とは】</b>						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。				公衆衛生学B		
2) 健康増進政策(健康日本21など)について概説できる。						

<b>【②感染症とその予防】</b>						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。		病原微生物学				
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。						
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。						
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。						
<b>【③生活習慣病とその予防】</b>						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			病態学演習B	公衆衛生学B		
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。						
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）						
<b>【④母子保健】</b>						
1) 新生児マスキリングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。				公衆衛生学B		
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		病原微生物学				
<b>【⑤労働衛生】</b>						
1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。				公衆衛生学B		
2) 労働衛生管理について説明できる。						
<b>(3) 栄養と健康</b>						
<b>【①栄養】</b>						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		基礎栄養学				
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	生化学B					
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。						
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。						
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。						
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。						
<b>【②食品機能と食品衛生】</b>						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。				公衆衛生学B		
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）						
3) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。		薬学実習C				
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			中毒学			
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		薬学実習C				
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。						
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。						
<b>【③食中毒と食品汚染】</b>						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	微生物学	病原微生物学		公衆衛生学B		
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			中毒学			
<b>D2 環境</b>						
<b>(1) 化学物質・放射線の生体への影響</b>						

<b>【①化学物質の毒性】</b>						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		薬学実習C				
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			異物代謝学、中毒学	公衆衛生学B		
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			中毒学			
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)						
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。						
<b>【②化学物質の安全性評価と適正使用】</b>						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			中毒学			
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。						
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。						
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。						
<b>【③化学物質による発がん】</b>						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		薬学実習C	中毒学			
2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。						
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。						
<b>【④放射線の生体への影響】</b>						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。			異物代謝学、公衆衛生学A			
2) 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。			公衆衛生学A			
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。						
<b>(2) 生活環境と健康</b>						
<b>【①地球環境と生態系】</b>						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			公衆衛生学A	公衆衛生学B		
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	微生物学					
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。						
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)						
<b>【②環境保全と法的規制】</b>						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			公衆衛生学A			
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。						
<b>【③水環境】</b>						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			公衆衛生学A			
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。						
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)		薬学実習C				

4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			公衆衛生学A			
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		薬学実習C				
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
<b>【④大気環境】</b>						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。		薬学実習C	公衆衛生学A			
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)						
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						
<b>【⑤室内環境】</b>						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			公衆衛生学A			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
<b>【⑥廃棄物】</b>						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。						
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			公衆衛生学A			
3) マニフェスト制度について説明できる。						
<b>E 医療薬学</b>						
<b>E1 薬の作用と体の変化</b>						
<b>(1) 薬の作用</b>						
<b>【①薬の作用】</b>						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。						
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。						
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。			薬学実習E			
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)		基礎薬理学				
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)			異物代謝学			
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。						
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)			薬学実習E			
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。						
<b>【②動物実験】</b>						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)		薬学実習A				
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			薬学実習E			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)						
<b>【③日本薬局方】</b>						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		薬理学A	薬理学C			
<b>(2) 身体の病的変化を知る</b>						
<b>【①症候】</b>						

1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害			薬物治療学A			
<b>【②病態・臨床検査】</b>						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			薬理学C			
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態学演習A			
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態学演習A			
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態学演習A			
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態学	病態学演習A			
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	薬学実習B					
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				薬学総合実習演習B、C		
<b>(3) 薬物治療の位置づけ</b>						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。			薬物治療学A	薬物治療演習		
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）			薬学実習E			
<b>(4) 医薬品の安全性</b>						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		基礎薬理学				
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害			薬理学C			
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）			中毒学			
<b>E2 薬理・病態・薬物治療</b>						
<b>(1) 神経系の疾患と薬</b>						
<b>【①自律神経系に作用する薬】</b>						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		基礎薬理学				
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬学実習E			
<b>【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		基礎薬理学				
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬学実習E			
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）						
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）			病態学演習B			
<b>【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】</b>						

1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学A				
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。	薬理学A	薬学実習E	薬物治療学C		
3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学A				
4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学A, 病態学	薬物治療学A	薬物治療学C		
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学A, 病態学	薬物治療学A	薬物治療学C		
6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学A, 病態学	薬物治療学A	薬物治療学C		
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学A	薬学実習E	薬物治療学C		
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学A	病態学演習B, 薬物治療学A	薬物治療学C		
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学A	病態学演習B	薬物治療学C		
10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学A	病態学演習B			
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。	薬理学A	病態学演習B	薬物治療学C		
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		薬学実習E			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)		病態学演習B, 薬学実習E			
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症	病態学	薬物治療学A			
<b>【④化学構造と薬効】</b>					
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	基礎薬理学				
<b>(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬</b>					
<b>【①抗炎症薬】</b>					
1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学A	薬物治療学B			
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。		薬物治療学B			
3) 創傷治癒の過程について説明できる。		病態学演習A			
<b>【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】</b>					
1) アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学A	薬物治療学A, 薬物治療学B	薬物治療演習		
2) 免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学A	薬物治療学B			
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息(重複)	薬理学A, 病態学	薬理学C, 病態学演習A, 薬物治療学A, 薬物治療学B	薬物治療演習		
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson(スティーブンス-ジョンソン)症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹	薬理学A, 病態学	薬理学C			
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学A, 病態学	薬理学C, 病態学演習A, 薬物治療学B			

6) 以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病	薬理学A, 病態学	薬理学C			
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 バセドウ病(重複)、橋本病(重複)、悪性貧血(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)、シェーグレン症候群	薬理学A	薬理学C, 病態学演習B			
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ(重複)	薬理学A	薬理学C, 病態学演習A, 薬物治療学B			
9) 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学A	病態学演習A	薬物治療学C		
<b>【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】</b>					
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学C, 病態学演習A, 薬物治療学B			
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学C, 病態学演習A, 薬物治療学B	薬物治療演習		
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学C, 病態学演習A, 薬物治療学B			
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学C, 薬物治療学B			
<b>【④化学構造と薬効】</b>					
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関係を概説できる。	薬理学A	薬物治療学B			
<b>(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬</b>					
<b>【①循環器系疾患の薬、病態、治療】</b>					
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(Af)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(Vf)、房室ブロック、QT延長症候群		薬理学B, 病態学演習B	薬物治療演習		
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学B, 病態学演習B	薬物治療演習		
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学B, 病態学演習B, 薬物治療学A	薬物治療演習		
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)		薬理学B, 病態学演習B, 薬物治療学A, 薬学実習E	薬物治療演習		
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患		病態学演習B			
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		薬学実習E			
<b>【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】</b>					
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学B, 薬学実習E			
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学B, 薬学実習E			
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血	病態学	薬理学B			
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	病態学	薬理学B, 薬物治療学A			

5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E2(7)【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)	病態学	薬理学B, 薬物治療学A			
<b>【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】</b>					
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学B			
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学B, 病態学演習B	薬物治療学C, 薬物治療演習		
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学B, 病態学演習B	薬物治療学C, 薬物治療演習		
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学B, 病態学演習B			
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石		薬理学B, 病態学演習B			
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜炎、子宮筋腫		薬理学B, 病態学演習A, 薬物治療学B			
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学B			
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症		病態学演習A			
<b>【④化学構造と薬効】</b>					
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学B			
<b>(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬</b>					
<b>【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】</b>					
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学B, 病態学演習A, 薬物治療学B	薬物治療演習		
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学B, 病態学演習A, 薬物治療学B	薬物治療演習		
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学B, 病態学演習A			
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学B	薬物治療演習		
<b>【②消化器系疾患の薬、病態、治療】</b>					
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎	病態学	薬理学B, 薬物治療学A	薬物治療演習		
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	病態学	薬理学B, 薬物治療学A	薬物治療演習		
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	病態学	薬理学B, 薬物治療学A			
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	病態学	薬理学B, 薬物治療学A			
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	病態学	薬理学B, 薬物治療学A			

6) 機能的消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態学	薬理学B, 薬物治療学A				
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態学	薬理学B, 薬物治療学A				
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態学	薬理学B, 薬理学C, 薬物治療学A				
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態学	薬理学B, 薬物治療学A				
<b>【③化学構造と薬効】</b>							
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学B				
<b>(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬</b>							
<b>【①代謝系疾患の薬、病態、治療】</b>							
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学C, 病態学演習B, 薬物治療学A	薬物治療学C, 薬物治療演習			
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学C, 病態学演習B	薬物治療学C, 薬物治療演習			
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学C, 病態学演習B	薬物治療学C			
<b>【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】</b>							
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学B, 病態学演習B, 薬学実習E				
2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学C, 病態学演習B				
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学C, 病態学演習B				
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学C, 病態学演習B				
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内膜症(重複)、アジソン病(重複)			薬理学C, 病態学演習B, 薬物治療学B				
<b>【③化学構造と薬効】</b>							
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学C				
<b>(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬</b>							
<b>【①眼疾患の薬、病態、治療】</b>							
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態学	薬理学C	薬物治療演習			
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態学					
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態学					
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症		病態学					
<b>【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】</b>							
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態学	薬理学C, 薬物治療学A	薬物治療演習			
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎			薬理学C, 薬物治療学A				

【③皮膚疾患の薬、病態、治療】					
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（2）【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照）	病態学	薬理学C, 薬物治療学A	薬物治療演習		
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（7）【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照）	病態学	薬理学C, 薬物治療学A, 薬物治療学B	薬物治療演習		
3) 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	病態学	薬理学C			
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬（重複）、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）	病態学		薬物治療演習		
【④化学構造と薬効】					
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬理学C			
【⑦病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬】					
【①抗菌薬】					
1) 以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST合剤を含む）、その他の抗菌薬	病原微生物学	薬理学C, 薬物治療学B			
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。		薬物治療学B			
【②抗菌薬の耐性】					
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。	病原微生物学				
【③細菌感染症の薬、病態、治療】					
1) 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎	病原微生物学	病態学演習A, 薬物治療学B	薬物治療演習		
2) 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎	病原微生物学, 病態学	薬物治療学A			
3) 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎	病原微生物学, 病態学				
4) 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎		病態学演習A, 病態学演習B			
5) 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等	病原微生物学	病態学演習B			
6) 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		病態学演習B			
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病	病原微生物学				
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		病態学演習B			

9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等	病原微生物学	薬理学B			
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症	病原微生物学				
<b>【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】</b>					
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	病原微生物学	薬理学C	薬物治療演習		
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	病原微生物学	薬理学C、薬物治療学B	薬物治療演習		
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	病原微生物学	薬理学C、病態学演習A、薬物治療学B	薬物治療演習		
4) ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）	病原微生物学、病態学	薬理学C、薬物治療学A			
5) 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	病原微生物学	薬理学C、病態学演習A、薬物治療学B			
6) 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病	病原微生物学	薬理学C	公衆衛生学B		
<b>【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】</b>					
1) 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。					
2) 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症	病原微生物学	薬理学C、薬物治療学B	薬物治療演習		
<b>【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】</b>					
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢	病原微生物学、病態学	薬理学C			
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症	病原微生物学				
<b>【⑦悪性腫瘍】</b>					
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。		薬理学C、病態学演習A			
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因		薬理学C、薬物治療学B	薬物治療学C、薬物治療演習		
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。		薬理学C、薬物治療学B、薬物治療学C	薬物治療演習		
<b>【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】</b>					
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬		薬理学C、薬物治療学B	薬物治療演習		
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。		薬理学C、薬物治療学B			
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。		薬理学C、薬物治療学B	薬物治療演習		

4) 代表的ながん化学療法レジメン (FOLFOX等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。			薬理学C, 薬物治療学B	薬物治療学C		
5) 以下の白血病について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。急性 (慢性) 骨髄性白血病、急性 (慢性) リンパ性白血病、成人T細胞白血病 (ATL)		病態学	薬物治療学A	薬物治療演習		
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		病態学	薬物治療学A	薬物治療演習		
7) 骨肉腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態学演習A			
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌			病態学演習A	薬物治療学C, 薬物治療演習		
9) 肺癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態学演習A, 薬物治療学B	薬物治療演習		
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍				薬物治療演習		
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			病態学演習A, 薬物治療学B			
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態学演習A			
13) 乳癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態学演習A, 薬物治療学B			
<b>【⑨がん終末期医療と緩和ケア】</b>						
1) がん終末期の病態 (病態生理、症状等) と治療を説明できる。		薬理学A	病態学演習A	薬物治療学C		
2) がん性疼痛の病態 (病態生理、症状等) と薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態学演習A	薬物治療学C		
<b>【⑩化学構造と薬効】</b>						
1) 病原微生物・悪性新生物に関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			薬理学C			
<b>(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報</b>						
<b>【①組換え体医薬品】</b>						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			生化学C			
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
<b>【②遺伝子治療】</b>						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			生化学C			
<b>【③細胞、組織を利用した移植医療】</b>						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)		薬理学A	病態学演習A, 薬学実習F	薬物治療学C		
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。			病態学演習A	薬物治療学C		
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。			生化学C, 病態学演習A	薬物治療学C		
4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。			生化学C, 病態学演習A			
<b>(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション</b>						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。			コミュニティファーマシー論			
2) 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。						

3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を挙げる。		病態学	病態学演習A				
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C			
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を挙げる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等			コミュニティファーマシー論				
6) 主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる。							
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。							
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)				薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C			
<b>(10) 医療中の漢方薬</b>							
<b>【①漢方薬の基礎】</b>							
1) 漢方の特徴について概説できる。			漢方薬				
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証							
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。							
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。							
<b>【②漢方薬の応用】</b>							
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。			漢方薬				
2) 日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。							
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。							
<b>【③漢方薬の注意点】</b>							
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			漢方薬, コミュニティファーマシー論				
<b>(11) 薬物治療の最適化</b>							
<b>【①総合演習】</b>							
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)				薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C			
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)			中毒学				
3) 長期療養に付随する合併症を挙げる、その薬物治療について討議する。(知識・態度)			病態学演習A				
<b>E3 薬物治療に役立つ情報</b>							
<b>(1) 医薬品情報</b>							
<b>【①情報】</b>							
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を挙げる。				医薬品情報学			
2) 医薬品情報に関わっている職種を挙げる、その役割について概説できる。							
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。							
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。							医薬品開発・治験論
5) 医薬品情報に係る代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。							
<b>【②情報源】</b>							

1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。				医薬品情報学			
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。							
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						医薬品開発・治験論	
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。							
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。						医薬品開発・治験論	
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。							
<b>【③収集・評価・加工・提供・管理】</b>							
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）				薬学総合実習・演習B、薬学総合実習・演習C			
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）				医薬品情報学			
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						医薬品開発・治験論	
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）						医薬品開発・治験論	
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法及び注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。				医薬品情報学			
<b>【④EBM (Evidence-based Medicine)】</b>							
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。		薬学実習D		医薬品情報学			
2) 代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。							
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。（E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照）		薬学実習D					
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。							
<b>【⑤生物統計】</b>							
1) 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。		薬学実習D	生物統計学演習A	医薬品情報学			
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。							
3) 代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 $\chi^2$ 分布、F分布）について概説できる。							
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。							
5) 二群間の差の検定（t検定、 $\chi^2$ 検定など）を実施できる。（技能）							
6) 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。		薬学実習D			医薬品情報学		
7) 基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。							
<b>【⑥臨床研究デザインと解析】</b>							
1) 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。			生物統計学演習A	医薬品情報学		医薬品開発・治験論	
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。		薬学実習D					
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。							
4) 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。							
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。							
6) 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。						医薬品開発・治験論	
7) 統計解析時の注意点について概説できる。		薬学実習D	生物統計学演習A				

8) 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。				医薬品情報学		医薬品開発・治験論
9) 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）						
<b>【⑦医薬品の比較・評価】</b>						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				医薬品情報学		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。（技能）		薬学実習D		薬学総合実習・演習B、薬学総合実習・演習C		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）						
<b>(2) 患者情報</b>						
<b>【①情報と情報源】</b>						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				医薬品情報学		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
<b>【②収集・評価・管理】</b>						
1) 問題志向型システム（POS）を説明できる。						
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。		病態学	病態学演習B			
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。				医薬品情報学		
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。（A (2) 【③患者の権利】参照）						
<b>(3) 個別化医療</b>						
<b>【①遺伝的素因】</b>						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。			異物代謝学、生物薬剤学、薬物動態学			
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学、薬物動態学			
<b>【②年齢的要因】</b>						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				異物代謝学、生物薬剤学、薬物動態学		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
<b>【③臓器機能低下】</b>						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				生物薬剤学、薬物動態学		
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				異物代謝学、生物薬剤学、薬物動態学		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				生物薬剤学、薬物動態学		
<b>【④その他の要因】</b>						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。						
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物動態学		
3) 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
<b>【⑤個別化医療の計画・立案】</b>						
1) 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）				薬学実習F		

2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。			病態学演習A			
<b>E4 薬の生体内運命</b>						
<b>(1) 薬物の体内動態</b>						
<b>【①生体膜透過】</b>						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			異物代謝学, 生物薬剤学			
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。						
<b>【②吸収】</b>						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。			生物薬剤学			
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						
3) 薬物の吸収に影響する因子(薬物の物性、生理学的要因など)を列挙し、説明できる。			異物代謝学, 生物薬剤学			
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
5) 初回通過効果について説明できる。			生物薬剤学			
<b>【③分布】</b>						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			生物薬剤学			
2) 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			生物薬剤学, 薬学実習F			
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			生物薬剤学			
4) 血液-組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。			異物代謝学, 生物薬剤学			
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。			生物薬剤学			
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			異物代謝学, 生物薬剤学			
<b>【④代謝】</b>						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。		薬学実習C	生物薬剤学			
2) 薬物代謝の第I相反応(酸化・還元・加水分解)、第II相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。		薬学実習C	異物代謝学, 生物薬剤学			
3) 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。						
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学	製剤材料学		
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			異物代謝学, 生物薬剤学			
<b>【⑤排泄】</b>						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			異物代謝学, 生物薬剤学			
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			生物薬剤学			
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。						
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			異物代謝学, 生物薬剤学			
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
<b>(2) 薬物動態の解析</b>						
<b>【①薬物速度論】</b>						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。						
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)			薬物動態学, 薬学実習F			

3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)						
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。						
5) 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。				薬物動態学		
6) 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD解析)について概説できる。						
<b>【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】</b>						
1) 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。				薬物動態学		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)				薬物動態学, 薬学実習F		
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				薬物動態学		
<b>E5 製剤化のサイエンス</b>						
<b>(1) 製剤の性質</b>						
<b>【①固形材料】</b>						
1) 粉体の性質について説明できる。	化学A演習	物理薬剤学B, 薬学実習D				
2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		物理薬剤学B				
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2 (2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び【②各種の化学平衡】2. 参照)		物理薬剤学A, 物理薬剤学B				
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。		物理薬剤学A, 物理薬剤学B				
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		物理薬剤学B				
<b>【②半固形・液状材料】</b>						
1) 流動と変形(レオロジー)について説明できる。				製剤材料学		
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。						
<b>【③分散系材料】</b>						
1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2 (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照)		物理薬剤学A				
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。		物理薬剤学A, 物理薬剤学B				
3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。		物理薬剤学B				
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
<b>【④薬物及び製剤材料の物性】</b>						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。				製剤材料学		
2) 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。 (C1 (3) 【①反応速度】1. ~7. 参照)		物理薬剤学B				
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
<b>(2) 製剤設計</b>						
<b>【①代表的な製剤】</b>						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。						
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
3) 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。				製剤材料学		

4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。							
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。							
6) その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。							
<b>【②製剤化と製剤試験法】</b>							
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。							
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			薬学実習D		製剤材料学		
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。							
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。							
<b>【③生物学的同等性】</b>							
1) 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。				薬物動態学			
<b>(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)</b>							
<b>【①DDS の必要性】</b>							
1) DDSの概念と有用性について説明できる。					製剤材料学		
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 （プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照）							
<b>【②コントロールドリリース（放出制御）】</b>							
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。							
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			物理薬剤学B		製剤材料学		
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。							
<b>【③ターゲティング（標的指向化）】</b>							
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。							
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。					製剤材料学		
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。							
<b>【④吸収改善】</b>							
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。							
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。					製剤材料学		
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。							
<b>F 薬学臨床</b>							
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項							
<b>(1) 薬学臨床の基礎</b>							
<b>【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項</b>							
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)		薬学概論、フレックス シユマンセミナー (薬学) A、フレックス シユマンセミナー (薬学) B					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的な体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)		薬学概論、フレックス シユマンセミナー (薬学) A					
3) 一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。 (知識・技能)					薬学総合実習・演習 B、薬学総合実習・ 演習C		
<b>【②臨床における心構え】 [A (1)、(2)参照]</b>							
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)							

2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)						
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)						
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					薬局実習, 病院実習	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)						
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)						
<b>【③臨床実習の基礎】</b>						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。					導入講義・演習	
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				調剤処方演習		
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。						
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。					導入講義・演習	
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 【B(3)①参照】				社会と薬学		
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					病院実習	
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。						
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)						
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。						
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。						
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。						
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。						
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。						
15) 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)			調剤処方学		薬局実習	
<b>(2) 処方せんに基づく調剤</b>						
<b>【①法令・規則等の理解と遵守】</b> 【B(2)、(3)参照】						
1) 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			調剤処方学	調剤処方演習		
2) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)					薬局実習, 病院実習	
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)						
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。						
<b>【②処方せんと疑義照会】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				調剤処方演習		
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。			調剤処方学			
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				調剤処方演習, 薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。						
5) 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。			調剤処方学			
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)				薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C		

7) 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）						
8) 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）						薬局実習, 病院実習
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）						
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方that 妥当であるか判断できる。（知識・技能）						
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）						
<b>【③処方せんに基づく医薬品の調製】</b>						
1) 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）					薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	
2) 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。					調剤処方演習, 薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）					薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。					薬学総合実習・演習A	
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				調剤処方学	製剤管理学, 薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）	薬学実習B					
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）					薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）						
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）						薬局実習, 病院実習
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）						
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）						
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）						
13) 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）						
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）						病院実習
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。						
16) 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）						
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）						
18) 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）						
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）						
<b>【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】</b>						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。（態度）					薬学総合実習・演習C	
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。					薬学総合実習・演習A, 薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）					薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）						

5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				薬学総合実習・演習A		
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）				薬学総合実習・演習B、薬学総合実習・演習C	導入講義・演習	
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。						
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）						
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）						
10) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）						
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）						
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）					薬局実習、病院実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）						
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）						
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）						
<b>【⑤医薬品の供給と管理】</b>						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			調剤処方学			
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。					導入講義・演習	
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。						
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。						
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管方法を説明できる。						
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				製剤管理学		
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。						
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。						
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）						
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）						
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）					薬局実習、病院実習	
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）						
<b>【⑥安全管理】</b>						
1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。						
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。				薬学総合実習・演習A		
3) 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）				薬学総合実習・演習B、薬学総合実習・演習C		
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				薬学総合実習・演習A、薬学総合実習・演習B、薬学総合実習・演習C		
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）	薬学実習B			薬学総合実習・演習B、薬学総合実習・演習C		
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				製剤管理学、薬学総合実習・演習A		
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				薬学総合実習・演習A		

8) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）						薬局実習, 病院実習
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。						
10) 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）						
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）						
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）						病院実習
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）						
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）						
<b>【3】薬物療法の実践</b>						
<b>【①患者情報の把握】</b>						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。					薬学総合実習・演習A	
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 〔E3(2)①参照〕					薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	導入講義・演習
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。						
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）						
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）						
6) 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）						薬局実習, 病院実習
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）						
<b>【②医薬品情報の収集と活用】〔E3(1)参照〕</b>						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）					薬学総合実習・演習C	
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）						薬局実習, 病院実習
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）						
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）						
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）						
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）						
<b>【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				調剤処方学	調剤処方演習	
2) 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				調剤処方学	調剤処方演習	
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。					調剤処方演習, 薬学総合実習・演習C	
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。					医療栄養学, 調剤処方演習, 薬学総合実習・演習C	
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。					製剤管理学, 医療栄養学, 薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。						
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。						
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。						

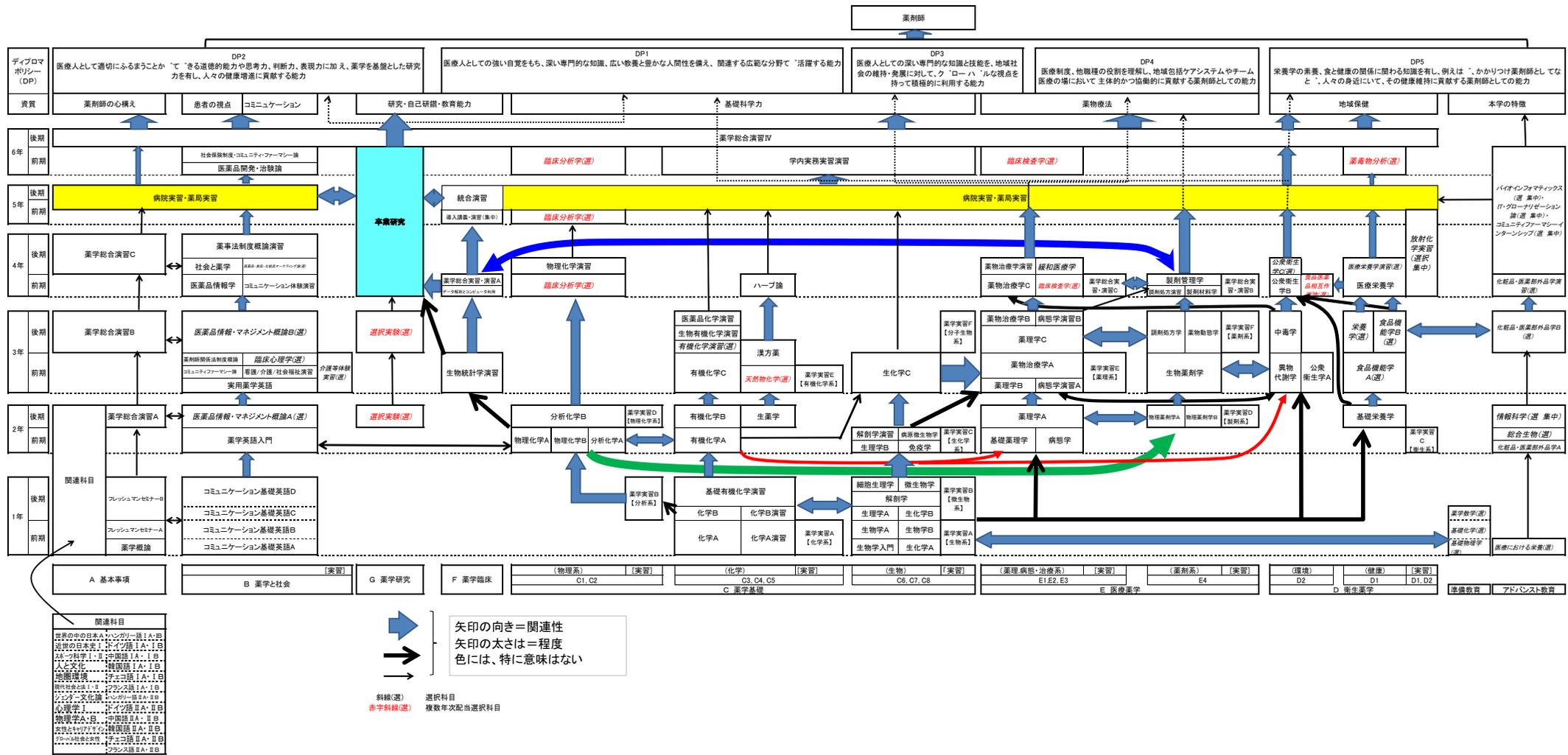
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方提案ができる。（知識・態度）						
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）					薬局実習, 病院実習	
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）						
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）						
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。						
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）						
<b>【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。					調剤処方演習	
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）						
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）					薬学総合実習・演習B, 薬学総合実習・演習C	
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）						
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定提案ができる。（知識・態度）						
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。（知識・技能）						
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。						
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						薬局実習, 病院実習
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）						
11) 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）						
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）						
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）						
<b>(4) チーム医療への参画 [A(4)参照]</b>						
<b>【①医療機関におけるチーム医療】</b>						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				看護/介護/社会福祉演習		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				看護/介護/社会福祉演習	導入講義・演習	
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。				看護/介護/社会福祉演習	薬学総合実習・演習A	
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。（態度）						
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。（知識・態度）						
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）						薬局実習, 病院実習
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）						
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）						
9) 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）						
<b>【②地域におけるチーム医療】</b>						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。				看護/介護/社会福祉演習	薬学総合実習・演習A	

2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				薬学総合実習・演習 B, 薬学総合実習・ 演習C		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					薬局実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)						
<b>(5) 地域の保健・医療・福祉への参画</b> [B (4) 参照]						
<b>【①在宅(訪問)医療・介護への参画】</b>						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。			看護/介護/社会福 祉演習	社会と薬学	導入講義・演習	
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。			看護/介護/社会福 祉演習			
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。			看護/介護/社会福 祉演習			
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)						
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					薬局実習	
6) 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)						
<b>【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】</b>						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。				薬学総合実習・演習 A		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。						
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)						
4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)					薬局実習	
<b>【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】</b> [E 2 (9) 参照]						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)						
2) 前) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)				薬学総合実習・演習 B, 薬学総合実習・ 演習C		
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)						
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)						
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)						
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)						
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)					薬局実習	
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)						
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)						
<b>【④災害時医療と薬剤師】</b>						
1) 前) 災害時医療について概説できる。					導入講義・演習	
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					薬局実習, 病院実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)						
<b>G 薬学研究</b>						
<b>(1) 薬学における研究の位置づけ</b>						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。				卒業研究	卒業研究	卒業研究
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。				卒業研究	卒業研究	卒業研究

3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
<b>(2) 研究に必要な法規範と倫理</b>						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				卒業研究	卒業研究	卒業研究
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。				卒業研究	卒業研究	卒業研究
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲				卒業研究	卒業研究	卒業研究
<b>(3) 研究の実践</b>						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)				卒業研究	卒業研究	卒業研究

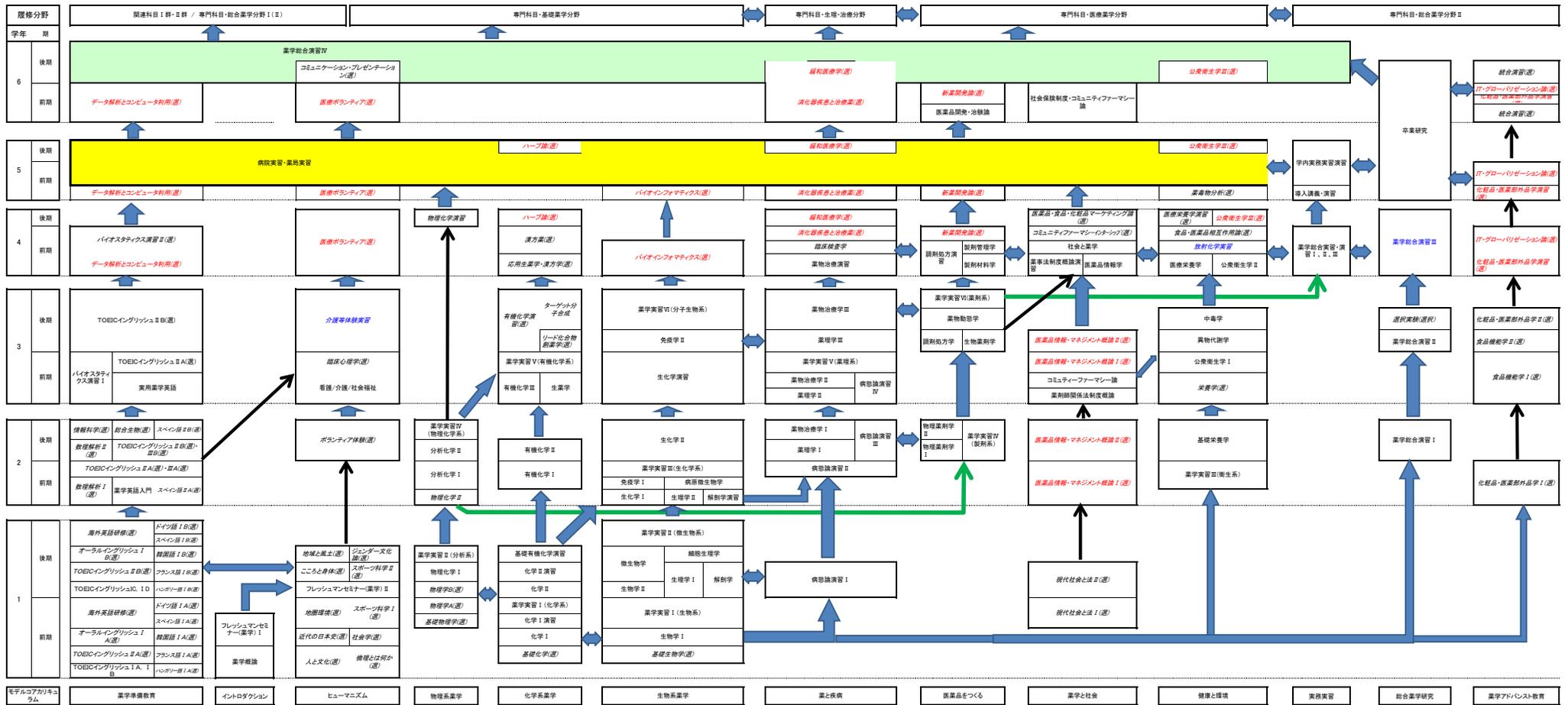
# 基礎資料4-1 ①

## 平成30年度(新カリキュラム)カリキュラムツリー



基礎資料4-1 ②

平成26年度以前入学生(旧カリキュラム)カリキュラムツリー



矢印の向き＝関連性  
矢印の大きさは一程度  
色には、特に意味はない

斜線(選) 選択科目  
赤字(繰選) 繰越年度配当選択科目

基礎資料4-2 ①

カリキュラムマップ(2018入学生)

ディプロマポリシー(DP)	DP1 医療人としての強い自覚をもち、深い専門的な知識、広い教養と豊かな人間性を備え、迅速する広範な分野で「活躍する能力		DP2 医療人として適切にふるまうことが「できる道徳的能力や思考力、判断力、表現力に加え、実学を基礎とした研究力を有し、人々の健康増進に貢献する能力		DP3 医療人としての深い専門的な知識と技能を、地域社会の維持・発展に対して、グローバルな視点を持って積極的に利用する能力		DP4 医療制度、他職種との役割を理解し、地域包括ケアシステムやチーム医療の場において主体的かつ協働的に貢献する役割師としての能力		DP5 栄養学の食養、食と健康の関係に関する知識を有し、例えば、かかりつけ薬剤師としてなど、人々の身近において、その健康維持に貢献する薬剤師としての能力			
	DP1	DP2	DP1, DP2, DP5	DP2, DP4, DP5	DP1, DP2	DP1, DP2, DP4, DP5	DP2, DP3, DP4, DP5	DP2	DP1, DP2, DP3, DP5	DP2, DP3, DP5		
薬剤師としての10の資質 + 本学の特徴	資質1 薬剤師の心構え	資質2 患者の視点	資質3 コミュニケーション	資質4 チーム医療	資質5 基礎科学力	資質6 薬物療法	資質7 地域保健	資質8 研究	資質9 自己研鑽	資質10 教育能力	本学の特徴 茶業 健康 国際化	
DP1と10の資質の関連	知識 技能・態度	知識 技能・態度	知識 技能・態度	知識 技能・態度	知識 技能・態度	知識 技能・態度	知識 技能・態度	知識 技能・態度	知識 技能・態度	知識 技能・態度	知識 技能・態度	
6年次	医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	卒業研究 医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	卒業研究 医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	卒業研究 医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	卒業研究 医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論 学内実務実習演習	卒業研究 医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	卒業研究 医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	卒業研究 医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	卒業研究 医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	卒業研究 医薬品開発・法規 社会保険制度・コミュニケーション ファーマシー論	
5年次	薬学実習・高度実習 導入講義・演習	薬学実習・高度実習 導入講義・演習	薬学実習・高度実習 導入講義・演習	薬学実習・高度実習 導入講義・演習	卒業研究 薬学実習・高度実習 導入講義・演習	卒業研究 薬学実習・高度実習 導入講義・演習	卒業研究 薬学実習・高度実習 導入講義・演習	卒業研究 薬学実習・高度実習 導入講義・演習	卒業研究 薬学実習・高度実習 導入講義・演習	卒業研究 薬学実習・高度実習 導入講義・演習	卒業研究 薬学実習・高度実習 導入講義・演習	
4年次	薬学総合実習演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬事法制度概論演習 薬物治療学C 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	コミュニケーション学 薬学総合実習演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	卒業研究 薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	卒業研究 薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	卒業研究 薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	卒業研究 薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	卒業研究 薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	卒業研究 薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	卒業研究 薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	卒業研究 薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C	卒業研究 薬学総合実習演習A コミュニケーション学 薬学総合実習演習B 薬学総合実習演習C
3年次	看護/介護/社会福祉実習 調剤処方学 薬剤師法制度概論 薬物治療学A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬物治療学A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉実習 薬学実習A 薬学総合実習演習B コミュニケーション ファーマシー論
2年次	薬学総合実習A	薬学総合実習A	薬学実習入門 薬学総合実習A	薬学総合実習A	薬学総合実習A	薬学総合実習A	薬学総合実習A	薬学総合実習A	薬学総合実習A	薬学総合実習A	薬学総合実習A	
1年次	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論	薬学概論 薬学概論 薬学概論 薬学概論

必須科目  
選択科目



基礎資料4-2 ③

カリキュラムマップ(2015.2016入学生)

コアコンピテンシー(CO)＋OC	DP1 医師としての強い自覚を持ち、高度な医療に貢献する差別化となる能力		DP2 医療制度、他職種との役割を理解し、地域社会の医療に貢献できる差別化となる能力		DP3 英語学、食品機能学、中薬学などの薬業を有し、関連する広範囲な分野で人々の健康を高めるために活躍できる差別化となる能力		DP4 コミュニケーション力を備え、グローバル化した社会での医療に対応できる能力		DP5 有機化学、物理化学、生化学、生理学および薬理学の豊かな学力を有し、さらに高度な薬学の知識を学び研究力を発揮させることができる能力													
	CC1 薬剤師の心構え		CC2 患者の視点		CC3 コミュニケーション		CC4 チーム医療		CC5 基礎科学力		CC6 薬物療法		CC7 地域保健		CC8 研究		CC9 自己研鑽		CC10 教育能力		CO 栄養健康	
	DP1	DP2	DP1	DP2	DP4	DP1	DP2	DP5	DP1	DP2	DP3	DP5										
	知識	技能・態度	知識	技能・態度	知識	技能・態度	知識	技能・態度	知識	技能・態度	知識	技能・態度	知識	技能・態度	知識	技能・態度	知識	技能・態度	知識	技能・態度	知識	技能・態度
6年次	薬事法規・法規 社会保険制度・コミュニティ ファーマシー論		薬事法規・法規 社会保険制度・コミュニティ ファーマシー論		卒業研究		卒業研究	薬学総合演習D 卒業研究		薬学総合演習D 卒業研究		薬学総合演習D 卒業研究	社会保険制度・コミュニティ ファーマシー論		薬事法規・法規 卒業研究		卒業研究		卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
5年次	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	卒業研究	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	薬学総合演習D 卒業研究	薬学総合演習D 卒業研究	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	薬学総合演習D 卒業研究	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	薬品実習・病院実習 導入講義・演習	卒業研究							
4年次	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬事法規・法規 薬物治療学C 薬学総合演習C	コミュニケーション 実践演習 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A コミュニケーション 実践演習 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A コミュニケーション 実践演習 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	卒業研究	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C	薬学総合演習A 医薬品情報学 社会と薬学 薬物治療学 薬学総合演習B 薬物治療学C 薬学総合演習C
3年次	看護/介護/社会福祉学 調剤処方学 薬剤師法 薬物治療学 薬物治療学 コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉学 調剤処方学 薬剤師法 薬物治療学 薬物治療学 コミュニケーション ファーマシー論	看護/介護/社会福祉学 調剤処方学 薬剤師法 薬物治療学 薬物治療学 コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論	薬学総合演習B 薬物治療学A 薬物治療学B コミュニケーション ファーマシー論
2年次	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A	薬学総合演習A
1年次	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論	薬学総論

必須科目  
選択科目







(基礎資料5) 語学教育の要素

《H27年度以降のカリキュラム》□

科目名	科目の識別	開講年次	要素			
			読み	書き	聞く	話す
コミュニケーション基礎英語A	基本・必	1	○	○	○	○
コミュニケーション基礎英語B	基本・必	1	○	○	○	○
コミュニケーション基礎英語C	基本・必	1	○	○	○	○
コミュニケーション基礎英語D	基本・必	1	○	○	○	○
TOEICイングリッシュIA	基本・必	1	○	○	○	○
TOEICイングリッシュIB	基本・必	1	○	○	○	○
TOEICイングリッシュIC	基本・必	1	○	○	○	○
TOEICイングリッシュID	基本・必	1	○	○	○	○
薬学英語入門	専門・必	2	○		○	○
実用薬学英語	専門・必	3	○		○	○
薬学韓国語	専門・選	1~6	○	○	○	○
薬学中国語	専門・選	1~6	○	○	○	○
海外薬学英語研修I	専門・選	1~6	○	○	○	○
海外薬学英語研修II	専門・選	1~6	○	○	○	○
海外薬学英語研修III	専門・選	1~6	○	○	○	○
English Communication IA	関連・選	1			○	○
English Communication IB	関連・選	1			○	○
ドイツ語IA	関連・選	1	○	○	○	○
ドイツ語IB	関連・選	1	○	○	○	○
フランス語IA	関連・選	1	○	○	○	○
フランス語IB	関連・選	1	○	○	○	○
フランス語IIA	関連・選	2	○	○	○	○
中国語IA	関連・選	1	○	○	○	○
中国語IB	関連・選	1	○	○	○	○
スペイン語IA	関連・選	1	○	○	○	○
スペイン語IB	関連・選	1	○	○	○	○
韓国語IA	関連・選	1	○	○	○	○
韓国語IB	関連・選	1	○	○	○	○
ハンガリー語IA	関連・選	1	○	○	○	○
ハンガリー語IB	関連・選	1	○	○	○	○
TOEICイングリッシュIIA	関連・選	1	○		○	
TOEICイングリッシュIIB	関連・選	1	○		○	
TOEICイングリッシュIIIA	関連・選	1	○		○	
TOEICイングリッシュIIIB	関連・選	1	○		○	
オーラル・イングリッシュIB	関連・選	1			○	○

TOEFLトレーニング I A	関連・選	1	○	○	○	○
TOEFLトレーニング I B	関連・選	1	○	○	○	○
パブリックコミュニケーションA	関連・選	1			○	○
ポーランド語 I A	関連・選	1	○	○	○	○
Oral English I A	関連・選	1			○	○
Oral English I B	関連・選	1			○	○
資格英語 I A	関連・選	1	○		○	
資格英語 I B	関連・選	1	○		○	
資格英語 II A	関連・選	1	○		○	
資格英語 II B	関連・選	1	○		○	
資格英語 III A	関連・選	1	○		○	
資格英語 III B	関連・選	1	○		○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

## (基礎資料5) 語学教育の要素

《H26年度以前のカリキュラム》□

科目名	科目の識別	開講年次	要素			
			読み	書き	聞く	話す
TOEICイングリッシュⅠA	基本・必	1	○	○	○	○
TOEICイングリッシュⅠB	基本・必	1	○	○	○	○
TOEICイングリッシュⅠC	基本・必	1	○	○	○	○
TOEICイングリッシュⅠD	基本・必	1	○	○	○	○
薬学英语入門	専門・必	2	○		○	○
実用薬学英语	専門・必	3	○		○	○
薬学韓国語	専門・選	1～6	○	○	○	○
薬学中国語	専門・選	1～6	○	○	○	○
海外薬学英语研修Ⅰ	専門・選	1～6	○	○	○	○
海外薬学英语研修Ⅱ	専門・選	1～6	○	○	○	○
海外薬学英语研修Ⅲ	専門・選	1～6	○	○	○	○
オーラル・イングリッシュⅠA	関連・選	1			○	○
オーラル・イングリッシュⅠB	関連・選	1			○	○
TOEICイングリッシュⅡA	関連・選	1～4	○		○	
TOEICイングリッシュⅡB	関連・選	1～4	○		○	
TOEICイングリッシュⅢA	関連・選	1～4	○		○	
TOEICイングリッシュⅢB	関連・選	1～4	○		○	
ドイツ語ⅠA	関連・選	1	○	○	○	○
ドイツ語ⅠB	関連・選	1	○	○	○	○
中国語ⅠA	関連・選	1	○	○	○	○
スペイン語ⅠA	関連・選	1	○	○	○	○
スペイン語ⅠB	関連・選	1	○	○	○	○
韓国語ⅠA	関連・選	1	○	○	○	○
韓国語ⅠB	関連・選	1	○	○	○	○
フランス語ⅠA	関連・選	1	○	○	○	○
フランス語ⅠB	関連・選	1	○	○	○	○
ハンガリー語ⅠA	関連・選	1	○	○	○	○
ハンガリー語ⅠB	関連・選	1	○	○	○	○
チェコ語ⅠA	関連・選	1	○	○	○	○
チェコ語ⅠB	関連・選	1	○	○	○	○
TOEFLトレーニングⅠB	関連・選	1	○	○	○	○
Intensive Academic EnglishⅠB	関連・選	1	○	○	○	○
Intensive Academic EnglishⅠD	関連・選	1	○	○	○	○
Intensive Academic EnglishⅡB	関連・選	1	○	○	○	○
Intensive Academic EnglishⅡD	関連・選	1	○	○	○	○
パブリックコミュニケーションA	関連・選	1			○	○
パブリックコミュニケーションB	関連・選	1			○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

基礎資料 6-1

新カリキュラム 事前学習スケジュール

平成29年9月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金	1日					
	土	2日					
第2週	月	4日					
	火	5日					
	水	6日					
	木	7日					
	金	8日					
	土	9日					
第3週	月	11日					
	火	12日					
	水	13日					
	木	14日					
	金	15日					
	土	16日					
第4週	月	18日	祝日				
	火	19日					
	水	20日					
	木	21日		調剤処方学 (10-202)			
	金	22日					
	土	23日	祝日				
第5週	月	25日					
	火	26日					
	水	27日					
	木	28日		調剤処方学 (10-202)			
	金	29日					
	土	30日					

平成29年10月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	2日					
	火	3日					
	水	4日					
	木	5日		調剤処方学 (10-202)			
	金	6日					
	土	7日					
第2週	月	9日	祝日				
	火	10日					
	水	11日					
	木	12日					
	金	13日					
	土	14日					
第3週	月	16日					
	火	17日					
	水	18日					
	木	19日					
	金	20日					
	土	21日					
第4週	月	23日					
	火	24日					
	水	25日					
	木	26日		調剤処方学 (10-202)			
	金	27日	高麗祭				
	土	28日	高麗祭				
第5週	月	30日	高麗祭				
	火	31日	高麗祭				

平成29年11月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水	1日					
	木	2日		調剤処方学 (10-202)			
	金	3日					
	土	4日					
第2週	月	6日					
	火	7日					
	水	8日					
	木	9日		調剤処方学 (10-202)			
	金	10日					
	土	11日					
第3週	月	13日					
	火	14日					
	水	15日					
	木	16日		調剤処方学 (10-202)			
	金	17日					
	土	18日					
第4週	月	20日					
	火	21日					
	水	22日					
	木	23日	祝日				
	金	24日					
	土	25日					
第5週	月	27日					
	火	28日					
	水	29日					
	木	30日		調剤処方学 (10-202)			

平成29年12月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金	1日					
	土	2日					
第2週	月	4日					
	火	5日					
	水	6日					
	木	7日		調剤処方学 (10-202)			
	金	8日					
	土	9日					
第3週	月	11日					
	火	12日					
	水	13日					
	木	14日		調剤処方学 (10-202)			
	金	15日					
	土	16日					
第4週	月	18日					
	火	19日					
	水	20日					
	木	21日		調剤処方学 (10-202)			
	金	22日					
	土	23日	祝日				
第5週	月	25日					
	火	26日					
	水	27日					
	木	28日					
	金	29日					
	土	30日					

## 平成30年1月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	1日	祝日				
	火	2日	祝日				
	水	3日	祝日				
	木	4日					
	金	5日					
	土	6日					
第2週	月	8日	祝日				
	火	9日					
	水	10日					
	木	11日					
	金	12日					
	土	13日					
第3週	月	15日					
	火	16日					
	水	17日					
	木	18日		調剤処方学 (10-202)			
	金	19日					
	土	20日					
第4週	月	22日					
	火	23日					
	水	24日					
	木	25日					
	金	26日					
	土	27日					
第5週	月	29日					
	火	30日					
	水	31日					

平成30年4月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	2日					
	火	3日			薬学総合実習演習BCガイド ンス		
	水	4日					
	木	5日					
	金	6日					
	土	7日					
第2週	月	9日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	10日					
	水	11日	服薬指導、薬歴作成 (21-201)				
	木	12日	服薬指導、薬歴作成 (18- 303)	服薬指導、薬歴作成 (21- 201)			
	金	13日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	14日					
第3週	月	16日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	17日					
	水	18日	注射、製剤 (18-313、18- 514)		注射、製剤 (18-313、18- 516)		
	木	19日	注射、製剤 (18-313、18-		注射、製剤 (18-313、18-		
	金	20日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	21日					
第4週	月	23日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	24日					
	水	25日	水剤、散剤、計数調剤 (18-311)				
	木	26日	水剤、散剤、計数調剤 (18-311)				
	金	27日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	28日					
第5週	月	30日	祝日				

## 平成30年5月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月	30日						
	火	1日						
	水	2日						
	木	3日	祝日					
	金	4日	祝日					
	土	5日	祝日					
	日	6日						
第2週	月	7日	調剤処方演習 (10-303)					
	火	8日						
	水	9日	処方監査、軟膏、製剤 (21-307)					
	木	10日	処方監査、軟膏、製剤 (21-307)					
	金	11日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)	
	土	12日						
	日	13日						
第3週	月	14日	調剤処方演習 (10-303)					
	火	15日						
	水	16日	フィジカルアセスメント (18-501、502)		セルフメディケーション (18-311)			
	木	17日	実務実習に必要なディスカッション (10-401)					
	金	18日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)	
	土	19日						
	日	20日						
第4週	月	21日	調剤処方演習 (10-303)					
	火	22日						
	水	23日	症例検討 (18-202)					
	木	24日	症例検討 (18-202)					
	金	25日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)	
	土	26日						

	日	27日					
第5週	月	28日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	29日					
	水	30日	ラウンド（実地試験）（18-511、18-512、18-513）				

4～5月 水・木 I～IV限



太枠の内容 : 学生によって実施日（実施順）が異なる項目

平成30年6月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金	1日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実習・演習A (10-102)
	土	2日					
	日	3日					
第2週	月	4日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	5日					
	水	6日					
	木	7日					
	金	8日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実習・演習A (10-102)
	土	9日					
	日	10日					
第3週	月	11日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	12日					
	水	13日					
	木	14日					

	金	15日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	16日					
	日	17日					
第4週	月	18日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	19日					
	水	20日					
	木	21日					
	金	22日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	23日					
	日	24日					
第5週	月	25日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	26日					
	水	27日					
	木	28日					
	金	29日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	30日					

平成30年7月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
	日	1日					
第1週	月	2日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	3日					
	水	4日					
	木	5日					
	金	6日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	7日					
	日	8日					
第2週	月	9日	調剤処方演習 (10-303)				

	火	10日					
	水	11日					
	木	12日					
	金	13日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	14日					
	日	15日					
第3週	月	16日	祝日				
	火	17日					
	水	18日					
	木	19日					
	金	20日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	21日					
	日	22日					
第4週	月	23日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	24日					
	水	25日					
	木	26日					
	金	27日			製剤管理学 (18-101)		薬学総合実 習・演習A (10-102)
	土	28日					
	日	29日					
第5週	月	30日	調剤処方演習 (10-303)				
	火	31日					

## 平成31年2月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	金	1日					
	土	2日					
	日	3日					
第2週	月	4日					
	火	5日					
	水	6日					
	木	7日					
	金	8日					
	土	9日					
	日	10日					
第3週	月	11日					
	火	12日					
	水	13日					
	木	14日					
	金	15日					
	土	16日					
	日	17日					
第4週	月	18日		導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)		
	火	19日	導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)	
	水	20日	導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)	
	木	21日	導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)		導入講義・演習 (10-502)	
	金	22日		導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)	導入講義・演習 (10-502)	
	土	23日					
	日	24日					
第5週	月	25日					
	火	26日					
	水	27日					
	木	28日					

基礎資料 6-2

旧カリキュラム 事前学習スケジュール

平成28年6月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第3週	月	13日					
	火	14日					
	水	15日					
	木	16日					
	金	17日					
	土	18日	コミュニテイ ファーマシー 論 (10-202)				

平成28年9月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第4週	月	19日	祝日				
	火	20日					
	水	21日					
	木	22日	祝日				
	金	23日					
	土	24日					
第5週	月	26日					
	火	27日					
	水	28日					
	木	29日		調剤処方学 (10-202)			
	金	30日					

## 平成28年10月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	土	1日					
第2週	月	3日					
	火	4日					
	水	5日					
	木	6日		調剤処方学 (10-202)			
	金	7日					
	土	8日					
第3週	月	10日	祝日				
	火	11日					
	水	12日					
	木	13日		調剤処方学 (10-202)			
	金	14日					
	土	15日					
第4週	月	17日					
	火	18日					
	水	19日					
	木	20日		調剤処方学 (10-202)			
	金	21日					
	土	22日					
第5週	月	24日					
	火	25日					
	水	26日					
	木	27日		調剤処方学 (10-202)			
	金	28日					
	土	29日					
第6週	月	31日					

## 平成28年11月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	火	1日					
	水	2日					
	木	3日					
	金	4日	高麗祭				
	土	5日	高麗祭				
第2週	月	7日	高麗祭				
	火	8日					
	水	9日					
	木	10日		調剤処方学 (10-202)			
	金	11日					
	土	12日					
第3週	月	14日					
	火	15日					
	水	16日					
	木	17日		調剤処方学 (10-202)			
	金	18日					
	土	19日					
第4週	月	21日					
	火	22日					
	水	23日	祝日				
	木	24日		調剤処方学 (10-202)			
	金	25日					
	土	26日					
第5週	月	28日					
	火	29日					
	水	30日					

## 平成28年12月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	木	1日		調剤処方学 (10-202)			
	金	2日					
	土	3日					
第2週	月	5日					
	火	6日					
	水	7日					
	木	8日		調剤処方学 (10-202)			
	金	9日					
	土	10日					
第3週	月	12日					
	火	13日					
	水	14日					
	木	15日		調剤処方学 (10-202)			
	金	16日					
	土	17日					
第4週	月	19日					
	火	20日					
	水	21日					
	木	22日		調剤処方学 (10-202)			
	金	23日	祝日				
	土	24日					
第5週	月	26日					
	火	27日					
	水	28日					
	木	29日					
	金	30日					
	土	31日					

## 平成29年1月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	2日	祝日				
	火	3日	祝日				
	水	4日					
	木	5日					
	金	6日					
	土	7日					
第2週	月	9日	祝日				
	火	10日					
	水	11日		調剤処方学 (10-202)			
	木	12日					
	金	13日					
	土	14日					
第3週	月	16日					
	火	17日					
	水	18日		調剤処方学 (10-202)			
	木	19日					
	金	20日					
	土	21日					
第4週	月	23日					
	火	24日					
	水	25日					
	木	26日					
	金	27日					
	土	28日					
第5週	月	30日					
	火	31日					

平成29年4月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	土	1日					
第2週	月	3日					
	火	4日					
	水	5日			薬学総合実習演習BCガイド ンス		
	木	6日					
	金	7日					
	土	8日					
第3週	月	10日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	11日					
	水	12日	服薬指導、薬歴作成 (21-201)				
	木	13日	服薬指導、薬歴作成 (18-303)	服薬指導、薬歴作成 (21-201)			
	金	14日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実習・演習Ⅰ (10-102)
	土	15日					
第4週	月	17日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	18日					
	水	19日	注射、製剤 (18-313、18-514)		注射、製剤 (18-313、18-516)		
	木	20日	注射、製剤 (18-313、18-516)		注射、製剤 (18-313、18-516)		
	金	21日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実習・演習Ⅰ (10-102)
	土	22日					
第5週	月	24日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	25日					
	水	26日	水剤、散剤、計数調剤 (18-311)				
	木	27日	水剤、散剤、計数調剤 (18-311)				
	金	28日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実習・演習Ⅰ (10-102)
	土	29日	祝日				
	火	31日					

## 平成29年5月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月	1日						
	火	2日						
	水	3日						
	木	4日	祝日					
	金	5日	祝日					
	土	6日	祝日					
第2週	月	8日	調剤処方演習 (18-101)					
	火	9日						
	水	10日	処方監査、軟膏、製剤 (21-307)					
	木	11日	処方監査、軟膏、製剤 (21-307)					
	金	12日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)	
	土	13日						
第3週	月	15日	調剤処方演習 (18-101)					
	火	16日						
	水	17日	フィジカルアセスメント					
	木	18日						
	金	19日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ	
	土	20日						
第4週	月	22日	調剤処方演習 (18-101)					
	火	23日						
	水	24日	症例検討 (18-202)					
	木	25日	症例検討 (18-202)					
	金	26日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)	
	土	27日						
第5週	月	29日	調剤処方演習 (18-101)					
	火	30日						

	水	31日	ラウンド (18-511、18-512、18-513)			
--	---	-----	-----------------------------	--	--	--

4～5月 水・木 I～IV限



太枠の内容 : 学生によって実施日 (実施順) が異なる項目

平成29年6月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	木	1日					
	金	2日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)
	土	3日					
第2週	月	5日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	6日					
	水	7日					
	木	8日					
	金	9日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)
	土	10日					
第3週	月	12日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	13日					
	水	14日					
	木	15日					
	金	16日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)
	土	17日					
第4週	月	19日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	20日					
	水	21日					
	木	22日					
	金	23日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)
	土	24日					

第5週	月	26日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	27日					
	水	28日					
	木	29日					
	金	30日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習A (10-102)

平成29年7月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	土	1日					
	日	2日					
第2週	月	3日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	4日					
	水	5日					
	木	6日					
	金	7日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)
	土	8日					
	日	9日					
第3週	月	10日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	11日					
	水	12日					
	木	13日					
	金	14日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)
	土	15日					
	日	16日					
第4週	月	17日	祝日				
	火	18日					
	水	19日					
	木	20日					

	金	21日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)
	土	22日					
	日	23日					
第5週	月	24日	調剤処方演習 (18-101)				
	火	25日					
	水	26日					
	木	27日					
	金	28日			製剤管理学 (10-402)		薬学総合実 習・演習Ⅰ (10-102)
	土	29日					
	日	30日					
第6週	月	31日	調剤処方演習 (18-101)				

平成30年4月

(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
	日	1日					
第1週	月	2日	導入講義・演習 (10-402)				
	火	3日	導入講義・演習 (10-402)	導入講義・演習 (10-402)			
	水	4日					
	木	5日	導入講義・演習 (10-402)				
	金	6日	導入講義・演習 (3-301)	導入講義・演習 (3-301)	導入講義・演習 (3-301)	導入講義・演習 (10-402)	
	土	7日	導入講義・演習 (10-402)	導入講義・演習 (10-402)	導入講義・演習 (10-402)	導入講義・演習 (10-402)	
	日	8日					
第2週	月	9日					
	火	10日					
	水	11日					
	木	12日					
	金	13日					
	土	14日					
	日	15日					
第3週	月	16日					
	火	17日					
	水	18日					
	木	19日					
	金	20日					
	土	21日					
	日	22日					
第4週	月	23日					
	火	24日					
	水	25日					
	木	26日					
	金	27日					
	土	28日					
	日	29日					
第5週	月	30日					

(基礎資料7) 学生受入状況について(入学試験種類別)

	学科名	入試の種類		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	募集定員数 に対する入 学者数の比 率(6年間 の平均)
				入試(25年 度実施)	入試(26年 度実施)	入試(27年 度実施)	入試(28年 度実施)	入試(29年 度実施)	入試(30年 度実施)	
薬 学 部 科	一般入試	受験者数		855	1,108	787	754	562	530	
		合格者数		284	253	320	274	236	383	
		入学者数(A)		165	133	154	122	100	141	
		募集定員数(B)		100	100	100	100	120	125	
		A/B*100(%)		165%	133%	154%	122%	83%	113%	
	大学入試センター入試	受験者数		896	694	569	665	694	615	
		合格者数		223	172	260	327	480	284	
		入学者数(A)		38	23	55	65	108	33	
		募集定員数(B)		32	32	32	32	52	52	
		A/B*100(%)		119%	72%	172%	203%	208%	63%	
	A〇入試	受験者数		39	32	24	15	13	7	
		合格者数		30	21	22	13	6	7	
		入学者数(A)		29	20	17	12	6	6	
		募集定員数(B)		8	8	8	8	8	6	
		A/B*100(%)		363%	250%	213%	150%	75%	100%	
	附属校推薦	受験者数		2	5	2	4	1	3	
		合格者数		2	5	2	4	1	3	
		入学者数(A)		2	5	2	4	1	3	
		募集定員数(B)		20	20	20	20	20	15	
		A/B*100(%)		10%	25%	10%	20%	5%	20%	
	指定校推薦 (スポーツ推薦含む)	受験者数		93	109	83	75	38	42	
		合格者数		93	109	83	74	38	42	
		入学者数(A)		93	109	83	73	38	42	
		募集定員数(B)		90	90	90	90	50	50	
		A/B*100(%)		103%	121%	92%	81%	76%	84%	
	日本留学試験利用入試	受験者数		0	0	0	0	0	2	
		合格者数		-	-	-	-	-	2	
		入学者数(A)		-	-	-	-	-	2	
募集定員数(B)			若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
A/B*100(%)						-	-	-		
社会人入試	受験者数		0	0	0	0	0	0		
	合格者数		-	-	-	-	-	-		
	入学者数(A)		-	-	-	-	-	-		
	募集定員数(B)		-	-	-	-	-	-		
	A/B*100(%)		-	-	-	-	-	-		
学 科 計	受験者数		1,885	1,948	1,465	1,513	1,308	1,199		
	合格者数		632	560	687	692	761	721		
	入学者数(A)		327	290	311	276	253	227		
	募集定員数(B)		250	250	250	250	250	196		
	A/B*100(%)		131%	116%	124%	110%	101%	116%		

- [注] 1 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 2 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B\*100(%)]を算出してください。
- 3 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 4 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 5 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 6 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料7) 学生受入状況について(入学試験種類別)

学部	学科名	入試の種類		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	募集定員数 に対する入 学者数の比 率(6年間 の平均)
				入試(25年 度実施)	入試(26年 度実施)	入試(27年 度実施)	入試(28年 度実施)	入試(29年 度実施)	入試(30年 度実施)	
薬 学 部	一般入試	受験者数		855	1,108	787	754	562	530	128%
		合格者数		284	253	320	274	236	383	
		入学者数(A)		165	133	154	122	100	141	
		募集定員数(B)		100	100	100	100	120	125	
		A/B*100(%)		165%	133%	154%	122%	83%	113%	
	大学入試センター入試	受験者数		896	694	569	665	694	615	139%
		合格者数		223	172	260	327	480	284	
		入学者数(A)		38	23	55	65	108	33	
		募集定員数(B)		32	32	32	32	52	52	
		A/B*100(%)		119%	72%	172%	203%	208%	63%	
	A〇入試	受験者数		39	32	24	15	13	7	192%
		合格者数		30	21	22	13	6	7	
		入学者数(A)		29	20	17	12	6	6	
		募集定員数(B)		8	8	8	8	8	6	
		A/B*100(%)		363%	250%	213%	150%	75%	100%	
	附属校推薦	受験者数		2	5	2	4	1	3	15%
		合格者数		2	5	2	4	1	3	
		入学者数(A)		2	5	2	4	1	3	
		募集定員数(B)		20	20	20	20	20	15	
		A/B*100(%)		10%	25%	10%	20%	5%	20%	
指定校推薦 (スポーツ推薦含む)	受験者数		93	109	83	75	38	42	93%	
	合格者数		93	109	83	74	38	42		
	入学者数(A)		93	109	83	73	38	42		
	募集定員数(B)		90	90	90	90	50	50		
	A/B*100(%)		103%	121%	92%	81%	76%	84%		
日本留学試験利用入試	受験者数		0	0	0	0	0	2		
	合格者数		-	-	-	-	-	2		
	入学者数(A)		-	-	-	-	-	2		
	募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	A/B*100(%)					-	-	-		
社会人入試	受験者数		0	0	0	0	0	0		
	合格者数		-	-	-	-	-	-		
	入学者数(A)		-	-	-	-	-	-		
	募集定員数(B)		-	-	-	-	-	-		
	A/B*100(%)		-	-	-	-	-	-		
学 科 計	受験者数		1,885	1,948	1,465	1,513	1,308	1,199	116%	
	合格者数		632	560	687	692	761	721		
	入学者数(A)		327	290	311	276	253	227		
	募集定員数(B)		250	250	250	250	250	196		
	A/B*100(%)		131%	116%	124%	110%	101%	116%		

- [注] 1 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 2 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B\*100(%)]を算出してください。
- 3 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 4 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 5 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 6 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 <sup>1)</sup>
23名	15名	0名	12名	50名	34名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 <sup>2)</sup>
3名	5名	0名	2名	10名	6名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2は含まない

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 <sup>1)</sup>	兼任教員 <sup>2)</sup>
11名	14名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 <sup>1)</sup>	合計
19名	0名	0名	0名

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員<sup>1)</sup>

事務職員	技能職員 <sup>2)</sup>	その他 <sup>3)</sup>	合計
5名	0名	0名	5名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は( )に内数で記入。複数学部の兼任は含まない。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

(基礎資料9) 専任教員(基礎資料8の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	12名	0名	0名	2名	14名	28.0%
50代	8名	6名	0名	0名	14名	28.0%
40代	3名	6名	0名	4名	13名	26.0%
30代	0名	3名	0名	6名	9名	18.0%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
合計	23名	15名	0名	12名	50名	100.0%

専任教員の定年年齢:(65歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料8の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	20名	13名	0名	10名	43名	86.0%
女性	3名	2名	0名	2名	7名	14.0%

## (基礎資料10) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料8の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	白幡 晶	65	男	薬学博士	1993. 4. 1	生化学B	9.00	0.30	
							授業担当時間の合計	9.00	0.30	
薬学科	教授	従二 和彦	66	男	薬学博士	1986. 7. 1	製剤材料学	24.00	0.80	
							調剤処方学	15.00	0.50	
							製剤管理学	12.00	0.40	
							薬学実習F(薬学実習VI)	◎	45.00	1.50
							授業担当時間の合計	96.00	3.20	
薬学科	教授 (実務)	小林 大介	63	男	博士(薬学)	1998. 4. 1	薬学概論	45.00	1.50	
							調剤処方学	15.00	0.50	
							調剤処方演習	45.00	1.50	
							薬学総合実習・演習B	◎	22.50	0.75
							薬学総合実習・演習C	◎	22.50	0.75
							学内実務実習演習	10.50	0.35	
							導入講義・演習	4.50	0.15	
							統合演習	22.50	0.75	
							授業担当時間の合計	187.50	6.25	
薬学科	教授	新津 勝	68	男	理学博士	1993. 4. 1	化学B	45.00	1.50	
							化学B演習	12.00	0.40	
							分析化学A	24.00	0.80	
							薬学実習A(コンピュータ活用含む)	◎	45.00	1.50
							薬学実習B	◎	63.00	2.10
							授業担当時間の合計	189.00	6.30	
薬学科	教授	近藤 誠一	67	男	薬学博士	1989. 4. 1	微生物学	22.50	0.75	
							病原微生物学	67.50	2.25	
							製剤管理学	3.00	0.10	
							薬理学C	6.00	0.20	
							薬学実習A(コンピュータ活用含む)	◎	45.00	1.50
							薬学実習B	◎	36.00	1.20
							授業担当時間の合計	180.00	6.00	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	川嶋 洋一	69	男	薬学博士	1994. 4. 1	基礎栄養学	45.00	1.50	
							異物代謝学	15.00	0.50	
							公衆衛生学B	21.00	0.70	
							公衆衛生学C	3.00	0.10	
							薬学実習C（コンピュータ活用含む）	◎	40.50	1.35
							授業担当時間の合計	124.50	4.15	
薬学科	教授	荻原 政彦	66	男	薬学博士	1984. 4. 1	薬理学A	18.00	0.60	
							薬理学B	24.00	0.80	
							薬理学C	18.00	0.60	
							薬学英語入門	22.50	0.75	
							選択実験	10.50	0.35	
							薬学実習E	◎	49.50	1.65
							授業担当時間の合計	142.50	4.75	
薬学科	教授 (実務)	金本 郁男	63	男	博士(薬学)	2008. 10. 1	薬物治療学C	45.00	1.50	
							薬物治療学Ⅲ	22.50	0.75	
							薬物治療演習	22.50	0.75	
							薬学総合演習C	45.00	1.50	
							薬学総合実習・演習B	◎	39.00	1.30
							薬学総合実習・演習C	◎	39.00	1.30
授業担当時間の合計	213.00	7.10								
薬学科	教授	加園 恵三	62	男	博士(医学)	2004. 2. 1	病態学演習A	18.00	0.60	
							医療栄養学演習	13.50	0.45	
							臨床栄養学演習B	3.00	0.10	
							薬学総合実習・演習B	◎	22.50	0.75
							薬学総合実習・演習C	◎	22.50	0.75
							病態学演習B	18.00	0.60	
							病態学	18.00	0.60	
							薬学実習A（コンピュータ活用含む）	◎	9.00	0.30
							運動障害と予防	22.50	0.75	
							健康管理概論	22.50	0.75	
授業担当時間の合計	169.50	5.65								

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	教授	坂本 武史	55	男	博士(薬学)	2006.10.1	有機化学B	45.00	1.50
							有機化学演習	3.00	0.10
							医薬品化学演習	45.00	1.50
							基礎有機化学演習	24.00	0.80
							薬学実習E	◎ 58.50	1.95
							授業担当時間の合計	175.50	5.85
薬学科	教授	夏目 秀視	59	男	博士(薬学)	1996.4.1	物理薬剤学B	24.00	0.80
							薬学英語入門	22.50	0.75
							生物薬剤学	45.00	1.50
							薬学総合演習IV	30.00	1.00
							薬学実習F	◎ 36.00	1.20
							授業担当時間の合計	157.50	5.25
薬学科	教授	工藤 なをみ	57	女	博士(薬学)	2003.4.1	中毒学	45.00	1.50
							食品医薬品相互作用論	12.00	0.40
							薬毒物分析	◎ 22.50	0.75
							公衆衛生学C	7.50	0.25
							製剤管理学	3.00	0.10
							異物代謝学	15.00	0.50
							薬学実習C(コンピュータ活用含む)	◎ 90.00	3.00
							放射化学実習	◎ 22.50	0.75
授業担当時間の合計	217.50	7.25							
薬学科	教授	関 俊暢	56	男	薬学博士	2008.4.1	物理化学A	45.00	1.50
							物理化学B	27.00	0.90
							物理化学演習	18.00	0.60
							物理薬剤学A	21.00	0.70
							薬学実習D	◎ 54.00	1.80
							授業担当時間の合計	165.00	5.50
薬学科	教授	岡崎 真理	51	女	博士(薬学)	2001.4.1	基礎薬理学	21.00	0.70
							生理学B	45.00	1.50
							薬理学A	27.00	0.90
							薬学実習E	◎ 76.50	2.55
							授業担当時間の合計	169.50	5.65

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当り授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	古地 壯光	51	男	博士(薬学)	2013.9.1	分析化学A	21.00	0.70	
							分析化学B	15.00	0.50	
							生化学C	24.00	0.80	
							化学B演習	12.00	0.40	
							薬学実習B	◎	72.00	2.40
							授業担当時間の合計	144.00	4.80	
薬学科	教授	関谷 剛	49	男	博士(医学)	2017.10.1	病態学演習B	18.00	0.60	
							病態学	18.00	0.60	
							薬学総合実習・演習B	◎	16.50	0.55
							薬学総合実習・演習C	◎	16.50	0.55
							病態学演習A	18.00	0.60	
							医療栄養学演習	54.00	1.80	
							臨床検査学	22.50	0.75	
授業担当時間の合計	163.50	5.45								
薬学科	教授	山ノ井 孝	58	男	博士(理学)	2014.4.1	化学A	6.00	0.20	
							有機化学A	33.00	1.10	
							有機化学演習	4.50	0.15	
							生物有機化学演習	45.00	1.50	
							薬学英語入門	22.50	0.75	
							薬学実習A(コンピュータ活用含む)	◎	63.00	2.10
							授業担当時間の合計	174.00	5.80	
薬学科	教授	上田 秀雄	49	男	博士(薬学)	2006.4.1	フレッシュマンセミナー(薬学)B	22.50	0.75	
							薬学概論	3.00	0.10	
							物理薬剤学A	24.00	0.80	
							医薬品開発・治験論	15.00	0.50	
							製剤材料学	21.00	0.70	
							コミュニティファーマシーインターンシップ	12.00	0.40	
							化学A演習	21.00	0.70	
							コミュニケーション体験演習	22.50	0.75	
							薬学実習D	◎	67.50	2.25
授業担当時間の合計	208.50	6.95								

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	竹田 明彦	60	男	博士(医学)	2015.4.1	医療栄養学		45.00	1.50
							栄養学		22.50	0.75
							薬学実習F	◎	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		85.50	2.85
薬学科	教授	畑中 朋美	55	女	博士(薬学)	2017.4.1	生化学A		45.00	1.50
							生化学B		36.00	1.20
							生物統計学演習A		45.00	1.50
							薬学実習F	◎	36.00	1.20
授業担当時間の合計		162.00	5.40							
薬学科	教授	河合 洋	46	男	博士(薬学)	2017.4.1	公衆衛生学A		45.00	1.50
							公衆衛生学B		24.00	0.80
							公衆衛生学C		12.00	0.40
							薬毒物分析	◎	22.50	0.75
							薬学実習C(コンピュータ活用含む)	◎	63.00	2.10
授業担当時間の合計		166.50	5.55							
薬学科	客員教授(実務)	北澤 貴樹	67	男	博士(医学)	2016.9.1	製剤管理学		18.00	0.60
							薬学総合実習・演習B	◎	45.00	1.50
							薬学総合実習・演習C	◎	45.00	1.50
授業担当時間の合計		108.00	3.60							
薬学科	客員教授	北原 嘉泰	65	男	薬学博士	2018.4.1	学内実務実習演習		45.00	1.50
							薬学総合演習C		45.00	1.50
							薬学総合演習IV		9.00	0.30
							有機化学演習		3.00	0.10
授業担当時間の合計		102.00	3.40							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	准教授 (実務)	大嶋 繁	58	男	博士(薬学)	2005. 4. 1	コミュニティーファーマシー論	24.00	0.80	
							社会と薬学		15.00	0.50
							病院実習	◎	45.00	1.50
							薬局実習	◎	45.00	1.50
							導入講義・演習		6.00	0.20
							薬学総合実習・演習B	◎	42.00	1.40
							薬学総合実習・演習C	◎	42.00	1.40
							薬学概論		1.50	0.05
授業担当時間の合計							220.50	7.35		
薬学科	准教授 (実務)	井上 裕	45	男	博士(薬学)	2008. 4. 1	フレッシュマンセミナー(薬学)B		3.00	0.10
							薬学総合実習・演習B		84.00	2.80
							薬学総合実習・演習C		84.00	2.80
							薬物治療演習		11.25	0.38
							薬学概論		22.50	0.75
							薬物治療学A		21.00	0.70
							薬物治療学B		24.00	0.80
							コミュニケーション体験演習		22.50	0.75
授業担当時間の合計							272.25	9.08		
薬学科	准教授	一色 恭徳	51	男	博士(薬学)	2005. 4. 1	フレッシュマンセミナー(薬学)A		45.00	1.50
							生物学B		30.00	1.00
							薬学総合演習A		45.00	1.50
							薬学総合演習B		45.00	1.50
							微生物学		36.00	1.20
							薬学概論		45.00	1.50
							総合生物		45.00	1.50
							薬学実習A(コンピュータ活用含む)	◎	40.50	1.35
							薬学実習B	◎	63.00	2.10
授業担当時間の合計							394.50	13.15		

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	准教授 (実務)	細谷 治	51	男	博士(薬学)	2008.4.1	薬物治療学A	24.00	0.80
							薬物治療学B	21.00	0.70
							緩和医療学	22.50	0.75
							薬物治療演習	22.50	0.75
							コミュニティーファーマシーインターンシップ	12.00	0.40
							薬学総合実習・演習B	◎ 39.00	1.30
							薬学総合実習・演習C	◎ 39.00	1.30
							臨床栄養学実習B	◎ 3.00	0.10
授業担当時間の合計							183.00	6.10	
薬学科	准教授	木村 光利	53	男	博士(薬学)	2006.4.1	生物学入門	36.00	1.20
							生物学A	30.00	1.00
							薬理学C	21.00	0.70
							基礎薬理学	24.00	0.80
							フレッシュマンセミナー(薬学)B	22.50	0.75
							薬学実習B	◎ 9.00	0.30
							薬学実習E	◎ 90.00	3.00
							授業担当時間の合計		
薬学科	准教授 (実務)	内田 昌希	43	男	博士(薬学)	2009.4.1	実用薬学英語	22.50	0.75
							物理薬剤学B	21.00	0.70
							薬学実習D	◎ 36.00	1.20
							フレッシュマンセミナー(薬学)A	45.00	1.50
							薬学概論	45.00	1.50
							学内実務実習演習	12.00	0.40
							授業担当時間の合計		
薬学科	准教授	沼尻 幸彦	56	男	博士(薬学)	2006.4.1	薬剤師関係法制度概論	24.00	0.80
							薬事法制度概論演習	45.00	1.50
							社会保険制度・コミュニティーファーマシー論	24.00	0.80
							薬学実習D	27.00	0.90
授業担当時間の合計							120.00	4.00	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	准教授	江川 祐哉	42	男	博士(薬学)	2008.4.1	化学A演習	15.00	0.50	
							薬学数学	12.00	0.40	
							物理化学B	18.00	0.60	
							物理化学演習	4.50	0.15	
							薬学実習D	◎	63.00	2.10
							分析化学B	21.00	0.70	
							授業担当時間の合計	133.50	4.45	
薬学科	准教授 (実務)	井上 直子	53	女	博士(薬学)	2015.4.1	薬学総合実習・演習B	◎	42.00	1.40
							薬学総合実習・演習C	◎	42.00	1.40
							薬学概論		3.00	0.10
							社会と薬学		15.00	0.50
							薬剤師関係法制度概論		21.00	0.70
							社会保険制度・コミュニティーファーマシー論		21.00	0.70
							薬学実習F	◎	45.00	1.50
授業担当時間の合計	189.00	6.30								
薬学科	准教授	大竹 一男	46	男	博士(薬学)	2007.4.1	フレッシュマンセミナー(薬学)A		45.00	1.50
							薬学概論		36.00	1.20
							生理学A		45.00	1.50
							細胞生理学		45.00	1.50
							薬学実習A(コンピュータ活用含む)	◎	49.50	1.65
							薬学実習F	◎	31.50	1.05
							授業担当時間の合計	252.00	8.40	
薬学科	准教授	木村 聡一郎	39	男	博士(薬学)	2011.4.1	実用薬学英語		22.50	0.75
							薬物動態学		45.00	1.50
							基礎化学		45.00	1.50
							薬学実習D	◎	45.00	1.50
							薬学実習F	◎	45.00	1.50
							フレッシュマンセミナー(薬学)B		22.50	0.75
							授業担当時間の合計	225.00	7.50	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当り授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	准教授	武内 智春	39	男	博士(薬学)	2010.4.1	免疫学		45.00	1.50
							免疫学Ⅱ		45.00	1.50
							薬学英語入門		22.50	0.75
							薬学実習F	◎	54.00	1.80
							生化学C		21.00	0.70
							情報科学(演習含む)		7.50	0.25
							授業担当時間の合計		195.00	6.50
薬学科	准教授	渡辺 知恵	44	女	博士(医学)	2018.4.1	病態学演習A		9.00	0.30
							病態学演習B		9.00	0.30
							病態学		9.00	0.30
							医療栄養学演習		18.00	0.60
							薬学実習A(コンピュータ活用含む)	◎	36.00	1.20
							薬学実習D	◎	36.00	1.20
							授業担当時間の合計		117.00	3.90
薬学科	准教授	吉田 彰宏	48	男	博士(工学)	2018.4.1	化学A		39.00	1.30
							薬学実習A(コンピュータ活用含む)	◎	63.00	2.10
							薬学実習B	◎	45.00	1.50
							薬学実習E	◎	40.50	1.35
							授業担当時間の合計		187.50	6.25
薬学科	准教授	谷川 尚	38	男	博士(薬学)	2018.4.1	異物代謝学		15.00	0.50
							食品医薬品相互作用論		10.50	0.35
							薬毒物分析(演習を含む)	◎	12.00	0.40
							薬学実習C(コンピュータ活用含む)	◎	76.50	2.55
							放射化学実習	◎	22.50	0.75
							授業担当時間の合計		136.50	4.55
薬学科	助教	木村 哲	68	男	薬学修士	2009.4.1	薬学総合実習・演習B	◎	54.00	1.80
							薬学総合実習・演習C	◎	54.00	1.80
							薬学実習F	◎	40.50	1.35
							授業担当時間の合計		148.50	4.95
薬学科	助教	中山 光治	61	男	工学博士	2007.4.1	薬学実習A(コンピュータ活用含む)	◎	63.00	2.10
							薬学実習B	◎	36.00	1.20
							薬学実習E	◎	76.50	2.55
							授業担当時間の合計		175.50	5.85

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	助教	高山 淳	45	男	薬学博士	2010. 4. 1	フレッシュマンセミナー（薬学）A	45.00	1.50
							情報科学（演習含む）	6.00	0.20
							有機化学C	45.00	1.50
							実用薬学英語	22.50	0.75
							有機化学演習	6.00	0.20
							薬学実習D	◎ 36.00	1.20
							薬学実習E	◎ 36.00	1.20
							薬学概論	36.00	1.20
							基礎有機化学演習	21.00	0.70
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教	武藤 香絵	42	女	薬学博士	2009. 4. 1	導入講義・演習	6.00	0.20
							病院実習	◎ 45.00	1.50
							薬局実習	◎ 22.50	0.75
							薬学総合実習・演習A	◎ 12.00	0.40
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)	大島 新司	43	男	博士（薬学）	2015. 4. 1	医薬品情報学	45.00	1.50
							製剤管理学	9.00	0.30
							調剤処方演習	15.00	0.50
							薬学総合実習・演習B	◎ 39.00	1.30
							薬学総合実習・演習C	◎ 78.00	2.60
							薬学実習D	◎ 36.00	1.20
							薬学概論	3.00	0.10
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教	小泉 晶彦	35	男	博士（薬学）	2015. 9. 1	基礎物理学	22.50	0.75
							有機化学A	12.00	0.40
							薬学実習A（コンピュータ活用含む）	◎ 63.00	2.10
							薬学実習B	◎ 45.00	1.50
							有機化学演習	6.00	0.20
							授業担当時間の合計		

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	助教	小林 正樹	40	男	博士(薬学)	2016.5.1	実用薬学英語	22.50	0.75
							化学B演習	12.00	0.40
							分析化学B	9.00	0.30
							薬学実習A(コンピュータ活用含む) ◎	63.00	2.10
							薬学実習B ◎	67.50	2.25
							授業担当時間の合計	174.00	5.80
薬学科	助教	松崎 広和	37	男	博士(医学)	2018.4.1	薬学総合演習A	39.00	1.30
							薬学総合演習B	39.00	1.30
							薬学実習A(コンピュータ活用含む) ◎	36.00	1.20
							薬学実習B ◎	36.00	1.20
							薬学実習E ◎	76.50	2.55
							薬学概論	9.00	0.30
							情報科学(演習含む)	13.50	0.45
							授業担当時間の合計	249.00	8.30
薬学科	助教	野村 陽恵	35	女	博士(薬科学)	2018.4.1	生物学B	15.00	0.50
							微生物学	9.00	0.30
							薬学総合演習A	39.00	1.30
							薬学総合演習B	39.00	1.30
							薬学実習A(コンピュータ活用含む) ◎	36.00	1.20
							薬学実習B ◎	36.00	1.20
							薬学実習F ◎	18.00	0.60
							授業担当時間の合計	192.00	6.40
薬学科	助教	茂木 肇	36	男	博士(薬学)	2018.4.1	生物学入門	9.00	0.30
							生物学A	15.00	0.50
							薬学総合演習A	39.00	1.30
							薬学総合演習B	39.00	1.30
							薬学実習B ◎	36.00	1.20
							薬学実習E ◎	90.00	3.00
							薬学概論	9.00	0.30
							授業担当時間の合計	237.00	7.90

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	助教	三木 涼太郎	35	男	博士（薬学）	2018. 4. 1	化学B演習	9.00	0.30
							薬学数学	10.50	0.35
							化学A演習	9.00	0.30
							薬学総合演習A	39.00	1.30
							薬学総合演習B	39.00	1.30
							薬学実習C（コンピュータ活用含む）	◎ 18.00	0.60
							薬学実習D	◎ 54.00	1.80
授業担当時間の合計							178.50	5.95	
薬学科	助教 (実務)	堀井 徳光	37	男	修士（薬学）	2018. 4. 1	社会と薬学	15.00	0.50
							薬学総合実習・演習B	◎ 45.00	1.50
							薬学総合実習・演習C	◎ 45.00	1.50
							調剤処方学	15.00	0.50
							病院実習	◎ 22.50	0.75
							薬局実習	◎ 22.50	0.75
							導入講義・演習	0.38	0.01
授業担当時間の合計							165.38	5.51	

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、ハンドブックの例示に従ってご記入ください)

- 1) 薬学科（6年制）専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は（兼任学科名）を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に（実務）と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目（兼任学科の科目も含む）を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を付してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。  
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数（1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間）を記入します。  
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。  
※実習科目では、同一科目を複数教員（例えば、教授1名と助教、助手2名）が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」（授業が実施される1年間の基準週数）で除した値を記入してください。  
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

## (基礎資料10) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手(基礎資料8の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間	
薬学科	助手	山足 安子	63	女	理学士	1977.4.1	薬毒物分析(演習を含む)	◎	22.50	0.75
							薬学実習C(コンピュータ活用含)	◎	40.50	1.35
							薬学実習D	◎	63.00	2.10
薬学科	助手	田村 真由美	35	女	博士(薬学)	2007.4.1	薬学実習A(コンピュータ活用含)	◎	18.00	0.60
							薬学実習E	◎	58.50	1.95
							薬学実習F	◎	81.00	2.70
薬学科	助手	村田 勇	34	男	薬学博士	2011.4.1	薬学実習C(コンピュータ活用含)	◎	36.00	1.20
							薬学実習D	◎	36.00	1.20
							薬学実習F	◎	40.50	1.35
薬学科	助手	玄 美燕	34	女	博士(薬学)	2013.4.1	薬学実習B	◎	36.00	1.20
							薬学実習E	◎	63.00	2.10
							薬学実習F	◎	45.00	1.50
薬学科	助手	八巻 努	32	男	博士(薬学)	2013.4.1	薬学実習A(コンピュータ活用含)	◎	63.00	2.10
							薬学実習D	◎	36.00	1.20
							薬学実習F	◎	45.00	1.50
薬学科	助手	根岸 彰生	30	男	学士(薬学)	2013.4.1	薬学実習C(コンピュータ活用含)	◎	36.00	1.20
							薬学実習F	◎	40.50	1.35
薬学科	助手	中島 靖子	29	女	修士(理学)	2013.4.1	薬学実習A(コンピュータ活用含)	◎	36.00	1.20
							薬学実習B	◎	90.00	3.00
							薬学実習E	◎	67.50	2.25

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	◎	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間
薬学科	助手	黒田 陽子	39	女	学士(薬学)	2014.4.1	薬学実習F	◎	45.00	1.50
							薬学総合演習IV		7.50	0.25
薬学科	助手	井澤 拓也	28	男	修士(医療栄養)	2015.4.1	薬学実習A(コンピュータ活用含)	◎	90.00	3.00
							薬学実習B	◎	45.00	1.50
							薬学実習E	◎	58.50	1.95
							薬学実習F	◎	49.50	1.65
薬学科	助手	小島 裕	29	男	博士(薬学)	2017.4.1	薬学実習C(コンピュータ活用含)	◎	27.00	0.90
							薬学実習D	◎	36.00	1.20
薬学科	助手	岩館 怜子	32	女	博士(医学)	2018.4.1	薬学実習C(コンピュータ活用含)	◎	67.50	2.25
							薬学実習F	◎	58.50	1.95
							放射化学実習	◎	22.50	0.75

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、ハンドブックの例示に従ってご記入ください)

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料8の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間	
薬科学科	教授	白瀧 義明		男			薬学実習 E	◎	54.00	1.80
							天然物化学		9.00	0.30
							生薬学		15.00	0.50
							漢方薬		15.00	0.50
薬科学科	教授	杉林 堅次		男			化粧品・医薬部外品学 A	6.00	0.20	
薬科学科	教授	徳留 嘉寛		男			化粧品・医薬部外品学 A	16.50	0.55	
薬科学科	教授	古旗 賢二		男			食品機能学 A	22.50	0.75	
薬科学科	准教授	藤堂 浩明		男			化粧品・医薬部外品学演習		9.00	0.30
							IT・グローバリゼーション論		22.50	0.75
薬科学科	准教授	鈴木 龍一郎		男			情報科学(演習含む)		6.00	0.20
							生薬学		22.50	0.75
							漢方薬		22.50	0.75
							薬学実習 E	◎	18.00	0.60
薬科学科	助教	浦野 重之		男			物理学実験(コンピュータ活用を含む)	◎	37.50	1.25
薬科学科	招聘教授	コンスタンティン・ワイエンバ		男			医薬品開発・治験論		7.50	0.25
薬科学科	助教	北村 雅史		男			薬学実習 E	◎	18.00	0.60
							天然物化学		3.00	0.10
							生薬学		22.50	0.75
							漢方薬		15.00	0.50
医療栄養学科	教授	真野 博		男			医療における栄養		4.50	0.15
医療栄養学科	教授	和田 政裕		男			医療における栄養		4.50	0.15
医療栄養学科	教授	小林 順		男			医療における栄養		4.50	0.15
医療栄養学科	教授	松本 明世		男			医療における栄養		4.50	0.15
医療栄養学科	助教	井口 毅裕		男			医療における栄養		4.50	0.15

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、ハンドブックの例示に従ってご記入ください)

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況および研究室の広さ

6年生の在籍学生数	295名
5年生の在籍学生数	218名
4年生の在籍学生数	275名

	配属講座など	指導教員数	4年生	5年生	6年生	合計	卒業研究を実施する研究室の面積 (m <sup>2</sup> )
			配属学生数	配属学生数	配属学生数		
1	生体分析化学	2	14	10	19	43	215.7
2	生化学	3	20	15	19	54	206.3
3	生理学	2	15	12	22	49	221.6
4	病原微生物学	2	11	9	16	36	117.8
5	衛生化学	2	12	13	24	49	221.6
6	公衆衛生学	2	12	5	0	17	88.1
7	臨床薬理学	2	11	11	16	38	117.8
8	臨床病理学	2	9	5	7	21	104.7
9	薬品作用学	2	14	11	17	42	221.6
10	製剤学	3	20	16	22	58	221.6
11	病院薬剤学	2	15	13	16	44	225.7
12	医薬品安全性学	3	20	19	22	61	221.6
13	薬剤作用解析学	3	20	19	20	59	225.7
14	医薬品化学	3	20	11	22	53	206.3
15	薬剤学	2	14	15	12	41	215.7
16	薬品物理化学	2	14	12	21	47	206.3
17	有機薬化学	3	20	12	13	45	221.6
18	竹田研究室	1	3	2	3	8	55
19	薬局管理学	5	11	8	4	23	164.5
合計		46	275	218	295	788	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。  
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。  
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 <sup>1)</sup>		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 <sup>2)</sup>	大講義室 (10-102~502)	333	5	1660	102のみ車椅子対応のため328席
	大講義室 (10-203, 303)	204	2	408	
	大講義室 (18-101)	202	1	202	
	中講義室 (21-101)	168	1	168	
	小講義室 (10-201~501)	120	4	480	全て可動機
	大演習室 (18-102, 202, 312, 313)	51~87	4	270	全て可動機
	演習室 (18-303~308)	18	6	108	全て可動機
	演習室 (18-502)	18	1	18	患者ロボット設置
	PC演習室 (18-103, 21-201)	210, 208	2	418	CBTにも使用 (PC設置台数: 18-103 70台; 21-201 108台)
実習室	実習室 (21-204)	344	1	344	薬学実習A, D, E, Fに使用
	実習室 (21-307)	272	1	272	薬学実習B, Cに使用
	化学・調剤実習室 (18-201)	128	1	128	OSCEに利用
	模擬薬局 (18-311)	39	1	39	調剤台28台
	無菌操作室 (18-516)	68	1	68	クリーンベンチ18台、安全キャビネット8台
自習室等	教育支援室	32	1	32	
	ラウンジ (開放スペース)	22~36	4	88	18号館、22号館、全館無線LAN設置
薬用植物園	<p>1) 薬用植物園の設置場所 埼玉県入間郡毛呂山町大字下川原字西川1057番地 (大学に隣接)</p> <p>2) 施設の構成と規模 薬用植物園全体、6000 m<sup>2</sup> 内訳: 見本園 3000 m<sup>2</sup> (低屋温室 111 m<sup>2</sup>、高屋温室 83 m<sup>2</sup>、管理棟 94 m<sup>2</sup> (建築面積) 含む) 栽培圃場1 (1,210 m<sup>2</sup>)、栽培圃場 2 (1,820 m<sup>2</sup>)</p> <p>3) 栽培している植物種の数 800種</p> <p>4) その他の特記事項 大学創設以前から生い茂る武蔵野の「里山の木々」を大学西端に残し、西に秩父の山並、南にはゆったりと流れる高麗川の流域に位置している風光明媚な薬用植物園である。大学の教育研究のみならず、地域社会への貢献を視野に入れ、「生涯教育」、「健康市民大学」、「子ども大学にしているま」をはじめ、地域の人々の植物や健康に関する啓発活動を行っている。特に、環境破壊の進む今日、失われつつある貴重な植物の保存に取り組み、埼玉県指定天然記念物の「ステゴビル」や絶滅危惧植物の「ムサシノキスゲ」の保存栽培を行っている。</p>				

[注] \*コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください。

\*学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。

2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を設け、同じ区分での座席数の範囲を示してください。  
また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設などを、例示を参考にして備考に記入してください。

(基礎資料12-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 <sup>1)</sup>	面積 <sup>2)</sup>	収容人員 <sup>3)</sup>	室数 <sup>4)</sup>	備 考
教授室（個室）	15.5 m <sup>2</sup>	1人	21	准教授以下は研究室の一部を居室とする。
研究室	139 m <sup>2</sup>	19人	18	
セミナー室	28.8 m <sup>2</sup>	15人	33	
	m <sup>2</sup>	人		
	m <sup>2</sup>	人		

- 1) 講座・研究室が占有する施設（隣接する2～3講座で共用する施設を含む）を記載してください。  
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 2) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 3) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 4) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。（ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。）

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 <sup>1)</sup>	室数	施設の内容
生命科学センター		すでに記載の通り
機器分析センター		すでに記載の通り
21号館動物飼育室	2	ラット飼育室、マウス飼育室、前室
21号館バイオハザード室	3	
21号館環境試験室	1	
21号館機器室	1	回転粘度計、粒子径分布測定装置、マイクロプレートリーダー、凍結乾燥装置など
21号館低温室	1	
RI実験施設	1	実習室2、実験室2、測定室、貯蔵庫、廃棄物保管庫など

- 1) 大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を列記してください。（面積などは不要です）

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B） <sup>1)</sup>	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 <sup>2)</sup>	備 考 <sup>3)</sup>
水田記念図書館	686	8,133	8.4	グループ学習室 個人閲覧室 AVコーナー	152	PC66台 ノートPC30台 タブレット8台 電子黒板1台	学部生7,665人 短大生266人 大学院生202人
紀尾井町キャンパス図書室							城西国際大学と共有の ため水田記念図書館の み記入
計	686	8,133	8.4		152		

1) 「学生収容定員数（B）」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員（B）」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) <sup>2)</sup>	電子ジャー ナルの種類 (種類) <sup>3)</sup>	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) <sup>1)</sup>	内国書	外国書			平成27年度	平成28年度	平成29年度	
水田記念図書館	459,194	459,194	2,458	2,224	15,310	32,657	7,130	8,325	7,895	
紀尾井町キャンパス 図書室										城西国際大学と共有。 図書、電子ジャーナル等 は水田記念図書館で集中 管理のため未記入。
計	459,194	459,194	2,458	2,224	15,310	32,657	7,130	8,325	7,895	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 白幡 晶		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
論文							
1 Synthesis and evaluation of fatty acid amides on the N-oleylethanolamide-like activation of peroxisome proliferator activated receptor $\alpha$ (査読付)		共著	平成27年 1月	Chem Pharm Bull. vol.63 No.4		Takao K, Noguchi K, Hashimoto Y, Shirahata A, Sugita Y.	pp.278~ pp.285
2 N1-Nonyl-1,4-diaminobutane ameliorates brain infraction size in photochemically induced thrombosis model mice. (査読付)		共著	平成30年 1月	Neurosci Lett. vol.672		Masuko T, Takao K, Samejima K, Shirahata A, Igarashi K, Casero RA Jr, Sugita Y	pp.118~ pp.122
その他							
III 学会等および社会における主な活動							
平成10年 1月～現在に至る			日本ポリアミン研究会 幹事				
平成19年 4月～現在に至る			日本私立薬科大学協会 理事				
平成19年 6月～現在に至る			日本私立大学連盟 医歯薬学部長等会議幹事				
平成19年12月～現在に至る			薬学評価機構 設立準備委員				

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 従二 和彦		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 学生からの授業アンケートに対する対応			平成27年 4月～現在に至る		受講学生からの授業評価で、これまで改善すべきと指摘のあった「教員の話し方は分かりやすく聴き取りやすかったか」の点を改善すべく、後部座席の学生へマイク音声の確認を授業開始時におこなうようにしている。語尾がかすれることがあるため、明瞭な言葉遣い、発音を心がけている。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
著書							
論文							
1 Preparation of polypseudorotaxanes composed of cyclodextrin and polymers in microspheres (査読付)		共著	平成26年10月	Chem. Pharm. Bull. vol. 62 No. 10	K. Shinohara, et al.	pp. 962～pp. 966	
2 A new approach for evaluating cellular damage by measuring the specific release of acetoxymethyl ester (Fura-2) (査読付)		共著	平成27年	AATEX	W. R. Kadhum, M. Mitsuyama, T. Tanaka, H. Todo, K. Juni, K. Sugibayashi		
3 Effects of the properties of creams on skin penetration (査読付)		共著	平成27年	Int. J. Pharm.	Y. Inoue, A. Shimura, M. Horage, R. Maeda, I. Murata, M. Sugino, K. Juni, I. Kanamoto		
4 Development of a membrane impregnated with a poly(dimethylsiloxane)/poly(ethylene glycol) copolymer for a high-throughput screening of the permeability of drugs, cosmetics, and other chemicals across the human skin (査読付)		共著	平成27年 1月	Eur. J. Pharm. Sci. vol. 66	R. Miki, et al.	pp. 41～pp. 49	
5 Sugar-responsive pseudopolyrotaxane composed of phenylboronic acid-modified polyethylene glycol and $\gamma$ -cyclodextrin (査読付)		共著	平成27年 3月	Materials vol. 8 No. 3	T. Seki, et al.	pp. 1341～pp. 1349	
6 Sugar-responsive pseudopolyrotaxanes and their application in sugar-induced release of PEGylated insulin (査読付)		共著	平成27年 3月	J. Incl. Phenom. Macrocycl. Chem. vol. 82	T. Seki, et al.	pp. 417～pp. 424	
7 各種リドカインテープ製剤の粘着特性、薬物放出性及び皮膚透過性に及ぼす粘着基剤の影響 (査読付)		共著	平成27年 8月	YAKUGAKU ZASSHI 第135巻第8号	杉野 雅浩 他	977頁～985頁	
8 シックハウス症候群原因物質の経皮吸収に及ぼすNTE活性の影響 (査読付)		共著	平成27年12月	臨床環境医学	畑中朋美, 荻野瑛里奈, 山村勇貴 他		
9 Identification of the discrepancies between pharmacist and patient perception of the pharmacist's role as an advisor on drug therapy based on social science theory (査読付)		共著	平成28年 3月	Biol. Pharm. Bull.	S. Oshima, K. Senoo, A. Negishi, H. Akimoto, K. Ohara, N. Inoue, S. Ohshima, N. Kutsuma, K. Juni, D. Kobayashi		
10 A pseudopolyrotaxane for glucose-responsive insulin release: The effect of binding ability and spatial arrangement of phenylboronic acid group (査読付)		共著	平成28年11月	Molecular Pharmaceutics vol. 13 No. 11	T. Seki, K. Abe, Y. Egawa, R. Miki, K. Juni, T. Seki	pp. 3807～pp. 3815	
11 Polyol-responsive pseudopolyrotaxanes based on phenylboronic acid-modified polyethylene glycol and cyclodextrins (査読付)		共著	平成29年 2月	J. Incl. Phenom. Macrocycl. Chem. vol. 87	Y. Kojima, T. Okano, T. Seki, M. Namiki, Y. Egawa, R. Miki, K. Juni, T. Seki	pp. 295～pp. 303	

12 『調剤指針』のテキストマイニングから明らかになった調剤の概念の変遷（査読付）	共著	平成30年12月	日本社会薬学会 社会薬学 第37巻 第2号	井上直子, 安田和誠, 森 勇人, 秋元 勇人, 大原厚祐, 根岸彰生, 沖田光 良, 大島新司, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 従 二和彦, 小林大介	81頁～90頁
その他					
III 学会等および社会における主な活動					
平成24年10月～平成26年 9月		鶴ヶ島市立図書館協議会委員			
平成26年 9月～平成30年 8月		埼玉県地方薬事審議会委員			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 教授	氏名 小林 大介	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) 予習の促し		平成22年 4月～現在に至る	次回講義内容のポイントを予め配布し、予備知識の修得を促している。講義では予習内容の確認に力点を置いている。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
1) 実務実習事前学習のための調剤学計算ドリル		平成21年 1月～平成31年 3月			
2) 実務実習事前学習のための調剤学改訂版		平成23年 3月～現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
1) 障害学生の学修支援－学外長期実務実習を見据えた学内実習環境の整備－		平成29年 9月	第2回日本薬学教育学会大会において発表。		
2) 新制度薬剤師国家試験における試験問題の文字数及び文章の難易度の調査-「法規・制度・倫理」の試験問題から-		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会において発表。		
3) 学内実習教育の一元化について-実習系相互の連携を図り、引き継ぎを念頭においた検証-		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会において発表。		
4) 新モデル・コアカリキュラムに従う学びの過程のルーブリックを用いた継続的な評価		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会において発表。		
5) 卒業時アンケートに基づく、学びにおける状況の確認と問題点の抽出		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会において発表。		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) R言語を利用した統計解析演習		平成25年 4月～現在に至る	Rソフトウェアを用いた統計解析を演習形式で行っている。		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 軟膏・クリーム配合変化ハンドブック第2版	共著	平成27年11月	株式会社じほう	江藤隆史他監修	
論文					
1 Absorption kinetics of subcutaneously administered ceftazidime in hypoperfused guinea pigs (査読付)	共著	平成26年 9月	Current therapeutic research, clinical and experimental vol.77	Tsuyoshi Ebihara, Shinji Oshima, Mitsuyoshi Okita, Sayumi Shiina, Akio Negishi, Kosuke Ohara, Shigeru Oshima, Hiroyuki Iwasaki, Akira Yoneyama, Eiji Kitazumi, Daisuke Kobayashi	pp.7～pp.13
2 薬剤師が行うべき在宅業務の潜在需要と患者属性の検討 (査読付)	共著	平成26年12月	薬局薬学 第7巻 第1号	大嶋繁, 宮本実央, 根岸彰生, 大島新司, 清野恵理子, 小林大介	44頁～51頁
3 The inhibitory effect of kakkonto, Japanese traditional (Kampo) medicine, on brain penetration of oseltamivir carboxylate in mice with reduced blood-brain barrier function (査読付)	共著	平成27年 1月	Evidence-based complementary and alternative medicine	Kosuke Ohara, Shinji Oshima, Nanami Fukuda, Yumiko Ochiai, Ayumi Maruyama, Aki Kanamuro, Akio Negishi, Seichi Honma, Shigeru Ohshima, Masayuki Akimoto, Shingo Takenaka, and Daisuke Kobayashi	
4 A survey of subcutaneous blood flow in subjects with SMID and subcutaneous administration using mentholated warm compresses in healthy subjects (査読付)	共著	平成27年12月	SAGE Journal of International Medical Research vol.44 No.2	Tsuyoshi Ebihara, Shinji Oshima, Yuko Yasuda, Mitsuyoshi Okita, Kosuke Ohara, Akio Negishi, Shigeru Ohshima, Hiroyuki Iwasaki, Akira Yoneyama, Eiji Kitazumi, Daisuke Kobayashi	pp.248～pp.257
5 Identification of the discrepancies between pharmacists' and patients' perception of the pharmacist's role as an advisor on drug therapy based on social science theory (査読付)	共著	平成27年12月	The pharmaceutical society of Japan Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.39 No.3	Shinji Oshima, Kazuhiko Senoo, Akio Negishi, Hayato Akimoto, Kosuke Ohara, Naoko Inoue, Shigeru Ohshima, Nobuaki Kutsuma, Kazuhiko Juni, Daisuke Kobayashi	pp.313～pp.322
6 演習型講習会により抽出された薬剤師の在宅業務の課題 (査読付)	共著	平成28年 3月	プライマリー・ケア連合学会誌 第39巻 第3号	大嶋 繁, 山田 真理絵, 根岸 彰生, 大島 新司, 齋木 実, 小林 大介	175頁～178頁

7 Assessment of the Risk of Suicide-Related Events Induced by Concomitant Use of Antidepressants in Cases of Smoking Cessation Treatment with Varenicline and Assessment of Latent Risk by the Use of Varenicline (査読付)	共著	平成28年 9月	PLOS ONE vol.11 No.9	Hayato Akimoto, Shinji Oshima, Akio Negishi, Kousuke Ohara, Shigeru Ohshima, Naoko Inoue, <u>Daisuke Kobayashi</u>	pp. e016583
8 高齢者の安全な薬物治療ガイドラインを用いたdeprescribingの実践と患者のQOLおよびADLの変化 (査読付)	共著	平成29年 1月	公益社団法人 日本薬学会 薬学雑誌 第137巻 第5号	大嶋 繁, 原 彩加, 阿部卓巳, 秋元勇人, 大原厚祐, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 井上直子, 沼尻幸彦, 小川越史, 齋木 美, <u>小林大介</u>	623頁~633頁
9 High-Resolution Magic-Angle Spinning- <sup>1</sup> H NMR Spectroscopy-Based Metabolic Profiling of Hippocampal Tissue in Rats with Depression-Like Symptoms (査読付)	共著	平成29年 2月	The pharmaceutical society of Japan Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.6	Hayato Akimoto, Shinji Oshima, Kousuke Ohara, Akio Negishi, Hanako Hiroshima, Tadashi Nemoto, <u>Daisuke Kobayashi</u>	pp.789~ pp.796
10 Identification and Characteristics of Time-Related Shift in Suicide-Related Event Frequency During Smoking Cessation Treatment with Varenicline (査読付)	共著	平成29年 5月	International Journal of Medical Sciences vol.14 No.10	Hayato Akimoto, Haruna Wakiyama, Shinji Oshima, Akio Negishi, Kousuke Ohara, Sachihiko Numajiri, Mitsuyoshi Okita, Shigeru Ohshima, Naoko Inoue, <u>Daisuke Kobayashi</u>	pp.920~ pp.926
11 Study on the increased probability of detecting adverse drug reactions based on Bayes' theorem: evaluation of the usefulness of information on the onset timing of adverse drug reactions (査読付)	共著	平成29年 5月	The pharmaceutical society of Japan Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.9	Shinji Oshima, Takako Enjuji, Akio Negishi, Hayato Akimoto, Kousuke Ohara, Mitsuyoshi Okita, Sachihiko Numajiri, Naoko Inoue, Shigeru Ohshima, Akira Terao, <u>Daisuke Kobayashi</u>	pp.1389~ pp.1398
12 Comparison of the benefit feeling rate based on the Sho of OTC kakkonto, cold remedy and cold remedy with kakkonto combination product (査読付)	共著	平成29年 7月	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.10	Mitsuyoshi Okita, Yuki Yayoshi, Kousuke Ohara, Akio Negishi, Hayato Akimoto, Naoko Inoue, Sachihiko Numajiri, Shigeru Ohshima, Seiichi Honma, Shinji Oshima, <u>Daisuke Kobayashi</u>	pp.1730~ pp.1738
13 介護支援専門員調査より得られた薬剤師が優先的に取り組む要介護者の抱える薬の問題 (査読付)	共著	平成30年 3月	一般社団法人日本老年薬学会 日本老年薬学会雑誌 第1巻 第2号	堀井徳光, 井上直子, 大嶋 繁, 沖田光良, 秋元勇人, 根岸彰生, 大島新司, 沼尻幸彦, <u>小林大介</u>	28頁~33頁
14 『調剤指針』のテキストマイニングから明らかになった調剤の概念の変遷 (査読付)	共著	平成30年 6月	日本社会薬学会 社会薬学 第37巻 第2号	井上直子, 安田和誠, 森 勇人, 秋元勇人, 大原厚祐, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 從二和彦, <u>小林大介</u>	81頁~90頁
15 Metabolic Profiling of the hippocampus of rats experiencing nicotine-withdrawal symptoms (査読付)	共著	平成30年 9月	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.41 No.12	Hayato Akimoto, Shinji Oshima, Yuichi Michiyama, Akio Negishi, Tadashi Nemoto, <u>Daisuke Kobayashi</u>	pp.1879~ pp.1884
16 Onset Timing Of Statin-induced Musculoskeletal Adverse Events (MAEs), And Concomitant Drug-associated Shift In Onset Timing Of MAEs (査読付)	共著	平成30年10月	British Pharmacological Society, American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics Pharmacology research & perspectives vol.6 No.6	Hayato Akimoto, Akio Negishi, Shinji Oshima, Mitsuyoshi Okita, Sachihiko Numajiri, Naoko Inoue, Shigeru Ohshima, <u>Daisuke Kobayashi</u>	pp. e00439
17 Changes in brain metabolites related to stress resilience: Metabolomic analysis of the hippocampus in a rat model of depression (査読付)	共著	平成30年11月	Elsevier BV Behavioural Brain Research vol.359	Hayato Akimoto, Shinji Oshima, Tomoaki Sugiyama, Akio Negishi, Tadashi Nemoto, <u>Daisuke Kobayashi</u>	pp.342~ pp.352
その他					
1 うつ病モデル動物の行動および脳内物質に及ぼす漢方製剤投与の影響		平成26年 3月	第134回日本薬学会年会 熊本	大原 厚祐, 中荒井 佑喜, 大林 愛実, 近江谷 広人, 根岸 彰生, 大島 新司, 大野 泰規, 大嶋 繁, 竹中 伸五, 秋元 雅之, 本間 精一, 小林 大介	
2 フェニトインのPK/PDに及ぼす炎症の影響: 脳波を用いた薬効評価		平成26年 3月	第134回日本薬学会年会 熊本	根岸彰生, 神田 茜, 佐藤真衣, 大原厚祐, 大野泰規, 大島新司, <u>小林大介</u>	

3 麻黄湯/葛根湯投与によるLPS誘発炎症モデルマウスのオセルタミビルカルボキシレート脳内移行抑制効果		平成26年 5月	日本薬学会第29年会 埼玉	金室亜希, 加賀屋 陽子, 石田 愛, 大原厚祐, 根岸彰生, 大島新司, 本間精一, 竹中伸五, 小林大介
4 フェニトインの薬効低下と炎症の関係: AERSの症例と炎症ラットによる検討		平成26年 5月	日本薬学会第29年会 埼玉	根岸彰生, 佐藤真衣, 永見 希, 神田 茜, 大原厚祐, 大野泰規, 大島新司, 小林大介
5 1H-NMRを用いたうつ病モデルラットの脳内メタボローム解析		平成26年 5月	日本薬学会第29年会 埼玉	大原厚祐, 中荒井 佑喜, 大林愛実, 近江谷 広人, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 竹中伸五, 秋元雅之, 本間精一, 小林大介
6 有害事象自発報告データベースを利用したフェニトインの薬効に及ぼす諸因子の解析		平成26年 6月	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム医療薬学フォーラム2014 東京	永見 希, 根岸彰生, 大原厚祐, 大島新司, 小林大介
7 訪問診療医師数に影響を及ぼす諸因子のシミュレーション解析		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会 第34回学術研究講演会 埼玉	鈴木 美保子, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 小林大介
8 インターネットリサーチの回答母集団の新規信頼性評価法の検討		平成26年 7月	第17回日本医薬品情報学会学術大会 鹿児島	片山 隼, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 大嶋 繁, 小林大介
9 LPS誘発炎症モデルマウスのBBB機能及び死亡率に対する漢方製剤投与の影響		平成26年 8月	第31回和漢医療薬学会学術大会 千葉	加賀屋 陽子, 金室亜希, 扇 可奈美, 大原厚祐, 根岸彰生, 大島新司, 竹中伸五, 本間精一, 小林大介
10 うつ病モデル動物の脳内モノアミン濃度に及ぼす漢方製剤投与の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 兵庫	大原 厚祐, 市川 麻美, 樋口 滋, 根岸 彰生, 大島 新司, 大嶋 繁, 久津間 信明, 竹中 伸五, 秋元 雅之, 本間 精一, 小林 大介
11 LPS 誘発炎症ラットの Voltage-Dependent Sodium Channel 発現の評価		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 兵庫	根岸 彰生, 山田 千晴, 大原 厚祐, 大野 泰規, 久津間 信明, 大島 新司, 小林 大介
12 有害事象自発報告データを用いたフェニトインの治療管理失敗要因の探索		平成27年 6月	第18回日本医薬品情報学会学術大会 岡山	大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 大野 泰規, 大嶋 繁, 小林大介
13 インターネットリサーチにより収集された医学研究データの信頼性評価-日本人の体質保有率の傾向を利用した母集団評価法の検討-		平成27年 7月	埼玉医療薬学懇話会第35回学術研究講演会 埼玉 さいたま	溝呂木 梨奈, 根岸 彰生, 大島 新司, 小林 大介
14 LPS誘発炎症モデルマウスの脳中トランスポーター発現量に及ぼす麻黄湯/葛根湯投与の影響		平成27年 8月	第32回和漢医療薬学会学術大会 富山	石田愛, 大原厚祐, 秋元勇人, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 井上直子, 本間精一, 小林大介
15 禁煙治療時の抗うつ薬投与と自殺リスクとの関係		平成27年 9月	第1回 次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム 千葉県船橋市	秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 井上直子, 大嶋 繁, 小林大介
16 在宅患者に使用されている注射薬の現状調査のための予備的検討		平成27年11月	第21回埼玉県薬剤師会学術大会 埼玉県さいたま市	大嶋 繁, 井上直子, 鬼山結希, 大原厚祐, 秋元勇人, 根岸彰生, 大島新司, 小林大介
17 自動分包機ロータールセット内の硝酸イソソルビド錠の安定性について		平成27年11月	第35回日本医療薬学会年会 神奈川 横浜	林 真優, 高橋謙大, 沼尻幸彦, 大島新司, 新津 勝, 古地壯光, 小林大介, 秋山滋男, 磯野淳一
18 HRMAS- <sup>1</sup> H NMRを用いた慢性変動ストレス負荷によるラット脳組織中代謝物パターンの可視化		平成28年 2月	第15回産総研・産技連L S-BT合同研究発表会 茨城県つくば市	大島新司, 秋元勇人, 松本 明日香, 大原厚祐, 根岸彰生, 廣山華子, 根本 直, 小林大介
19 フェニトイン使用患者の発作管理の失敗に及ぼす併存症リスク評価: FAERS登録症例を用いた解析		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	根岸彰生, 秋元勇人, 大原厚祐, 大島新司, 井上直子, 大嶋 繁, 大野泰規, 小林大介
20 葛根湯による血液脳関門の機能回復メカニズムの解明		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	大原厚祐, 倉持 圭, 長山佳世, 森 勇人, 秋元勇人, 根岸彰生, 大島新司, 井上直子, 大嶋 繁, 久津間 信明, 秋元雅之, 本間精一, 小林大介
21 PMDA副作用自発報告データベースを用いた副作用症状の早期発見につながる発現時期の調査		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	保坂茂, 延寿寺恭子, 根岸彰生, 大島新司, 秋元勇人, 大原厚祐, 井上直子, 大嶋 繁, 久津間信明, 小林大介

22	香蘇散および抑肝散の抗うつ効果：うつ病モデルラットにおける脳内トリプトファンヒドロキシラーゼ活性に及ぼす影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	大島新司, 秋元勇人, 扇 可奈美, 益子英李, 赤尾玲香, 大原厚祐, 根岸彰生, 井上直子, 大嶋 繁, 本間精一, 小林大介	
23	バレニクリンによる禁煙治療(VSCT)の自殺関連有害事象リスクと各種抗うつ薬治療との関係及びVSCTの潜在リスクの評価		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 大嶋 繁, 井上直子, 小林大介	
24	「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」を使用した在宅患者の処方見直しと処方変更後の患者アセスメントに関する研究		平成28年 7月	埼玉医療薬学懇話会第36回 学術研究講演会 埼玉 さいたま	井上直子, 原 彩伽, 阿部卓巳, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 齋木実, 小川越史, 小林大介	
25	HRMAS- <sup>1</sup> H NMRを用いたうつ病モデルラットの脳内代謝物プロファイリング		平成28年 7月	日本プロテオーム学会2016 年大会 東京都港区	秋元勇人, 大島新司, 松本 明日香, 大原厚祐, 根岸彰生, 廣山華子, 根本 直, 小林大介	
26	日本の薬局業務への心理尺度の導入に関する検討：SF-12v2 および TSQM-9の実用性		平成28年10月	第10回日本薬局学会学術総会 京都府京都市	芝田裕隆, 大島新司, 根岸彰生, 秋元勇人, 大原厚祐, 川井 舞, 高裕之, 小林大介	
27	薬局主導の医薬品評価：薬剤師業務のアウトカム評価		平成29年 1月	第1回城西大学・城西国際 大学・みよの台薬局グル ープ意見交換会 東京都北区	大島新司	
28	慢性ストレス負荷ラットのうつ病様状態に及ぼすバレニクリン投与の影響：HRMAS- <sup>1</sup> H NMRによる脳内メタボローム解析		平成29年 1月～平成 29年 2月	第16回産総研・産技連LS -BT合同研究発表会 茨城県つくば市	大島新司, 秋元勇人, 根岸彰生, 大原厚祐, 廣山華子, 根本 直, 小林大介	
29	LPS誘発血液脳関門低下マウスにおけるイブuproフェンの脳移行性に対する葛根湯併用の影響（査読付）	共著	平成29年 3月	城西国際大学大学院紀要 第20巻	大原厚祐, 小林大介, 秋元雅之	31頁～36頁
30	LPS誘発血液脳関門低下マウスのBBB機能および死亡率に対する漢方製剤投与の影響（査読付）	共著	平成29年 3月	城西国際大学大学院紀要 第20巻	大原厚祐, 小林大介, 秋元雅之	37頁～45頁
31	薬物治療アドバイザーとしての薬剤師の役割に対する患者と薬剤師の認識の違い：社会科学的理論に基づく解析		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 宮城県仙台市	大島新司, 妹尾和彦, 根岸彰生, 秋元勇人, 大原厚祐, 井上直子, 大嶋 繁, 久津間 信明, 從二和彦, 小林大介	
32	血液脳関門機能低下マウスにおけるタイトジャンクション関連タンパク質に及ぼす葛根湯投与の影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 宮城県仙台市	大原厚祐, 森 勇人, 倉持 圭, 長山佳世, 蛭川紗希, 秋元勇人, 沖田光良, 根岸彰生, 井上直子, 大嶋 繁, 沼尻幸彦, 大島新司, 秋元雅之, 本間精一, 小林大介	
33	慢性ストレスモデルラットのうつ病様状態に及ぼすバレニクリン投与の影響：HRMAS- <sup>1</sup> H NMRによる脳内メタボローム解析		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 宮城県仙台市	秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 廣山華子, 根本 直, 小林大介	
34	葛根湯と一般用かぜ薬の証に基づく効果の比較		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 宮城県仙台市	弥吉優希, 沖田光良, 大原厚祐, 根岸彰生, 秋元勇人, 井上直子, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 大野泰規, 大島新司, 小林大介	
35	調査でわかった患者と薬剤師の認識の乖離	単著	平成29年 7月	メディファーム株式会社 Excellent Pharmacy 第8巻 第2号		1頁～4頁
36	バレニクリンによる禁煙治療中に発現する自殺関連事象報告数の時系列推移とその特徴		平成29年 7月	第20回日本医薬品情報学会 学術大会 東京都港区	脇山春菜, 秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 沼尻幸彦, 沖田光良, 大嶋 繁, 井上直子, 小林大介	
37	「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」の索引の作成と有用性について		平成29年 7月	埼玉医療薬学懇話会第37回 学術研究講演会 埼玉 さいたま	井上直子, 森木真斗, 森 勇人, 秋元勇人, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 小林大介	
38	障害学生の学修支援－学外長期実務実習を見据えた学内実習環境の整備－		平成29年 9月	第2回日本薬学教育学会大 会 愛知県名古屋市	木村哲, 小林大介	
39	炎症によるフェニトインの薬効低下の要因：電位依存性ナトリウムイオンチャネルの発現量に及ぼすLPS曝露の影響		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部 大会 東京都港区	浦田 唯, 根岸彰生, 森 勇人, 秋元勇人, 大島新司, 大原厚祐, 沖田光良, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋 繁, 小林大介	
40	バレニクリン使用により誘発されるうつ病および自殺要因の検討：ニコチン退薬症候モデルラットの脳内メタボローム解析		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部 大会 東京都港区	道山雄一, 秋元勇人, 大島新司, 大原厚祐, 根岸彰生, 根本 直, 小林大介	

41	社会情勢が調剤報酬改定に与える影響と調剤技術料から算出した薬局薬剤師の収益の変化		平成29年11月	第11回日本薬局学会学術総会 埼玉県さいたま市	山本佳奈, 森 勇人, 秋元勇人, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 井上直子, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 小林大介	
42	医療用医薬品添付文書における投与中止に関する記載内容の調査		平成29年11月	第11回日本薬局学会学術総会 埼玉県さいたま市	青木麻智子, 森 勇人, 秋元勇人, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 井上直子, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 大野 泰規, 小林大介	
43	NMR-メタボリックプロファイリングによるニコチン退薬症候状態とうつ病状態の比較		平成30年 2月	第17回産総研・産技連LS-BT合同研究発表会 茨城県つくば市	秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 小林大介, 根本直	
44	城西大学に在籍する学生、教員、職員を対象とした「かかりつけ薬剤師・薬局」に対する意識調査：城西大学薬局の役割	共著	平成30年 3月	城西大学 城西情報科学研究 第25巻 第1号	井上直子, 鎌野祐輔, 秋元勇人, 大原厚祐, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 武藤香絵, 沼尻幸彦, 大嶋繁, 小林大介	1頁～12頁
45	薬剤師国家試験対策支援の取り組みを振り返って（査読付）	共著	平成30年 3月	城西大学 城西情報科学研究 第25巻 第1号	沼尻幸彦, 木村聡一郎, 夏目秀視, 小林大介	55頁～63頁
46	OTC鎮痛薬の効果と使用者の性格特性：インターネットリサーチによる効果とビッグ・ファイブの調査		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 石川県金沢市	池上勇介, 沖田光良, 秋元勇人, 根岸彰生, 井上直子, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 大島新司, 小林大介	
47	ニコチン退薬症候とうつ病との類似性：NMR spectroscopyを用いたメタボローム解析		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 石川県金沢市	秋元勇人, 大島新司, 道山雄一, 根岸彰生, 根本直, 小林大介	
48	役割理論に基づく薬剤師の役割に対する認知の短期縦断的検討：薬剤師法改訂前後の患者および薬剤師の認知の違い		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 石川県金沢市	山岸真理, 大島新司, 沖田光良, 秋元勇人, 根岸彰生, 山王丸 靖子, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋 繁, 和田政裕, 小林大介	
49	新制度薬剤師国家試験における試験問題の文字数及び文章の難易度の調査-「法規・制度・倫理」の試験問題から-		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会 東京都品川区	沼尻幸彦, 小島裕, 黒田陽子, 木村聡一郎, 近藤誠一, 荻原政彦, 新津勝, 北原嘉泰, 堀井徳光, 井上直子, 大嶋繁, 脇山春菜, 秋元勇人, 沖田光良, 根岸彰生, 大島新司, 小林大介	
50	学内実習教育の一元化について-実習系相互の連携を図り、引き継ぎを念頭においた検証-		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会 東京都品川区	木村哲, 小林大介	
51	新モデル・コアカリキュラムに従う学びの過程のルーブリックを用いた継続的な評価		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会 東京都品川区	秋元祐佳里, 細谷治, 上田秀雄, 一色恭徳, 大嶋繁, 坂本武史, 夏目秀視, 小林大介, 関俊暢	
52	卒業時アンケートに基づく、学びにおける状況の確認と問題点の抽出		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会 東京都品川区	関俊暢, 秋元祐佳里, 細谷治, 上田秀雄, 岡崎真理, 大嶋繁, 坂本武史, 夏目秀視, 小林大介	
53	フェニトインの脳中游離型濃度と痙攣閾値上昇効果に及ぼす Lipopolysaccharide 投与の影響		平成30年 9月	第62回日本薬学会関東支部大会 東京都中野区	山内康寛, 根岸彰生, 脇山春菜, 秋元勇人, 沖田光良, 堀井徳光, 大島新司, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋繁, 小林大介	
54	ストレスレジリエンスに関連したラット海馬組織内の代謝物変動		平成30年10月	第12回メタボロームシンポジウムin鶴岡 山形県鶴岡市	杉山智章, 秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 根本直, 小林大介	
55	スタチン系薬物の横紋筋融解症発現タイミング：作用強度や併用薬による影響		平成30年11月	第12回日本薬局学会学術総会 愛知県名古屋	樋口智也, 秋元勇人, 脇山春菜, 根岸彰生, 沖田光良, 堀井徳光, 大島新司, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋 繁, 小林大介	
56	日本の保険薬局における患者のQOLの現状と自己採点による健康状態点数との関連性		平成30年11月	第12回日本薬局学会学術総会 愛知県名古屋	大原駿汰, 堀井徳光, 武藤香絵, 井上直子, 脇山春菜, 秋元勇人, 沖田光良, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 小林大介	
III 学会等および社会における主な活動						
平成23年 4月～現在に至る			埼玉医療薬学懇話会 幹事			
平成25年 4月～現在に至る			埼玉医科大学病院治験審査委員会 委員			
平成27年 4月～平成29年 3月			埼玉医療薬学懇話会 会長			
平成28年 6月～現在に至る			保険薬剤師生涯学習センター評価認定審査委員会 委員			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 夏目 秀視		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 1) 練習問題による到達度の評価				平成20年 4月～現在に至る		講義の単元毎に課題として与えた練習問題を提出させ、それらの解答から到達度を評価し、成績に20%組み込んでいる。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) 2) 演習と解説 薬物動態学				平成28年 8月～現在に至る			
2) 1) 見てわかる薬学 図解薬剤学 改訂6版				平成30年 9月～現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) 1) 教科関連の指導				平成28年 4月～現在に至る		教科委員会の責任者として、関連委員会の年度計画や将来構想について指導を行っている。	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
1 食物アレルギー 禁忌・要注意の医薬品とその代替薬		共著	平成28年	南山堂	夏目秀視, 内田昌希		
2 演習と解説 薬物動態学		共著	平成28年	廣川書店	夏目秀視, 山崎浩史, 橋爪孝典		
3 次世代吸入製剤とデバイスの開発		共著	平成30年11月	シーエムシー出版	八巻 努, 夏目 秀視		
論文							
1 Age, Period, and Birth Cohort-Specific Effects on Cervical Cancer Mortality Rates in Japanese Women and Projections for Mortality Rates over 20-Year Period (2012-2031) (査読付)		共著	平成26年	Nippon Eiseigaku Zasshi (Jpn. J. Hyg.) 第69巻	H. Uchida, M. Kobayashi, A. Hosobuchi, A. Ohta, K. Ohtake, T. Yamaki, M. Uchida, Y. Odagiri, H. Natsume, J. Kobayashi		215頁～224頁
2 希釈調製した0.5%ポビドンヨード液の安定性および各種ポビドンヨード剤の比較 (査読付)		共著	平成26年	医療薬学 第40巻	内田昌希, 浦山玲菜, 一色恭徳, 八巻努, 前野拓也, 上田秀雄, 近藤誠一, 夏目秀視		109頁～116頁
3 都道府県別の平均要介護期間と損失生存可能年数の地域格差と医療・福祉資源の関連について—医薬品情報に着目した地域相関研究—, (査読付)		共著	平成26年	厚生 の指標 第61巻	内田博之, 中村拓也, 金子彩野, 大竹一男, 内田昌希, 小田切陽一, 夏目秀視, 小林順		15頁～24頁
4 L-ascorbic acid- and L-ascorbic acid 2-glucoside accelerate in vivo liver regeneration and lower serum alanine aminotransferase activity in 70% partially hepatectomized rats (査読付)		共著	平成26年 4月	Biological & Pharmaceutical Bulletin	M. Kimura, H. Moteki, M. Uchida, H. Natsume, M. Ogihara		
5 Aldehyde dehydrogenase 2 partly mediates hypotensive effect of nitrite on l-NAME-induced hypertension in normoxic rat (査読付)		共著	平成26年 6月	Clinical and experimental hypertension	K. sonoda, K. Ohtake, Y. Kubo, H. Uchida, M. Uchida, H. Natsume, M. Kobayashi, J. Kobayashi		
6 A mechanism enhancing macromolecule transport through paracellular spaces induced by poly-L-arginine: Poly-L-arginine induces the internalization of tight junction proteins via clathrin-mediated endocytosis (査読付)		共著	平成26年 9月	Pharmaceutical research	T. Yamaki, Y. Kamiya, K. Ohtake, M. Uchida, T. Seki, H. Ueda, J. Kobayashi, Y. Morimoto, H. Natsume		
7 Calibration of infrared video-oculography by using bioadhesive phosphorescent particles for accurate measurement of vestibulo-ocular reflex in mice (査読付)		共著	平成27年	Journal of Advanced Science vol.27	A. Katoh, T. Hatanaka, E. Takeuchi, M. Uchida, H. Natsume		pp.11～pp.16
8 Preparation of bioadhesive phosphorescent particles and their use as markers for video-oculography of mice (査読付)		共著	平成28年	Tokai J. Exp. Clin. Med. vol.41	T. Hatanaka, E. Takeuchi, A. Katoh, T. Yamaki, M. Uchida, H. Natsume		pp.46～pp.53

9 Development of a Transnasal Delivery System for Recombinant Human Growth Hormone (rhGH): Effects of the Concentration and Molecular Weight of Poly-L-arginine on the Nasal Absorption of rhGH in Rats (査読付)	共著	平成28年	Biol. Pharm. Bull. vol.39	R. Kawashima, M. Uchida, T. Yamaki, K. Ohtake, T. Hatanaka, H. Uchida, H. Ueda, J. Kobayashi, Y. Morimoto, H. Natsume	pp.329~pp.335
10 Signal Transduction Mechanism for Serotonin 5-HT <sub>2B</sub> Receptor-Mediated DNA Synthesis and Proliferation in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes (査読付)	共著	平成28年	Biol. Pharm. Bull. vol.39	K. Naito, C. Tanaka, M. Mitsuhashi, H. Moteki, M. Kimura, H. Natsume, M. Ogihara	pp.121~pp.129
11 Preparation and evaluation of PEGylated poly-L-ornithine complex as a novel absorption enhancer (査読付)	共著	平成29年	Biol. Pharm. Bull. vol.40	Y. Kamiya, T. Yamaki, M. Uchida, T. Hatanaka, M. Kimura, M. Ogihara, Y. Morimoto, H. Natsume	pp.205~pp.211
12 ベイズ型age-period-cohort分析を用いた日本の予測平均余命の性差 (2023~2047年) (査読付)	共著	平成30年			
13 Improved intranasal retentivity and transnasal absorption enhancement by PEGylated poly-L-ornithine (査読付)	共著	平成30年 1月		Yusuke Kamiya, Tsutomu Yamaki, Shigehiro Omori, Masaki Uchida, Kazuo Ohtake, Mitsutoshi Kimura, Hiroshi Yamazaki, Hideshi Natsume	
その他					
III 学会等および社会における主な活動					
明治33年 1月~現在に至る		埼玉医療薬学懇話会 副会長			
平成18年 4月~現在に至る		日本薬学会 評議員			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 川嶋 洋一		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 課題レポート				平成28年 4月～現在に至る		学生の授業内容に対する理解を深めるために課題を出し、レポートとして提出させた。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) 衛生化学詳解 (上)				平成26年 9月			
2) 衛生化学詳解 (下)				平成26年 9月			
3) 衛生化学詳解・上 第2版				平成28年 9月～現在に至る		教科書	
4) 衛生化学詳解・下 第2版				平成28年 9月～現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
1) 特になし				平成30年 4月～現在に至る			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) 特になし				平成30年 4月～現在に至る			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
1 衛生化学詳解 (下)		共著	平成26年 9月	京都廣川書店	浅野 哲、阿部すみ子、大塚文徳、川嶋洋一、工藤なをみ、杉山晶規、中川靖一、光本篤史		担当部分: 4部1章・2章・4章・5章・6章・7章・8章・2章・5部2章・3章・4章
2 衛生化学詳解 (上)		共著	平成26年 9月	京都廣川書店	浅野 哲、阿部すみ子、大塚文徳、川嶋洋一、工藤なをみ、杉山晶規、中川靖一、光本篤史		担当部分: 1部、3部1章・2章・3章・4章・10章・12章14章
3 衛生化学詳解 第2版 (上)		単著	平成28年 9月	京都廣川書店			
4 衛生化学詳解 第2版 (下)		単著	平成28年 9月	京都廣川書店			
論文							
1 A simple and sensitive method for the determination of fibric acids in the liver by liquid chromatography (査読付)		共著	平成26年	日本薬学会 Biol. Pharm. Bull. vol.37	Karahashi, M., Fukuhara, H., Hoshina, M. et al.		pp.105～pp.112
2 Inducing effect of clofibrilic acid on stearyl-CoA desaturase in intestinal mucosa of rats (査読付)		共著	平成26年	American Oil Chemists' Society Lipids vol.49	Yamazaki, T., Kadokura, M., Mutoh, Y. et al.		pp.1203～pp.1214
3 Perfluorododecanoic acid induces cognitive deficit in adult rats (査読付)		共著	平成29年	Society of Toxicology Toxicological Sciences vol.157 No.2	Kawabata, K., Matsuzaki, H., Nukui, S., Okazaki, M., Sakai, A., Kawashima, Y., Kudo, N.		pp.421～pp.428
4 Disposition of perfluorododecanoic acid in male rats after oral administration (査読付)		共著	平成29年	日本毒性学会 Fundamtal Toxicological Sciences vol.4 No.4	Kawabata, K., Tamaki, S., Kokubo, E., Kobayashi, Y., Shinohara, T., Sakai, A., Kawai, H., Mitsumoto, A., Kawashima, Y.		pp.179～pp.186
5 Short and long photoperiods differentially exacerbate corticosterone-induced physical and psychological symptoms in mice (査読付)		共著	平成30年	Biomedical Research Press Biomedical Reserach (Tokyo) vol.39 No.1	Kawai, H., Inaba, J., Ishibashi, T., Kudo, N., Kawashima, Y., Mitsumoto, A.		pp.47～pp.55
6 Time of administration of acute or chronic doses of imipramine affects its antidepressant action in rats (査読付)		共著	平成30年	Ubiquity Press Journal of Circadian Rhythms vol.16 No.1	Kawai, H., Kodaira, N., Tanaka, C., Ishibashi, T., Kudo, N., Kawashima, Y., Mitsumoto, A.		pp.1～pp.9

7 Chronopharmacological analysis of antidepressant activity of a dual-action serotonin noradrenaline reuptake inhibitor (SNRI), milnacipran, in rats (査読付)	共著	平成30年 2月	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.41 No.2	Kawai, H., Machida, M., Ishibashi, T., Kudo, N., Kawashima, Y., Mitsumoto, A.	pp.213～ pp.219
8 Reduction in secretion of very low density lipoprotein-triacylglycerol by a matrix metalloproteinase inhibitor in a rat model of diet-induced hypertriglyceridemia (査読付)	共著	平成30年 7月	The American Society of Pharmacology and Experimental Therapeutics The Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics vol.366	Kawashima, Y., Eguchi, Y., Yamazaki, T., Karahashi, M., Kawai, H., Kudo, N.	pp.194～ pp.204
その他					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成12年 4月～平成26年 3月		日本中央競走馬会禁止薬物再検査立会人 禁止薬物再検査制度立会人			
平成21年 4月～平成26年 3月		地方競馬全国協会禁止薬物再検査制度立会人 禁止薬物再検査制度立会人			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 新津 勝		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
1)物理系薬学 II.化学物質の分析、第3版				平成24年 4月～平成28年 8月		化学平衡と容量分析を担当編集	
2)スタンダード薬学シリーズII 2 物理系薬学 II.化学物質の分析				平成28年 9月～現在に至る		化学平衡と容量分析を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1)教育支援室における活動内容の明確化と環境整備				平成25年 4月～現在に至る		成績不良者や卒業延期者を支援する教育支援室の活動内容を検討し、教育支援室の役割の明確化に努めている。また、利用しやすい教育支援室を目指し、明るく開かれた環境を整えている。	
2)特別授業の実施				平成29年10月～平成29年12月		化学B演習の計算問題に対応できない学生を対象として、希望者に少人数の寺子屋授業を居室にて9回実施した。	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
著書							
1 スタンダード薬学シリーズII 2 物理系薬学II. 化学物質の分析		分担執筆	平成28年 4月	東京化学同人	日本薬学会編、四宮一総 他		
2 Methods in Molecular Biology 1694: Polyamines Methods and Protocols		共著	平成30年	Springer	Ryota Hidese, Wakao Fukuda, Masaru Niitsu, and Shinsuke Fujiwara	担当部分: Identification of Branched-Chain Polyamines in Hyperthermophiles	
論文							
1 Oryza sativa polyamine oxidase 1 back-converts tetraamines, spermine and thermospermine, to spermidine (査読付)		共著	平成26年 3月	Plant Cell Rep vol.33	Taibo Liu, Dong Wook Kim, Masaru Niitsu, Thomas Berberich, Tomonobu Kusano	pp.143～pp.151	
2 Identification of a novel aminopropyltransferase involved in the synthesis of branched-chain polyamines in hyperthermophiles (査読付)		共著	平成26年 3月	J. Bacteriol. vol.196	Kazuma Okada, Ryota Hidese, Wakao Fukuda, Masaru Niitsu, Koichi Takao, Yuhei Horai, Naoki Umezawa, Tsunehiko Higuchi, Tairo Oshima, Tadayuki Imanaka, Shinsuke Fujiwara	pp.1866～pp.1876	
3 Thermospermine modulates expression of auxin-related genes in Arabidopsis (査読付)		共著	平成26年 3月	Front. Plant Sci. vol.5 No. 94	Wurina Tong, Kaori Yoshimoto, Jun-Ichi Kakehi, Hiroyasu Motose, Masaru Niitsu, Taku Takahashi		
4 Polyamine oxidase7 is a terminal catabolism-type enzyme in Oryza sativa and is specifically expressed in anthers (査読付)		共著	平成26年 6月	Plant Cell Physiol. vol.55	Taibo Liu, Dong Wook Kim, Masaru Niitsu, Shunsuke Maeda, Masao Watanabe, Yoshiyuki Kamio, Thomas Berberich, Tomonobu Kusano	pp.1110～pp.1122	
5 Polyamine oxidase5 regulates Arabidopsis growth through thermospermine oxidase activity (査読付)		共著	平成26年 8月	Plant Physiol. vol.165	Dong Wook Kim, Kanako Watanabe, Chihiro Murayama, Sho Izawa, Masaru Niitsu, Anthony J. Michael, Thomas Berberich, Tomonobu Kusano	pp.1575～pp.1590	
6 Occurrence of N1-methylputrescine, N1,N4-dimethylputrescine, N1-methylhomospermidine and N1,N9-dimethylhomospermidine in tomato root (査読付)		共著	平成26年12月	Int. J. Plant Biol. Res. vol.2 No.4	Masaru Niitsu, Koichi Takao, Yosuke Kato, Eimi Nagase, Takemitsu Furuchi, Koei Hamana	pp.1022	

7 Long linear and branched polyamines of new thermophilic members located in the bacterial orders Thermotogales, Thermales, Aquificales, Thermodesulfobacteriales, Clostridiales, Thermoanaerobacteriales, Bacillales, Caldisericales and Desulfovibrionales, and the family Rhodothermaceae (査読付)	共著	平成26年12月	J. Jpn. Soc. Extremophiles vol.13	K. Hamana, H. Hayashi, M. Niitsu, T. Itoh, M. Ohkuma	pp. 32~ pp. 52
8 Quantitative analysis of structural isomers of linear pentaamines by GC-MS (査読付)	共著	平成27年 2月	Chromatographia vol.78	Takemitsu Furuchi, Ayano Tazawa, Sachihiko Numajiri, Masaru Niitsu	pp. 723~ pp. 727
9 Gas chromatography-mass spectrometry analysis of structural isomers of linear hexaamines found in thermophilic bacteria (査読付)	共著	平成27年 2月	Chromatography vol. 36	Takemitsu Furuchi, Hiroe Okuda, Sachihiko Numajiri, Koei Hamana, Masaru Niitsu	pp. 25~ pp. 28
10 Polyamines in different organs of Brassica crop plants with or without clubroot disease (査読付)	共著	平成27年 9月	Plant Prod. Sci. vol.18 No. 4	Koei Hamana, Hidenori Hayashi and Masaru Niitsu	pp. 476~ pp. 480
11 The polyamine oxidase from lycophyte Selaginella lepidophylla (SeLPA05), unlike that of angiosperms, back-converts thermospermine to norspermidine (査読付)	共著	平成27年 9月	FEBS Letters vol.589	G. H. M. Sagor, Masataka Inoue, Dong Wook Kim, Seiji Kojima, Masaru Niitsu, Thomas Berberich, Tomonobu Kusano	pp. 3071~ pp. 3078
12 Spermine modulates the expression of two probable polyamine transporter genes and determines growth responses to cadaverine in Arabidopsis (査読付)	共著	平成28年 2月	Plant Cell Rep. vol.35 No. 6	G. H. M. Sagor, Thomas Berberich, Seiji Kojima, Masaru Niitsu, Tomonobu Kusano	pp. 1247~ pp. 1257
13 Occurrence of penta-amines, hexa-amines and N-methylated polyamines in unicellular eukaryotic organisms belonging to the phyla Heterokontophyta and Labyrinthulomycota of the subdomain Stramenopiles (査読付)	共著	平成28年10月	J. Gen. Appl. Microbiol. vol.62	Koei Hamana, Takemitsu Furuchi, Tsuzuri Nakamura, Hidenori Hayashi, and Masaru Niitsu	pp. 320~ pp. 325
14 Occurrence of two novel linear penta-amines, pyropentamine and homopyropentamine, in extremely thermophilic Thermus composti (査読付)	共著	平成28年11月	J. Gen. Appl. Microbiol. vol.62	Koei Hamana, Takemitsu Furuchi, Hidenori Hayashi, Takashi Itoh, Moriya Ohkuma, and Masaru Niitsu	pp. 334~ pp. 339
15 Additional analysis of cyanobacterial polyamines -Distributions of spermidine, homospermidine, spermine, and thermospermine within the phylum Cyanobacteria- (査読付)	共著	平成28年12月	Microb. Resour. Syst. vol. 32 No. 2	Koei Hamana, Takemitsu Furuchi, Hidenori Hayashi and Masaru Niitsu	pp. 179~ pp. 186
16 Polyamine analysis of Solanales crop plant organs including root-knot gall and tuber-powdery scab (査読付)	共著	平成29年 3月	Int. J. Agri. Environ. Res. vol.3 No. 1	Koei Hamana, Takemitsu Furuchi, Hidenori Hayashi and Masaru Niitsu	pp. 2334~ pp. 2343
17 Identification of a novel acetylated form of branched-chain polyamine from a hyperthermophilic archaeon Thermococcus kodakarensis (査読付)	共著	平成29年 7月	Biosci. Biotechnol. Biochem. vol.81 No.9	Ryota Hidese, Ki-Hwan Im, Masaki Kobayashi, Masaru Niitsu, Takemitsu Furuchi and Shinsuke Fujiwara	pp. 1845~ pp. 1849
18 Polyamine analysis of brown-algal seaweeds (class Phaeophyceae) from food markets -Distribution of diaminohexane, penta-amines, and hexa-amine- (査読付)	共著	平成29年 9月	Microb. Resour. Syst. vol. 33 No. 1	Koei Hamana, Masaki Kobayashi, Takemitsu Furuchi, Hidenori Hayashi and Masaru Niitsu	pp. 3~pp. 8
19 Active site geometry of a novel aminopropyltransferase for biosynthesis of hyperthermophile-specific branched-chain polyamine (査読付)	共著	平成29年11月	FEBS J vol.284	Ryota Hidese, Ka Man Tse, Seigo Kimura, Eiichi Mizohata, Junso Fujita, Yuhei Horai, Naoki Umezawa, Tsunehiko Higuchi, Masaru Niitsu, Tairo Oshima, Tadayuki Imanaka, Tsuyoshi Inoue and Shinsuke Fujiwara	pp. 3684~ pp. 3701
20 Identification of seven polyamine oxidase genes in tomato (Solanum lycopersicum L.) and their expression profiles under physiological and various stress conditions (査読付)	共著	平成30年 5月	J. Plant Physiol. vol. 228	Yanwei Hao, Binbin Huang, Dongyu Jia, Taylor Mann, Xinyi Jiang, Yuxing Qiu, Masaru Niitsu, Thomas Berberich, Tomonobu Kusano, Taibo Liu	pp. 1~pp. 11

21 Polyamine analysis of unicellular, colonial, and multicellular green algae - Detection of aminobutylcadaverine, N1-aminopentylspermidine, N8-aminopentylspermidine, and penta-amines- (査読付)	共著	平成30年12月	Microb. Resour. Syst. vol.34 No.2	Koei Hamana, Masaki Kobayashi, Takemitsu Furuchi, Hidenori Hayashi and Masaru Niitsu	pp.73~pp.82
22 Polyamine distribution profiles in unicellular and multicellular red algae (phylum Rhodophyta) -Detection of 1,6-diaminohexane, aminobutylcadaverine, canavalmine and aminopropylcanavalmine- (査読付)	共著	平成30年12月	Microb. Resour. Syst. vol.34 No.2	Koei Hamana, Masaki Kobayashi, Takemitsu Furuchi, Hidenori Hayashi and Masaru Niitsu	pp.83~pp.91
23 Simplification of FDLA pre-column derivatization for LC/MS/MS toward separation and detection of D,L-amino acids (査読付)	共著	平成30年12月	Chromatographia	Masaki Kobayashi, Yusuke Takano, Hiroki Takishima, Shintaro Sakaitani, Masaru Niitsu, Takemitsu Furuchi	
その他					
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 荻原 政彦		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1)薬理学A(I)、B(II)、C(III)(学部)				平成17年 4月～現在に至る		パワーポイント版の講義内容を新規に作成し講義した。またレジメを作成して、毎回ごとに配布した。さらに、中間には小テストを実施して、形成的理解の評価を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
1)最新薬理学第7版				平成17年 3月～現在に至る		薬学教育モデルコアカリキュラムに沿って、『薬の効くプロセス』について解説し、医療人たる薬剤師が修得すべきポイントも説明している。	
2)薬理学				平成18年 2月～現在に至る		薬学コアカリキュラムに沿った内容で、作成、編集した。	
3)ファーマシユティカルノート第2版				平成20年 1月～現在に至る		薬剤師国家試験・CBTの疾患と薬物治療法をわかり易く解説した。	
4)最新薬理学第10版				平成28年 9月～現在に至る		薬学教育モデルコアカリキュラムに沿って、『薬の効くプロセス』について解説し、医療人たる薬剤師が修得すべきポイントも説明している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1)薬学部薬学科				平成12年 4月～現在に至る		担任の学生(1～4年生;約35名)に対して、年3回面談して、学習法、成績と生活態度などについて個別に指導している。	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称		編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
1 最新薬理学 第10版		共著	平成28年 9月	広川書店		荻原 政彦他	担当部分:編者
論文							
1 L-ascorbic acid- and L-ascorbic acid 2-glucoside accelerate in vivo liver regeneration and lower serum alanine aminotransaminase activity in 70% partially hepatectomized rats. (査読付)		共著	平成26年 4月	Biol Pharm Bull. vol.37 No.4		Moteki H, Kimura M, Sunaga K, Tsuda T, Ogihara M.	pp.597～pp.603
2 Involvement of endogenous transforming growth factor- $\alpha$ in signal transduction pathway for interleukin-1 $\beta$ -induced hepatocyte proliferation. (査読付)		共著	平成26年12月	Eur J Pharmacol. vol.745		Kimura M, Moteki H, Ogihara M.	pp.223～pp.233
3 Signal Transduction Mechanism for Serotonin 5-HT2B Receptor-Mediated DNA Synthesis and Proliferation in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes. (査読付)		共著	平成28年 1月	Biol. Pharm. Bull. vol.39 No.1		Naito K, Moteki H, Kimura M, Natsume H, <u>Ogihara M</u>	pp.121～pp.129
4 Serotonin 5-HT2B Receptor-Stimulated DNA Synthesis and Proliferation Are Mediated by Autocrine Secretion of Transforming Growth Factor- $\alpha$ in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes. (査読付)		共著	平成28年 4月	Biol Pharm Bull. vol.39 No.4		Naito K, Moteki H, Kimura M, Natsume H, <u>Ogihara M</u> .	pp.570～pp.577
5 カルシウム拮抗薬とグレープフルーツジュースの相互作用に関するパンフレット配布による教育効果の検討 (査読付)		共著	平成28年 8月	薬局薬学 第8巻		茂木 肇、中村 梨絵、木村 光利、白石 卓也、荻原 政彦	114頁～120頁
6 Preparation and Evaluation of PEGylated Poly-L-ornithine Complex as a Novel Absorption Enhancer (査読付)		共著	平成29年	Biol. Pharm. Bull. vol.40		Kamiya Y, Yamaki T, Uchida M, Hatanaka T, Kimura M, <u>Ogihara M</u> , Morimoto Y, Natsume H	pp.205～pp.211
7 リウマトレックスによる間質性肺炎を例にした重篤な副作用の情報提供に対する非関節リウマチ患者の意識調査 (査読付)		共著	平成29年 6月	薬局薬学 vol.1.9		茂木 肇、遠藤 菜、木村 光利、小松 由美子、荻原 政彦	pp.150～pp.158
その他							

1 ビタミンCによる成熟ラット初代培養肝実質細胞の増殖促進作用はIGF-1受容体を介している		平成26年 3月	日本薬学会 第134年会 ホテル日航熊本(熊本県)	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
2 日本の精神疾患患者における禁煙治療の現状と諸外国の場合との比較について		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	関口 菜都子、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
3 患者の内服薬の飲み忘れにおける残薬の管理と服薬に関する調査研究		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	鈴木 舞、茂木 肇、木村 光利、飯島 朋子、荻原 政彦
4 後発医薬品に対する医師・薬剤師の意識について		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	渡部 秀樹、渡部 秀人、太田 昌一郎、齋藤 耕一、時任 敏基、杉本 あけみ、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
5 Ca拮抗薬とグレープフルーツジュースの飲み合わせを例にした患者の薬に対する知識の定着を目指した取り組みについて		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	中村 梨絵、茂木 肇、木村 光利、白石 卓也、荻原 政彦
6 薬局来局者におけるOTC医薬品ネット販売に関する意識調査		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	小田 翔平、長島 こぎく、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
7 かかりつけ薬局と服薬アドヒアランスの関係性について		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	岩野 貢典、石渡 知子、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
8 山梨大学医学部附属病院の薬務室における安全・安心な医療の提供に関する薬剤師の役割と連携について		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	二階堂 綾美、茂木 肇、木村 光利、長澤 みわ子、寺島 朝子、荻原 政彦
9 PTP包装による誤飲対策に関する薬学的調査		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	遠藤 沙紀、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
10 L-Ascorbic Acid- and L-Ascorbic Acid 2-Glucoside Accelerate In Vivo Liver Regeneration and Lower Serum Alanine Aminotransaminase Activity in 70% Partially Hepatectomized Rats.		平成26年 7月	17th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology Cape Town, South Africa	Mitsutoshi Kimura, Hajime Moteki, Masahiko Ogihara.
11 70%部分肝切除ラットにおけるプロスタグランジンE2の肝再生促進作用に関する組織化学的研究		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部 大会 昭和薬科大学(東京都)	内藤 浩太、北澤 知英、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
12 70%部分肝切除マウスにおけるカルバコールの肝再生促進作用に関する研究		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部 大会 昭和薬科大学(東京都)	野呂 昌代、矢田 祐平、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
13 初代培養肝実質細胞におけるアスコルビン酸の増殖促進作用に対するアドレナリン作動性調節機構の検討		平成27年 3月	第88回日本薬理学会年会 名古屋国際会議場(愛知県)	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
14 70%部分肝切除ラットにおけるL-アスコルビン酸及びその誘導体による肝再生促進作用に関する検討		平成27年 3月	日本薬学会 第135年会 神戸サンボホール(兵庫県)	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
15 70%部分肝切除ラットにおけるプロスタグランジンE2の肝再生促進作用に関する組織化学的研究		平成27年 7月	第132回日本薬理学会関東 支部会 明海大学浦安キャンパス (千葉県)	内藤 浩太、北澤 知英、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
16 高血圧患者に対する薬剤師の家庭血圧測定指導効果に関する調査研究		平成27年 7月	埼玉医療薬学懇話会第35回 学術研究講演会 さいたま市文化センター (埼玉県)	加藤 美穂、茂木 肇、木村 光利、前田 勝代、荻原 政彦
17 業務形態別かかりつけ薬局の利用推進に関する調査研究		平成27年 7月	埼玉医療薬学懇話会第35回 学術研究講演会 さいたま市文化センター (埼玉県)	山本 夕貴、深澤 貴弥、臼井 滋、小松 由美子、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
18 地域薬局におけるセルフメディケーションに対する患者の意識に関する調査研究		平成27年 7月	埼玉医療薬学懇話会第35回 学術研究講演会 さいたま市文化センター (埼玉県)	小島 望、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
19 オキセサゼイン- $\gamma$ シクロデキストリン抱接化合物のマウス摘出回腸に対する収縮抑制作用に関する研究		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部 大会 日本大学薬学部(千葉県)	金井 里紗、茂木 肇、木村 光利、井上 裕、金本 郁男、荻原 政彦

20 薬局におけるメトトレキサートを例にした重篤な副作用の情報提供に対する患者の意識に関する調査研究		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部(千葉県)	遠藤 菜、茂木 肇、木村 光利、田中 真奈美、小松 由美子、大山 邦之、荻原 政彦	
21 ラット初代培養肝実質細胞に対するインターロイキン1βの細胞増殖 促進作用はトランスフォーミング増殖因子αの分泌を介している		平成28年 3月	第89回日本薬理学会年会 パシフィコ横浜(神奈川県)	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
22 ラット初代培養肝実質細胞に対するインターロイキン1βの増殖促進作用の検討		平成28年 3月	第89回日本薬理学会年会 パシフィコ横浜(神奈川県)	内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
23 セロトニンの成熟ラット初代培養肝実質細胞における細胞増殖促進機構に関する検討		平成28年 3月	日本薬学会 第136年会 パシフィコ横浜(神奈川県)	内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
24 病院における非高齢者のカルシウム拮抗薬服用後の胃腸障害発症率に関する調査研究		平成28年 7月	埼玉医療薬学懇話会第36回 学術研究講演会 さいたま市文化センター (埼玉県)	星野 広太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
25 70%部分肝切除ラットにおける血清アミノ酸の変動に関する検討		平成28年 9月	第60回日本薬学会関東支部大会 東京大学山上会館(東京都)	阪本 恵、田中 里、内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
26 Effect of serotonin on phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase in primary cultures of adult rat hepatocytes.		平成29年 3月	第90回日本薬理学会年会 長崎ブリックホール(長崎県)	Hajime Moteki, Kota Naito, Mitsutoshi Kimura, <u>Masahiko Ogihara</u>	
27 Serotonin-induced hepatocyte mitogenesis is mediated by epidermal growth factor /transforming growth factor-alpha receptor tyrosine kinase pathway.		平成29年 3月	第90回日本薬理学会年会 長崎ブリックホール(長崎県)	Kota Naito, Hajime Moteki, Mitsutoshi Kimura, <u>Masahiko Ogihara</u>	
28 ラット初代培養肝実質細胞におけるインターロイキン1βの増殖促進作用機構に関する検討		平成29年 3月	日本薬学会 第137年会 仙台(宮城県)	内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
29 リウマトレックス®による間質性肺炎を例にした重篤な副作用の情報提供に対する非関節リウマチ患者の意識調査		平成29年 7月	埼玉医療薬学懇話会第 37 回学術研究講演会 東大宮コミュニティセンター(埼玉県)	仁宮 勇人、遠藤 菜、茂木 肇、木村 光利、小松 由美子、荻原 政彦	
30 アセトアミノフェン誘発肝障害マウスにおけるシステインの 肝障害抑制作用に関する検討		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部大会 慶応義塾大学薬学部	木下和、石井梨恵、仲村翔太郎、青柳颯太、内藤浩太、茂木肇、木村光利、荻原政彦	
31 ラット初代培養肝実質細胞におけるEGF誘発細胞増殖促進作用に対する カルバコールの抑制効果に関する研究		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部大会 慶応義塾大学薬学部	小鷹麻衣、河原井珠美、鈴木里奈、杉谷幸子、内藤浩太、茂木肇、木村光利、荻原政彦	
32 カルシウム拮抗薬とグレープフルーツジュースの相互作用に関する パンフレット配布による教育効果の検討		平成29年11月	第23回埼玉県薬剤師会学術大会 埼玉県 県民健康センター	森崎佳菜、蛭田美和、茂木肇、中村梨絵、木村光利、白石卓也、荻原政彦	
33 セロトニンの肝実質細胞増殖促進作用に対する増殖関連シグナル伝達因子活性の経時的变化の検討		平成30年 3月	日本薬学会 第138年会 金沢(石川県)	栗原一樹、内藤浩太、茂木肇、木村光利、荻原政彦	
34 セロトニンによるEGFR/MAPK経路の活性化に対する特異的シグナル伝達因子阻害薬の効果の検討		平成30年 3月	日本薬学会 第138年会 金沢(石川県)	内藤浩太、栗原一樹、茂木肇、木村光利、荻原政彦	
35 Serotonin-induced DNA synthesis and proliferation are mediated by autocrine secretion of transforming growth factor-α in primary cultures of adult rat hepatocytes		平成30年 7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology Kyoto	Kota Naito, Hajime Moteki, Mitsutoshi Kimura, <u>Masahiko Ogihara</u>	
36 Signal Transduction Mechanism for 5-HT2B Receptor-Stimulated Autocrine Secretion of Transforming Growth Factor-α in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes.		平成30年 7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology Kyoto	Hajime Moteki, Kota Naito, Mitsutoshi Kimura, <u>Masahiko Ogihara</u> .	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成18年10月～現在に至る	研究機関等体験事業 城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」				
平成19年 3月～現在に至る	治療審査委員会(さいたま赤十字病院)				
平成20年 3月～現在に至る	治療審査委員会(自治医科大学付属さいたま医療センター)				
平成20年 4月～現在に至る	日本薬理学会 学術評議委員				
平成21年 2月～現在に至る	坂戸市健康づくり地域寺子屋事業				
平成21年 4月～現在に至る	共用試験センター CBTモニター委員				

[注] 1 学部、大学院研究科(及びその他の組織)の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。

- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
  - ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 近藤 誠一		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1)1年次生～3年次生クラス担任				平成18年 4月～現在に至る	1年次生から3年次生各学年約8名の担任学生に対する各学期での面談の実施と教育および生活にかかわる個別指導		
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
論文							
1 Effects of Oakmoss and its Components on <i>Acanthamoeba castellanii</i> ATCC 30234 and the Uptake of <i>Legionella pneumophila</i> JCM 7571 (ATCC 33152) into <i>A. castellanii</i> (査読付)	共著	平成27年 1月	Bioscience Control Bioscience Control vol.20 No.1	HARUE NOMURA, YASUNORI ISSHIKI, KEISUKE SAKUDA, KATSUYA SAKUMA and SEIICHI KONDO	pp. 59～ pp. 65		
2 Effect of $\gamma$ -cyclodextrin derivative complexation on the physicochemical properties and antimicrobial activity of hinokithiol (査読付)	共著	平成27年 8月	Springer Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol.23 No.4	Rina Suzuki, Yutaka Inoue, Yuina Tsunoda, Isamu Murata, Yasunori Isshiki, Seiichi Kondo, Ikuo Kanamoto	pp.177～ pp.186		
3 Effects of Fragrance Ingredients on the Uptake of <i>Legionella pneumophila</i> into <i>Acanthamoeba castellanii</i> . (査読付)	共著	平成30年	日本防菌防黴学会 Biocontrol Science vol.23 No.4	Harue NOMURA, Sakiko TAKAHASHI, Yuki TOHARA, Yaunori ISSHAKI, Keisuke SAKUDA, Katsuya SAKUMA, Seiichi KONDO			
その他							
1 腸炎ビブリオ07リポ多糖の糖鎖構造		平成29年 3月	第90回日本細菌学会総会 仙台	一色恭徳、内村嘉孝、野村陽恵、近藤誠一			
2 香料と抗菌薬の抗菌作用の解析		平成29年 3月	第91回日本細菌学会総会 仙台	野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一			
3 香料の <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 薬剤排出ポンプに対する影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一			
4 シクロデキストリン誘導体を用いたヒノキチオール固体分散体における抗菌活性の評価		平成29年 8月～平成29年 9月	第34回シクロデキストリンシンポジウム 愛知	鈴木莉奈、村田 勇、井上 裕、野村陽恵、一色恭徳、近藤誠一、金本郁男			
5 緑膿菌の抗菌薬感受性に及ぼす香料の影響		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一			
6 腸炎ビブリオ 07 リポ多糖の多糖部構造解析		平成30年 3月	第91回日本細菌学会総会 福岡	一色恭徳、天野瑞恵、石川恵美、松島茉莉子、野村陽恵、近藤誠一			
7 Evaluation of antimicrobial activity of hinokithiol with cyclodextrins		平成30年 4月	The 19th International Cyclodextrin Symposium (ICS 2018 Tokyo	Rina Suzuki, Isamu Murata, Yutaka Inoue, Harue Nomura, Yasunori Isshiki, Seiichi Kondo and Ikuo Kanamoto			
8 ヒノキチオール銅錯体/シクロデキストリン複合体における抗菌活性の評価		平成30年 9月	第35回 シクロデキストリンシンポジウム 甲府	鈴木莉奈、村田勇、井上裕、野村陽恵、一色恭徳、橋本雅司、近藤誠一、金本郁男			
9 天然香料又はその主要成分の抗菌薬との併用によるMRSA の抗菌薬感受性に及ぼす影響		平成30年 9月	第62回日本日本薬学会関東支部大会 東京	若島果穂、喜多村幸、野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一			
10 香料と抗菌薬との併用による MRSA の抗菌薬感受性に及ぼす影響		平成30年 9月	第62回日本日本薬学会関東支部大会 東京	石崎美香、喜多村幸、野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一			
III 学会等および社会における主な活動							

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 教授	氏名 上田 秀雄	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) 形成的評価の際のルーブリックの利用		平成27年 4月～現在に至る	論述式の試験実施に際し、ルーブリックを用いて評価し、成績の一部に組み込んでいる。		
2) 社会との連携活動のアクティブラーニングへの活用		平成30年 4月～現在に至る	薬学部として行っているさまざまな社会との連携活動を「コミュニケーション体験演習 (4年次、必修)」科目のプロジェクトとして組み込み、学生が社会活動 (プロジェクト) の企画・運営・振り返りと通してコミュニケーション能力の向上及び気づきが得られるよう取り組んでいる。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
1) 薬学実習D実習書の作成		平成19年 4月～現在に至る	物理薬剤学 (薬物の安定性の測定、分配係数の測定、粉体の性質の評価) に関する学生用実習書を作成し、実習で利用している。		
2) 医薬品開発・治験論講義プリントの作成		平成20年 4月～現在に至る	医薬品開発・治験論の内容を網羅できる適当な教科書がなく、必要に応じて要点をまとめたプリントを作成し、講義で配布・活用している。		
3) PRACTICAL基礎化学		平成27年 3月～現在に至る	高校と大学をつなぐ化学の基礎的内容		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
1) 新モデル・コアカリキュラムに従う学びの過程のルーブリックを用いた継続的な評価		平成30年 9月	薬学教育学会にて発表		
2) 卒業時アンケートに基づく、学びにおける状況の確認と問題点の抽出		平成30年 9月	薬学教育学会にて発表		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) 体育会弓道部部长		平成25年 4月～現在に至る	体育会弓道部の統括		
2) 薬学スキー同好会部部长		平成25年 4月～現在に至る	薬学スキー同好会の統括		
3) 基礎薬学ワーキンググループ		平成26年10月～現在に至る	1年次の基礎教育および専門教育の実施および評価方法等についての検討		
4) 薬剤師としての資質評価ルーブリック作成ワーキンググループ		平成26年11月～現在に至る	「薬剤師として求められる基本的な資質」を評価するためのルーブリック表の作成、及びルーブリックを用いた評価の実施		
5) 教科委員会		平成30年 4月～現在に至る	薬学科教務に関わる協議		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
1 Inhibitory effect of fluvoxamine on $\beta$ -casein expression via a serotonin-independent mechanism in human mammary epithelial cells (査読付)	共著	平成27年	Eur. J. Pharmacol. vol.766	4. T. Chiba, T. Maeda, S. Kimura, Y. Morimoto, A. Sanbe, H. Ueda, K. Kudo	pp.56～pp.62
2 Serotonin regulates $\beta$ -casein expression via 5-HT7 receptors in human mammary epithelial MCF-12A cells (査読付)	共著	平成27年 1月	Biol. Pharm. Bull.	T. Chiba, S. Kimura, K. Takahashia, Y. Morimoto, T. Maeda, A. Sanbe, H. Ueda, K. Kudo	
3 Development of a membrane impregnated with a poly(dimethylsiloxane)/poly(ethylene glycol) copolymer for a high-throughput screening of the permeability of drugs, cosmetics, and other chemicals across the human skin (査読付)	共著	平成27年 1月	Eur. J. Pharm. Sci. vol.66	R. Miki, Y. Ichitsuka, T. Yamada, S. Kimura, Y. Egawa, T. Seki, K. Juni, H. Ueda, Y. Morimoto	pp.41～pp.49
4 Characterization of ocular iontophoretic drug transport of ionic and non-ionic compounds in isolated rabbit cornea and conjunctiva (査読付)	共著	平成28年	Biol. Pharm. Bull. vol.39	2. H. Sekijima, J. Ehara, Y. Hanabata, T. Suzuki, S. Kimura, V. H. L. Lee, Y. Morimoto, H. Ueda	pp.959～pp.968

5 Development of a Transnasal Delivery System for Recombinant Human Growth Hormone (rhGH): Effects of the Concentration and Molecular Weight of Poly-L-arginine on the Nasal Absorption of rhGH in Rats (査読付)	共著	平成28年	Biol. Pharm. Bull. vol.39	3. R. Kawashima, M. Uchida, T. Yamaki, K. Ohtake, H. Uchida, H. Ueda, J. Kobayashi, Y. Morimoto, H. Natsume	pp. 329～pp. 335
6 Application of Microneedles to Skin Induces Activation of Epidermal Langerhans Cells and Dermal Dendritic Cells in Mice	共著	平成28年	Biol. Pharm. Bull. vol.39	A. Takeuchi, Y. Nomoto, M. Watanabe, S. Kimura, Y. Morimoto, H. Ueda	pp. 1309～pp. 1318
その他					
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 加園 恵三		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
1) 模擬患者による大学院生の指導				平成18年10月～現在に至る		管理栄養士資格取得後、本学薬学部大学院修士課程に進学した学生を対象に、模擬患者役の方を数名招き、栄養指導の実習を行った。大学院生の管理栄養士としての実践力の向上に貢献した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
著書							
1 疾病の成因・病態・診断・治療		共著	平成27年 2月	医歯薬出版株式会社	竹中優 編 加園恵三 他		
2 ETERNAL EXPLORER 症例人間病態論 Vol.2		共著	平成27年 3月	京都廣川書店	加園恵三、太田昌一郎		
論文							
1 Two types of overcontraction are involved in intrarenal artery dysfunction in type II diabetic mouse (査読付)		共著	平成26年 8月	The Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics vol. 351 No. 1	1. Koji Nobe, Yasuhiro Takenouchi, Keizo Kasono, Terumasa Hashimoto, Kazuo Honda	pp. 77～pp. 86	
2 大学男子駅伝選手の常圧下低酸素環境を利用したトレーニングにおける魚油製剤摂取の効果 (査読付)		共著	平成28年 4月	日本脂質栄養学会 脂質栄養学 第25巻 第1号	榑部 静二, 小林 悟, 竹之内 康広, 金 賢珠, 新井 尚之, 野部 浩司, 大竹 一男, 白幡 晶, 加園 恵三	61頁～74頁	
3 非筋細胞収縮およびその細胞内情報伝達系評価のためのコラーゲンファイバー法の有用性 (査読付)		共著	平成29年 8月	昭和大学 昭和学会雑誌 第77巻 第4号	野部浩司, 野部裕美, 加園恵三	385頁～396頁	
4 Eicosapentaenoic acid ethyl ester improves endothelial dysfunction in type 2 diabetic mice (査読付)		共著	平成30年 5月	BMC Lipids in Health and Disease vol.17 No.18	Yasuhiko takenouchi, Kazuo Ohtake, Koji Nobe, Keizo Kasono	pp.1～pp.7	
その他							
III 学会等および社会における主な活動							
平成16年 4月～現在に至る			埼玉副甲状腺研究会 世話人				

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。  
 ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。  
 ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。  
 ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。  
 ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 坂本 武史		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 分子モデリング演習			平成25年 4月～現在に至る	卒業研究に分子モデリング演習を取り入れ、生体高分子や医薬品の理解を深めている。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) パートナー薬品製造化学 第2版			平成24年 4月～現在に至る	美しく見やすい構造式で有機合成の基礎知識を身につけることができる。			
2) 基礎有機化学問題集			平成25年 5月～平成28年12月	有機化学を初めて学ぶ際に理解し難い「カーブした矢印(巻矢印)」の使い方と意味など、問題を解くための有機化学の重要な概念や考え方について、演習問題を通して学ぶことができる。			
3) 化学構造と薬理作用 医薬品を化学的に読む 第2版			平成27年 4月～現在に至る	複素環を基盤として医薬品化学と薬理作用を「医薬品を化学的に読む」という視点から解説している。			
4) 基礎有機化学演習 第2版			平成29年 1月～現在に至る	教科書「ソロモン新有機化学」の最新第11版に合わせて改訂されている。有機化学を初めて学ぶ際に理解し難い「カーブした矢印(巻矢印)」の使い方と意味など、問題を解くための有機化学の重要な概念や考え方について、丁寧に分かり易い解説が追加されている。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
1 基礎有機化学問題集	共著	平成26年	廣川書店	廣田 耕作, 西出 喜代治, 片岡 貞他			
2 化学構造と薬理作用 医薬品を化学的に読む 第2版	共著	平成27年	廣川書店	柴崎正勝, 赤池昭紀, 橋田充, 西出喜代治, 佐々木茂貴, 柴田敏之			
3 基礎有機化学問題集 第2版	共著	平成29年	廣川書店	西出喜代治, 片岡貞, 廣田耕作			
論文							
1 Inducing Effect of Clofibrilic Acid on Stearoyl-CoA Desaturase in Intestinal Mucosa of Rats (査読付)	共著	平成26年	LIPIDS vol. 49	Tohru Yamazaki, Makiko Kadokura, Yuki Mutoh, Takeshi Sakamoto, Mari Okazaki, Atsushi Mitsumoto, Yoichi Kawashima, Naomi Kudo	pp. 1203～pp. 1214		
2 The examination of the MALDI-TOF-MS analysis of the proteins and the peptides by use of the sinapic acid derivatives as the new matrix	共著	平成26年 7月	Conference Paper in Protein Science	Narumi Hirozawa, Takeshi Sakamoto, Yasushi Uemura, Yasushi Sakamoto			
3 Chronic Treatment with a Water-Soluble Extract from the Culture Medium of Ganoderma Lucidum Mycelia (MAK) Prevents Apoptosis and Necroptosis in Hypoxia/Ichemia-Induced Injury of Type 2 Diabetic Mouse Brain (査読付)	単著	平成27年	Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine				
4 Early Release of HMGB1 may Aggravate Neuronal Damage after Transient Focal Ischemia in Diabetic Rat Brain (査読付)	共著	平成27年	International Journal of Diabetes Research	Naohiro Iwata, Mri Okazaki, Shinya Kamiuchi, Meiyuan Xuan, Hirokazu Matsuzaki, Takeshi Sakamoto, Yasuhide Hibino			
5 Effects of dietary fish oil on cytochrome P450 3A expression in the liver of SHR/NDmcr-cp (cp/cp) rats, an animal model for metabolic syndrome (査読付)	共著	平成27年	Fundamental Toxicological Sciences	Tohru Yamazaki, Takashi Ohki, Hiroki Taguchi, Asami Yamamoto, Mri Okazaki, Takeshi Sakamoto, Atushi Mitsumoto, Yoichi Kawashima, Naomi Kudo			
6 Theoretical Study on The Aromatic Oxidative Cyclization of N-Methoxy-N-prenylbenzamide (査読付)	共著	平成27年	Journal of Computer Chemistry, Japan	Hiroyu Teramae, Misaki Suda, Mitsuru Yukawa, Kousuke Hayashi, Jun Takayama, Takeshi Sakamoto			

7 Fatty Acid $\beta$ -Oxidation Plays a Key Role in Regulating cis-Palmitoleic Acid Levels in the Liver (査読付)	共著	平成28年	Biological and Pharmaceutical Bulletin	Kohei Kawabata, Minako Karahashi, Takeshi Sakamoto, Yukiho Tsuji, Tohru Yamazaki, Mari Okazaki, Atushi Mitsumoto, Naomi Kudo, Yoichi Kawashima
8 Systematic evaluation of methyl ester bioisosteres in the context of developing alkenyldiarylmethanes (ADAMs) as non-nucleoside reverse transcriptase inhibitors (NNRTIs) for anti-HIV-1 chemotherapy (査読付)	共著	平成28年	bioorganic & medicinal chemistry	Ayako Hoshi, Takeshi Sakamoto, Jun Takayama, Meiyuan Xuan, Mari Okazaki, Tracy Hartman, Robert W. Buckheit, Jr., Christophe Pannecouque, Mark Cushman
9 Oxidative De-aromatic Cyclization of N-Substituted Benzanilide Derivatives: Conformational Effect of Amide Groups on the Reaction	共著	平成28年	Heterocycles	Kousuke Hayashi, Jun Takayama, Meiyuan Xuan, Misaki Suda, Hiroyuki Teramae, Takeshi Sakamoto
10 Abnormalities in the Metabolism of Fatty Acids and Triacetyllycerols in the Liver of the Goto-Kakizaki Rat: A Model for Non-Obese Type 2 Diabetes (査読付)	共著	平成28年	Lipid	Minako Karahashi, Yuko Hirata-Hanta, Kohei Kawabata, Daisuke Tsutsumi, Misaki Kametani, Nanako Takamatsu, Takeshi Sakamoto, Tohru Yamazaki, Satoshi Asano, Atsushi Mitsumoto, Yoichi Kawashima, Naomi Kudo
11 Protective effects of ferulic acid against chronic cerebral hypoperfusion-induced swallowing dysfunction in rats (査読付)	共著	平成29年	International Journal of Molecular Sciences	Asano T., Matsuzaki H., Iwata N., Xuan M., Kamtuchi S., Hibino Y., Sakamoto T., Okazaki M.
その他				
1 超原子価ヨウ素化合物を用いた2-アザスピロ [4.5]デカン構造の合成研究		平成26年 3月	日本薬学会第134年会	島野洋祐、小玉健太郎、石原友梨、岩井恵子、玄美燕、高山淳、坂本武史
2 新規フェルラ酸誘導体の抗酸化活性評価と細胞保護効果の検討		平成26年 3月	日本薬学会第134年会	友野聖己、玄美燕、林浩輔、亀川真理子、可児大輔、松崎 広和、高山淳、坂本 武史、岡崎 真理
3 The examination of the MALDI-TOF-MS analysis of the proteins and the peptides by use of the sinapic acid derivatives as the new matrix		平成26年 7月	The Symposium of the Protein Society	Naruni Hirosawa, Takeshi Sakamoto, Yasushi Uemura, Yasushi Sakamoto
4 抗HIV逆転写酵素阻害剤アルケニルジアリールメタン類の合成とFMO法による分子間相互作用の解析		平成26年 7月	2014創薬懇話会in岐阜	星絢子、馬場弥生、薦田麻莉子、玄美燕、高山淳、坂本武史
5 フェルラ酸誘導体の抗酸化活性評価と細胞保護効果の検討		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会	玄美燕、岡部祥子、林浩輔、松崎広和、高山淳、坂本武史、岡崎真理
6 2-アザスピロ [4.5] デカン構造における安定構造の理論的研究		平成26年10月	日本コンピュータ化学会 2014年秋季年会	須田岬、島野洋祐、高山淳、坂本武史、寺前裕之
7 新規アルケニルジアリールメタン誘導体の合成と抗HIV-1活性の評価、並びにFMO計算による解析		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会	星絢子、馬場弥生、薦田麻莉子、玄美燕、高山淳、坂本武史
8 酸化的脱芳香化反応を用いる2-アザスピロ環合成におけるアミド窒素上の置換基効果		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会	島野洋祐、須田岬、玄美燕、高山淳、寺前裕之、坂本武史
9 新規フェルラ酸誘導体の抗酸化活性評価と細胞保護効果の検討		平成26年11月	第17回日本補完代替医療学会学術集会	玄美燕、岡部祥子、林浩輔、松崎広和、高山淳、坂本武史、岡崎真理
10 有機リン系農薬の生殖毒性及内分泌系 臓器におけるターゲット分子の同定		平成26年12月	第85回日本生化学会	廣澤成美、坂本武史、植村靖史、鈴木悠子、坂本安
11 慢性脳低灌流ラットの嚙下機能障害に対するオイゲノールの効果		平成27年 3月	第88回日本薬理学会年会	浅野昂志、松崎広和、小井土愛里、松井駿、玄美燕、坂本武史、日比野康英、岡崎真理
12 慢性脳低灌流ラットの学習障害に対するオイゲノールの効果		平成27年 3月	第88回日本薬理学会年会	松崎広和、高塚麻実、玄美燕、坂本武史、日比野康英、岡崎真理
13 KKAyマウスの低酸素脳虚血障害における壺芝菌糸体培養培地抽出物のネクロトーシス抑制効果		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	玄美燕、岡崎真理、岩田直洋、浅野哲、神内伸也、松崎広和、坂本武史、宮野義之、飯塚博、日比野康英
14 Chronic treatment with a water-soluble extract from the culture medium of Ganoderma lucidum mycelia prevents necroptosis in hypoxia/ischemia-induced injury of KKAy mouse brain		平成27年 3月	第88回日本薬理学会年会	Meiyuan Xuan, Mari Okazaki, Naohiro Iwata, Satoshi Asano, Shinya Kamiuchi, Hirokazu Matsuzaki, Takeshi Sakamoto, Yoshiyuki Miyano, Hiroshi Iizuka, Yasuhide Hibino
15 新規フェルラ酸誘導体をマトリックスに用いるタンパク質及びペプチドのMALDI-TOF-MS解析		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	小玉健太郎、島野洋祐、須田岬、玄美燕、高山淳、寺前裕之、坂本武史

16	オキサジアゾール環を有する非核酸系HIV-1逆転写酵素阻害剤アルケニルジアリールメタン類の合成と活性評価	平成27年 3月	日本薬学会第135年会	星絢子, 鍋倉聡志, 林浩輔, 大島康平, 萩原綾菜, 玄美燕, 高山淳, 坂本武史
17	ベンズアニリド誘導体及びフェニルアセトアミド誘導体における安定構造の理論的研究	平成27年 5月	日本コンピュータ化学会2015春季大会	須田岬, 島野洋祐, 高山淳, 坂本武史, 寺前裕之
18	N-メトキシ-N-プレニルベンズアミドにおける閉環反応の理論的研究	平成27年 5月	第18回理論化学討論会	寺前 裕之, 小宮 和朗, 島野 洋祐, 高山 淳, 坂本 武史
19	FMO計算に基づく抗HIV逆転写酵素阻害剤ADAM類のデザインと合成	平成27年 7月	創薬懇話会2015 in Tokushima	星 絢子, 久松 直樹, 林 浩輔, 玄 美燕, 高山 淳, 坂本 武史
20	慢性脳低灌流ラットの嚔下反射機能障害に対する新規フェルラ酸誘導体の効果	平成27年 7月	第132回日本薬理学会関東支部会	浅野 昂志, 松崎 広和, 玄 美燕, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
21	酸化ストレス障害に対するフェルラ酸誘導体の細胞保護作用メカニズムの解析	平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会	玄 美燕, 地寄 一葉, 林 浩輔, 高山 淳, 坂本 武史, 松崎 広和, 岡崎 真理
22	超原子価ヨウ素化合物を用いるスピロオキシンドール環の合成: アミド窒素上の置換基の影響	平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会	佐藤尚也, 林浩輔, 見澤翼, 島野洋祐, 須田岬, 玄美燕, 高山淳, 寺前裕之, 坂本武史
23	エステル生物学的等価体としてスルホキニドを有する新規NNRTI アルケニルジアリールメタンの開発	平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会	林 浩輔, 新井 悠太, 久津間 貴司, 本屋敷 彬鼓, 星 絢子, 玄 美燕, 高山 淳, 坂本 武史
24	新規フェルラ酸誘導体のMALDI マトリックスへの応用と評価	平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会	加藤 洋介, 福田 護, 松田 千代子, 玄 美燕, 高山 淳, 岡崎 真理, 坂本 武史, 広澤 成美, 坂本 安
25	ベンズアニリド誘導体におけるシス・トランス型構造の理論的研究	平成27年10月	日本コンピュータ化学会2015秋季年会	須田 岬, 林 浩輔, 高山 淳, 坂本 武史, 寺前 裕之
26	2-アザスピロ環化合物における閉環反応の理論的研究	平成27年10月	日本コンピュータ化学会2015秋季年会	寺前 裕之, 須田 岬, 湯川 満, 林 浩輔, 高山 淳, 坂本 武史
27	反復拘束ストレス負荷ラットにおけるシイタケ醗酵米糠抽出物 (LEF) の睡眠障害軽減効果	平成27年11月	第18回日本補完代替医療学会学術集会	松崎 広和, 大山 将治, 辻 有希, 丸井 若菜, 新井 俊佑, 池田 千尋, 玄 美燕, 日比野 康英, 飯塚 博, 岡崎 真理
28	糖尿病態ラットの虚血性脳障害に対するアスコルビン酸の神経保護効果	平成27年11月	第18回日本補完代替医療学会学術集会	小川 直人, 岩田 直洋, 玄 美燕, 神内 伸也, 松崎 広和, 岡崎 真理, 日比野 康英
29	新規フェルラ酸誘導体FAD012の反復拘束ストレス負荷ラットにおける睡眠障害軽減効果	平成28年 3月	第89回日本薬理学会年会	松崎 広和, 田村 衣里, 玄 美燕, 林 浩輔, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
30	新規フェルラ酸誘導体FAD012は慢性脳低灌流ラットの脳血流を増加し嚔下反射機能低下を改善する	平成28年 3月	第89回日本薬理学会年会	浅野 昂志, 松崎 広和, 玄 美燕, 林 浩輔, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
31	Hamiltonian algorithm and its application to the aromatic oxidative cyclization on N-methoxy-N-prenylbenzamide	平成28年 3月	Computational Chemistry (CC) Symposium of ICCMSE 2016	Teramae H., Hayashi K., Takayama J., Sakamoto T
32	PC12細胞における新規フェルラ酸誘導体FAD024の酸化ストレス障害抑制メカニズムの検討	平成28年 3月	日本薬学会第136年会	玄 美燕, 加藤 洋介, 荒野 舞, 木下 智史, 高山 淳, 坂本 武史, 日比野 康英, 松崎 広和, 岡崎 真理
33	スピロオキシンドール環合成におけるアミド窒素上置換基の影響	平成28年 3月	日本薬学会第136年会	林浩輔, 佐藤尚也, 中島麻有, 島野洋祐, 須田岬, 玄美燕, 高山淳, 寺前裕之, 坂本武史
34	HIV 逆転写酵素阻害剤アルケニルジアリールメタン類におけるエステル等価体の系統的評価	平成28年 3月	日本薬学会第136年会	星絢子, 坂本武史, 高山淳, 玄美燕, 岡崎真理, Tracy L. HARTMAN2, Robert W. BUCKHEIT JR., Christophe PANNECOUQUE, Mark CUSHMAN
35	新規フェルラ酸誘導体のMALDI マトリックスとしての評価とプロテオーム解析への応用	平成28年 3月	日本薬学会第136年会	加藤洋介, 松田千代子, 辻村和博, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史, 広澤成美, 坂本安
36	慢性脳低灌流ラットにおける新規フェルラ酸誘導体FAD012の嚔下反射機能改善メカニズムの検討	平成28年 3月	日本薬学会第136年会	浅野昂志, 松崎広和, 玄美燕, 林浩輔, 坂本武史, 日比野康英, 岡崎真理
37	新規フェルラ酸誘導体の合成とMALDI Matrixへの応用及び評価	平成28年 7月	創薬懇話会 2016 in 蓼科	加藤 洋介, 松田 千代子, 辻村 和博, 玄 美燕, 高山 淳, 岡崎 真理, 坂本 武史, 広澤 成美, 坂本 安

38 スピロオキシインドール環合成におけるアミド窒素の置換基の影響		平成28年 7月	創薬懇話会 2016 in 蓼科	・ 林 浩輔, 佐藤 尚也, 島野 洋祐, 玄 美燕, 高山 淳, 坂本 武史, 須田 岬, 寺前 博之
39 新規フェルラ酸誘導体: PMF解析用Matrixとしての特性の違い及びプロテオーム解析への応用		平成28年 7月	日本プロテオーム学会2016年大会	・ 加藤 洋介, 廣澤 成美, 坂本 武史, 松田 千代子, 辻村 和博, 玄 美燕, 高山 淳, 岡崎 真理, 植村 靖史, 坂本 安
40 新規フェルラ酸誘導体の合成とプロテオーム解析用MALDIマトリックスへの応用		平成28年 9月	第60回日本薬学会関東支部大会	・ 加藤 洋介, 松田 千代子, 辻村 和博, 玄 美燕, 高山 淳, 岡崎 真理, 坂本 武史, 広澤 成美, 坂本 安
41 ベンズアニリド誘導体の酸化的脱芳香化反応におけるアミド窒素の置換基効果		平成28年 9月	第60回日本薬学会関東支部大会	・ 林 浩輔, 佐藤 尚也, 見澤 翼, 島野洋祐, 須田 岬, 玄 美燕, 高山 淳, 寺前 裕之, 坂本 武史
42 チオエステルを有するHIV-1逆転写酵素阻害剤ADAM類の構造最適化の検討		平成28年 9月	第60回日本薬学会関東支部大会	・ 星 絢子, 新井 直樹, 塩賀 美沙紀, 玄 美燕, 高山 淳, 坂本 武史
43 PC12細胞の酸化ストレス障害に対する新規フェルラ酸誘導体FAD024の保護メカニズムの検討		平成28年 9月	第60回日本薬学会関東支部大会	・ 玄 美燕, 木下 智史, 荒野 舞, 加藤 洋介, 高山 淳, 坂本 武史, 松崎 広和, 岡崎 真理
44 Hamiltonian Algorithm Study of Aromatic Oxidative Cyclization on 2-Azaspiro Ring Compounds		平成28年11月	Stereodynamics 2016	・ Hiroyuki Teramae, Kousuke Hayashi, Jun Takayama, and Takeshi Sakamoto
45 HIV逆転写酵素阻害剤ADAM類におけるエステル等価体の系統的評価		平成28年11月	第34回メディシナルケミストリーシンポジウム	・ 絢子, 坂本 武史, 高山 淳, 玄 美燕, 岡崎 真理, Tracy L. Hartman, Robert W. Buckheit, hristophe pannecouque, Mark Cushman
46 酸化的芳香反応を利用した2-アザスピロ [4.5]デカン類の合成		平成29年 3月	日本薬学会第137年会	・ 林 浩輔, 堀田 理帆, 石原 友梨, 須田 岬, 玄 美燕, 高山 淳, 寺前 裕之, 坂本 武史
47 フェルラ酸誘導体FAD012の慢性脳低灌流ラットにおける学習障害軽減効果		平成29年 3月	日本薬学会第137年会	・ 松崎 広和, 清水 杏里, 金本 貴文, 奥平 嵩士, 浅野 昂志, 玄 美燕, 林 浩輔, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
48 慢性脳低灌流ラットにおいてフェルラ酸誘導体FAD012は黒質線条体ドパミン神経系を保護し嚙下反射機能を改善する		平成29年 3月	日本薬学会第137年会	・ 浅野 昂志, 松崎 広和, 岩田 直洋, 林 浩輔, 玄 美燕, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
49 MALDI-TOFMS PMF解析用マトリックスとしてのフェルラ酸誘導体の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会	・ 加藤 洋介, 松田 千代子, 辻村 和博, 玄 美燕, 高山 淳, 岡崎 真理, 坂本 武史, 広澤 成美, 坂本 安
50 CF3置換オキサジアゾールを有するADAM誘導体の合成と抗HIV-1活性の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会	・ 星 絢子, 二本木 奏美, 吉川 千尋, 本山 貴之, 玄 美燕, 高山 淳, 岡崎 真理, 坂本 武史
51 スルホキシド置換アルケニルジアリールメタン類の合成と抗HIV-1活性の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会	・ 武井 貴紀, 林 浩輔, 岩本 悠, 久津間 貴司, 新井 悠太, 星 絢子, 玄 美燕, 高山 淳, 岡崎 真理, 坂本 武史
52 PC12細胞におけるフェルラ酸誘導体FAD012の酸化ストレス障害抑制メカニズムの検討		平成29年 3月	日本薬学会第137年会	・ 玄 美燕, 中村 梨花, 林 浩輔, 加藤 洋介, 高山 淳, 坂本 武史, 松崎 広和, 岡崎 真理
III 学会等および社会における主な活動				

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 山ノ井 孝		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 授業方法の工夫				平成26年 4月～現在に至る		<p>1. 授業の最初に講義内容を説明する。</p> <p>2. 学生が理解できるスピードを心掛けている。</p> <p>3. 演習問題を取り入れて、理解を深めるようにしている。</p> <p>4. 授業の最後に講義内容の総括を話すようにしている。</p> <p>5. 立体有機化学では分子モデルを使用して立体的な感覚がもてるようにしている。</p> <p>わかり易い授業を心掛けて、ゆっくり説明して学生が授業の内容を理解できるようにしている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
1) 授業評価の対応				平成26年 4月～現在に至る		評価の高いことは継続して、評価が低い点は常に見直しをしている。	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
論文							
1 Formation of 1,2-cis- $\alpha$ -Aryl-glycosidic linkages directly from 2-acetamido-2-deoxy-D-glucopyranosyl acetate by the mixed activating system using ytterbium(III) triflate and catalytic boron trifluoride diethyl etherate complex (査読付)		共著	平成26年	Heterocycles vol.88		T. Yamanoi, M. Midorikawa, and Y. Oda	pp. 201～pp. 206
2 Stereocontrolled spirocyclization of exo-glucal derivatives for stereodivergent synthesis of spiro[5.5]ketals (査読付)		共著	平成26年11月	Elsevier Ltd. Tetrahedron Letters vol.55 No. 47		Sho Matsuda, Akihiro Yoshida, Junki Nakagawa, Mikio Watanabe, Yoshiki Oda, Takashi Yamanoi	pp. 6394～pp. 6398
3 Formation of 2-acetamido-2-deoxy-D-glucopyranosidic linkages via glycosidation using a combination of two Lewis acids (査読付)		共著	平成27年	Heterocycles vol.90		Y. Oda, M. Midorikawa, and T. Yamanoi	pp. 198～pp. 215
4 Synthesis, structure, and evaluation of a $\beta$ -cyclodextrin-artificial carbohydrate conjugate for use as a doxorubicin-carrying molecule (査読付)		共著	平成28年	Bioorg. Med. Chem. vol.24		T. Yamanoi, Y. Oda, K. Katsuraya, T. Inazu, K. Hattori	pp. 635～pp. 642
5 Stereoselectivity of D-psicofuranosylation influenced by protecting groups of psicofuranosyl donors (査読付)		共著	平成28年 4月	Heterocycles vol.93		T. Yamanoi, Y. Oda, T. Ishiyama, M. Watanabe	pp. 55～pp. 61
6 Complete NMR assignment of a bisecting hybrid-type oligosaccharide transferred by <i>Mucor hiemalis</i> endo- $\beta$ -N-acetylglucosaminidase (査読付)		共著	平成28年 6月	Elsevier Carbohydrate Research vol.427		T. Yamanoi, Y. Oda, K. Katsuraya, T. Inazu, K. Yamamoto	pp. 60～pp. 65
7 Efficient D-fructopyranosylation method catalyzed by scandium triflate and preparation of new sucrose analogs (査読付)		共著	平成29年	Heterocycles vol.95		T. Yamanoi, T. Saitoh, Y. Oda, N. Misawa, M. Watanabe, J. Ishikawa, and A. Koizumi	pp. 167～pp. 171
8 NMR Determination of concentration-switchable inclusion complex of a $\beta$ -cyclodextrin derivative carrying a benzene group linked to a C,C'-glucopyranoside spacer (査読付)		共著	平成29年10月	Springer J. Incl. Phenom. Macrocycl. Chem. vol.89		T. Yamanoi, Y. Oda, and K. Katsuraya	pp. 189～pp. 197

9 1,2-cis- $\alpha$ -Glucoside formation from a 2-benzoyloxycarbonylamino-2-deoxy- $\alpha$ -D-glucopyranosyl acetate derivative by an activating system that used a combination of ytterbium(III) triflate and a catalytic boron trifluoride diethyl etherate complex (査読付)	共著	平成29年11月	Heterocycles vol.94	T. Yamanoi, Y. Oda, K. Fujita, and A. Koizumi	pp.2031~pp.2037
10 Separation of the $\alpha$ - and $\beta$ -Anomers of Carbohydrates by Diffusion-Ordered NMR Spectroscopy (査読付)	共著	平成29年11月	MDPI Magnetochemistry vol.3	T. Yamanoi, Y. Oda, K. Katsuraya	pp.38~pp.43
11 A Synthetic Approach to Derive exo-Glucal Derivatives Through the Reaction of $\alpha$ 1-C-Vinylated Glucopyranose Derivative with Phenols (査読付)	共著	平成30年 9月	日本複素環化学研究所 Heterocycles vol.97	Takashi Yamanoi, Sho Matsuda, Junki Nakgawa, Mikio Watanabe, Yoshiki Oda, Akihiro Yoshida	pp.170~pp.177
12 Use and Recyclability of Scandium Tris[bis(perfluorooctylsulfonyl) amide] As A Lewis Acid Promoter for Glycosidation Reactions (査読付)	共著	平成30年12月	Bentham Science Publisher Letters in Organic Chemistry vol.15 No.12	Takashi Yamanoi, Ryo Inoue, Yoshiki Oda, Akihiro Yoshida	pp.1050~pp.1053
その他					
1 SSAレクチンのシアロ糖鎖に対する認識特異性の解明		平成26年 8月	第33回日本糖質学会年会名古屋大学豊田講堂	山ノ井孝, 鬻谷 要, 石村敬久, 吉田 孝	
2 ベンジル化C- $\alpha$ -グルコピラノシド修飾 $\beta$ -シクロデキストリンのドキソルピシン包接特性とその構造		平成26年 9月	第30回シクロデキストリンシンポジウム 島根県民会館	山ノ井孝, 小田慶喜, 鬻谷 要, 服部憲治郎	
3 $\alpha$ -GlcNAc結合ステロイド誘導体の合成と、そのピロリ菌に対する増殖阻害活性作用		平成27年 7月~平成27年 8月	第34回日本糖質学会年会 東京大学	山ノ井孝, 小田慶喜, 中山 淳	
4 D-フルクトピラノシル化反応の開発と利用		平成28年 3月	日本薬学会第136年年会	石川 順子, 小泉 晶彦, 山ノ井孝	
5 エストラジオールを用いた $\alpha$ -GlcNAc 誘導体の合成と、そのピロリ菌に対する増殖阻害活性作用		平成28年 3月	日本薬学会第136年年会 パシフィコ横浜	蓮見 悠介, 小泉 晶彦, 中山 淳, 山ノ井 孝	
6 ドキソルピシン輸送キャリア分子としてのC- $\alpha$ -グルコシド結合型 $\beta$ -シクロデキストリン誘導体の合成、構造解析と評価		平成28年 3月	日本薬学会第136年年会 パシフィコ横浜	山ノ井 孝, 小田 慶喜, 鬻谷 要, 服部 憲治郎	
7 D-ブシコフラノシル化反応における糖供与体の保護基が及ぼす立体選択性		平成28年 9月	第35回日本糖質学会年会 高知文化プラザ	山ノ井 孝	
8 C- $\alpha$ -グリコシド結合型 $\beta$ -シクロデキストリンとそのドキソルピシン包接体のNMR構造解析から推定される分子の動的包接挙動		平成28年 9月	第33回シクロデキストリンシンポジウム かがわ国際会議場	鬻谷 要, 小田慶喜, 山ノ井孝	
9 濃度によって包接挙動を変えるC- $\alpha$ -グリコシド結合型 $\beta$ -シクロデキストリンのNMR構造解析		平成28年 9月	第33回シクロデキストリンシンポジウム かがわ国際会議場	山ノ井孝, 小田慶喜, 鬻谷 要	
10 Endo-M酵素を用いたグルコース七残基分岐 $\beta$ -CyDへのN-結合型糖 鎖の集積化		平成29年 7月	第36回日本糖質学会年会 旭川	苔米地 祐輔, 中川 純樹, 渡邊 幹夫, 小田 慶喜, 山本 憲二, 山ノ井 孝	
11 糖鎖抗原を用いた迅速な寄生虫感染診断法の開発		平成29年 7月	第36回日本糖質学会年会 旭川	小泉 晶彦, 三田村 織絵, 山ノ井 孝	
12 インフルエンザウイルス捕獲機能を有する糖鎖多分岐シクロデキストリン誘導体の合成研究		平成29年 8月~平成29年 9月	第34回シクロデキストリンシンポジウム 名古屋	山ノ井孝, 小田慶喜, 苔米地祐輔, 中川純樹, 渡邊幹夫, 山本憲二	
13 Synthesis of $\beta$ -cyclodextrin derivatives multivalently conjugated with carbohydrate moieties through click chemistry reaction		平成30年 4月	The 19th International Cyclodextrin Symposium 東京	Y. Oda, J. Nakagawa, M. Watanabe, T. Yamanoi	
14 糖鎖抗原を用いた迅速な多包虫症診断法の開発		平成30年 8月	第37回糖質学会	小泉 晶彦, 安保 秀美, 山ノ井 孝	
15 シクロデキストリンによるドキソルピシン会合構造体のNMR解析		平成30年 9月	第35回シクロデキストリンシンポジウム 甲府	鬻谷 要, 小田慶喜, 山ノ井孝	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。  
① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 岡崎 真理		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) 医療薬学 最新薬理学				平成29年 4月～現在に至る		執筆分担	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
1 医療薬学 最新薬理学 第10版 長友 孝文, 篠塚 和正, 荻原 政彦, 武田 弘志 編		共著	平成28年	廣川書店	岡崎 真理, 荻原 政彦, 尾崎 昌宣, 川原 浩一, 木村 光利 他		
論文							
1 2型糖尿病マウスの肝臓における霊芝菌糸体培養培地抽出物 (WER) の糖質代謝に与える影響 (査読付)		共著	平成26年	日本補完代替医療学雑誌 第11巻	神内 伸也, 新藤 由梨, 内海 有香, 岩田 直洋, 岡崎 真理, 鈴木 史子, 飯塚 博, 浅野 哲, 松崎 広和, 日比野 康英		57頁～66頁
2 Orally administrated ascorbic acid suppresses neuronal damage and modifies expression of SVCT2 and GLUT1 in the brain of diabetic rats with cerebral ischemia-reperfusion. (査読付)		共著	平成26年	Nutrients vol.6	Iwata N, Okazaki M, Xuan M, Kamiuchi S, Matsuzaki H, Hibino Y		pp.1554～pp.1577
3 Matrin 3 Augments the Transcriptional Activity of an SV40 Promoter-Mediated Luciferase Gene with a Highly Repetitive DNA Component (査読付)		共著	平成26年	Journal of molecular and genetic medicine vol.8	Shinya Kamiuchi, Mutsumi Fukaya, Tatsuhiro Usui, Naohiro Iwata, Mari Okazaki, Hirokazu Matsuzaki, Katsuyoshi Sunaga, Yasuhide Hibino		pp.146
4 霊芝菌糸体培養培地抽出物のラット骨格筋培養細胞におけるGLUT4膜移行促進作用 (査読付)		共著	平成27年	日本補完代替医療学雑誌 第12巻	神内 伸也, 西川 祐未, 岡邑 香里, 岩田 直洋, 臼井 達洋, 岡崎 真理, 松崎 広和, 宮野 義之, 飯塚 博, 浅野 哲, 日比野 康英		19頁～27頁
5 Chronic Treatment with a Water-Soluble Extract from the Culture Medium of Ganoderma lucidum Mycelia Prevents Apoptosis and Necroptosis in Hypoxia/Ischemia-Induced Injury of Type 2 Diabetic Mouse Brain (査読付)		共著	平成27年	Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine vol.2015	Meiyan Xuan, Mari Okazaki, Naohiro Iwata, Satoshi Asano, Shinya Kamiuchi, Hirokazu Matsuzaki, Takeshi Sakamoto, Yoshiyuki Miyano, Hiroshi Iizuka, Yasuhide Hibino		pp.16
6 Early release of HMGB1 may aggravate neuronal damage after transient focal ischemia in diabetic rat brain. (査読付)		共著	平成27年	International Journal of Diabetes and Clinical Research vol.2	Iwata N., Okazaki M., Kamiuchi S., Xuan M., Matsuzaki H., Sakamoto T., Hibino Y.		pp.021
7 Effects of etanercept against transient cerebral ischemia in diabetic rats. (査読付)		共著	平成27年	BioMed Research International vol.2015	Iwata N., Takayama H., Xuan M., Kamiuchi S., Matsuzaki H., Okazaki M., Hibino Y.		pp.189292
8 Fatty acid $\beta$ -oxidation plays a key role in regulating cis-palmitoleic acid levels in the liver. (査読付)		共著	平成28年	Biol. Pharm. Bull. vol.39	Kawabata K., Karahashi M., Sakamoto T., Tsuji Y., Yamazaki T., Okazaki M., Mitsumoto A., Kudo N., Kawashima Y.		pp.1995～pp.2008
9 Systematic evaluation of methyl ester bioisosteres in the context of developing alkenyldiarylmethanes (ADAMs) as non-nucleoside reverse transcriptase inhibitors (NNRTIs) for anti-HIV-1 chemotherapy. (査読付)		共著	平成28年	Bioorg. Med. Chem. vol.24 No.13	Hoshi A., Sakamoto T., Takayama J., Xuan M., Okazaki M., Hartman TL., Buckheit RW Jr., Pannecoque C., Cushman M.		pp.3006～pp.3022
10 椎茸菌糸体培養培地抽出物 (LEM) の神経保護作用 (査読付)		共著	平成28年 4月	New Food Industry 第58巻 第4号	堀内 重紀, 岡崎 真理, 岩田 直洋, 神内 伸也, 浅野 哲, 飯塚 博, 日比野 康英		1頁～10頁

11 霊芝菌糸体培養培地抽出物の2型糖尿病マウス肝臓の脂質代謝に与える影響 (査読付)	共著	平成28年10月	New Food Industry 第58巻第10号	神内 伸也, 新藤 由梨, 岩田 直洋, 岡崎 真理, 浅野 哲, 飯塚 博, 日比野 康英	5頁~12頁
12 Protective effects of ferulic acid against chronic cerebral hypoperfusion-induced swallowing dysfunction in rats. (査読付)	共著	平成29年	International Journal of Molecular Sciences vol.18	Asano T., Matsuzaki H., Iwata N., Xuan M., Kamiuchi S., Hibino Y., Sakamoto T., Okazaki M.	pp. 550
13 Perfluorododecanoic acid induces cognitive deficit in adult rats. (査読付)	共著	平成29年 6月	Toxicol. Sci. vol.157 No.2		pp.421~pp.428
14 フェルラ酸のフリーラジカル消去能に関する理論的研究 (査読付)	共著	平成30年	Journal of Computer Chemistry 第17巻 第3号	寺前 裕之, 玄 美燕, 山下 司, 高山 淳, 岡崎 真理, 坂本 武史	150頁~152頁
その他					
1 Protective effects of a water-soluble extract from culture medium of Ganoderma lucidum mycelia. Noboru Motohashi (series editor): Occurrences, Structure, Biosynthesis, and Health Benefits Based on Their Evidences of Medicinal Phytochemicals in Vegetables and Fruits (査読付)	共著	平成27年	Nova Science Publishers Noboru Motohashi (series editor): Occurrences, Structure, Biosynthesis, and Health Benefits Based on Their Evidences of Medicinal Phytochemicals in Vegetables and Fruits vol.5	Iwata N., Okazaki M., Hibino Y.	
2 Neuroprotective effects of a water-soluble extract from the culture mediums of Lentinus edodes and Ganoderma lucidum mycelia: Possible mechanism of the reduction of endoplasmic reticulum stress through antioxidation (査読付)	共著	平成29年	Nova Science Publishers Noboru Motohashi (series editor): Occurrences, Structure, Biosynthesis, and Health Benefits Based on Their Evidences of Medicinal Phytochemicals in Vegetables and Fruits vol.8	Meiyan Xuan, Naohiro Iwata, Mari Okazaki, Yasuhide Hibino	pp.125~pp.153
3 霊芝菌糸体培養培地抽出物 (MAK) の虚血性脳障害の軽減メカニズム (査読付)	共著	平成29年	New Food Industry 第59巻第3号	岩田 直洋, 岡崎 真理, 飯塚 博, 日比野 康英	15頁~30頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成26年 3月~現在に至る		日本薬理学会 評議員			
平成27年 2月~現在に至る		日本薬学会 代議員			
平成28年10月~現在に至る		毛呂山町教育委員			

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 教授	氏名 河合 洋	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) 演習の活用		平成29年 4月～現在に至る	学生の主体的学習を促し、学習事項の定着を図るため、毎授業時に演習を実施し、次授業時にフィードバックを与えた。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) 委員会		平成30年 4月～現在に至る	基礎薬学・医療薬学教育委員会、アドバンスト教育委員会の委員として、授業プログラムの企画立案等に参画した。		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
1 Disposition of perfluorododecanoic acid in male rats after an oral administration. (査読付)	共著	平成29年 7月	日本毒性学会 Fundamental Toxicological Sciences vol.4 No.4	Kohei Kawabata, Suzuka Tamaki, Eri Kokubo, Yukari Kobayashi, Tomoya Shinohara, Ayako Sakai, Hiroshi Kawai, Atsushi Mitsumoto, Yoichi Kawashima, Naomi Kudo	pp.179～pp.186
2 Effects of essential oil inhalation on objective and subjective sleep quality in healthy university students (査読付)	共著	平成30年 1月	日本睡眠学会 Sleep and Biological Rhythms vol.16 No.1	Hiroshi Kawai, Saki Tanaka, Chika Nakamura, Takuya Ishibashi, Atsushi Mitsumoto	pp.37～pp.44
3 Chronopharmacological analysis of antidepressant activity of a dual-action serotonin noradrenaline reuptake inhibitor (SNRI), milnacipran, in rats (査読付)	共著	平成30年 2月	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.41 No.2	Hiroshi Kawai, Megumi Machida, Takuya Ishibashi, Naomi Kudo, Yoichi Kawashima, Atsushi Mitsumoto	pp.213～pp.219
4 Short and long photoperiods differentially exacerbate corticosterone-induced physical and psychological symptoms in mice (査読付)	共著	平成30年 2月	Biomedical Research Press Biomedical Research (Tokyo) vol.39 No.1	Hiroshi Kawai, Jin Inabe, Takuya Ishibashi, Naomi Kudo, Yoichi Kawashima, Atsushi Mitsumoto	pp.47～pp.55
5 Time of administration of acute or chronic doses of imipramine affects its antidepressant action in rats (査読付)	共著	平成30年 5月	Ubiquity Press Journal of Circadian Rhythms vol.16 No.1	Hiroshi Kawai, Natsumi Kodaira, Chika Tanaka, Takuya Ishibashi, Naomi Kudo, Yoichi Kawashima, Atsushi Mitsumoto	pp.5
6 Reduction in secretion of very low density lipoprotein-triacylglycerol by a matrix metalloproteinase inhibitor in a rat model of diet-induced hypertriglyceridemia (査読付)	共著	平成30年 7月	The American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics vol.366 No.1	Yoichi Kawashima, Yoshihiro Eguchi, Tohru Yamazaki, Minako Karahashi, Hiroshi Kawai, Naomi Kudo	pp.194～pp.204
その他					
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。  
 ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。  
 ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。  
 ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。  
 ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 畑中 朋美		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) WebClassを用いた資料配布				平成29年 4月～現在に至る		事前に授業内容に関する資料をWebClassを用いて配布し、予習を促している。	
2) WebClassによる課題評価				平成29年 4月～現在に至る		WebClass上で単元ごとに課題を提示し、提出された内容の評価を成績に10%の割合で組み込んでいる。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
1 Skin Permeation and Disposition of Therapeutic and Cosmeceutical Compounds.		共著	平成29年	Springer Japan	Sugibayashi K, Hatanaka T et al.		担当部分: Skin metabolism of chemicals
2 Skin Permeation and Disposition of Therapeutic and Cosmeceutical Compounds.		共著	平成29年	Springer Japan	Sugibayashi K, Hatanaka T et al.		担当部分: Systemic absorption of chemicals and its kinetics
論文							
1 Estimation of skin concentration at each depth profile of topically applied lidocaine. (査読付)		共著	平成26年	International journal of pharmaceutics vol.475 No.1-2	Oshizaka T, Kikuchi K, Kadhum WR, Todo H, Hatanaka T, Wierzbza K, Sugibayashi K		pp.292～pp.297
2 Potential of imaging analysis on the establishing skin concentration-distance profile of topically applied FITC-dextran 4 kDa. (査読付)		共著	平成26年10月	ADMET and DMPK vol.2 No.4	Kijima S, Masaki R, Kadhum WR, Todo H, Hatanaka H, Sugibayashi K		pp.221～pp.234
3 シックハウス症候群原因物質の経皮吸収に及ぼすNTE活性の影響. (査読付)		共著	平成27年	臨床環境医学. 第24巻 第2号	畑中朋美, 荻野瑛里奈, 山村勇貴, 本杉奈美, 竹内絵理, 坂部貢, 杉野雅浩, 従二和彦, 木村稜		88頁～93頁
4 Calibration of infrared video-oculography by using bioadhesive phosphorescent particles for accurate measurement of vestibulo-ocular reflex in mice. (査読付)		共著	平成27年10月	Journal of advanced science vol.27 No.3-4	Katoh A, Hatanaka T, Takeuchi E, Uchida U, Natsume H		pp.11～pp.16
5 In silico estimation of skin concentration following the dermal exposure to chemicals. (査読付)		共著	平成27年12月	Pharmaceutical research vol.32 No.12	Hatanaka T, Yoshida S, Kadhum WR, Todo H, Sugibayashi K		pp.3965～pp.3974
6 Preparation of bioadhesive phosphorescent particles and their use as makers for video-oculography. (査読付)		共著	平成28年 1月	Tokai journal of experimental and clinical medicine vol.41 No.1	Hatanaka T, Takeuchi E, Katoh A, Yamaki T, Uchida M, Natsume M		pp.46～pp.53
7 Human growth hormone (rhGH): Effects of the concentration and molecular weight of poly-L-arginine on the nasal absorption of rhGH in rats. (査読付)		共著	平成28年 3月	Biological & pharmaceutical bulletin vol.39 No.3	Kawashima R, Uchida M, Yamaki T, Ohtake K, Hatanaka T, Uchida H, Ueda H, Kobayashi J, Morimoto Y, Natsume H		pp.329～pp.335
8 In silico estimation of skin concentration of dermally metabolized chemicals: influence of enzyme distribution and plasma clearance. (査読付)		共著	平成29年	International Journal of Pharmaceutical Sciences and Development Research vol.3 No.1	Hatanaka T, Yamamoto S, Kamei M, Kadhum WR, Todo H, Sugibayashi K		pp.7～pp.16
9 Safety evaluation of topically exposed phthalates: metabolic rate dependent percutaneous absorption. (査読付)		共著	平成29年	Toxicology and applied pharmacology vol.328	Sugino M, Hatanaka T, Todo H, Mashimo Y, Suzuki T, Nagayama M, Hosoya O, Jinno H, Juni K, Sugibayashi K		pp.10～pp.17

10 Preparation and evaluation of PEGylated poly-L-ornithine complex as a novel absorption enhancer. (査読付)	共著	平成29年 2月	Biological & pharmaceutical bulletin vol.40 No.2	Kamiya Y, Yamaki T, Uchida M, <u>Hatanaka T</u> , Kimura M, Ogiwara M, Morimoto Y, Natsume H	pp.205～ pp.211
11 Identification of galectin-2-mucin interaction and possible formation of a high molecular weight lattice.	共著	平成29年10月	Biological & pharmaceutical bulletin vol.40 No.10	Tamura M, Sato D, Nakaijima M, Saito M, Sasaki T, Tanaka T, <u>Hatanaka T</u> , Takeuchi T, Arata Y	pp.1789～ pp.1795
12 Alopecia areata susceptibility variant identified by MHC risk haplotype sequencing reproduces symptomatic patched hair loss in mice.	共著	平成30年 4月	PNAS Plus	Oka A, Takagi A, Komiyama E, Mano S, Hosomichi K, Suzuki S, Motosugi N, <u>Hatanaka T</u> , Kimura M, Takahashi Ueda M, Nakagawa S, Miura H, Ohtsuka M, Haida Y, Tanaka M, Komiyama T, Otomo A, Hadano S, Mabuchi T, Beck S, Inoko H, Ikeda S.	
13 Structural mechanisms for the S-nitrosylation-derived protection of mouse galectin-2 from oxidation-induced inactivation revealed by NMR. (査読付)	共著	平成30年 6月	The FEBS journal vol.285 No.6	61) Sakakura M, Tamura M, Takeuchi T, <u>Hatanaka T</u> , Arata Y, Takahashi H	pp.1129～ pp.1145
その他					
1 易代謝性薬物の皮膚中濃度評価における酵素カクテルの開発に関する研究		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	亀井真由美、R. Kadhum WESAM、藤堂浩明、 <u>畑中朋美</u> 、杉林堅次	
2 角膜付着能を有する畜光顔料微粒子の調製及び機能評価		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	木村拓也、内田昌希、八巻 努、 <u>畑中朋美</u> 、加藤 明、夏目秀視	
3 Development of oral cosmetics to protect against UV damage		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	R. Wesam KADHUM、藤堂浩明、 <u>畑中朋美</u> 、杉林堅次	
4 易代謝性薬物の皮膚中濃度評価における酵素カクテルの開発に関する研究		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	中里優花、亀井真由美、Wesam R. Kadhum、藤堂浩明、 <u>畑中朋美</u> 、杉林堅次	
5 画像解析による物質の皮膚中濃度評価法の確立		平成26年 6月	第39回日本化粧品学会 東京	喜島小翔、正木涼介、Wesam R. Kadhum、藤堂浩明、 <u>畑中朋美</u> 、杉林堅次	
6 前庭動眼反射の測定を目的とした眼球付着性畜光顔料マーカーの開発と評価		平成26年 7月	東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tμne) 第3回学術講演会 平塚	<u>畑中朋美</u> 、横溝貴美子、高橋祐佳、竹内絵理、加藤 明、内田昌希、夏目秀視	
7 Rac-GAP α-chimaerin 欠損マウスはピロカルピン低感受性を示す		平成26年 9月	第37回日本神経科学大会 横浜	竹内絵理、 <u>畑中朋美</u> 、笹川恵梨奈、岩里琢治、糸原重美、加藤明	
8 シックハウス症候群原因物質の経皮吸収に及ぼすNTE活性の影響		平成26年11月	第6回経皮投与製剤FGシンポジウム 東京	<u>畑中朋美</u>	
9 Decreased susceptibility to pilocarpine in Rac-GAP α-chimaerin deficient mice		平成26年11月	Neuroscience 2014 Washington DC	Katoh, A., Takeuchi, E., <u>Hatanaka, T.</u> , Sasagawa, E., Iwasato T., Itohara S	
10 前庭動眼反射の測定を目的とした眼球付着性畜光顔料マーカーの開発		平成26年11月	第36回日本バイオマテリアル学会大会 東京	内田昌希、宗像彩香、木村拓也、八巻 努、 <u>畑中朋美</u> 、横溝貴美子、高橋祐佳、竹内絵理、加藤明、夏目秀視	
11 シックハウス症候群原因物質の経皮吸収に及ぼすNTE活性の影響		平成27年 2月	東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tμne) 第4回学術講演会 平塚	<u>畑中朋美</u> 、荻野瑛里奈、山村勇貴、本杉奈美、竹内絵理、杉野雅浩、從二和彦、木村 穰	
12 ドラッグデリバリーシステム⑤ 吸収改善.	共著	平成27年 4月	日本防塵防黴学会誌 第43巻 第4号	<u>畑中朋美</u> 、杉林堅次	209頁～215頁
13 神経障害標的エステラーゼ遺伝子発現マウスの特性と有機リンの影響		平成27年 5月	第62回実験動物学会 京都	本杉奈美、山村勇貴、三浦浩美、大塚正人、大久保朋一、吉野美千代、田中正史、 <u>畑中朋美</u> 、坂部貢、木村 穰	
14 シックハウス症候群原因物質の経皮吸収に及ぼすNTE活性の影響		平成27年 6月	第24回日本臨床環境医学会学術集会 東京	<u>畑中朋美</u> 、荻野瑛里奈、山村勇貴、本杉奈美、竹内絵理、坂部貢、杉野雅浩、從二和彦、木村 穰	
15 生体適合性ナノシートを用いた新規皮膚適用剤の開発と評価		平成27年 7月	第31回日本DDS学会学術集会 東京	齋藤亨徳、カダムウィサム、藤堂浩明、杉林堅次、小町卓也、岡村陽介、 <u>畑中朋美</u>	

16 生体適合性ナノシートを用いた皮膚適用ステロイド製剤の開発		平成27年 8月	東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T $\mu$ ne) 第5回学術講演会 伊勢原	畑中朋美、齋藤享徳、Wesam R. Kadhum、藤堂浩明、杉林堅次、小町卓也、岡村陽介、木村 穰	
17 シックハウス症候群におけるNTEの役割に関する研究—フタル酸エステルの経皮吸収に及ぼす影響II		平成27年12月	第38回日本分子生物学会年会第88回日本生化学会大会合同大会 神戸	杉野雅浩、畑中朋美、荻野瑛里奈、從二和彦、青山謙一、内堀雅博、太田嘉英、今川孝太郎、宮坂宗男、坂部貢、木村穰	
18 シックハウス症候群におけるNTEの役割に関する研究—フタル酸エステルの経皮吸収に及ぼす影響I		平成27年12月	第38回日本分子生物学会年会第88回日本生化学会大会合同大会 神戸	畑中朋美、荻野瑛里奈、本杉奈美、竹内絵理、坂部貢、杉野雅浩、從二和彦、木村穰	
19 PNPLA6遺伝子の脳における機能—有機リン被爆との関連から	共著	平成28年	平成27年度新潟大学脳研究所「脳神経病理標本資源活用」の先端的共同研究拠点」共同利用・共同研究報告書	木村 穰、笹岡俊邦、畑中朋美、	437頁～439頁
20 皮膚に適用した易代謝性エステル化合物の皮膚中濃度評価を目的とした酵素カクテルの開発		平成28年 3月	日本薬学会第136回年会 横浜	中里優花、井上貴暁、Wesam R. Kadhum、藤堂浩明、畑中朋美、杉林堅次	
21 ヒトおよびヘアレスラットに局所適用したエステル化合物の皮膚中代謝挙動の種差に関する研究		平成28年 5月	日本薬剤学会第31回年会 岐阜	井上貴暁、中里優花、Wesam R. Kadhum、藤堂浩明、畑中朋美、杉林堅次	
22 ヒトにおけるフタル酸エステルの経皮吸収から見たシックハウス症候群について		平成28年 6月	第25回日本臨床環境医学会学術集会 郡山	畑中朋美、杉野雅浩、從二和彦、内堀雅博、太田嘉英、今川孝太郎、赤松正、宮坂宗男、坂部貢、木村穰	
23 水溶性薬物含有ナノシートを用いた新規皮膚適用製剤の開発と評価		平成28年 6月～平成28年 7月	第32回日本DDS学会学術集会 静岡	福島孝昌、齋藤享徳、Wesam R. Kadhum、藤堂浩明、杉林堅次、岡村陽介、畑中朋美	
24 The role of corticotropinreleasing factor on motor learning.		平成28年 7月	10th FENS Forum 2016 Copenhagen	Eri TAKEUCHI, Tomomi HATANAKA, Akira KATOH, Minoru KIMURA	
25 生体適合性高吸着ナノ材料を用いた体内動態制御型美白製剤の研究開発		平成28年 9月	2016年度東海大学研究交流会 平塚	畑中朋美	
26 ヒト皮膚におけるエステル化合物の経皮吸収挙動—carboxylesterase皮膚内代謝の影響		平成28年11月～平成28年12月	第39回日本分子生物学会年会 横浜	畑中朋美、中里優花、井上貴暁、田中 享、藤堂浩明、杉林堅次、内堀雅博、太田嘉英、今川孝太郎、赤松正、宮坂宗男、坂部貢、木村 穰	
27 ヒトNeuropathy Target Esterase遺伝子導入マウスを用いたシックハウス症候群関連物質の生体影響の解析		平成28年11月～平成28年12月	第39回日本分子生物学会年会 横浜	木村 穰、加藤 明、本杉奈美、大久保朋一、畑中朋美、坂部貢、田中正史	
28 有効成分の体内動態を制御する機能性化粧品への生体適合性超薄膜の適用性評価。	共著	平成29年	東海大学先進生命科学研究所紀要 第1巻	木村 穰、畑中朋美	54頁～57頁
29 皮膚適用を目的とした生体適合性ナノシートからの薬物放出制御		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	齋藤 享徳、福島 孝昌、Kadhum W. R.、藤堂 浩明、杉林 堅次、岡村陽介、畑中 朋美	
30 生体適合性ナノシートの新規皮膚適用製剤への応用性評価		平成29年 5月	日本薬剤学会第32回年会 大宮	齋藤享徳、福島孝昌、Wesam R. Kadhum、藤堂浩明、杉林堅次、岡村陽介、畑中朋美	
31 エステル化合物の経皮吸収に寄与する加水分解酵素の組織学的解析		平成29年 5月	日本薬剤学会第32回年会 大宮	井上貴暁、中里優花、太田嘉英、赤松正、宮坂宗男、木村穰、Wesam R. Kadhum、田中享、藤堂浩明、杉林堅次、畑中朋美	
32 エステル化合物の経皮吸収におけるcarboxylesteraseの役割—シックハウス症候群との関連性—		平成29年 6月	第26回日本臨床環境医学会学術集会 東京	畑中朋美、井上貴暁、田中 享、藤堂浩明、杉林堅次、内堀雅博、青山謙一、太田嘉英、今川孝太郎、赤松 正、宮坂宗男、坂部貢、木村 穰	
33 経鼻吸収剤への応用を指向したフェノバルビタール内包ディスク状粒子の創製と接着・放出特性		平成29年 7月	第33回日本DDS学会学術集会 京都	長島和希、中川 篤、畑中朋美、小沢春香、金丸達哉、内田昌希、夏目秀規、岡村陽介	
34 水溶性薬物含有ナノシートを用いた新規皮膚適用製剤の開発と評価		平成29年 7月	第33回日本DDS学会学術集会 京都	福島孝昌、齋藤享徳、Wesam R. Kadhum、藤堂浩明、杉林堅次、岡村陽介、畑中朋美	
35 ガレクタン-2のGalactose $\beta$ 1-4Fucoaseエピソードとの相互作用とその線虫傷害活性		平成29年 7月	第36回日本糖質学会 旭川	武内智春、田村真由美、畑中朋美、荒田洋一郎	

36 Analysis of possible role of S-nitrosylation in galectin-2 protein function.		平成29年 8月～平成29年 9月	24th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON GLYCOCONJUGATES Jeju	Mayumi Tamura, Tomoharu Takeuchi, Tomomi Hatanaka, Kazuo Ohtake, Hiroaki Tateno, Jun Hirabayashi, Jun Kobayashi, Yoichiro Arata
37 ガレクチン-2の酸化失活からの防御に関与するS-ニトロソ化部位の解析		平成29年12月	2017年度生命科学系学会合同年次大会 神戸	田村真由美、佐々木啓晴、武内智春、畑中朋美、大竹一男、館野浩章、平林淳、小林順、荒田洋一郎
38 ガレクチン-2とムチンによる高分子量架橋産物形成の確認		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	佐々木啓晴、田村真由美、佐藤大、中嶋萌子、齊藤雅徳、田中享、畑中朋美、武内智春、荒田洋一郎
39 マウスガレクチン-1C2S変異体の添加がRAW264細胞の破骨細胞への分化を抑制する		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	権田力也、曾我有輝、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎、畑中朋美
40 O-GlcNAcase特異的阻害剤Thiamet GがRAW264細胞の破骨細胞への分化を抑制する		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	高橋果歩、坂本遥菜、柳平真菜、笠原静夏、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎、畑中朋美
41 バイセクティングGlcNAcに結合するPHA-E4がRAW264細胞の破骨細胞への分化を抑制する		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	日比野沙紀、小林佑一郎、今里奈央、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎、畑中朋美
42 水溶性薬物含有ナノシートを用いた新規皮膚適用剤の開発と評価		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	福島孝昌、齋藤享徳、Wesam R. Kadhum、藤堂浩明、畑中朋美、杉林堅次、岡村陽介
43 紫外線吸収能を有した層状超薄膜の創製と色素性乾皮症への適応		平成30年 5月～平成30年 6月	日本薬剤学会第33年会 静岡	瀧本駿、Raphai Khampeeraphan、本杉奈美、阿部如子、竹下秀、岡村陽介、木村穰、畑中朋美
44 経鼻投与を指向したフェノバルビタール内包生分解性粒子の創製と機能評価		平成30年 6月	第34回日本DDS学会学術集会 長崎	長島和希、中川篤、畑中朋美、小沢春香、金丸達哉、内田昌希、夏目秀視、岡村陽介
45 ラットガレクチン-2の弱酸性条件における糖鎖結合特性の解析		平成30年 6月	平成30年度日本生化学会関東支部例会 さいたま	齋藤佳那、田村真由美、佐々木啓晴、武内智春、荒田洋一郎、畑中朋美
46 マウスマクロファージ様細胞株RAW264細胞のRANKL依存的な破骨細胞様細胞への分化がO-GlcNAcase特異的阻害剤Thiamet Gにより抑制される		平成30年 6月	平成30年度日本生化学会関東支部例会 さいたま	高橋果歩、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎、畑中朋美
47 ガレクチン-1とガレクチン-3の熱安定性の比較		平成30年 6月	平成30年度日本生化学会関東支部例会 さいたま	中村沙綾、田村真由美、佐々木啓晴、武内智春、荒田洋一郎、畑中朋美
48 色素性乾皮症患者のQOL改善を目的とした紫外線吸収ナノシート製剤の創製		平成30年 7月	第27回日本臨床環境医学会学術集会 津	畑中朋美、Khampeeraphan Raphai、瀧本駿、本杉奈美、阿部如子、竹下秀、岡村陽介、木村穰
49 ガレクチン-2の酸化失活からの防御に関与するS-ニトロソ化部位の同定		平成30年 8月	第37回日本糖質学会 仙台	田村真由美、藤井智彦、坂倉正義、武内智春、畑中朋美、高橋栄夫、岸本成、洋一郎
50 ガレクチン-2が線虫に与える影響		平成30年 8月	第37回日本糖質学会 仙台	武内智春、田村真由美、石渡賢治、濱崎めぐみ、濱野真二郎、荒田洋一、畑中朋美
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				
平成30年 5月～現在に至る		日本薬剤学会 代議員		
平成30年 9月～現在に至る		埼玉県薬物指定審査委員会 委員長		

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 教授	氏名 金本 郁男	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
<b>I 教育活動</b>					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) 薬物治療学の講義の工夫		平成20年10月～現在に至る	教科書に記載されている内容だけでは学生の記憶に残らないので、できるだけ現場でのエピソードを話すことによって疾患そのものや治療薬が印象に残るように講義する。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
1) 薬の正しい使い方		平成30年 4月～平成30年11月	城西健康市民大学において、薬学部4年生が中心となり健康市民大学の学生から薬について関心のあること、知りたいことのアンケートをとり、その結果を反映させた薬の話をして学生が講師となって3時間の発表と質疑応答を行った。この講演は、コミュニケーション体験演習の授業の一環として実施した。		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) 薬学科アドバンス教育委員会		平成27年 9月～現在に至る	将来、薬剤師として必要な薬学全般の知識向上を修得してもらうため、自学自修、講義、PC演習を計画的に実施した。		
2) 糖尿病患者への薬剤師としての積極的治療介入		平成28年10月	足立区薬剤師会主催の講演会において、開局薬剤師を対象に糖尿病患者に生かせる食事療法について講演した。		
3) 平成29年度 城西大学地域連携活動報告会		平成29年 7月	城西大学における地域連携活動の現況について、広く情報共有し今後の教育や地域活動の向上について、組織的に取り組むことを目的に報告会を実施した。5つのプロジェクトについて発表していただき質疑応答することによって理解を深めることができた。		
<b>II 研究活動</b>					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<b>著書</b>					
1 朝食のとり方で病気になる太らない	共著	平成26年 4月	文化出版局	金本 郁男, 藤井 恵	
2 ごはん好きでも必ず痩せられる! 炭水化物の新常識	監修書	平成26年 6月	永岡書店	金本 郁男, 大和田 潔	
3 低糖質でやせる! もっと健康!	監修書	平成29年 5月	宝島社	金本郁男	
4 マンガでわかる ゆるい低糖質ダイエット	共著	平成29年12月	池田書店	金本郁男, 柳澤英子	
<b>論文</b>					
1 Examination of intermolecular interaction as a result of cogrinding actarit and $\beta$ -cyclodextrin (査読付)	共著	平成26年	J. Incl. Phenom. Macro. vol.78	Yutaka Inoue, Takashi Yamazoe, Shota Watanabe, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.457～pp.464
2 医師調剤医療施設と保険薬局における備蓄医薬品の調査 (査読付)	共著	平成26年	社会薬学 vol.33	井上裕, 森田夕貴, 齊藤麗美, 天野留美子, 沼尻幸彦, 金本郁男, 杉林聖次	pp.30～pp.35
3 Study of Complex Formation of Carbamazepine with Thiourea (査読付)	共著	平成26年	Chem. Pharm. Bull. vol.62	Yutaka Inoue, Sayuri Sato, Chisa Yamamoto, Mikio Yamasaki, Ikuo Kanamoto	pp.1125～pp.1130
4 Study of Complex Formation of Carbamazepine with Thiourea (査読付)	共著	平成26年11月	The Pharmaceutical Society of Japan Chemical and Pharmaceutical Bulletin vol.62 No.11	Yutaka Inoue, Sayuri Sato, Chisa Yamamoto, Mikio Yamasaki, Ikuo Kanamoto	pp.1125～pp.1130
5 カルバマゼピン錠内包型坐剤の調製及びウサギを用いた院内製剤としての有用性の評価 (査読付)	共著	平成27年	薬学雑誌 第135巻	村田勇, 新井成俊, 福島愛史, 齋藤亜津子, 井上裕, 木村昌行, 金本郁男	1049頁～1055頁
6 Examination of Gelling Agents to Produce Acetaminophen Jelly (査読付)	共著	平成27年	Chem. Pharm. Bull. vol.63	Yutaka Inoue, Yuka Iwazaki, Yoshinori Onuki, Chiaki Funatani, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.519～pp.524

7 Crush syndromeモデルラットにおける dexamethazoneの薬物動態の変化と特徴 (査読付)	共著	平成27年	YAKUGAKU ZASSHI 第135巻	Isamu Murata, Akio Otsuka, Chihiro Hara, Risa Motohashi, Shiho Kouno, Yutaka Inoue, and Ikuo Kanamoto	315頁～322頁
8 Effect of low glycemic index food and postprandial exercise on blood glucose level, oxidative stress and antioxidant capacity (査読付)	共著	平成27年	Exp. Ther. Med. vol.9	Noriaki Kasuya, Shoichiro Ohta, Yoshikazu Takanami, Yukari Kawai, Yutaka Inoue, Isamu Murata and Ikuo Kanamoto	pp.1201～pp.1204
9 Evaluation of actarit/ $\gamma$ -cyclodextrin complex prepared by different methods (査読付)	共著	平成27年	J Incl Phenom Macrocycl Chem vol.81	Yutaka Inoue, Shota Watanabe, Rina Suzuki, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.161～pp.168
10 高齢者の睡眠薬の安全使用における薬剤師介入の必要性 (査読付)	共著	平成27年	薬局薬学 第7巻	井上裕, 岩崎友香, 村田勇, 磯田明宏, 井澤正義, 勅使河原正敏, 金本郁男	36頁～43頁
11 消費者ニーズにあったドリンク剤(栄養ドリンク)ナビプログラムの作成 (査読付)	共著	平成27年	薬局薬学 第7巻	井上裕, 南雲由美, 長瀬まどか, 村田勇, 木村昌行, 金本郁男	15頁～25頁
12 ビロキシカムカプセル剤の剤形変更による物理化学的特性変化の評価 (査読付)	共著	平成27年	薬局薬学 第7巻	井上裕, 船渡俊一, 佐藤彩友里, 村田勇, 金本郁男	26頁～35頁
13 Human sensory testing of loperamide hydrochloride preparations for children to improve their palatability (査読付)	共著	平成27年	World J Pharm Sci vol.3	Yutaka Inoue, Shunichi Funato, Rina Suzuki, Yuki Morita, Isamu Murata and Ikuo Kanamoto	pp.570～pp.579
14 Comparative evaluation of the physicochemical properties of acetaminophen formulations (査読付)	共著	平成27年	World J Pharm Sci vol.3	Yutaka Inoue, Kengo Suzuki, Takashi Ikeda, Yuina Tsunoda, Takahiro Onoda, Mitsuki Sugawara, Yukie Tsuchiya, Mizuki Tsuru, Toshinari Ezawa, Ikuo Kanamoto	pp.1031～pp.1038
15 Effects of the properties of creams on skin penetration (査読付)	共著	平成27年	Int. J. Pharm. vol.5	Yutaka Inoue, Arisa Shimura, Misa Horage, Rikimaru Maeda, Isamu Murata, Masahiro Sugino, Kazuhiko Juni, Ikuo Kanamoto	pp.645～pp.654
16 Effect of $\gamma$ -cyclodextrin derivative complexation on the physicochemical properties and antimicrobial activity of hinokitiol (査読付)	共著	平成27年	J. Incl. Phenom. Macro. vol.83	Rina Suzuki, Yutaka Inoue, Yuina Tsunoda, Isamu Murata, Yasunori Isshiki, Seiichi Kondo, Ikuo Kanamoto	pp.177～pp.186
17 Examination of the physicochemical properties of caffeic acid complexed with $\gamma$ -cyclodextrin (査読付)	共著	平成27年	J. Incl. Phenom. Macro. vol.83	Yutaka Inoue, Kengo Suzuki, Toshinari Ezawa, Isamu Murata, Mami Yokota, Yoshihiro Tokudome, Ikuo Kanamoto	pp.289～pp.298
18 ガバペンチン坐剤の院内製剤化に向けた薬物動態学的パラメータによる特徴づけ (査読付)	共著	平成27年	医療薬学 第14巻	新井成俊, 村田勇, 芦口亜梨奈, 西山大青, 井上裕, 木村昌行, 金本郁男	861頁～869頁
19 Rheological Characteristics of Hinokitiol containing Gels (査読付)	共著	平成28年	World J. Pharm. Res. vol.5	Rina Suzuki, Mizuki Tsuru, Yutaka Inoue, Toru Tanaka, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.18～pp.31
20 Prior or Concomitant Drinking of Vegetable Juice with a Meal Attenuates Postprandial Blood Glucose Elevation in Healthy Young Adults (査読付)	共著	平成28年	Food and Nutrition Sciences vol.7	Noriaki Kasuya, Megumi Okuyama, Kazutaka Yoshida, Satoshi Sunabori, Hiroyuki Suganuma, Isamu Murata, Yutaka Inoue, Ikuo Kanamoto	pp.797～pp.806
21 Early Therapeutic Intervention for Crush Syndrome: Characterization of Intramuscular Administration of Dexamethasone by Pharmacokinetic and Biochemical Parameters in Rats (査読付)	共著	平成28年	Biol Pharm Bull. vol.39	Murata I, Goto M, Komiya M, Motohashi R, Hirata M, Inoue Y, Kanamoto I	pp.1424～pp.1431
22 Changes in the Physicochemical Properties of Piperine/ $\beta$ -Cyclodextrin due to the Formation of Inclusion Complexes (査読付)	共著	平成28年	International Journal of Medicinal Chemistry	Toshinari Ezawa, Yutaka Inoue, Sujimon Tunvichien, Rina Suzuki, Ikuo Kanamoto	pp.1～pp.9
23 Human taste testing and evaluation of the physicochemical properties of fine granules of sodium cromoglycate in commercial drug products (査読付)	共著	平成28年	World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.4	Yutaka Inoue, Toru Iwasaki, Kensuke Suzuki, Sujimon Tunvichien, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.135～pp.142

24 Effects of oxethazaine and gamma-cyclodextrin complex formation on intestinal contractions. (査読付)	共著	平成28年	World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.4	Yutaka Inoue , Rina Suzuki , Misa Horage , Mio Togano , Hajime Moteki , Mitsutoshi Kimura , Masahiko Ogihara , Shigeru Ando , Junko Kikuchi , Isamu Murata , <u>Ikuo Kanamoto</u>	pp.269~ pp.280
25 Effect of cyclodextrin on postprandial blood glucose and triglycerides (査読付)	共著	平成28年	International Journal of Pharmacy vol.6	Mitsuki Sugahara, Yutaka Inoue, Isamu Murata, Daisuke Nakata, Keiji Terao, <u>Ikuo Kanamoto</u>	pp.13~ pp.19
26 o-Crystal characterization of nicotinamide and urea (査読付)	単著	平成28年	International Journal of Pharmacy vol.6		pp.26~ pp.34
27 Low-Dose Sodium Nitrite Fluid Resuscitation Prevents Lethality from Crush Syndrome by Improving Nitric Oxide Consumption and Preventing Myoglobin Cytotoxicity in Kidney in a Rat Model (査読付)	共著	平成29年	Shock vol.48	Murata I, Miyake Y, Takahashi N, Suzuki R, Fujiwara T, Sato Y, Inoe Y, Kobayashi J, Kanamoto I	pp.112~ pp.118
28 Characterization of prescription and OTC formulations of vidarabine cream (査読付)	共著	平成29年	World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.5	Yutaka Inoue, Ryota Shiozawa, Daichi Niiyama, Itsuka Shinohara, Sachie Narumi, Akiho Mitsumori, Nana Komiya, Takafumi Sakurai, Sakura Miki, Rina Suzuki, Ikuo kanamoto	pp.11~ pp.18
29 Study on complexation of ascorbic acid derivatives with $\gamma$ -cyclodextrin (査読付)	共著	平成29年	Int J Pharm vol.7	Yutaka Inoue, Misa Horage, Rina Suzuki, Daichi Niiyama, Ryota Urano, Shigeru Ando, Junko Kikuchi, Isamu Murata, <u>Ikuo Kanamoto</u>	pp.9~pp.21
30 粒度の異なる高 $\beta$ -グルカン大麦含有パンの摂取が食後血糖値に及ぼす影響 (査読付)	共著	平成29年	ルミナコイド研究 第21巻 第1号	金本郁男, 小山智美, 村田 勇, 井上 裕, 神山紀子, 一ノ瀬靖則, 柳沢貴司, 青江誠一郎	19頁~23頁
31 Need for Hospital ward Pharmacists to Confirm Patient's Own Medications (査読付)	共著	平成29年	J. Drug Res. Dev. vol.3 No.2	J. Araki, K. Furuya, D. Kamemura, I. Murata, Y. Inoue, S. Ohshima, <u>I. Kanamoto</u>	
32 Molecular interactions of the inclusion complexes of hinokitiol and various cyclodextrins (査読付)	共著	平成29年	AAPS PharmSciTech vol.18 No.7	R. Suzuki, Y. Inoue, S. Limmatvapirat, I. Murata, <u>I. Kanamoto</u>	pp.2717~ pp.2726
33 Analysis of Patchouli Alcohol by HPLC using Core-Shell Column (査読付)	共著	平成29年	J. Drug Res. Dev. vol.3 No.3	Y. Inoue, N. Komiya, I. Murata, S. Mitomo, Y. Negishi, <u>I. Kanamoto</u>	
34 Usefulness of Urea as a Means of Improving the Solubility of Poorly Water-Soluble Ascorbyl Palmitate (査読付)	共著	平成29年	International Journal of Medicinal Chemistry	Y. Inoue, D. Niiyama, I. Murata, <u>I. Kanamoto</u>	
35 Effect of antioxidant activity of caffeic acid with cyclodextrins using ground mixture method (査読付)	共著	平成29年	Asian Journal of Pharmaceutical Sciences vol.13 No.1	R. Shiozawa, Y. Inoue, I. Murata, <u>I. Kanamoto</u>	pp.24~ pp.33
36 Astragaloside-IV prevents acute kidney injury and inflammation by normalizing muscular mitochondrial function associated with a nitric oxide protective mechanism in crush syndrome rats	共著	平成29年	Ann Intensive Care vol.7 No.1	Murata I, Abe Y, Yaginuma Y, Yodo K, Kamakari Y, Miyazaki Y, Baba D, Shinoda Y, Iwasaki T, Takahashi K, Kobayashi J, Inoue Y, <u>Kanamoto I</u>	pp.90
37 麻黄湯エキスを含有した経口および直腸内投与が可能なチョコレート院内製剤の開発 (査読付)	共著	平成29年	一般社団法人日本医療薬学会 医療薬学 第43巻 第12号	村田勇, 阿部景香, 齊藤美穂, 井上裕, 金本郁男	691頁~700頁
38 A Nanocarrier Skin-Targeted Drug Delivery System using an Ascorbic Acid Derivative (査読付)	共著	平成30年	Pharm. Res. vol.35 No.1	Y. Inoue, M. Hibino, I. Murata, <u>I. Kanamoto</u>	
39 Characterization of the Dissolution Behavior of Piperine/Cyclodextrins Inclusion Complexes (査読付)	共著	平成30年	AAPS Pharm Sci Tech vol.19 No.2	T. Ezawa, Y. Inoue, I. Murata, K. Takao, Y. Sugita, <u>I. Kanamoto</u>	pp.923~ pp.933
40 配合比率の異なるモチ性大麦混合米飯の摂取が食後血糖値に及ぼす影響 (査読付)	共著	平成30年12月	公益社団法人日本栄養・食糧学会 日本栄養・食糧学会誌 第71巻 第6号	青江誠一郎, 小前幸三, 井上裕, 村田 勇, 峰岸悠生, 金本郁男, 神山紀子, 一ノ瀬靖則, 吉岡藤治, 柳沢貴司	283頁~288頁
その他					
1 栄養ドリンク剤の服用が食後血糖に及ぼす影響		平成26年 5月	第57回日本糖尿病学会 大阪	金本郁男, 長濱まどか, 村田 勇, 井上 裕, 木村昌行	
2 食後の血糖上昇を効果的に抑制する野菜ジュースの摂取タイミングと摂取量		平成27年 5月	第58回日本糖尿病学会 山口	金本郁男, 奥山愛, 吉田和敬, 砂堀論, 菅沼大行, 糟谷憲明, 村田 勇, 井上裕	

3 野菜ジュースはなぜ食後の血糖上昇を抑制するののか		平成28年 5月	第59回日本糖尿病学会年次 学術集会 京都	金本郁男、横田健介、太田昌一 郎、須藤祐樹、井上奈美、糟谷憲 明、村田勇、井上裕	
4 キウイフルーツの摂取タイミングの違いが 食後血糖値に及ぼす影響		平成30年 5月	第61回日本糖尿病学会学術 集会 東京	金本郁男、佐藤榛香、村田勇、井 上裕	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成28年 5月		血糖管理は食事から			
平成28年10月		血糖値を上げない食事のとり方			
平成28年10月		糖尿病患者への薬剤師としての積極的治療介入			
平成29年 7月		食と薬の安全で正しい活かし方			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 教授	氏名 関 俊暢	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1)授業ノート評価		平成27年 4月～現在に至る	学生が作成しているノートをルーブリックを用いて評価し、成績に20%組み込んでいる。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
1)PRACTICAL基礎化学		平成27年 3月～現在に至る			
2)見てわかる薬学 図解薬剤学 改訂6版		平成30年 9月～現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
1)新モデル・コアカリキュラムに従う学びの過程のルーブリックを用いた継続的な評価		平成30年 9月	薬学教育学会にて発表		
2)卒業時アンケートに基づく、学びにおける状況の確認と問題点の抽出		平成30年 9月	薬学教育学会にて発表		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1)ルーブリック作成指導		平成29年 4月～現在に至る	実習などに用いるルーブリックの作成において指導を行っている。		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 薬剤学実験法必携マニュアル	共著	平成26年 4月	南江堂	関 俊暢 他	
2 PRACTICAL基礎化学	共著	平成27年 3月	京都廣川書店	上田秀雄、江川祐哉、木村聡一郎、関俊暢、高山淳、田村雅史	
3 見てわかる薬学 図解薬剤学 改訂6版	共著	平成30年 9月	南山堂	山下伸二、関俊暢 他	
論文					
1 Multilayer films composed of phenylboronic acid-modified dendrimers sensitive to glucose under physiological conditions (査読付)	共著	平成26年 8月	J. Materials Chem. B vol.2	Ryota Watahiki, Katsuhiko Sato, Keisuke Suwa, Satoshi Niina, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Jun-ichi Anzai	pp. 5809～pp. 5817
2 A Mechanism Enhancing Macromolecule Transport Through Paracellular Spaces Induced by Poly-L-Arginine: Poly-L-Arginine Induces the Internalization of Tight Junction Proteins via Clathrin-Mediated Endocytosis (査読付)	共著	平成26年 9月	Pharm. Res. vol.31 No.9	Tsutomu Yamaki, Yusuke Kamiya, Kazuo Ohtake, Masaki Uchida, Toshinobu Seki, Hideo Ueda, Jun Kobayashi, Yasunori Morimoto, Hideshi Natsume	pp. 2287～pp. 2296
3 Preparation of polypseudorotaxanes composed of cyclodextrin and polymers in microspheres (査読付)	共著	平成26年10月	Chem. Pharm. Bull. vol.62 No.10	Katsunori Shinohara, Miki Yamashita, Wataru Uchida, Chie Okabe, Shinji Oshima, Masahiro Sugino, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Osamu Hosoya, Takashi Fujihara, Yoshihiro Ishimaru, Tohru Kishino, Toshinobu Seki, Kazuhiko Juni	pp. 962～pp. 966
4 Development of a membrane impregnated with a poly(dimethylsiloxane)/poly(ethylene glycol) copolymer for a high-throughput screening of the permeability of drugs, cosmetics, and other chemicals across the human skin (査読付)	共著	平成27年 1月	Eur. J. Pharm. Sci. vol.66 No.1	Ryotaro Miki, Yasuna Ichitsuka, Takumi Yamada, Soichiro Kimura, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Kazuhiko Juni, Hideo Ueda, Yasunori Morimoto	pp. 41～pp. 49
5 Sugar-Responsive Polypseudorotaxane Composed of Phenylboronic Acid-Modified Polyethylene Glycol and $\gamma$ -Cyclodextrin (査読付)	共著	平成27年 3月	Materials vol.8	Tomohiro Seki, Keigo Abe, Kiminobu Nakamura, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni	pp. 1341～pp. 1349
6 Sugar-response of layer-by-layer films composed of poly(vinyl alcohol) and poly(amidoamine) dendrimer bearing 4-carboxyphenylboronic acid (査読付)	共著	平成27年 4月	Colloid and Polymer Science vol.293 No.4	Keisuke Suwa, Munenari Nagasaka, Satoshi Niina, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Jun-ichi Anzai	pp. 1043～pp. 1048

7 Sugar-responsive pseudopolyrotaxanes and their application in sugar-induced release of PEGylated insulin (査読付)	共著	平成27年 7月	J. Inclusion Phenomena and Macrocylic Chem. vol.82 No.3-4	Tomohiro Seki, Keigo Abe, Kiminobu Nakamura, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.417~ pp.424
8 A pseudopolyrotaxane for glucose-responsive insulin release: The effect of binding ability and spatial arrangement of phenylboronic acid group (査読付)	共著	平成28年	Mol. Pharm. vol.13	Tomohiro Seki, Keigo Abe, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.3807~ pp.3815
9 The development of a novel in vitro gastrointestinal absorption model comprising drug dissolution/migration/permeation processes: interactions between a drug and an excipient (査読付)	共著	平成28年	AATEX vol.21	Ryotaro Miki, Yuki Kobayashi, Yuko Nakamura, Tomoko Asaka, Nahomi Imai, Yuka Hirayama, Osamu Hosoya, Yuya Egawa, Toshinobu Seki	pp.1~pp.13
10 Effect of physiological changes in the skin on systemic absorption of tacrolimus following topical application in rats (査読付)	共著	平成28年 3月	Biol Pharm Bull vol.39 No.3	Yutaro Hazama, Toshihisa Maekawa, Ryotaro Miki, Shinji Oshima, Yuya Egawa, Kazuhiro Morimoto, Toshinobu Seki	pp.342~ pp.352
11 Red fluorophore comprising of a borinate-containing xanthene analogue as a polyol sensor (査読付)	共著	平成28年10月	Org. Biomol. Chem. vol.14	N. Shimomura, Y. Egawa, R. Miki, T. Fujihara, Y. Ishimaru, T. Seki	pp.10031~ pp.10036
12 Polyol-responsive pseudopolyrotaxanes based on phenylboronic acid-modified polyethylene glycol and cyclodextrins (査読付)	共著	平成29年	J. Incl. Phenom. Macrocylic Chem. vol.87	Yu Kojima, Tomoyuki Okano, Tomohiro Seki, Misato Namiki, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.295~ pp.303
13 A study on an in vitro changeable pH dissolution/permeation system that reflects pH shifts of the gastrointestinal tract: a case of a poorly soluble basic drug (査読付)	共著	平成29年	AATX vol.22 No.1	Ryotaro Miki, Yuuichi Hara, Nahomi Imai, Masahiro Sugino, Yuya Egawa, Osamu Hosoya, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.107~ pp.114
14 Preclinical Study of Tacrolimus Ointment for Prevention of its Systemic Absorption in Atopic Dermatitis Model Mice According to their Skin Conditions (査読付)	共著	平成29年 9月	Jan. J. Pharm. Health Care Sci. vol.43 No.9	Yutaro Hazama, Wataru Uchida, Toshihisa Maekawa, Ryotaro Miki, Shinji Oshima, Yuya Egawa, Osamu Hosoya, Toshinobu Seki	pp.477~ pp.491
15 A polyrotaxane gel using boronic acid-appended $\gamma$ -cyclodextrin as a hybrid cross-linker (査読付)	共著	平成29年12月	J. Incl. Phenom. Macrocylic Chem. vol.89	Wataru Uchida, Maiki Yoshikawa, Tomohiro Seki, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki, Takashi Fujihara, Yoshihiro Ishimaru, Yuya Egawa	pp.281~ pp.288
16 Glucose-responsive rheological change and drug release from a novel worm-like micelle cetyltrimethylammonium bromide/phenylboronic acid/water gel system (査読付)	共著	平成30年 3月	Mol. Pharm. vol.15		pp.1097~ pp.1204
17 Sugar-responsive layer-by-layer film composed of phenylboronic acid-appended insulin and poly(vinyl alcohol) (査読付)	単著	平成30年 4月	Chem. Pharm. Bull. vol.66 No.4		pp.368~ pp.374
18 Single-step preparation of topological gels using vinyl-modified $\beta$ -cyclodextrin as a figure-of-six cross-linker (査読付)	共著	平成30年11月	vol.92	Yuki Kobayashi, Yu Kojima, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki, Takashi Fujihara, Yoshihiro Ishimaru, Yuya Egawa	pp.311~ pp.317
その他					
1 Cyclodextrin. "Skin Permeation and Disposition of Therapeutic and Cosmeceutical Compounds"	共著	平成29年	Skin Permeation and Disposition of Therapeutic and Cosmeceutical Compounds	Yuya Egawa, Toshinobu Seki	pp.233~ pp.239
2 Measurement of Diffusion Coefficient of Chemicals. "Skin Permeation and Disposition of Therapeutic and Cosmeceutical Compounds"	共著	平成29年	Skin Permeation and Disposition of Therapeutic and Cosmeceutical Compounds	Toshinobu Seki, Ryotaro Miki	pp.377~ pp.384
3 ビニル基修飾 $\gamma$ -シクロデキストリンと N-イソプロピルアクリルアミドを用いたスライディング架橋ゲルの調製		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	鈴木 好真、小林 由希、小島 裕、三木 涼太郎、関 俊暢、江川 祐哉	
4 ブロック共重合体とシクロデキストリンから形成される複合粒子に関する研究		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	久保田 亮翔、小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
5 マイクロサイズのフロースルーセルを用いた紐状ミセルゲルからの糖応答性薬物放出の評価		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	吉田 綾華、武井 千弥、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢	
6 ボロン酸修飾インスリンとポリビニルアルコールからなる糖応答性ゲルの調製		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	武井 千弥、吉田 綾華、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	

7	ビニル基修飾シクロデキストリンと各種モノマーの共重合によるスライドラゲルゲルのワンポット調製とその物性評価	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
8	インスリン由来アミロイドーシスを回避可能な新規インスリン誘導体	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	大野 由依、川村 知裕、三木 涼太郎、江川 祐哉、杉野 雅浩、細谷 治、関 俊暢	
9	胃傷害による胃排出の変化とそれによる薬物吸収性への影響	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	原 裕一、大野 雅斗、片岸 光平、塩谷 勇登、田中 諒、松永 秀春、杉野 雅浩、三木 涼太郎、細谷 治、江川 祐哉、從二 和彦、関 俊暢	
III 学会等および社会における主な活動					
平成20年 5月～平成30年 5月		日本薬剤学会 評議委員			
平成21年 4月～現在に至る		薬学教育協議会 物理化学系教科担当教員会議メンバー			
平成21年 4月～現在に至る		薬学教育協議会 関東地区調整機構ワークショップ大学委員			
平成28年10月～現在に至る		鶴ヶ島市図書館協議会			
平成30年 5月～現在に至る		日本薬剤学会 代議員			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 一色 恭徳	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) WebClass を活用した授業振り返り		平成22年 4月～現在に至る	本学WebClassシステムを活用し、授業単元単位で確認小テストを実施し、正解率に基づいた設問毎のフィードバックを行っている。また、同成績は該科目の評価の一部として反映させている。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
1) 生物学A・B		平成30年 2月～現在に至る	担当科目「生物学B」の授業資料集として著作		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 生物学A・B	共著	平成30年 2月	京都廣川書店	木村光利, 一色恭徳	担当部分: 生物B
論文					
1 Effects of Oakmoss and its Components on <i>Acanthamoeba castellanii</i> ATCC 30234 and the Uptake of <i>Legionella pneumophila</i> JCM 7571 (ATCC 33152) into <i>A. castellanii</i> . (査読付)	共著	平成27年 1月	Biocontrol Science vol.20 No.1	Nomura, H., Isshiki, Y., Sakuda, K., Sakuma, K. and Kondo, S.	pp.59～pp.65
2 Evaluation of the live vaccine efficacy of virulence plasmid-cured, and phoP- or aroA-deficient <i>Salmonella enterica</i> serovar Typhimurium in mice. (査読付)	共著	平成27年 2月	The Journal of Veterinary Medical Science vol.77 No.2	Matsui, H., Isshiki, Y., Eguchi, M., Ogawa, Y. and Shimoji, Y.	pp.181～pp.186
3 Effects of Oakmoss and its Components on <i>Acanthamoeba castellanii</i> ATCC 30234 and the Uptake of <i>Legionella pneumophila</i> JCM 7571 (ATCC 33152) into <i>A. castellanii</i> . (査読付)	共著	平成27年 3月	日本防菌防黴学会 Biocontrol Science vol.20 No.1	Nomura, H., Isshiki, Y., Sakuda, K., Sakuma, K., Kondo, S.	pp.59～pp.65
4 Effect of $\gamma$ -cyclodextrin derivative complexation on the physicochemical properties and antimicrobial activity of hinokithiol. (査読付)	共著	平成27年10月	Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol.83 No.1	Rina Suzuki, Yutaka Inoue, Yuina Tsunoda, Isamu Murata, Yasunori Isshiki, Seiichi Kondo, Ikuo Kanamoto	pp.177～pp.186
5 Effects of fragrance ingredients on the uptake of <i>Legionella pneumophila</i> into <i>Acanthamoeba castellanii</i> . (査読付)	共著	平成30年12月	日本防菌防黴学会 Biocontrol Science vol.23 No.4	Nomura, H., Takahashi, S., Tohara, Y., Isshiki, Y., Sakuda, K., Sakuma, K. and Kondo, S.	
その他					
1 oakmoss及びその含有成分のアメーバ及びアメーバ内 <i>Legionella pneumophila</i> に対する影響		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一	
2 抗菌物質の抗菌作用解析に関する研究		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	新里めぐみ、野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一	
3 Evaluation of antimicrobial activity of hinokithiol with $\gamma$ -cyclodextrin derivatives.		平成27年 4月	8th Asian Cyclodextrin Conference and 32nd Cyclodextrin Symposium Kumamoto	Rina Suzuki, Yuina Tsunoda, Isamu Murata, Yutaka Inoue, Yasunori Isshiki, Seiichi Kondo, Ikuo Kanamoto	
4 天然香料 oakmoss とその含有成分のアメーバとアメーバ内 <i>Legionella pneumophila</i> に対する影響		平成27年 9月	日本防菌防黴学会 第42回 年次大会 大阪	野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一	
5 腸炎ピブリオ 013 株より抽出したりボ多糖の糖鎖構造		平成28年 3月	第89回日本細菌学会総会 大阪	一色 恭徳、小暮 久絵、寺元 舞、野村 陽恵、近藤 誠一	
6 天然香料 oakmoss 及びその含有成分のアメーバ内 <i>Legionella pneumophila</i> に対する抗菌活性評価		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一	

7 香料のアメリカンアメーバ <sup>□</sup> 内 <i>Legionella pneumophila</i> に対する影響		平成28年 9月	第60回日本薬学会関東支部大会 横浜	野村陽恵、高橋佐規子、東原由樹、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一	
8 0.01%アトロピン点眼液の近視抑制効果と無菌下における調製方法及び保存方法の検討		平成28年10月	第10回日本薬局学会学術総会 東京	高橋広樹、山中祐子、大槻ちえみ、熊田千晃、須田充彦、野村陽恵、一色恭徳、小島照夫	
9 腸炎ピブリオ 07 リポ多糖の糖鎖構造		平成29年 3月	第90回日本細菌学会総会 仙台	一色恭徳、内村嘉孝、野村陽恵、近藤誠一	
10 香料と抗菌薬の抗菌作用の解析		平成29年 3月	第90回日本細菌学会総会 仙台	野村陽恵、山田敦士、新里めぐみ、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一	
11 香料の <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 薬剤排出ポンプに対する影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一	
12 緑膿菌の抗菌薬感受性に及ぼす香料の影響		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一	
13 腸炎ピブリオ 07 リポ多糖の多糖部構造解析		平成30年 3月	第91回日本細菌学会総会 福岡	一色恭徳、天野瑞恵、石川恵美、松島茉莉子、野村陽恵、近藤誠一	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 准教授		氏名 井上 直子		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 社会と薬学				平成30年 4月～現在に至る		授業評価アンケートを参考に、わかりにくい点等を把握して、より身近な話題を取り入れて理解を促している。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) 薬学総合実習・演習 II・III				平成27年 3月～現在に至る		医療現場の実際を取り入れるなど、わかりやすく興味を持てる内容の実習にしている。	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
論文							
1 Identification of the discrepancies between pharmacists' and patients' perception of the pharmacist's role as an advisor on drug therapy based on social science theory (査読付)		共著	平成28年 3月	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.39 No.3	6. S. Oshima, K. Senoo, A. Negishi, H. Akimoto, K. Ohara, N. Inoue, S. Ohshima, N. Kutsuma, K. Juni, D. Kobayashi		pp.313～pp.322
2 Assessment of the Risk of Suicide-Related Events Induced by Concomitant Use of Antidepressants in Cases of Smoking Cessation Treatment with Varenicline and Assessment of Latent Risk by the Use of Varenicline (査読付)		共著	平成28年 9月	PLoS One vol.11 No.9	Hayato Akimoto, Shinji Oshima, Akio Negishi, Kousuke Ohara, Shigeru Ohshima, Naoko Inoue, Daisuke Kobayashi		
3 Comparison of the benefit feeling rate based on the Sho of OTC kakkonto, cold remedy and cold remedy with kakkonto combination product (査読付)		共著	平成29年	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.10	1. M. Okita, Y. Yayoshi, K. Ohara, A. Negishi, H. Akimoto, N. Inoue, S. Numajiri, S. Ohshima, S. Honma, S. Oshima, D. Kobayashi		pp.1730～pp.1738
4 Identification and characteristics of time-related shift in suicide-related event frequency during smoking cessation treatment with varenicline (査読付)		共著	平成29年	Ivyspring International Publisher International journal of Medical Sciences vol.14 No.10	3. H. Akimoto, H. Wakiyama, S. Oshima, A. Negishi, K. Ohara, S. Numajiri, M. Okita, S. Ohshima, N. Inoue, D. Kobayashi		pp.920～pp.926
5 高齢者の安全な薬物治療ガイドラインを用いたdeprescribingの実践と患者のQOLおよびADLの変化 (査読付)		共著	平成29年 1月	YAKUGAKU ZASSHI 第137巻 第5号	大嶋繁、原彩伽、阿部卓巳、秋元勇人、大原厚祐、根岸彰生、沖田光良、大島新司、井上直子、沼尻幸彦、小川越史、齋木実、小林大介		623頁～633頁
6 Study on the increased probability of detecting adverse drug reactions based on Bayes' theorem: evaluation of the usefulness of information on the onset timing of adverse drug reactions (査読付)		共著	平成29年 9月	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.9	2. S. Oshima, T. Enjuji, A. Negishi, H. Akimoto, K. Ohara, M. Okita, S. Numajiri, N. Inoue, S. Ohshima, A. Terao		pp.1389～pp.1398
7 介護支援専門員調査より得られた薬剤師が優先的に取り組む要介護者の抱える薬の問題 (査読付)		共著	平成30年	日本老年薬学会 日本老年薬学会雑誌 第1巻 第2号	堀井徳光、井上直子、大嶋繁、沖田光良、秋元勇人、根岸彰生、大島新司、沼尻幸彦、小林大介		28頁～33頁
その他							
1 「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」を使用した在宅患者の処方見直しと処方変更後の患者アセスメントに関する研究			平成28年 7月	埼玉医療薬学懇話会第36回学術研究講演会 さいたま市文化センター	井上直子、原彩伽、阿部卓巳、根岸彰生、大島新司、大嶋繁、齋木実、小川越史、小林大介		

2 血液脳関門機能低下マウスにおけるタイトジャンクション関連タンパク質に及ぼす葛根湯投与の影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	大原厚祐, 森 勇人, 倉持 圭, 長山佳世, 蛭川紗希, 秋元勇人, 沖田光良, 根岸彰生, 井上直子, 大嶋 繁, 沼尻幸彦, 大島新司, 秋元雅之, 本間精一, 小林大介	
3 薬物治療アドバイザーとしての薬剤師の役割に対する患者と薬剤師の認識の違い: 科学的理論に基づく解析		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	大島新司, 妹尾和彦, 根岸彰生, 秋元勇人, 大原厚祐, 井上直子, 大嶋 繁, 久津間 信明, 従二和彦, 小林大介	
4 葛根湯と一般用かぜ薬の証に基づく効果の比較		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	弥吉優希, 沖田光良, 大原厚祐, 根岸彰生, 秋元勇人, 井上直子, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 大野泰規, 大島新司, 小林大介	
5 城西大学薬局における在宅業務の業務量と収益の現状		平成30年 7月	埼玉医療薬学懇話会 第38 回学術研究講演会 日本薬科大学	大橋悠, 堀井徳光, 武藤香絵, 井上直子, 大嶋繁	
6 薬剤師が在宅業務で行う高齢者総合的機能評価 (CGA) ツール作成のための予備的文献調査		平成30年10月	日本社会薬学会第37年会 日本大学薬学部 (千葉県船橋市)	大西祐輔, 荻原康平, 堀井徳光, 武藤香絵, 井上直子, 大嶋繁	
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 井上 裕	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) 薬学総合実習・演習BCのルーブリック評価		平成30年 4月～現在に至る	薬学総合実習・演習BCのルーブリック評価についてYY4にて実施している「薬学総合演習BC」はルーブリックを用いた評価を試みている。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
1) 5th Asia Pacific Pharmacy Education Workshop (5thAPPEW)		平成27年 8月	5thAPPEWにおいて、口頭発表を行った Thailand, Chulalongkorn		
2) 2018 城西大学公開講座		平成30年 9月	市民講演会 「今、日本の薬剤師はどんな活躍をしているの？ーローカルとグローバルの視点からー」		
3) 平成30年度 第28回関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ		平成30年10月	タスクフォースとして		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) 6th Asia Pacific Pharmacy Education Workshop (6thAPPEW)		平成28年10月	6thAPPEWにおいて、口頭発表を行った Malaysia MSU		
2) The 1st International conference on Halal Pharmaceuticals and Cosmetics (HPC Conference)、The 7th Conference of Asia Pacific Pharmacy Education Network (AP-PEN Conference, the former name is Asia Pacific Pharmacy Education Workshop)		平成30年10月	Ap-PENにて、口頭発表を行った。 Tokyo, JOSAI UNIVESITY		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 ゼリー製剤は臨床でどのようなメリットがあるのか?	単著	平成28年11月	月刊薬事 (じほう)		
論文					
1 生徒への健康意識調査を介した学校薬剤師のあり方の検討 (査読付)	共著	平成26年 6月	薬局薬学 第6巻 第1号	井上裕, 三宅恵美子, 村田勇, 山崎康之, 高橋直三郎, 鯉淵肇, 金本郁男	49頁～56頁
2 医師調剤施設と保健薬局における備蓄医薬品の調査 (査読付)	共著	平成26年 6月	社会薬学 第33巻 第1号	井上裕, 森田夕貴, 斉藤麗美, 天野留美子, 沼尻幸彦, 金本郁男, 杉林堅次	30頁～35頁
3 Evaluation of formulation properties and skin penetration in the same additive-containing formulation (査読付)	共著	平成26年 9月	Results in Pharma Sciences vol.4	Yutaka Inoue, Kensuke Suzuki, Rikimaru Maeda, Arisa Shimura, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp. 42～49
4 Evaluation of actarit/ $\gamma$ -cyclodextrin complex prepared by different methods (査読付)	共著	平成26年 9月	Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol.81 No. 1-2	Yutaka Inoue, Shota Watanabe, Rina Suzuki, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp. 161～168
5 Study of Complex Formation of Carbamazepine with Thiourea (査読付)	共著	平成26年11月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin vol. 62 No. 11	Yutaka Inoue, Sayuri Sato, Chisa Yamamoto, Mikio Yamasaki, Ikuo Kanamoto	pp. 1125～1130
6 糖尿病患者における濃厚流動食の長期栄養管理への検討 (査読付)	共著	平成26年11月	Progress in medicine 第34巻 第11号	井上裕, 高橋里沙, 内田明宏, 強矢和子, 相原浩, 村田勇, 金本郁男	2057頁～2068頁
7 Effect of low glycemic index food and postprandial exercise on blood glucose level oxidative stress and antioxidant capacity (査読付)	共著	平成27年 1月	Experimental and Therapeutic Medicine	NORIAKI KASUYA, SHOICHIRO OHTA, YOSHIKAZU TAKANAMI, YUKARI KAWAI, YUTAKA INOUE, ISAMU MURATA, IKUO KANAMOTO	
8 Crush syndrome モデルラットにおけるdexamethasoneの薬物動態の変化と特徴 (査読付)	共著	平成27年 2月	YAKUGAKU ZASSHI 第135巻 第2号	村田勇, 大塚晃生, 原千裕, 本橋理沙, 河野詩穂, 井上裕, 金本郁男	315頁～322頁
9 Human sensory testing of loperamide hydrochloride preparations for children to improve their palatability (査読付)	共著	平成27年 2月	World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.3 No. 3	Yutaka Inoue, Shunichi Funato, Rina Suzuki, Yuki Morita, Isamu Murata and Ikuo Kanamoto	pp. 570～579
10 Future expectations for Japanese pharmacists as compared to the rest of the world (査読付)	共著	平成27年 3月	Research in Social & Administrative Pharmacy vol.11 No. 3	Yutaka Inoue, Yuki Morita, Mayu Takikawa, Koichi Takao, Ikuo Kanamoto, Kenji Sugibayashi	pp. 448～458

11	ピロキシカムカプセル剤の剤形変更による物理化学的特性変化の評価 (査読付)	共著	平成27年 4月	薬局薬学 第7巻 第1号	井上裕、船渡俊一、佐藤彩友里、村田勇、金本郁男	15頁～25頁
12	消費者ニーズにあったドリンク剤(栄養ドリンク)ナビプログラムの作成 (査読付)	共著	平成27年 4月	薬局薬学 第7巻 第1号	井上裕、南雲由美、長濱まどか、村田勇、木村昌行、金本郁男	26頁～35頁
13	高齢者の睡眠薬の安全使用における薬剤師介入の必要性 (査読付)	単著	平成27年 4月	薬局薬学 第7巻 第1号		36頁～43頁
14	Comparative evaluation of the physicochemical properties of acetaminophen formulations (査読付)	共著	平成27年 6月	World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.3 No.6	Yutaka Inoue, Kengo Suzuki, Takashi Ikeda, Yuina Tsunoda, Takahiro Onoda, Mitsuki Sugawara, Yukie Tsuchiya, Mizuki Tsuru, Toshinari Ezawa, Ikuo Kanamoto	pp.1031～pp.1038
15	Examination of Gelling Agents to Produce Acetaminophen Jelly (査読付)	共著	平成27年 7月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin vol.63 No.7	Yutaka Inoue, Yuka Iwazaki, Yoshinori Onuki, Chiaki Funatani, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.519～pp.524
16	Effects of the properties of creams on skin penetration (査読付)	共著	平成27年 7月	International Journal of Pharmacy vol.5 No.3	Yutaka Inoue, Arisa Shimura, Misa Horage, Rikimaru Maeda, Isamu Murata, Masahiro Sugino, Kazuhiko Juni, Ikuo Kanamoto	pp.645～pp.654
17	カルバマゼピン錠内包型坐剤の調製及びウサギを用いた院内製剤としての有用性の評価 (査読付)	共著	平成27年 9月	YAKUGAKU ZASSHI 第135巻 第9号	村田勇、新井成俊、福島愛史、齋藤亜津子、井上裕、木村昌行、金本郁男	1049頁～1055頁
18	Examination of the physicochemical properties of caffeic acid complexed with $\gamma$ -cyclodextrin (査読付)	共著	平成27年10月	J. Incl. Phenom. Macro vol.83	Y. Inoue, K. Suzuki, T. Ezawa, I. Murata, M. Yokota, Y. Tokudome, I. Kanamoto	pp.289～pp.298
19	Effect of $\gamma$ -cyclodextrin derivative complexation on the physicochemical properties and antimicrobial activity of hinokitiol (査読付)	共著	平成27年10月	J. Incl. Phenom. Macro vol.83	R. Suzuki, Y. Inoue, Y. Tsunoda, I. Murata, Y. ishiki, S. Kondo, I. Kanamoto	pp.177～pp.186
20	ガバベンチン坐剤の院内製剤化に向けた薬物動態学的パラメータによる特徴づけ (査読付)	共著	平成27年12月	医療薬学 第41巻 第12号	新井成俊、村田勇、芦口亜梨奈、西山大青、井上裕、木村昌行、金本郁男	861頁～869頁
21	RHEOLOGICAL CHARACTERISTICS OF HINOKITIOLCONTAINING GELS (査読付)	共著	平成28年 1月	World Journal of Pharmaceutical Research vol.5 No.2	Rina Suzuki, Mizuki Tsuru, Yutaka Inoue, Toru Tanaka, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.18～pp.31
22	Changes in the Physicochemical Properties of Piperine/ $\beta$ -Cyclodextrin due to the Formation of Inclusion Complexes (査読付)	共著	平成28年 2月	International Journal of Medicinal Chemistry	Toshinari Ezawa, Yutaka Inoue, Sujimon Tunvichien, Rina Suzuki, Ikuo Kanamoto	pp.1～pp.9
23	Human taste testing and evaluation of the physicochemical properties of fine granules of sodium cromoglycate in commercial drug products	共著	平成28年 3月	ATOM AND CELL PUBLISHERS World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.4 No.4	Yutaka Inoue, Toru Iwasaki, Kensuke Suzuki, Sujimon Tunvichien, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.135～pp.142
24	Prior or Concomitant Drinking of Vegetable Juice with a Meal Attenuates Postprandial Blood Glucose Elevation in Healthy Young Adults	共著	平成28年 7月	Food and Nutrition Sciences vol.7	Noriaki Kasuya, Megumi Okuyama, Kazutaka Yoshida, Satoshi Sunabori, Hiroyuki Suganuma, Isamu Murata, Yutaka Inoue, Ikuo Kanamoto	pp.797～pp.806
25	Effects of oxethazaine and gamma-cyclodextrin complex formation on intestinal contractions	共著	平成28年 8月	ATOM AND CELL PUBLISHERS World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.4 No.9	Yutaka Inoue, Rina Suzuki, Misa Horage, Mio Togano, Hajime Moteki, Mitsutoshi Kimura, Masahiko Ogihara, Shigeru Ando, Junko Kikuchi, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.269～pp.280
26	Early Therapeutic Intervention for Crush Syndrome: Characterization of Intramuscular Administration of Dexamethasone by Pharmacokinetic and Biochemical Parameters in Rats.	共著	平成28年 9月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.39 No.9	Isamu Murata, Mai Goto, Masahiro Komiya, Risa Motohashi, Momoko Hirata, Yutaka Inoue, Ikuo Kanamoto	pp.1424～pp.1431
27	Effect of cyclodextrin on postprandial blood glucose and triglycerides (査読付)	共著	平成28年10月	International Journal of Pharmacy vol.6 No.3	Mitsuki Sugahara, Yutaka Inoue, Isamu Murata, Daisuke Nakata, Keiji Terao, Ikuo Kanamoto	pp.13～pp.19
28	CO-CRYSTAL CHARACTERIZATION OF NICOTINAMIDE AND UREA (査読付)	共著	平成28年10月	International Journal of Pharmacy vol.6 No.4	Yutaka Inoue, Hirotaka Onoda, Hiroyasu Sato, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.26～pp.34

29 Characterization of prescription and OTC formulations of vidarabine cream (査読付)	共著	平成29年 1月	World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.5 No.1	Yutaka Inoue, Ryota Shiozawa, Daichi Niiyama, Itsuka Shinohara, Sachie Narumi, Akiho Mitsumori, Nana Komiya, Takafumi Sakurai, Sakura Miki, Rina Suzuki, Ikuo Kanamoto	pp.11~pp.18
30 Study on Complexation of Ascorbic Acid Derivatives With $\gamma$ -Cyclodextrin (査読付)	単著	平成29年 1月	International Journal of Pharmacy vol.7 No.1		pp.9~pp.21
31 Study on the Characteristics of Zolpidem Orally Disintegrating Tablets from Different Formulations (査読付)	単著	平成29年 1月	SciOp Forsch Journal of Drug Research and Development vol.3 No.1		
32 Patchouli alcohol: 4 $\alpha$ ,8 $\alpha$ $\beta$ ,9,9-tetramethyl-3,4,4 $\alpha$ $\beta$ ,5,6 $\beta$ ,7,8,8 $\alpha$ -octahydro-1,6-methanonaphthalen-1 $\beta$ (2H)-ol (査読付)	単著	平成29年 2月	IUCr Data vol.2 No.2		
33 Need for Hospital ward Pharmacists to Confirm Patient's Own Medications (査読付)	共著	平成29年 3月	Journal of Drug Research and Development vol.3 No.2	Junichi Araki, Kayoko Furuya, Dai Kamemura, Isamu Murata, Yutaka Inoue, Shigeru Ohshima, Ikuo Kanamoto	
34 Molecular interactions of the inclusion complexes of hinokitiol and various cyclodextrins (査読付)	共著	平成29年 3月	AAPS PharmSciTech vol.18 No.7	Rina Suzuki, Yutaka Inoue, Sontaya Limmatvapirat, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.2717~pp.2726
35 粒度の異なる高 $\beta$ -グルカン大妻含有パンの摂取が食後血糖値に及ぼす影響 (査読付)	共著	平成29年 5月	ルミナコイド研究 第21巻 第1号	金本郁男, 小山智美, 村田 勇, 井上 裕, 神山紀子, 一ノ瀬靖則, 柳沢貴司, 青江誠一郎	19頁~23頁
36 Low-Dose Sodium Nitrite Fluid Resuscitation Prevents Lethality From Crush Syndrome by Improving Nitric Oxide Consumption and Preventing Myoglobin Cytotoxicity in Kidney in A Rat Model. (査読付)	共著	平成29年 7月	SHOCK vol.48 No.1	Murata I, Miyake Y, Takahashi N, Suzuki R, Fujiwara T, Sato Y, Inoue Y, Kobayashi J, Kanamoto I.	pp.112~pp.118
37 Analysis of Patchouli Alcohol by HPLC using Core-Shell Column (査読付)	共著	平成29年 8月	Journal of Drug Research and Development vol.3 No.3	Yutaka Inoue, Nana Komiya, Isamu Murata, Shunichi Mitomo, Yukiko Negishi, Ikuo Kanamoto	
38 Astragaloside-IV prevents acute kidney injury and inflammation by normalizing muscular mitochondrial function associated with a nitric oxide protective mechanism in crush syndrome rats. (査読付)	共著	平成29年 9月	Annals of Intensive Care	Isamu Murata, Yuji Abe, Yuka Kamakari, Yurika Miyazaki, Daichi Baba, Yoko Shinoda, Toru Iwasaki, Kunihiko Takahashi, Jun Kobayashi, Yutaka Inoue, Ikuo Kanamoto	
39 Properties of tropolone/ $\gamma$ -cyclodextrin complexes prepared using different methods (査読付)	共著	平成29年 9月	World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.5 No.9	Rina Suzuki, Yutaka Inoue, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.250~pp.261
40 Usefulness of Urea as a Means of Improving the Solubility of Poorly Water-Soluble Ascorbyl Palmitate (査読付)	共著	平成29年11月	Hindawi International Journal of Medicinal Chemistry	Yutaka Inoue, Daichi Niiyama, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	
41 麻黄湯エキスを含有した経口および直腸内投与が可能なチョコレート院内製剤の開発: ヒト官能試験を用いた調製方法の決定とその製剤的特徴 (査読付)	共著	平成29年12月	医療薬学 第43巻 第12号	村田勇, 阿部景香, 斎藤美徳, 井上裕, 金本郁男	691頁~700頁
42 Effect of antioxidant activity of caffeic acid with cyclodextrins using ground mixture method (査読付)	単著	平成30年 1月	Asian Journal of Pharmaceutical Sciences vol.13 No.1		pp.24~pp.33
43 A Nanocarrier Skin-Targeted Drug Delivery System using an Ascorbic Acid Derivative	単著	平成30年 1月	Pharmaceutical Research vol.35 No.1		
44 Characterization of the Dissolution Behavior of Piperine/Cyclodextrins Inclusion Complexes (査読付)	共著	平成30年 2月	AAPS PharmTechSci vol.19 No.2	Toshinari Ezawa, Yutaka Inoue, Isamu Murata, Koichi Takao, Yoshiaki Sugita, Ikuo Kanamoto	pp.923~pp.933
45 Quantitative analysis of $\alpha$ -glucosidase inhibitors by ECD with a column of the ion exchange resin of core-shell type filler (査読付)	共著	平成30年 2月	World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.6 No.2	Yutaka Inoue, Akiho Mitsumori, Sachie Narumi, Isamu Murata, Shun-ichi Mitomo, Yukiko Negishi, Ikuo Kanamoto	pp.47~pp.54
46 Characterization of $\alpha$ -Glucosidase Inhibitor/Cyclodextrin Complex Prepared by Freeze-Drying (査読付)	共著	平成30年 5月	Hindawi Journal of Pharmaceutics	Yutaka Inoue, Sachie Narumi, Akiho Mitsumori, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	

47 Quantitative Analysis of Cyclodextrins by Electrochemical Detector and Column with Core-Shell Type Filler (査読付)	共著	平成30年 6月	SciForschen Journal of Drug Research and Development vol.4 No.2	Akiho Mitsumori, Sachie Narumi, Yutaka Inoue, Isamu Murata, Shun-ichi Mitomo, Yukiko Negishi, Ikuo Kanamoto	
48 A novel method to assess the severity and prognosis in crush syndrome by assessment of skin damage in hairless rats (査読付)	共著	平成30年 7月	European Journal of Trauma and Emergency Surgery	Isamu Murata, Ryota Kawanishi, Syo Inoue, Moeko Iwata, Jun Kobayashi, Yutaka Inoue, Ikuo Kanamoto	
49 Evaluation between the Usability and Physicochemical Property of Acyclovir Ointments (査読付)	共著	平成30年 8月	Hindawi Journal of Pharmaceutics	Yutaka Inoue, Akiho Mitsumori, Itsuka Shinohara, Sachie Narumi, Isamu Murata, and Ikuo Kanamoto	
50 Characterization of Inclusion Complex of Coenzyme Q10 with the New Carrier CD-MOF-1 Prepared by Solvent Evaporation (査読付)	共著	平成30年 8月	AAPS AAPS PharmSciTech vol.19 No.7	Yutaka Inoue, Ayumi Nanri, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto	pp.3048～ pp.3056
51 院内製剤における六君子湯エキス含有坐剤の製剤学的特性及びラットを用いた生物学的同等性の評価 (査読付)	共著	平成30年 9月	YAKUGAKU ZASSHI 第138巻第9号	村田 勇, 西山 大青, 川崎 浩範, 内藤 千鶴, 鎌田 武志, 古河 義行, 岩田 萌子, 杉野 雅浩, 井上裕, 金本 郁男	1169頁～ 1179頁
52 Assessment of the Physical Properties of Inclusion Complexes of Forchlorfenuron and $\gamma$ -Cyclodextrin Derivatives and Their Promotion of Plant Growth (査読付)	共著	平成30年10月	ACS publications ACS OMEGA vol.3 No.10	Yutaka Inoue, Ai Hirano, Isamu Murata, Kenji Kobata, Ikuo Kanamoto	pp.13160～ pp.13169
その他					
1 タイにおける薬剤師の地域医療への貢献		平成26年 5月	第29回 日本薬剤学会年会	森田夕貴, 滝川菜由, 村田勇, 井上裕, 杉林堅次, 金本郁男	
2 トロポロンとシクロデキストリンを用いた包接複合体の物性評価		平成26年 5月	第29回 日本薬剤学会年会	竜彰成, 鈴木莉奈, 村田勇, 井上裕, 金本郁男	
3 アセトアミノフェンのゼリー製剤におけるゲル化基剤の特性		平成26年 5月	第29回 日本薬剤学会年会	岩崎友香, 村田勇, 大貫義則, 井上裕, 金本郁男	
4 オキセサゼイン固体分散体の分子状態の検討		平成26年 5月	第29回 日本薬剤学会年会	井上裕, 洞毛美沙, 戸鹿野美織, 安藤茂, 菊池純子, 金本郁男	
5 皮膚透過性に及ぼすクリーム製剤の物理化学的性質		平成26年 5月	第29回 日本薬剤学会年会	洞毛美沙, 村田勇, 井上裕, 杉野雅浩, 従二和彦, 金本郁男	
6 消費者ニーズに合った点眼薬ナビプログラムの作成		平成26年 7月	第34回埼玉医療薬学懇話会	松嶋悠紀, 村田勇, 井上裕, 金本郁男	
7 Crush syndrome ラットにおける dexamethazoneの組織移行性に関する因子の検討		平成26年 7月	第34回埼玉医療薬学懇話会	河野詩穂, 村田勇, 井上裕, 金本郁男	
8 Crush syndrome治療における筋肉内 dexamethazone投与の有効性及び安全性の検討		平成26年 7月	第34回埼玉医療薬学懇話会	小宮正寛, 村田勇, 井上裕, 金本郁男	
9 外用薬における物理化学的性質および使用感の相関性		平成26年 7月	第34回埼玉医療薬学懇話会	鈴木健介, 前田力丸, 村田勇, 井上裕, 金本郁男	
10 Crush syndrome治療における dexamethazoneの有効性についての検討		平成26年 7月	第34回埼玉医療薬学懇話会	風間耕介, 村田勇, 井上裕, 金本郁男	
11 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害薬服用後の食後血糖プロファイルの比較・検討		平成26年 7月	第13回日本Glycemic Index研究会	手代木惠梨, 井上裕, 村田勇, 金本郁男	
12 ミルクココアの摂取タイミングの違いによる食後血糖プロファイルの変化		平成26年 7月	第13回日本Glycemic Index研究会	高村和樹, 村田勇, 井上裕, 金本郁男	
13 Comparison of the dispensing work of pharmacists in different countries		平成26年 8月～平成26年 9月	2014 FIP Congress	Yuki MORITA, Mayu TAKIKAWA, Yutaka INOUE, Koichi TAKAO, Ikuo KANAMOTO, Kenji SUGIBAYASHI	
14 Study of intermolecular interaction by co-grinding of hinokitiol and cyclodextrines		平成26年 8月～平成26年 9月	2014 FIP Congress	Rina SUZUKI, Yuina TSUNODA, Isamu MURATA, Yutaka INOUE, Ikuo KANAMOTO	
15 Evaluation of taste in tulobuterol dry strup		平成26年 8月～平成26年 9月	2014 FIP Congress	Yutaka INOUE, Hironori SHIMAZAKI, Ikuo KANAMOTO	
16 高齢者に対する睡眠薬安全使用における薬剤師介入の必要性の検討		平成26年 9月	第24回日本医療薬学会年会	磯田明宏, 井上 裕, 岩崎友香, 金本郁男, 勅使河原正敏, 井澤正義	
17 薬学実務実習生によるインシデントレポートの調査と解析		平成26年 9月	第24回日本医療薬学会年会	金田絢子, 新井成俊, 佐伯俊明, 村田 勇, 井上 裕, 木村昌行, 金本郁男	
18 これからの日本の医療に望ましい薬学教育・薬剤師像について～各国の薬剤師教育制度と国家試験制度及び医療制度の調査・研究～		平成26年 9月	第24回日本医療薬学会年会	小林俊博, 池田祐子, 沼尻幸彦, 井上 裕, 新津 勝, 金本郁男, 杉林堅次	
19 地域保険薬局における患者サービス向上を目指して		平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会	澤口恵子, 斎藤亜津子, 田中淳也, 榊秋寿, 滝川菜由, 森田夕貴, 井上裕, 村田勇, 金本郁男	

20 フィリピンおよびマレーシアにおける薬剤師の地域貢献の検討		平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会	滝川 菜由、井上裕、村田勇、高尾浩一、杉林堅次、金本郁男
21 ロベラミド小児用細粒剤を用いたヒト官能試験と製剤		平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会	船渡俊一、鈴木健介、村田勇、井上裕、金本郁男
22 野菜ジュースの摂取タイミングの違いによる食後血糖プロファイルの変化		平成27年 1月	第18回日本病態栄養学会年次学術集会	奥山愛、吉田和敬、柳岡真伊、糟谷憲明、村田勇、井上裕、金本郁男
23 低Glycemic Index食摂取後の血糖コントロールに適した運動負荷タイミングの探索		平成27年 1月	第18回日本病態栄養学会年次学術集会	峰岸悠生、吉田 智、堀田志保、池桂花、鈴木靖志、井上 裕、村田勇、金本郁男
24 Crush syndromeラットの急性期症状に対するAstragaloside IV含有輸液の改善効果		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	阿部祐二、村田勇、大竹一男、井上裕、小林順、金本郁男
25 Examination of physical properties and antioxidative of Caffeic acid with $\gamma$ -Cyclodextrin		平成27年 5月	Joint Conference of 8th Asian Cyclodextrin Conference and 32nd Cyclodextrin Symposium	Kengo Suzuki, Yutaka Inoue, Isamu Murata, Mami Yokota, Yoshihiro Tokudome, Ikuo Kanamoto
26 Characterization of $\alpha$ -glucosidase inhibitor with cyclodextrin		平成27年 5月	Joint Conference of 8th Asian Cyclodextrin Conference and 32nd Cyclodextrin Symposium.	Mitsuki Sugahara, Yutaka Inoue, Mayu Takikawa, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto
27 Solid dispersion of duloxetine hydrochloride with cyclodextrin		平成27年 5月	Joint Conference of 8th Asian Cyclodextrin Conference and 32nd Cyclodextrin Symposium.	Takashi Ikeda, Yutaka Inoue, Isamu MURata, Ikuo Kanamoto
28 Evaluation of antimicrobial activity of hinokitiol with $\gamma$ -cyclodextrin derivatives		平成27年 5月	Joint Conference of 8th Asian Cyclodextrin Conference and 32nd Cyclodextrin Symposium.	Rina Suzuki, Yuina Tsunoda, Isamu Murata, Yutaka Inoue, Yasunori Isshiki, Seiichi Kondo, Ikuo Kanamoto,
29 持続血糖モニタリングにもとづく適切な採血ポイントの検討		平成27年 7月	第14回日本Glycemic Index研究会	井上奈美、村田勇、井上裕、金本郁男
30 野菜ジュース事前摂取による小麦全粒粉配合パンの食後血糖上昇抑制効果		平成27年 8月	日本食品科学工学会	柳岡真伊、青江誠一郎、村田勇、井上裕、金本郁男
31 野菜ジュースおよび野菜ジュースに含まれる糖類の食前摂取が食後の血糖値およびインスリン値に与える影響		平成27年 8月	日本食品科学工学会 第62回大会	井上奈美、村田勇、井上裕、金本郁男
32 皮膚透過性に及ぼすナジフロキサシクリーム製剤の物理化学的性質		平成27年11月	第21回埼玉県薬剤師会学術大会	井上裕、洞毛美沙、日比野光恵、村田勇、杉野雅浩、従二和彦、金本郁男
33 ヒノキチオールのゲル化製剤の調製と製剤特性		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年會	釣みずき、鈴木莉奈、村田勇、井上裕、金本郁男
34 アセトアミノフェン製剤の物理化学的性質の比較評価		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年會	井上裕、鈴木健吾、池田貴司、角田結菜、小野田弘崇、菅原光希、土屋侑瑛、釣みずき、恵沢敏成、金本郁男
35 クロモグリク酸Na細粒剤を用いたヒト官能試験および製剤特性の比較検討		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年會	岩崎徹、船渡俊一、村田勇、井上裕、金本郁男
36 固体分散体調製によるPiperineの特性		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	恵沢敏成、村田勇、井上裕、金本郁男
37 シン科植物成分Patchouli alcoholと $\beta$ -Cyclodextrinによる包接複合体形成メカニズムの検討		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	小宮菜々、村田勇、井上裕、金本郁男
38 当院における持参薬の現状調査と処方支援の検討		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	古屋香代子、荒木淳一、岩崎徹、角田結菜、恵沢敏成、井上裕、金本郁男、亀村大
39 新規アスコルビン酸誘導体を用いたナノキャリア粒子調製の基礎的研究		平成28年 5月	日本薬剤学会 第31年会	日比野光恵、佐藤彩友里、村田勇、井上裕、金本郁男
40 ヒノキチオール銅錯体とシクロデキストリンとの包接複合体の調製		平成28年 5月	日本薬剤学会 第31年会	角田結菜、鈴木莉奈、村田勇、井上裕、佐藤寛泰、金本郁男
41 ニコチンアミド/尿素共結晶物の物性評価		平成28年 5月	日本薬剤学会 第31年会	小野田弘崇、村田勇、井上裕、佐藤寛泰、金本郁男
42 野菜ジュースはなぜ食後の血糖上昇を抑制するのか		平成28年 5月	第59回日本糖尿病学会	金本郁男、横田健介、太田昌一郎、須藤祐樹、井上奈美、糟谷憲明、村田勇、井上裕
43 大和芋の摂取量の違いが食後血糖に及ぼす影響		平成28年 5月	第59回日本糖尿病学会	渡邊優南、村岡正巳、村田勇、井上裕、金本郁男、
44 朝食前の野菜ジュース摂取が昼食後の血糖値に及ぼす影響		平成28年 7月	第15回日本Glycemic Index研究会	須藤裕樹、吉田和敬、砂堀諭、菅沼大行、村田 勇、井上 裕、金本郁男

45 高β-グルカン大麦粉配合パンのGlycemic Indexに及ぼす粒度およびβ-グルカン配合率の影響		平成28年 7月	第15回日本Glycemic Index研究会	小山智美、青江 誠一郎、神山 紀子、柳沢 貴司、村田 勇、井上裕、金本郁男
46 情報センターで受けた主な問い合わせについて vol.7	共著	平成28年 9月	情報センターで受けた主な問い合わせについて	目繁明、天野勉、池田和久、宮野訓夫、井上裕、荒井健介
47 カフェ酸とシクロデキストリンとの分子間相互作用の評価		平成28年 9月	第33回 シクロデキストリンシンポジウム	塩澤亮太、鈴木健吾、村田勇、井上裕、金本郁男
48 ヒノキチオール固体分散体における抗菌活性の評価		平成28年 9月	第33回 シクロデキストリンシンポジウム	鈴木莉奈、角田結菜、村田勇、井上裕、野村陽恵、一色恭徳、近藤誠一、金本郁男
49 αシクロデキストリン摂取による血糖上昇抑制効果の検討		平成28年 9月	第33回 シクロデキストリンシンポジウム	井上裕、菅原光希、村田勇、中田大介、寺尾啓二、金本郁男
50 薬剤師による持参薬現状調査と病棟業務への関与		平成28年 9月	第26回 日本医療薬学会年会	荒木淳一、古屋香代子、三木さくら、村田勇、井上裕、金本郁男、亀村大
51 コアシェルタイプ充填剤を用いたECD検出器によるAcarboseの分離分析		平成29年 1月	第22回 LCテクノプラザ	鳴海祥恵、三森秋穂、井上裕、金本郁男、三友俊一、根岸由紀子
52 クラッシュ症候群ラットに対するastragaloside-IVの腎傷害の抑制効果と一酸化窒素を介したミトコンドリア機能改善メカニズムによる抗炎症作用		平成29年 3月	日本薬学会 第137年会	村田勇、岩崎徹、篠田祐子、井上裕、金本郁男
53 クラッシュ症候群モデルラットにおける皮膚傷害性評価による病態の重症度評価		平成29年 3月	日本薬学会 第137年会	川西遼太、岩崎徹、井上将、村田勇、井上裕、大井一弥、金本郁男
54 コアシェルタイプ充填剤を用いたカラムおよびECD検出器によるα-glucosidase阻害薬の分析(1)		平成29年 3月	日本薬学会 第137年会	井上裕、三森秋穂、鳴海祥恵、三友俊一、根岸由紀子、金本郁男
55 コアシェルカラムを用いたHPLCによるPatchouli alcoholの分析手法		平成29年 3月	日本薬学会 第137年会	小宮菜々、井上裕、三友俊一、根岸由紀子、金本郁男
56 アスכולビン酸誘導体を用いたナノキャリア製剤の特性と皮膚浸透性評価		平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会	日比野光恵、村田勇、井上裕、杉野雅浩、從二和彦、金本郁男
57 アスכולビン酸誘導体/尿素複合体の評価		平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会	新山大地、福富萌子、村田勇、井上裕、徳留嘉寛、金本郁夫
58 学生実習から感じる院内製剤と臨床応用]		平成29年 5月	日本薬剤学会第 32 年会学術シンポジウム	井上裕
59 大和芋のGlycemic Index に及ぼす加熱処理及び咀嚼回数の影響		平成29年 5月	第60回日本糖尿病学会	山下沙帆里、村岡正巳、村田勇、井上裕、金本郁男
60 大和芋の摂食タイミングの違いが食後血糖値に及ぼす影響		平成29年 5月	第60回日本糖尿病学会	笹川真奈、村岡正巳、村田勇、井上裕、金本郁男
61 長芋とろろの摂取量の違いが食後血糖値に及ぼす影響		平成29年 7月	第16回日本Glycemic index研究会	笹川真奈、村田勇、井上裕、金本郁男
62 シクロデキストリン誘導体を用いたヒノキチオール固体分散体における抗菌活性の評価		平成29年 8月～平成29年 9月	第34回シクロデキストリンシンポジウム	鈴木莉奈、村田勇、井上裕、野村陽恵、一色恭徳、近藤誠一、金本郁男
63 凍結乾燥により調製したα-グルコシダーゼ阻害剤/シクロデキストリン複合体の特性評価		平成29年 8月～平成29年 9月	第34回シクロデキストリンシンポジウム	鳴海祥恵、三森秋穂、村田勇、井上裕、金本郁男
64 コアシェルタイプイオン交換樹脂の開発とそれを用いた糖質の溶離挙動(第29報)		平成29年10月	第4回FCCAシンポジウム 東京理科大学	根岸 由紀子、三友俊一、務台俊樹、井上裕、鳴海祥恵、三森秋穂
65 吸収促進剤を添加したアレガバリン直腸内投与製剤の調製とバイオアベイラビリティの評価		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会	土井裕貴、林克典、熱田直也、村田勇、井上裕、山本泰大、金本郁男
66 六君子湯坐剤のラットにおける薬物動態パラメータの算出および悪心・嘔吐に対する効果の比較		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会	鎌田武志、内藤千鶴、川崎浩範、古河義行、岩田萌子、村田勇、井上裕、金本郁男
67 情報センターで受けた主な問い合わせについて vol.8	共著	平成30年 1月	埼玉県薬剤師	金子伸行、目繁明、天野勉、池田和之、宮野訓夫、井上裕、鈴木勝宏、鯉淵肇
68 コアシェルタイプのイオン交換樹脂の開発とそれを用いた糖質の溶離挙動(第30報)		平成30年 1月	第 23 回 LC & LC/MS テクノプラザ	根岸由紀子、三友俊一、務台俊樹、井上裕
69 γCyclodextrinとForchlorfenuronの固体分散体による物性特性		平成30年 3月	日本農芸化学会2018	平野愛、恵沢敏成、鈴木莉奈、村田勇、井上裕、古旗賢二、金本郁男
70 混合粉砕によるγCyclodextrinとDaidzeinの物性評価		平成30年 3月	日本農芸化学会2018	長田麻衣、鳴海祥恵、恵沢敏成、鈴木莉奈、村田勇、井上裕、古旗賢二、金本郁男
71 Guaiazulenとγ-Cyclodextrinによる固体分散体の物性特性		平成30年 3月	日本薬学会第138年会	篠原宥佳、鈴木莉奈、村田勇、井上裕、金本郁男

72 Evaluation of antimicrobial activity of hinokitiol with cyclodextrins		平成30年 4月	The 19th International Cyclodextrin Symposium (ICS 2018)	Rina Suzuki, Isamu Murata, Yutaka Inoue, Harue Nomura, Yasunori Isshiki, Seiichi Kondo and Ikuo Kanamoto Rina Suzuki, Isamu Murata, Yutaka Inoue, Harue Nomura, Yasunori Isshiki, Seiichi Kondo and Ikuo Kanamoto
73 Change in the dissolution property of piperine by Co-grinding with $\alpha$ -cyclodextrin		平成30年 4月	The 19th International Cyclodextrin Symposium (ICS 2018)	Toshinari Ezawa, Yutaka Inoue, Isamu Murata, Koichi Takao, Yoshiaki Sugita and Ikuo Kanamoto
74 Quantitative analysis of cyclodextrin by HPLC-ECD		平成30年 4月	The 19th International Cyclodextrin Symposium (ICS 2018)	Akiho Mitsumori, Sachie Narumi, Shun-ichi Mitomo, Yukiko Negishi, Isamu Murata, Yutaka Inoue and Ikuo Kanamoto
75 コアシェルタイプのイオン交換型樹脂の開発とそれを用いた食品中の糖質・アルコール等の溶離挙動 (第31報)		平成30年 5月	日本食品化学学会 第24回総会・学術大会 東京ビッグサイト	根岸由紀子、三友俊一、務台俊樹、井上裕
76 溶媒留去法により調製した CD-MOF-1/Coenzyme Q10 複合体の物理化学的性質の評価		平成30年 9月	第35回 シクロデキストリンシンポジウム	南里亜由美, 井上裕, 村田勇, 石田善行, 寺尾啓二, 金本郁男
77 共沈法により調製した Vanillylnonanoate/ $\gamma$ CD および Vanillylnonanamide/ $\gamma$ CD 複合体の物性評価		平成30年 9月	第35回 シクロデキストリンシンポジウム	鈴木夏実, 内海彩, 村田勇, 井上裕, 古旗賢二, 金本郁男
78 凍結乾燥法により調製した Kinetin/ $\beta$ -Cyclodextrin 類複合体形成における物性評価		平成30年 9月	第35回 シクロデキストリンシンポジウム	鈴木優美, 村田勇, 井上裕, 金本郁男
79 $\alpha$ -, $\beta$ -, $\gamma$ -シクロデキストリン複合体中のピペリンの分子挙動の変化		平成30年 9月	第35回 シクロデキストリンシンポジウム	恵沢敏成, 井上裕, 村田勇, 高尾浩一, 杉田義昭, 金本郁男
80 ヒノキチオール銅錯体/シクロデキストリン複合体における抗菌活性の評価		平成30年 9月	第35回 シクロデキストリンシンポジウム	鈴木莉奈, 村田勇, 井上裕, 野村陽恵, 一色恭徳, 橋本雅司, 近藤誠一, 金本郁男
81 Usability on pharmaceutical properties of vidarabine cream		平成30年10月	Joint Symposium: HPC and AP-PEN Conferences ウェスタ川越	Rina Suzuki, Ryota Shiozawa, Daichi Niiyama, Itsuka Shinohara, Sachie Narumi, Akiho Mitsumori, Nana Komiya, Takafumi Sakurai, Sakura Miki, Yutaka Inoue, Ikuo Kanamoto
82 Evaluation of physicochemical properties of a solid dispersion of Coenzyme Q10/CD-MOF-1 prepared by solvent evaporation		平成30年10月	Joint Symposium: HPC and AP-PEN Conferences	Ayumi Nanri, Yutaka Inoue, Isamu Murata, Ikuo Kanamoto
83 栄養評価ツールSGAおよびMUSTの比較・検討		平成30年10月	第6回 日本静脈経腸栄養学会 関東甲信越支部学術集会	井上裕、本多里菜、森田詩徳、荒木淳一、土屋宗周、上野拓、金本郁男
84 コアシェルタイプのイオン交換型樹脂の開発とそれを用いた糖質の溶離挙動 (第33報)		平成30年12月	第35回イオンクロマトグラフィー討論会 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター	根岸 由紀子, 三友 俊一, 務台 俊樹, 井上裕
85 コアシェルタイプのイオン交換型樹脂の開発とそれを用いた糖質等の溶離挙動 (第32報)		平成31年 1月	第30回 高分子ゲル研究討論会 東京工業大学 デジタル多目的ホール (目黒区大岡山2-12-1)	三友俊一、根岸由紀子、務台俊樹、井上裕
<b>III 学会等および社会における主な活動</b>				
平成25年 4月～現在に至る	埼玉県薬物乱用防止指導員			
平成26年 4月～現在に至る	日本薬剤学会 編集委員会 副委員長			
平成27年 4月～平成29年 3月	日本医療薬学会 広報委員会 委員			
平成27年 7月	薬物依存、乱用防止に関する講演(坂戸西高等学校)			
平成27年10月	平成 27 年度「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」			
平成28年 4月～現在に至る	埼玉県衛生研究所研究事業の評価に関わる外部評価委員会委員			
平成28年 7月	薬物依存、乱用防止に関する講演(坂戸西高等学校)			
平成28年10月	平成 28 年度「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」			
平成29年 7月	薬物依存、乱用防止に関する講演(坂戸西高等学校)			
平成29年10月	平成 29 年度「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」			
平成30年 7月	薬物依存、乱用防止に関する講演(坂戸西高等学校)			
平成30年 7月	平成30年度非行防止街頭キャンペーン			
平成30年11月	2018年度「研究機関等体験事業」一日体験科学教室 城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」埼玉県立熊谷女子高等学校			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 内田 昌希	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
1) 図解 製剤学		平成25年 4月～現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 食物アレルギー 禁忌・要注意の医薬品とその代替薬	共著	平成28年	南山堂	夏目秀視, 内田昌希	
論文					
1 都道府県別の平均要介護期間と損失生存可能年数の地域格差と医療・福祉資源の関連について—医薬品情報に着目した地域相関研究— (査読付)	共著	平成26年	厚生の指標 第61巻	内田博之, 中村拓也, 金子彩野, 大竹一男, 内田昌希, 小田切陽一, 夏目秀視, 小林順	15頁～24頁
2 希釈調製した0.5%ポビドンヨード液の安定性および各種ポビドンヨード製剤の比較 (査読付)	共著	平成26年	医療薬学 第40巻	内田昌希, 浦山玲菜, 一色恭徳, 八巻努, 前野拓也, 上田秀雄, 近藤誠一, 夏目秀視	109頁～116頁
3 L-ascorbic acid- and L-ascorbic acid 2-glucoside accelerate in vivo liver regeneration and lower serum alanine aminotransaminase activity in 70% partially hepatectomized rats (査読付)	共著	平成26年	Biol. Pharm. Bull. vol.37	M. Kimura, H. Moteki, M. Uchida, H. Natsume, M. Ogihara	pp.597～pp.603
4 A mechanism enhancing macromolecule transport through paracellular spaces induced by poly-L-arginine: Poly-L-arginine induces the internalization of tight junction proteins via clathrin-mediated endocytosis (査読付)	共著	平成26年	Pharm. Res. vol.31	T. Yamaki, Y. Kamiya, K. Ohtake, M. Uchida, T. Seki, H. Ueda, J. Kobayashi, Y. Morimoto, H. Natsume	pp.2287～pp.2296
5 わが国の子宮頸がん死亡率の年次変動に対する年齢—時代—コホート効果と2012年～2031年の子宮頸がん死亡率の将来予測 (査読付)	共著	平成26年	日本衛生学雑誌 第69巻	内田 博之, 小林 瑞希, 細渕 亜実, 太田 彩乃, 大竹 一男, 八巻努, 内田 昌希, 小田切 陽一, 夏目 秀視, 小林 順	215頁～224頁
6 Calibration of infrared video-oculography by using bioadhesive phosphorescent particles for accurate measurement of vestibulo-ocular reflex in mice (査読付)	共著	平成27年	Journal of Advanced Science vol.27	A. Katoh, T. Hatanaka, E. Takeuchi, M. Uchida, H. Natsume	pp.11～pp.16
7 Development of a Transnasal Delivery System for Recombinant Human Growth Hormone (rhGH): Effects of the Concentration and Molecular Weight of Poly-L-arginine on the Nasal Absorption of rhGH in Rats (査読付)	共著	平成28年	Biol. Pharm. Bull. vol.39	R. Kawashima, M. Uchida, T. Yamaki, K. Ohtake, T. Hatanaka, H. Uchida, H. Ueda, J. Kobayashi, Y. Morimoto, H. Natsume	pp.329～pp.335
8 Preparation of bioadhesive phosphorescent particles and their use as markers for video-oculography of mice (査読付)	共著	平成28年	Tokai J. Exp. Clin. Med. vol.41	T. Hatanaka, E. Takeuchi, A. Katoh, T. Yamaki, M. Uchida, H. Natsume	pp.46～pp.53
9 Preparation and evaluation of PEGylated poly-L-ornithine complex as a novel absorption enhancer (査読付)	共著	平成29年	Biol. Pharm. Bull. vol.40	Y. Kamiya, T. Yamaki, M. Uchida, T. Hatanaka, M. Kimura, M. Ogihara, Y. Morimoto, H. Natsume	pp.205～pp.211
10 Dietary nitrite supplementation attenuates cardiac remodeling in l-NAME-induced hypertensive rats (査読付)	共著	平成29年	Nitric Oxide vol.67	Kunihiro Sonoda, Kazuo Ohtake, Hiroyuki Uchida, Junta Ito, Masaki Uchida, Hideshi Natsume, Hazuki Tamada, Jun Kobayashi	pp.1～pp.9

11 Improved intranasal retentivity and transnasal absorption enhancement by PEGylated poly-L-ornithine (査読付)	共著	平成30年	Pharmaceuticals vol.11 No.1	Yusuke Kamiya, Tsutomu Yamaki, Shigehiro Omori, Masaki Uchida, Kazuo Ohtake, Mitsutoshi Kimura, Hiroshi Yamazaki, Hideshi Natsume	
12 ベイズ型 age-period-cohort 分析を用いた日本の予測平均余命の性差 (2023 ~ 2047年) (査読付)	共著	平成30年	日本衛生学雑誌 第73巻 第3号	内田 博之, 三藤 瑠莉, 瓶子 英朗, 齋藤 雅文, 小田切陽一, 大竹 一男, 八巻 努, 内田 昌希, 夏目 秀視, 小林 順	338頁~353頁
その他					
1 角膜付着能を有する蓄光顔料微粒子の調製及び機能評価		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	木村拓也, 内田昌希, 八巻努, 畑中朋美, 加藤明, 夏目秀視	
2 エピナスチン塩酸塩ドライシロップ1%の先発医薬品と後発医薬品の苦味比較試験に関する研究		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	舘野瑞穂, 内田昌希, 八巻努, 夏目秀視	
3 Helicobacter pylori凝集における humanGalectin-2及びそのニトロソ化体の比較とGalectin分子種の違いによる検討		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	永堀司, 大竹一男, 田中享, 田村真由美, 武内智春, 八巻努, 内田昌希, 小林順, 荒田洋一郎, 夏目秀視	
4 GISを使用した埼玉県内の保険薬局における在宅医療への参画状況		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	丸野将司, 内田博之, 大竹一男, 内田昌希, 夏目秀視, 小林順, 小田切陽一	
5 モーラス®テープにおける剥離力とケトプロフェン透過との関係		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 埼玉	亀田和彦, 内田昌希, 八巻努, 森本雍憲, 夏目秀視	
6 上皮細胞シートにおける poly-L-arginine 暴露後の高分子薬物の透過経路の観察		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 埼玉	小林直人, 八巻努, 神矢佑輔, 内田昌希, 関俊暢, 夏目秀視	
7 アレルギー原因食物成分含有医薬品とその代替医薬品の調査		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 埼玉	須鴨苗美, 神山和毅, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
8 ヒト成長ホルモン経鼻投与後の体内動態に及ぼすpoly-L-arginineの影響		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 埼玉	川島亮, 内田昌希, 八巻努, 夏目秀視	
9 アレルギー原因食物成分含有医薬品に対する代替医薬品の早見表作成		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 埼玉	須鴨苗美, 神山和毅, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
10 ケトプロフェン含有テープ剤における剥離力と皮膚透過性の関係		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 東京	亀田和彦, 内田昌希, 八巻努, 森本雍憲, 夏目秀視	
11 5, (6) - carboxyfluorescein 経鼻投与後の中枢移行性に関する研究		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 東京	水沼由佳, 桑原佑介, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
12 前庭動眼反射の測定を目的とした眼球付着性蓄光顔料マーカーの開発		平成26年11月	第36回日本バイオマテリアル学会大会 東京	内田昌希, 宗像彩香, 木村拓也, 八巻努, 畑中朋美, 横溝貴美子, 高橋祐佳, 竹内絵里, 加藤明, 夏目秀視	
13 Caco-2細胞を用いたpoly-L-arginineによる水溶性高分子薬物の吸収促進機構 ~密着結合タンパク質の消失機構の解析~		平成26年12月	日本動物実験代替法学会 第27回大会 横浜	八巻努, 神矢佑輔, 大竹一男, 内田昌希, 関俊暢, 上田秀雄, 小林順, 森本雍憲, 夏目秀視	
14 ガラス及びプラスチック製品へのテリパラチド酢酸塩の吸着に対する適用時間及び共洗い回数の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	大森慈大, 丸山晶子, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
15 水溶性高分子薬物の経鼻吸収に対する poly-L-ornithine の濃度及び分子量の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	金丸達哉, 武田里沙, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
16 ヒト成長ホルモンの経鼻吸収に及ぼすキトサン誘導体の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	神尾良, 川島亮, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
17 季節変化に伴うテープ剤の剥離力の変動とその影響因子に関わる研究		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	茅野良太, 新井淳生, 内田昌希, 八巻努, 森本雍憲, 夏目秀視	
18 新規粘膜吸収促進としてのポリカチオン複合体の調製		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	神矢佑輔, 八巻努, 内田昌希, 森本雍憲, 夏目秀視	
19 アセトアミノフェン経鼻投与製剤は小児における解熱効果に有用であるか		平成27年 7月	第4回日本小児診療多職種研究会 北九州	内田昌希, 伊東朋美, 湯本茂貴, 金木由希子, 川島朋子, 桑原久瑠美, 八巻努, 夏目秀視	
20 ポリエチレングリコール修飾がポリカチオンの吸収促進能に及ぼす影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	金子侑香里, 神矢佑輔, 細田伸之助, 栗原潤, 八巻努, 内田昌希, 森本雍憲, 夏目秀視	
21 Poly-L-arginine 併用下水溶性高分子薬物の経鼻投与後の鼻腔内滞留性及び鼻粘膜吸収性に及ぼす polyvinylpyrrolidone の影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	川島亮, 坂下智彦, 船木匠, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
22 0.1%ポビドンヨード液の安定性に関する研究		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	神保美咲, 名取沙矢加, 内田昌希, 一色恭徳, 八巻努, 近藤誠一, 夏目秀視	

23 アムロジピンベシル酸塩錠5 mgの溶出挙動に対する一包化の影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	笛木敦史, 松村紅沙, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
24 新規粘膜吸収促進剤としてのポリカチオン複合体の調製と吸収促進効果の評価		平成28年 6月	第32回日本DDS学会学術集会 静岡	神矢佑輔, 八巻努, 内田昌希, 森本雅憲, 夏目秀視	
25 アレルギー原因食物成分を含有する医薬品とその代替医薬品について	共著	平成29年	臨床栄養 第131巻	内田昌希, 夏目秀視	2頁～3頁
26 ポリエチレングリコール修飾poly-L-ornithine は鼻腔内滞留性及び経鼻吸収促進効果を改善する		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	神矢佑輔, 雨宮怜香, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
27 後肢拘束ラットの廃用性筋萎縮における選択的iNOS 阻害剤の効果		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	内田博之, 庄村吉貴, 齋藤文, 大竹一男, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視, 小林順	
28 水溶性高分子薬物の鼻粘膜吸収に対するpoly-L-ornithineとpolyethylene glycolの併用効果		平成29年 7月	第33回日本DDS学会学術集会 京都	大森慈大, 橋本繁, 山崎伊織, 川村由樹, 内田昌希, 八巻努, 夏目秀視	
29 経鼻吸収剤への応用を指向したフェノバルビタール内包ディスク状粒子の創製と接着・放出特性		平成29年 7月	第33回日本DDS学会学術集会 京都	長島和希, 中川篤, 畑中朋美, 小沢春香, 金丸達哉, 内田昌希, 夏目秀視, 岡村陽介	
30 PVP及びPLAを用いたアセトアミノフェンデリバリーシステムの経鼻投与後のアセトアミノフェンの脳内移行性と薬理効果		平成29年 7月	埼玉医療薬学懇話会第37回 学術研究講演会 埼玉	小川夏歩, 金丸達哉, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
31 0.1%ボピドンヨード液の安定性に対する保存温度の影響		平成29年 7月	埼玉医療薬学懇話会第37回 学術研究講演会 埼玉	島村智也, 内田昌希, 八巻努, 夏目秀視	
32 乳酸菌製剤の微粒を含むと舌に温感があるのはなぜか?	共著	平成30年	日本医事新報 第4911巻	夏目秀視, 内田昌希	62頁
33 Polyvinylpyrrolidone及びpoly-L-arginineを用いた経鼻投与システムでのアセトアミノフェン脳内移行性と薬理効果		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	小川夏歩, 金丸達哉, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
34 ヘアレスラット皮膚におけるスミルテープの剥離力とフェルピナクスの皮膚透過性に及ぼす皮膚水分量の影響		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	金丸達哉, 白井博紀, 八巻努, 内田昌希, 夏目秀視	
35 In vivo ヒト皮膚におけるテープ剤の剥離力の予測を目的とした in vitro 剥離試験法の確立		平成30年 5月	日本薬剤学会第33年会 静岡	金丸 達哉, 内田 昌希, 八巻努, 夏目 秀視	
36 アレルギー表示が義務付けられている特定原材料成分含有一般用医薬品に対する代替医薬品の早見表の作成		平成30年 7月	埼玉医療薬学懇話会 第38 回学術研究講演会 埼玉	梅崎紗也香, 橋本実季, 内田昌希, 八巻努, 夏目秀視	
III 学会等および社会における主な活動					
平成22年 4月～現在に至る	埼玉医療薬学懇話会 事務局員				
平成26年 8月	平成26年度北坂戸寿大学健康講座				
平成27年11月	城西健康市民大学				
平成27年12月	模擬授業				
平成28年10月	模擬授業				
平成29年 9月	模擬授業				
平成30年 1月	城西健康市民大学				
平成30年10月	模擬授業				

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 大嶋 繁	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
1 Deprescribing Using the Guidelines for Medical Treatment and Its Safety in the Elderly and Changes in Patient QOL and Activities of Daily Living (査読付)	共著	平成29年 5月	日本薬学会 薬学雑誌 第137巻 第5号	大嶋 繁, 原 彩伽, 阿部 卓巳, 秋元 勇人, 大原 厚祐, 根岸 彰生, 冲田 光良, 大島 新司, 井上直子, 沼尻 幸彦, 小川 越史, 齋木 実, 小林 大介	623頁~633頁
その他					
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 大竹 一男	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
1 都道府県別の平均要介護期間と損失生存可能年齢の地域格差と医療・福祉資源の関連について (査読付)	共著	平成26年 3月	厚生指標 第61巻 第3号	内田博之、中村拓也、金子綾野、大竹一男、内田昌希、小田切陽一、夏目秀視、小林順	15頁~24頁
2 A Mechanism Enhancing Macromolecule Transport Through Paracellular Spaces Induced by Poly-L-Arginine: Poly-L-Arginine Induces the Internalization of Tight Junction Proteins via Clathrin-Mediated Endocytosis. (査読付)	共著	平成26年 3月	Pharm Res.	Yamaki T, Kamiya Y, Ohtake K, Uchida M, Seki T, Ueda H, Kobayashi J, Morimoto Y, Natsume H.	
その他					
1 Helicobacter pylori凝集における humanGalectin-2及びそのニトロソ化体の比較とGalectin 分子種の違いによる検討		平成26年 3月	第134年会日本薬学会 (熊本)	永堀司、大竹一男、田中亨、田村真由美、武内智春、八巻努、内田昌希、小林順、荒田洋一郎	
2 わが国の男性死亡割合の動向に対する年齢一時代ーコホート効果と死亡割合の将来予測		平成26年 3月	第134年会日本薬学会 (熊本)	細瀬亜実、内田博之、大竹一男、小田切陽一、小林順	
3 亜硝酸塩はOVXした高脂肪食摂取マウスの脂肪細胞肥大を抑制する		平成26年 3月	第134年会日本薬学会 (熊本)	江原伸行、大竹一男、菌田邦博、千葉大成、内田博之、小林順	
4 絶食ラットの廢用性腸管粘膜炎萎縮に及ぼす非消化物質摂食の改善効果		平成26年 3月	第134年会日本薬学会 (熊本)	中島由加里、内田博之、伊東順太、大竹一男、小林順	
5 GISを使用した埼玉県内の保険薬局における在宅医療への参画状況		平成26年 3月	第134年会日本薬学会 (熊本)	丸野将司、内田博之、大竹一男、八巻努、内田昌希、小田切陽一、小林順、夏目秀視	
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。  
 ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。  
 ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。  
 ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。  
 ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 木村 光利	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
<b>I 教育活動</b>					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1)フレッシュマンセミナー I		平成18年 4月～平成30年 7月	新入生を対象として、コンピュータ演習、図書館の利用法、講演会等で問題提議し、SGDを通しコミュニケーション能力を養うとともにPBL並びにモチベーション教育を行っている。		
2)模擬患者養成講座の有用性および服薬指導に及ぼす実務実習の効果		平成22年10月～現在に至る	ObjectiveStructuredClinicalExamination (OSCE)の初回面接および服薬指導などはStandardizedPatient (SP)を必要とし、各大学ではSPを独自に養成するか既存のSPを利用している。当大学では2010年10月よりSP養成講座を開講し、SPの育成に努めている。そして、2010年度から2013年度の受講者にアンケートを実施し、本講座の有用性およびSPとしての任用の可能性を検討した。また、養成したSPを用いて、OSCE様のコミュニケーション関連試験を実施し、実務実習の効果を比較したことを、2013年3月の日本薬学会131年会で発表した。		
3)1コマ講義内容ダイジェスト評価		平成26年 4月～現在に至る	1コマごとに学生が作成している講義内容の800文字ダイジェストをWebclass(文字数、期日、内容)を用いて評価し、定期試験本試験の成績に15%組み込んでいる。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
1)生物系実験Ⅱ・薬学実習Ⅴ実習書		平成17年 4月～現在に至る	本学3年生280名を対象に行なわれる生物系実験Ⅱならびに薬学実習Ⅴ薬理学領域の実習書作成・編集を行なっている。		
2)ファーマシューティカルノート第2版		平成20年 2月～現在に至る	薬剤師国家試験・CBTの疾患と薬物治療法について解説している。そのうち、特に皮膚疾患、感染症領域の治療薬および薬物治療の解説を担当		
3)医療薬学 最新薬理学 第9版		平成25年 9月～平成28年 8月			
4)医療薬学 最新薬理学第10版		平成28年 9月～現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1)薬学部同窓会個人情報管理		平成18年 3月～現在に至る	薬学部の同窓生(7500名以上)を対象に、配属先や現住所等、個人情報の管理を、本学同窓会と連携を取りながら行なっている。		
2)薬学部薬学科1, 2, 3年生および臨床薬理学講座配属生13名		平成18年 4月～現在に至る	08年度生7名、07年度生7名、06年度生9名の学生さんの入学時からの学校生活に関して、勉強、体調管理、友人関係等を、保護者との連絡も密に取りながら、個別に指導ならびに支援している。また、講座配属生(四年生13名)に対し、上記のような指導・支援以外に就職相談および国家試験対策の補講ゼミならびに個別相談を行なっている。		
<b>II 研究活動</b>					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 医療薬学 最新薬理学 第10版	分担執筆	平成28年 9月	廣川書店	岡崎真理、荻原政彦、尾崎昌宣、川原浩一、木村光利、篠塚和正、他	
論文					
1 L-ascorbic acid- and L-ascorbic acid 2-glucoside accelerate in vivo liver regeneration and lower serum alanine aminotransaminase activity in 70% partially hepatectomized rats. (査読付)	共著	平成26年 4月	Biol Pharm Bull. vol.37 No. 4	Kimura M, Moteki H, Uchida M, Natsume H, Ogihara M.	pp.597～pp.603
2 Involvement of endogenous transforming growth factor- $\alpha$ in signal transduction pathway for interleukin-1 $\beta$ -induced hepatocyte proliferation. (査読付)	共著	平成26年12月	Eur J Pharmacol. vol.745	Kimura M, Moteki H, Ogihara M.	pp.223～pp.233

3 Signal Transduction Mechanism for Serotonin 5-HT <sub>2B</sub> Receptor-Mediated DNA Synthesis and Proliferation in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes. (査読付)	共著	平成28年	Biol. Pharm. Bull. vol.39	K. Naito, C. Tanaka, M. Mitsuhashi, H. Moteki, M. Kimura, H. Natsume, M. Ogihara	pp.121~pp.129
4 Serotonin 5-HT <sub>2B</sub> Receptor-Stimulated DNA Synthesis and Proliferation Are Mediated by Autocrine Secretion of Transforming Growth Factor- $\alpha$ in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes.	共著	平成28年	Biol. Pharm. Bull. vol.39	K. Naito, H. Moteki, M. Kimura, H. Natsume, M. Ogihara	pp.570~pp.577
5 Effects of oxethazaine and gamma-cyclodextrin complex formation on intestinal contractions. (査読付)	共著	平成28年	World J. Pharm. Sci. vol.4	Y. Inoue, R. Suzuki, M. Horage, M. Togano, H. Moteki, M. Kimura, M. Ogihara, S. Ando, J. Kikuchi, I. Murata, I. Kanamoto	pp.269~pp.280
6 カルシウム拮抗薬とグレープフルーツジュースの相互作用に関するパンフレット配布による教育効果の検討 (査読付)	共著	平成28年 8月	薬局薬学 第8号	茂木 肇、中村 梨絵、木村 光利、白石 卓也、荻原 政彦	114頁~120頁
7 Preparation and Evaluation of PEGylated Poly-L-ornithine Complex as a Novel Absorption Enhancer. (査読付)	共著	平成29年	Biol. Pharm. Bull. vol.40	Kamiya Y, Yamaki T, Uchida M, Hatanaka T, Kimura M, Ogihara M, Morimoto Y, Natsume H	pp.205~pp.211
8 リウマトレックスによる間質性肺炎を例にした重篤な副作用の情報提供に対する非関節リウマチ患者の意識調査 (査読付)	共著	平成29年 6月	薬局薬学 第9巻	茂木 肇、遠藤 菜、木村 光利、小松 由美子、荻原 政彦	150頁~158頁
9 Improved Intranasal Retentivity and Transnasal Absorption Enhancement by PEGylated Poly-L-ornithine. (査読付)	共著	平成30年 1月	Pharmaceuticals (Basel).	Kamiya Y, Yamaki T, Omori S, Uchida M, Ohtake K, Kimura M, Yamazaki H, Natsume H.	
10 Enhancement Effect of Poly-L-ornithine on the Nasal Absorption of Water-Soluble Macromolecules in Rats	共著	平成31年 1月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.42 No.1	higehiro Omori, Yusuke Kamiya, Tsutomu Yamaki, Masaki Uchida, Kazuo Ohtake, Mitsutoshi Kimura, Hideshi Natsume	pp.144~pp.148
その他					
1 ビタミンCによる成熟ラット初代培養肝実質細胞の増殖促進作用はIGF-I受容体を介している		平成26年 3月	日本薬学会 第134年会 ホテル日航熊本(熊本県)	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
2 日本の精神疾患患者における禁煙治療の現状と諸外国の場合との比較について		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	関口 菜都子、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
3 かかりつけ薬局と服薬アドヒアランスの関係性について		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	岩野 貢典、石渡 知子、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
4 薬局来局者におけるOTC医薬品ネット販売に関する意識調査		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	小田 翔平、長島 こぎく、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
5 Ca拮抗薬とグレープフルーツジュースの飲み合わせを例にした患者の薬に対する知識の定着を目指した取り組みについて		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	中村 梨絵、茂木 肇、木村 光利、白石 卓也、荻原 政彦	
6 後発医薬品に対する医師・薬剤師の意識について		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	渡部 秀樹、渡部 秀人、太田 昌一郎、齋藤 耕一、時任 敏基、杉本 あけみ、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
7 患者の内服薬の飲み忘れにおける残薬の管理と服薬に関する調査研究		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	鈴木 舞、茂木 肇、木村 光利、飯島 朋子、荻原 政彦	
8 山梨大学医学部附属病院の薬務室における安全・安心な医療の提供に関する薬剤師の役割と連携について		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	二階堂 綾美、茂木 肇、木村 光利、長澤 みわ子、寺島 朝子、荻原 政彦	
9 PTP包装による誤飲対策に関する薬学的調査		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会第34回 学術研究講演会 城西大学薬学部(埼玉県)	遠藤 沙紀、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	

10 L-Ascorbic Acid- and L-Ascorbic Acid 2-Glucoside Accelerate In Vivo Liver Regeneration and Lower Serum Alanine Aminotransaminase Activity in 70% Partially Hepatectomized Rats.		平成26年 7月	17th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology Cape Town, South Africa	Mitsutoshi Kimura, Hajime Moteki, Masahiko Ogihara.	
11 70%部分肝切除ラットにおけるプロスタグランジンE2の肝再生促進作用に関する組織化学的研究		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 昭和薬科大学(東京都)	内藤 浩太、北澤 知英、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
12 70%部分肝切除マウスにおけるカルボコールの肝再生促進作用に関する研究		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 昭和薬科大学(東京都)	野呂 昌代、矢田 祐平、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
13 初代培養肝実質細胞におけるアスコルビン酸の増殖促進作用に対するアドレナリン作動性調節機構の検討		平成27年 3月	第88回日本薬理学会年会 名古屋国際会議場(愛知県)	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
14 70%部分肝切除ラットにおけるL-アスコルビン酸及びその誘導体による肝再生促進作用に関する検討		平成27年 3月	日本薬学会 第135年会 神戸サンボーホール(兵庫県)	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
15 70%部分肝切除ラットにおけるプロスタグランジンE2の肝再生促進作用に関する組織化学的研究		平成27年 7月	第132回日本薬理学会関東支部会 明海大学浦安キャンパス(千葉県)	内藤 浩太、北澤 知英、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
16 高血圧患者に対する薬剤師の家庭血圧測定指導効果に関する調査研究		平成27年 7月	埼玉医療薬学懇話会第35回 学術研究講演会 さいたま市文化センター (埼玉県)	加藤 美徳、茂木 肇、木村 光利、前田 勝代、荻原 政彦	
17 地域薬局におけるセルフメディケーションに対する患者の意識に関する調査研究		平成27年 7月	埼玉医療薬学懇話会第35回 学術研究講演会 さいたま市文化センター (埼玉県)	小島 望、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
18 業務形態別かかりつけ薬局の利用推進に関する調査研究		平成27年 7月	埼玉医療薬学懇話会第35回 学術研究講演会 さいたま市文化センター (埼玉県)	山本 夕貴、深澤 貴弥、臼井 滋、小松 由美子、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
19 オキセサゼイン- $\gamma$ シクロデキストリン抱接化合物のマウス摘出回腸に対する収縮抑制作用に関する研究		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部(千葉県)	金井 里紗、茂木 肇、木村 光利、井上 裕、金本 郁男、荻原 政彦	
20 薬局におけるメトトレキサートを例にした重篤な副作用の情報提供に対する患者の意識に関する調査研究		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部(千葉県)	遠藤 菜、茂木 肇、木村 光利、田中 真奈美、小松 由美子、大山 邦之、荻原 政彦	
21 ラット初代培養肝実質細胞に対するインターロイキン $1\beta$ の細胞増殖 促進作用はトランスフォーミング増殖因子 $\alpha$ の分泌を介している		平成28年 3月	第89回日本薬理学会年会 パシフィコ横浜(神奈川県)	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
22 ラット初代培養肝実質細胞に対するインターロイキン $1\beta$ の増殖促進作用の検討		平成28年 3月	第89回日本薬理学会年会 パシフィコ横浜(神奈川県)	内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
23 セロトニンの成熟ラット初代培養肝実質細胞における細胞増殖促進機構に関する検討		平成28年 3月	日本薬学会 第136年会 パシフィコ横浜(神奈川県)	内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
24 病院における非高齢者のカルシウム拮抗薬服用後の胃腸障害発症率に関する調査研究		平成28年 7月	埼玉医療薬学懇話会第36回 学術研究講演会 さいたま市文化センター (埼玉県)	星野 広太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
25 70%部分肝切除ラットにおける血清アミノ酸の変動に関する検討		平成28年 9月	第60回日本薬学会関東支部大会 東京大学山上会館(東京都)	阪本 恵、田中 里、内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	
26 Effect of serotonin on phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase in primary cultures of adult rat hepatocytes.		平成29年 3月	第90回日本薬理学会年会 長崎ブリックホール(長崎県)	Hajime Moteki, Kota Naito, Mitsutoshi Kimura, Masahiko Ogihara	
27 Serotonin-induced hepatocyte mitogenesis is mediated by epidermal growth factor /transforming growth factor-alpha receptor tyrosine kinase pathway.		平成29年 3月	第90回日本薬理学会年会 長崎ブリックホール(長崎県)	Kota Naito, Hajime Moteki, Mitsutoshi Kimura, Masahiko Ogihara	
28 ラット初代培養肝実質細胞におけるインターロイキン $1\beta$ の増殖促進作用機構に関する検討		平成29年 3月	日本薬学会 第137年会 仙台(宮城県)	内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦	

29 リウマトレックス®による間質性肺炎を例にした重篤な副作用の情報提供に対する非関節リウマチ患者の意識調査		平成29年 7月	埼玉医療薬学懇話会第 37 回学術研究講演会 東大宮コミュニティセンター(埼玉県)	仁宮 勇人、遠藤 栞、茂木 肇、木村 光利、小松 由美子、荻原 政彦
30 アセトアミノフェン誘発肝障害マウスにおけるシステインの 肝障害抑制作用に関する検討		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部大会 慶応義塾大学薬学部	木下和、石井梨恵、仲村翔太郎、青柳颯太、内藤浩太、茂木肇、木村光利、荻原政彦
31 ラット初代培養肝実質細胞におけるEGF誘発細胞増殖促進作用に対する カルバコールの抑制効果に関する研究		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部大会 慶応義塾大学薬学部	小鷹麻衣、河原井珠美、鈴木里奈、杉谷幸子、内藤浩太、茂木肇、木村光利、荻原政彦
32 カルシウム拮抗薬とグレープフルーツジュースの相互作用に関する パンフレット配布による教育効果の検討		平成29年11月	第23回埼玉県薬剤師会学術大会 埼玉県 県民健康センター	森崎佳菜、蛭田美和、茂木肇、中村梨絵、木村光利、白石卓也、荻原政彦
33 セロトニンの肝実質細胞増殖促進作用に対する増殖関連シグナル伝達因子活性の経時的変化の検討		平成30年 3月	日本薬学会 第138年会 金沢(石川県)	栗原一樹、内藤浩太、茂木肇、木村光利、荻原政彦
34 セロトニンによるEGFR/MAPK経路の活性化に対する特異的シグナル伝達因子阻害薬の効果の検討		平成30年 3月	日本薬学会 第138年会 金沢(石川県)	内藤浩太、栗原一樹、茂木肇、木村光利、荻原政彦
35 Serotonin-induced DNA synthesis and proliferation are mediated by autocrine secretion of transforming growth factor- $\alpha$ in primary cultures of adult rat hepatocytes		平成30年 7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology Kyoto	Kota Naito, Hajime Moteki, Mitsutoshi Kimura, Masahiko Ogihara
36 Signal Transduction Mechanism for 5-HT <sub>2B</sub> Receptor-Stimulated Autocrine Secretion of Transforming Growth Factor- $\alpha$ in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes.		平成30年 7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology Kyoto	Hajime Moteki, Kota Naito, Mitsutoshi Kimura, Masahiko Ogihara.
37 健康サポート薬局における健康相談会の有用性に関する調査研究		平成30年 7月	埼玉医療薬学懇話会第 38 回学術研究講演会 日本薬科大学	山本雅人、茂木肇、荻原政彦、白井達洋、木村光利
38 ミグリトール-シクロデキストリン包接化合物の血糖上昇抑制効果に関する検討		平成30年 9月	第62回日本薬学会関東支部大会 帝京平成大学	田中優弥、栗原一樹、内藤浩太、茂木肇、荻原政彦、木村光利
39 ラット初代培養肝実質細胞における葉酸の細胞増殖抑制作用に関する検討		平成30年 9月	第62回日本薬学会関東支部大会 帝京平成大学	中西航汰、田中彰太、関口祐、栗原一樹、内藤浩太、茂木肇、荻原政彦、木村光利
III 学会等および社会における主な活動				
平成20年 4月～現在に至る	日本薬理学会 学術評議委員			
平成26年10月	平成26年度 県立熊谷女子高等学校「スーパーサイエンスハイスクール」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」			
平成27年10月～現在に至る	公私立大学実験動物施設協議会 代議員			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 木村 聡一郎	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1)授業評価への対応 (薬物動態学)		平成28年 4月～現在に至る	前年度の授業評価内容を考慮し、学生の復習を促すことを目的として、webclassを利用して演習問題を多く提供し、講義時間内では十分に解説出来ない問に対しては解答・解説を提供して理解度の向上を図った。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
1)PRACTICAL基礎化学		平成27年 9月～現在に至る			
2)演習と解説 薬物動態学		平成28年 9月～現在に至る			
3)みでわかる薬学 図解薬剤学 改訂6版		平成30年 9月～現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
1)新制度薬剤師国家試験における試験問題の文字数及び文章の難易度の調査 ―「法規・制度・倫理」の試験問題から―		平成30年 9月	薬学教育学会にて発表 (共同)		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1)国家試験対策支援委員会における模擬試験成績評価		平成24年 4月～現在に至る	6年生に実施する模擬試験成績を分析し、ガイダンスや資料配布により教員並びに学生に情報を提供する。		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 PRACTICAL基礎化学 ―高校化学から大学専門化学へ――	共著	平成27年 3月	京都廣川書店	関俊暢, 木村聡一郎, 江川祐哉, 上田秀雄, 高山淳, 田村雅史	
2 演習と解説 薬物動態学	共著	平成28年 8月	廣川書店	・ 秋元雅之, 木村聡一郎, 高良恒史, 立石正登, 夏目秀視, 丹羽俊朗, 橋爪孝典, 長谷川哲也, 村田亮, 山崎浩史	
3 みでわかる 図解薬剤学 改訂6版	共著	平成30年 8月	南山堂	山下 伸二, 森本雅憲, 杉林堅次, 他	
論文					
1 Development of a membrane impregnated with a poly(dimethylsiloxane)/poly(ethylene glycol) copolymer for a high-throughput screening of the permeability of drugs, cosmetics, and other chemicals across the human skin (査読付)	共著	平成26年	European Journal of Pharmaceutical Sciences	yotaro Miki, Yasuna Ichitsuka, Takumi Yamada, Soichiro Kimura et al.	
2 Serotonin suppresses $\beta$ -casein expression via inhibition of the signal transducer and activator of transcription 5 (STAT5) protein phosphorylation in human mammary epithelial cells MCF-12A. (査読付)	共著	平成26年	Biological & Pharmaceutical Bulletin	Takeshi Chiba, Soichiro Kimura et al..	
3 Serotonin Regulates $\beta$ -Casein Expression via 5-HT7 Receptors in Human Mammary Epithelial MCF-12A Cells. (査読付)	共著	平成27年	Biological & Pharmaceutical Bulletin	Takeshi Chiba, Soichiro Kimura et al..	
4 Inhibitory effect of fluvoxamine on $\beta$ -casein expression via a serotonin-independent mechanism in human mammary epithelial cells. (査読付)	共著	平成27年	European Journal of Pharmacology vol.766 No.5	Takeshi Chiba, Tomoji Maeda, Soichiro Kimura, Yasunori Morimoto, Atsushi Sanbe, Hideo Ueda, Kenzo Kudo	pp.56～pp.62
5 Characterization of ocular iontophoretic drug transport of ionic and non-ionic compounds in isolated rabbit cornea and conjunctiva. (査読付)	共著	平成28年	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.39	Hidehisa Sekijima, Junya Ehara, Yusuke Hanabata, Takumi Suzuki, Soichiro Kimura, Vincent H. L. Lee, Yasunori Morimoto, Hideo Ueda.	pp.959～pp.968
6 Application of Microneedles to Skin Induces Activation of Epidermal Langerhans Cells and Dermal Dendritic Cells in Mice. (査読付)	共著	平成28年	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.39	Asuka Takeuchi, Yusuke Nomoto, Mai Watanabe, Soichiro Kimura, Yasunori Morimoto, Hideo Ueda	pp.1309～pp.1318

その他					
1 乳腺上皮細胞の母乳産生機能に対するセロトニンの抑制機構に関する検討		平成26年 3月	日本薬学会第134年会		
2 ヒト乳腺上皮細胞株MCF-12Aの機能分化に対するヒスタミンH1受容体拮抗薬の影響		平成26年 3月	日本薬学会第134年会		
3 家兔摘出角膜におけるイオントフォレシスの効果に対する適用電流値の影響		平成26年 3月	日本薬学会第134年会		
4 超音波を用いた薬物皮膚透過促進に対する媒質粘度と超音波周波数の影響		平成26年 3月	日本薬学会第134年会		
5 皮膚適用製剤からの薬物皮膚透過性予測に対するPDMS/PEG 共重合体含浸膜の有用性の検討		平成26年 5月	薬剤学会第29年会		
6 爪白癬治療を目的とする水溶性ニールラッカー製剤の調製に関する研究		平成26年 5月	薬剤学会第29年会		
7 皮膚適用製剤からの薬物皮膚透過性予測に対するPDMS/PEG共重合体含浸膜の有用性の検討		平成26年12月	日本動物実験代替法学会第27回大会		
8 妊婦の薬物治療管理—リスクと不安を最小にするための基礎と実践— 4. 妊娠による生理変化と薬物動態 ④排泄過程	共著	平成27年	薬局	村聡一郎, 森本雅憲	
9 フルボキサミンによるβ-カゼイン発現抑制メカニズム—MCF-12Aを用いた検討—		平成27年 3月	日本薬学会第135年会		
10 親水性高分子の角膜および結膜イオントフォレシスに対する適用電流値の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会		
11 角膜および結膜における低分子イオン性薬物の透過に対する適用電流値の影響		平成27年 5月	薬剤学会第30年会		
12 足白癬治療用一般用医薬品の爪甲感染予防効果に関する検討		平成27年 5月	薬剤学会第30年会		
13 てんかん重複発作抑制を目的とした鼻腔内ジアゼパム投与の有用性		平成27年 7月	第4回日本小児診療多職種研究会		
14 マイクロニードルによる物理的刺激による皮内ランゲルハンス細胞活性化に関する検討		平成28年 3月	日本薬学会第136年会		
15 セロトニンによる母乳タンパク発現の抑制に関するPTP1Bの活性化		平成28年 3月	日本薬学会第136年会		
16 マイクロニードルによる物理的刺激による皮内ランゲルハンス細胞活性化に関する検討		平成28年 3月	日本薬学会第136年会		
17 結膜および角膜における親水性高分子のイオントフォレシス促進効果に対する組織滞留性の影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会		
18 マイクロニードル適用による表皮ランゲルハンス細胞および真皮樹状細胞の活性化に関する検討		平成28年 5月	薬剤学会第31年会		
19 貼付型爪白癬治療製剤の調製とin vitro抗真菌効果に関する検討		平成29年 3月	日本薬学会第137年会		
20 表皮ランゲルハンス細胞のlangerin発現に対するマイクロニードル適用の影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会		
21 貼付型爪白癬治療製剤の調製とin vitro抗真菌効果に関する検討		平成29年 3月	日本薬学会第137年会		
22 表皮ランゲルハンス細胞のlangerin発現に対するマイクロニードル適用の影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会		
23 Eudragit®Eを用いた爪白癬治療ニールラッカー製剤の評価と改良		平成29年 5月	薬剤学会第32年会		
24 表皮ランゲルハンス細胞の活性化に対するマイクロニードルの長さの影響		平成29年 5月	薬剤学会第32年会		
25 ジアゼパム注射剤の鼻腔内投与時の薬物吸収性に対するLabrasol添加の影響		平成30年 3月	日本薬学会第138年会		
26 電流適用が表皮ランゲルハンス細胞の活性化に及ぼす影響		平成30年 3月	日本薬学会第138年会		
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 准教授		氏名 武内 智春		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1)授業評価への対応				平成22年 4月～現在に至る		講義終了後の学生アンケートによる評価結果を参考に、講義の内容・方法などについて、適宜修正・改善している。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1)担任学生受け持ち				平成22年 4月～現在に至る			
2)OSCE委員会				平成22年 4月～現在に至る			
3)YY入試広報委員会				平成22年 4月～現在に至る			
4)ホームページ委員会				平成22年 4月～現在に至る			
5)IT教育委員会				平成22年 4月～現在に至る			
6)薬学部入試実施委員会				平成29年 4月～現在に至る			
7)YYアドバンスト教育委員会				平成30年 4月～現在に至る			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
論文							
1 Crosslinking of Cys-mutated human galectin-1 to the model glycoprotein ligands asialofetuin and laminin by using a photoactivatable bifunctional reagent (査読付)		共著	平成26年 5月	Biol. Pharm. Bull. vol.37 No.5		Tamura M., Watanabe T., Igarashi T., <u>Takeuchi T.</u> , Kasai KI., Arata Y.	pp.877～pp.882
2 Halenaquinone inhibits RANKL-induced osteoclastogenesis (査読付)		共著	平成26年11月	Bioorg. Med. Chem. Lett. vol.24 No.22		Tsukamoto S., <u>Takeuchi T.</u> , Kawabata T., Kato H., Yamakuma M., Matsuo K., El-Desoky AH., Losung F., E. P. Mangindaan RE., de Voogd NJ., Arata Y., Yokosawa H.	pp.5315～pp.5317
3 ISG15 regulates RANKL-induced osteoclastogenic differentiation of RAW264 cells (査読付)		共著	平成27年	The Pharmaceutical Society of Japan Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.38 No.3		Takeuchi T., Shimakawa G., Tamura M., Yokosawa H., Arata Y.	pp.482～pp.486
4 Preparation of a polyclonal antibody that recognizes a unique galactoseb1-4fucose disaccharide epitope (査読付)		共著	平成27年	Carbohydrate Research vol.412		Takeuchi T., Nishiyama K., Saito S., Tamura M., Fuwa T.J., Nishihara S., Takahashi H., Natsugari H., Arata Y., Kasai K.	pp.50～pp.55
5 S-nitrosylation of mouse galectin-2 prevents oxidative inactivation by hydrogen peroxide (査読付)		共著	平成27年 2月	Elsevier Biochemical and Biophysical Research Communications vol.457 No.4		Tamura M., Saito M., Yamamoto K., Takeuchi T., Ohtake K., Tateno H., Hirabayashi J., Kobayashi J., Arata Y.	pp.712～pp.717
6 Purification of Galectin-1 mutants using an immobilized Galactoseb1-4Fucose affinity adsorbent (査読付)		共著	平成27年 4月	Protein Expression and Purification vol.111		Takeuchi T., Tamura M., Ishii N., Ishikida H., Sugimoto S., Suzuki D., Nishiyama K., Takahashi H., Natsugari H., Arata Y.	pp.82～pp.86
7 N-acetylglucosamine suppresses osteoclastogenesis in part through the promotion of O-GlcNAcylation (査読付)		共著	平成28年	Bone Reports vol.5		Takeuchi T., Nagasaka M., Shimizu M., Tamura M., Arata Y.	pp.15～pp.21

8 Identification of the cysteine residue responsible for oxidative inactivation of mouse galectin-2 (査読付)	共著	平成28年	J Biochem. vol.160 No.4	Tamura M, Sasai A, Ozawa R, Saito M, Yamamoto K, Takeuchi T, Ohtake K, Tateno H, Hirabayashi J, Kobayashi J, Arata Y	pp.233～ pp.241
9 Glucosamine suppresses osteoclast differentiation through the modulation of glycosylation including O-GlcNAcylation (査読付)	共著	平成29年	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.3	Takeuchi T, Sugimoto A, Imazato N, Tamura M, Nakatani S, Kobata K, Arata Y	pp.352～ pp.356
10 Identification of galectin-2-mucin interaction and possible formation of a high molecular weight lattice (査読付)	共著	平成29年10月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.10	Tamura M, Sato D, Nakaijima M, Saito M, Sasaki T, Tanaka T, Hatanaka T, Takeuchi T, Arata Y	pp.1789～ pp.1795
11 Structural mechanisms for the S-nitrosylation-derived protection of mouse galectin-2 from oxidation-induced inactivation revealed by NMR (査読付)	共著	平成30年 3月	The FEBS Journal vol.285 No.6	Sakakura M, Tamura M, Fujii N, Takeuchi T, Hatanaka T, Kishimoto S, Arata Y, Takahashi H.	pp.1129～ pp.1145
その他					
1 ガレクチン-9がマウスマクロファージRAW264細胞の増殖を促進する		平成26年 3月	第134回日本薬学会年会	平井駿汰、荒井隆治、藤井久子、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
2 RAW264細胞の破骨細胞様細胞への分化における糖の影響		平成26年 3月	第134回日本薬学会年会	清水美由紀、森絵里香、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
3 架橋試薬BPMを用いたJurkat細胞上のガレクチン-1リガンド探索の試み		平成26年 3月	第134回日本薬学会年会	田村真由美、野口大樹、朝倉佑磨、渡邊朋恵、五十嵐崇則、武内智春、笠井献一、荒田洋一郎	
4 Helicobacter pylori 凝集における humanGalectin-2 及びそのニトロソ化体の比較とGalectin分子種のちがいによる検討		平成26年 3月	第134回日本薬学会年会	永堀司、大竹一男、田中享、田村真由美、武内智春、八巻努、内田昌希、小林順、荒田洋一郎、夏目秀視	
5 前動物特有のGalb1-4Fucエピトープを認識する抗体の作成		平成26年 8月	第33回日本糖質学会年会	武内智春、西山和沙、田村真由美、不破尚志、西原祥子、高橋秀依、夏苺英昭、荒田洋一郎、笠井献一	
6 ガレクチン-9がp38の活性化を介してRAW264細胞の増殖を促進する		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会	大塚梢杏衣、平井駿汰、荒井隆治、藤井久子、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
7 単糖が破骨細胞分化に与える影響		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会	長坂萌由子、清水美由紀、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
8 ガレクチン-1がATDC5細胞の軟骨細胞分化を抑制する		平成26年11月	第37回日本分子生物学会年会	武内智春、小林夏紀、小山内葵、吉田健悟、田村真由美、荒田洋一郎	
9 ガレクチン-2のS-ニトロソ化による生化学的性質の変化の解析		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	小澤梨香、田村真由美、齋藤雅徳、山本香理、武内智春、大竹一男、館野浩章、平林淳、小林順、荒田洋一郎	
10 部位特異的光架橋基導入ヒトガレクチン-1を用いたガレクチンリガンド探索の試み		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	篠山範幸、小林優、田村真由美、武内智春、荒田洋一郎	
11 ガレクチン-4のマウスマクロファージ細胞株RAW264細胞の破骨細胞様細胞への分化における役割		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	有賀友基、矢内大輝、佐川敬和、田坂亮、長谷川礼佳、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
12 ガレクチン-9によるp38の活性化を介したマウスマクロファージRAW264細胞の増殖促進		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	大塚梢杏衣、平井駿汰、荒井隆治、藤井久子、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
13 マウス前駆軟骨細胞株ATDC5細胞の軟骨細胞への分化に対するガレクチン-1の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	玉井美徳、小林夏紀、小山内葵、吉田健悟、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
14 単糖によるRAW264細胞の破骨細胞様細胞への分化抑制機構		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	長坂萌由子、清水美由紀、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
15 Galb1-4Fuc固定化カラムを用いたガレクチン-1変異体の精製		平成27年 7月～平成27年 8月	第34回日本糖質学会年会 東京大学	武内智春、田村真由美、石井伸昌、石木大樹、杉本紗織、鈴木大地、西山和沙、高橋秀依、荒田洋一郎	
16 マウスガレクチン-2はS-ニトロソ化により酸化的失活から保護される		平成27年 7月～平成27年 8月	第34回日本糖質学会年会 東京大学	田村真由美、小澤梨香、齋藤雅徳、山本香理、武内智春、大竹一男、館野浩章、平林淳、小林順、荒田洋一郎	

17 マウスガレクチン-2のS-ニトロソ化部位の同定		平成27年12月	BMB2015	田村真由美、小澤梨香、笹井朱莉、佐々木啓晴、齊藤雅徳、山本香理、武内智春、大竹一男、舘野浩章、平林淳、小林順、荒田洋一郎	
18 Galactose $\beta$ 1-4fucose: A unique disaccharide unit found in N-glycans of invertebrates including nematodes (査読付)	共著	平成28年	Proteomics vol.16 No.24	Takeuchi T, Arata Y, Kasai KI	pp.3137~pp.3147
19 N-アセチルグルコサミン (GlcNAc) がO-GlcNAc化の促進を介して破骨細胞分化を抑制する		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	杉本あや、長坂萌由子、仙波秀彦、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
20 リコンビナントガレクチン-4タンパク質の添加がRAW264細胞の破骨細胞への分化に与える影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	石井恭平、有賀友基、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
21 ガレクチン-1がRAW264細胞の破骨細胞への分化に与える影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	浅井梨絵、榎本大喜、小金井彩加、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
22 ガレクチン-1の酸化に対するS-ニトロソ化の影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	白庭陽平、佐藤駿、田村真由美、武内智春、荒田洋一郎	
23 ガレクチン-2のS-ニトロソ化による酸化的失活からの保護		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	佐々木啓晴、笹井朱莉、宮沢哲成、小澤梨香、齊藤雅徳、山本香理、田村真由美、武内智春、大竹一男、舘野浩章、平林淳、小林順、荒田洋一郎	
24 ガレクチン-2とムチンの相互作用の検討		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	佐藤大、亀井聖平、齊藤雅徳、岩瀬礼実、田村真由美、武内智春、田中享、大竹一男、小林順、荒田洋一郎	
25 部位特異的光架橋基導入ヒトガレクチン-1とそのリガンドの架橋反応		平成28年 3月	日本薬学会第136年会	佐野誠、篠山範幸、小林優、田村真由美、武内智春、荒田洋一郎	
26 N-アセチルグルコサミンおよびグルコサミンによる破骨細胞分化の抑制		平成28年 8月	第30回日本キチン・キトサン学会大会	今里奈央、武内智春、杉本あや、長坂萌由子、田村真由美、荒田洋一郎	
27 ガレクチン-2が線虫Caenorhabditis elegansの成長に与える影響		平成28年 9月	第35回日本糖質学会年会	武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
28 マウスガレクチン-2の酸化的失活に関与するシステイン残基の同定		平成28年 9月	第89回日本生化学会大会	田村真由美、笹井朱莉、小澤梨香、佐々木啓晴、齊藤雅徳、山本香理、武内智春、大竹一男、舘野浩章、平林淳、小林順、荒田洋一郎	
29 寄生性線虫の糖鎖エピトープとガレクチン	共著	平成29年	BIO Clinica 第32巻 第4号	武内智春、荒田洋一郎	68頁~70頁
30 グルコサミン添加がRAW264細胞の糖鎖構造に与える影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	今里奈央、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
31 O-GlcNAc化がRAW264細胞の破骨細胞への分化に与える影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	笠原静夏、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
32 ガレクチン-1がRAW264細胞の破骨細胞への分化を抑制する		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	本間俊輝、浅井梨絵、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎	
33 ガレクチン-2とムチンの相互作用に関与する糖鎖構造の検討		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	中嶋萌子、田村真由美、佐藤大、亀井聖平、武内智春、田中享、大竹一男、小林順、荒田洋一郎	
34 ガレクチン-2のGalactose $\beta$ 1-4Fucoseエピトープとの相互作用とその線虫傷害活性		平成29年 7月	第36回日本糖質学会年会	武内智春、田村真由美、畑中朋美、荒田洋一郎	
35 Analysis of possible role of S-nitrosylation in galectin-2 protein function		平成29年 8月~平成29年 9月	24th International symposium on glycoconjugates (GLYC024)	Mayumi Tamura, Tomoharu Takeuchi, Tomomi Hatanaka, Kazuo Ohtake, Hiroaki Tateno, Jun Hirabayashi, Jun Kobayashi, Yoichiro Arata	
36 NMRを用いたS-ニトロソ化によるガレクチン-2の酸化的失活防御メカニズムの解明		平成29年12月	2017年度生命科学系合同年次大会 (ConBio2017)	坂倉正義、田村真由美、武内智春、荒田洋一郎、高橋栄夫	
37 ガレクチン-2の酸化的失活からの防御に関与するS-ニトロソ化部位の解析		平成29年12月	2017年度生命科学系合同年次大会 (ConBio2017)	田村真由美、佐々木啓晴、武内智春、畑中朋美、大竹一男、舘野浩章、平林淳、小林順、荒田洋一郎	
38 Galectins in invertebrates with a focus on Caenorhabditis elegans (査読付)	単著	平成30年 1月	Trends in Glycoscience and Glycotechnology vol.30 No.172		pp. SE67~pp. SE74
39 線虫などの無脊椎動物のガレクチン (査読付)	単著	平成30年 1月	Trends in Glycoscience and Glycotechnology 第30巻 第172号		SJ25頁~SJ32頁

40 ガレクチン-2とムチンによる高分子量架橋産物形成の確認		平成30年 3月	日本薬学会第138年会	佐々木啓晴、田村真由美、佐藤大、中嶋萌子、齋藤雅徳、田中享、畑中朋美、武内智春、荒田洋一郎
41 マウスガレクチン-1C2S変異体の添加がRAW264細胞の破骨細胞への分化を抑制する		平成30年 3月	日本薬学会第138年会	権田力也、曾我有輝、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎、畑中朋美
42 O-GlcNAcase特異的阻害剤Thiamet GがRAW264細胞の破骨細胞への分化を抑制する		平成30年 3月	日本薬学会第138年会	高橋果歩、坂本遥菜、柳平真菜、笠原静夏、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎、畑中朋美
43 バイセクティングGlcNAcに結合するPHA-E4がRAW264細胞の破骨細胞への分化を抑制する		平成30年 3月	日本薬学会第138年会	日比野沙紀、小林佑一郎、今里奈央、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎、畑中朋美
44 ラットガレクチン-2の弱酸性条件における糖鎖結合特性の解析		平成30年 6月	2018年度日本生化学会関東支部例会 埼玉大学	齋藤佳那、田村真由美、佐々木啓晴、武内智春、荒田洋一郎、畑中朋美
45 マウスマクロファージ様細胞株RAW264細胞のRANKL依存的な破骨細胞様細胞への分化がO-GlcNAcase特異的阻害剤Thiamet Gにより抑制される		平成30年 6月	2018年度日本生化学会関東支部例会 埼玉大学	高橋果歩、武内智春、田村真由美、荒田洋一郎、畑中朋美
46 ガレクチン-1とガレクチン-3の熱安定性の比較		平成30年 6月	2018年度日本生化学会関東支部例会 埼玉大学	中村沙綾、田村真由美、佐々木啓晴、武内智春、荒田洋一郎、畑中朋美
47 ガレクチン-2が線虫に与える影響		平成30年 8月	第37回日本糖質学会年会	武内智春、田村真由美、石渡賢治、濱崎めぐみ、濱野真二郎、荒田洋一郎、畑中朋美
48 ガレクチン-2の酸化的失活からの防御に関与するS-ニトロ化部位の同定		平成30年 8月	第37回日本糖質学会年会	田村真由美、藤井智彦、坂倉正義、武内智春、畑中朋美、高橋栄夫、岸本成史、荒田洋一郎
III 学会等および社会における主な活動				
平成26年10月	出張講義			
平成26年12月	出張講義			
平成27年 7月	出張講義			
平成27年11月	出張講義			
平成28年 7月	出張講義			
平成28年11月	出張講義			
平成29年 2月	出張講義			
平成29年11月	出張講義			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 准教授		氏名 江川 祐哉		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1)授業ノート評価				平成27年 4月～現在に至る			
2 作成した教科書、教材、参考書							
1)PRACTICAL基礎化学				平成27年 4月～現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
1 Skin Permeation and Disposition of Therapeutic and Cosmeceutical Compounds		共著	平成29年12月	Springer Japan	Yuya Egawa, Toshinobu Seki		担当部分 : Related Topic: Cyclodextrin, pp.233-239
論文							
1 Colorimetric Sugar Sensing Using Boronic Acid-Substituted Azobenzenes (査読付)		共著	平成26年 2月	Materials vol.7 No.2	Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki		pp.1201～pp.1220
2 Multilayer films composed of phenylboronic acid-modified dendrimers sensitive to glucose under physiological conditions (査読付)		共著	平成26年 7月	J. Mater. Chem. B vol.2	Ryota Watahiki, Katsuhiko Sato, Keisuke Suwa, Satoshi Niina, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, and Jun-ichi Anzai		pp.5809～pp.5817
3 Multilayer films composed of phenylboronic acid-modified dendrimers sensitive to glucose under physiological conditions (査読付)		共著	平成26年 7月	RSC Journal of Materials Chemistry B vol.2	Ryota Watahiki, Katsuhiko Sato, Keisuke Suwa, Satoshi Niina, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Jun-ichi Anzai		pp.5809～pp.5817
4 Preparation of polypseudorotaxanes composed of cyclodextrin and polymers in microspheres (査読付)		共著	平成26年10月	日本薬学会 Chem. Pharm. Bull. vol.62 No.10	Katsunori Shinohara, Miki Yamashita, Wataru Uchida, Chie Okabe, Shinji Oshima, Masahiro Sugino, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Osamu Hosoya, Takashi Fujihara Yoshihiro Ishimaru, Tohru Kishino, Toshinobu Seki, Kazuhiko Juni		pp.962～pp.966
5 Development of a membrane impregnated with a poly(dimethylsiloxane)/poly(ethylene glycol) copolymer for a high-throughput screening of the permeability of drugs, cosmetics, and other chemicals across the human skin (査読付)		単著	平成26年10月	Eur. J. Pharm. Sci. vol.66			pp.41～pp.49
6 Sugar response of layer-by-layer films composed of poly(vinyl alcohol) and poly(amidoamine) dendrimer bearing 4-carboxyphenylboronic acid (査読付)		共著	平成26年12月	Springer Colloid and Polymer Science vol.293 No.4	Keisuke Suwa, Munenari Nagasaka, Satoshi Niina, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Jun-ichi Anzai		pp.1043～pp.1048
7 Pseudopolyrotaxane Composed of Phenylboronic Acid-Modified Polyethylene Glycol and $\gamma$ -Cyclodextrin (査読付)		共著	平成27年 3月	MDPI Materials vol.8 No.3	Tomohiro Seki, Misato Namiki, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki		pp.1341～pp.1349
8 Effect of physiological changes in the skin on systemic absorption of tacrolimus following topical application in rats (査読付)		共著	平成28年 3月	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.39 No.3	Yutaro Hazama, Toshihisa Maekawa, Ryotaro Miki, Shinji Oshima, Yuya Egawa, Kazuhiro Morimoto, Toshinobu Seki		pp.343～pp.352
9 Sugar-responsive pseudopolyrotaxanes and their application in sugar-induced release of PEGylated insulin (査読付)		共著	平成28年 3月	Springer Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol.82 No.3-4	Tomohiro Seki, Keigo Abe, Kiminobu Nakamura, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki		pp.417～pp.424

10 Red fluorophore comprising of a borinate-containing xanthene analogue as a polyol sensor (査読付)	共著	平成28年 9月	RSC Organic & Biomolecular Chemistry vol.14 No.42	Naoki Shimomura, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Takashi Fujihara, Yoshihiro Ishimaru, Toshinobu Seki	pp.10031~ pp.10036
11 The development of a novel in vitro gastrointestinal absorption model comprising drug dissolution/migration/permeation processes: interactions between a drug and an excipient (査読付)	共著	平成28年12月	日本動物実験代替法学会 Alternatives to Animal Testing and Experimentation vol.21 No.1	Ryotaro Miki, Yuki Kobayashi, Yuko Nakamura, Tomoko Asaka, Nahomi Imai, Yuka Hirayama, Osamu Hosoya, Yuya Egawa, Toshinobu Seki	pp.1~pp.13
12 A pseudopolyrotaxane for glucose-responsive insulin release: The effect of binding ability and spatial arrangement of phenylboronic acid group (査読付)	共著	平成28年12月	ACS Publications Molecular Pharmaceutics vol.13 No.11	Tomohiro Seki, Keigo Abe, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.3807~ pp.3815
13 Polyol-responsive pseudopolyrotaxanes based on phenylboronic acid-modified polyethylene glycol and cyclodextrins (査読付)	共著	平成29年 4月	springer Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol.87 No.3	Yu Kojima, Tomoyuki Okano, Tomohiro Seki, Misato Namiki, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.295~ pp.303
14 Preclinical study of tacrolimus ointment for prevention of its systemic absorption in atopic dermatitis model mice according to their skin conditions (査読付)	共著	平成29年 9月	NPC 日本印刷株式会社 Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences vol.43 No.9	Yutaro Hazama, Wataru Uchida, Toshihisa Maekawa, Ryotaro Miki, Shinji Oshima, Yuya Egawa, Osamu Hosoya, Toshinobu Seki	pp.477~ pp.491
15 A polyrotaxane gel using boronic acid-appended $\gamma$ -cyclodextrin as a hybrid cross-linker (査読付)	共著	平成29年12月	springer Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol.89 No.3-4	Wataru Uchida, Maiki Yoshikawa, Tomohiro Seki, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki, Takashi Fujihara, Yoshihiro Ishimaru, Yuya Egawa	pp.281~ pp.288
16 A study on an in vitro changeable pH dissolution/permeation system that reflects pH shifts of the gastrointestinal tract: a case of a poorly soluble basic drug (査読付)	共著	平成29年12月	日本動物実験代替法学会 Alternatives to Animal Testing and Experimentation vol.22 No.1	Ryotaro Miki, Yuuichi Hara, Nahomi Imai, Masahiro Sugino, Yuya Egawa, Osamu Hosoya, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.107~ pp.114
17 Glucose Responsive Rheological Change and Drug Release from a Novel Worm-like Micelle Gel Formed in Cetyltrimethylammonium Bromide/Phenylboronic Acid/Water System (査読付)	共著	平成30年 3月	ACS Publications Molecular Pharmaceutics vol.15 No.3	Ryotaro Miki, Chihiro Takei, Yasushi Ohtani, Kosuke Kawashima, Ayaka Yoshida, Yu Kojima, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Daisuke Iohara, Makoto Anraku, Fumitoshi Hirayama, Kaneto Uekama	pp.1097~ pp.1104
18 Sugar-Responsive Layer-by-Layer Film Composed of Phenylboronic Acid-Appended Insulin and Poly(vinyl alcohol) (査読付)	共著	平成30年 4月	日本薬学会 Chemical and Pharmaceutical Bulletin vol.66	Chihiro Takei, Yui Ohno, Tomohiro Seki, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki, Yuya Egawa	pp.368~ pp.374
その他					
1 紫外領域から可視領域へ色調変化を示す糖化学センサーの構造解析		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	下村有輝、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
2 タクロリムス炎症皮膚適用後の角層バリア能及び皮内状態に依存した吸収動態の解析		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	間 祐太郎、三木涼太郎、大島新司、江川祐哉、関 俊暢	
3 ジボロン酸含有微粒子化ゲルからのタンパク薬の糖応答性放出の評価		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	武井千弥、宮原菜生、小島裕、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
4 陽電荷を導入した糖応答性スライディングゲルにおける膨潤挙動の評価		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	小島裕、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
5 シクロデキストリンと高分子によるポリシュードドロタキサンの形成過程の解析		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	小林由希、関 智宏、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
6 フェニルボロン酸修飾シクロデキストリンと末端修飾ポリエチレングリコールによるポリシュードドロタキサンの形成過程の調査		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	阿部圭吾、関 智宏、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
7 微粒子化した難溶性化合物の溶解性とそれに及ぼす水溶性高分子の影響		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	新井舞花、三木涼太郎、江川祐哉、関 俊暢	
8 糖に応答して架橋が切断するフェニルボロン酸修飾インスリン複合体の調製		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	関 智宏、井上知子、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
9 糖センサー化学修飾分子ネックレスからのPEG鎖放出の糖応答性改善の試み		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	関智宏、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢	
10 種々炎症モデルヘアレスラットにおけるタクロリムス皮膚内動態の解析		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	間祐太郎、増田裕行、三木涼太郎、大島新司、江川祐哉、関俊暢	
11 DDS基材として利用可能なポリエステル-ポリエーテル共重合体の調製と評価		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	小林由希、関智宏、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢	

12 糖応答性ポリシュードロタキサンの崩壊特性への鎖長の影響		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	阿部圭吾、関智宏、小林由希、 江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
13 モデルタンパク薬を含有した微粒子化ゲルの調製と糖応答放出の評価		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	武井千弥、宮原菜生、小島裕、 江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
14 フェニルボロン酸修飾インスリンの糖結合特性の調査		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	井上知子、関智宏、三木涼太郎、 江川祐哉、関俊暢
15 血糖値依存型溶解性と分散安定性を有するインスリン粒子の調製		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	内田亘、江川祐哉、三木涼太郎、 関俊暢
16 糖応答性スライドリングゲルからのモデル薬物放出性の評価		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	小島裕、江川祐哉、三木涼太郎、 関俊暢
17 消化管内のpH変化を模倣可能なin vitro消化管吸収モデルの検討		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	今井尚美、三木涼太郎、江川祐 哉、関俊暢
18 フェニルボロン酸修飾インスリンのラット皮下投与後の吸収の評価		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	鈴木健太、関智宏、三木涼太郎、 江川祐哉、関俊暢
19 非酵素的な血糖値測定を目指した近赤外領域で糖応答性を示す色素		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	下村有輝、岸宏樹、江川祐哉、 三木涼太郎、関俊暢
20 ヒト皮膚透過性予測のHigh throughput化に向けた共重合体含浸膜に関する検討		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	市塚靖菜、三木涼太郎、江川祐 哉、関俊暢
21 難溶性化合物の溶解性改善を目的としたポトムアップ法による微粒子の調製		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	新井舞花、三木涼太郎、江川祐 哉、関俊暢
22 物理的刺激により放出制御する紐状ミセル水溶液に関する検討		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	三木涼太郎、前川俊久、勝田有 紀、江川祐哉、関俊暢
23 無色から有色への色調変化を示すボロン酸を二つ有するアゾ色素による糖化学センサー		平成26年 5月～平成 26年 6月	第12回ホスト・ゲスト化学 シンポジウム 目黒区	山口恵司、下村 有輝、江川祐 哉、三木涼太郎、関俊暢
24 糖化学センサー修飾ポリシュードロタキサンのインスリンデリバリーへの応用		平成26年 9月	第31回会シクロデキストリン シンポジウム 松江市	江川祐哉、関智宏、阿部圭吾、三 木涼太郎、関俊暢
25 糖と直接結合可能なセンサー修飾基を有する糖応答PEG鎖放出ポリシュードロタキサン		平成26年 9月	第31回会シクロデキストリン シンポジウム 松江市	関智宏、阿部圭吾、江川祐哉、三 木涼太郎、関俊暢
26 皮膚微小循環の変化がタクロリムス経皮吸収動態に及ぼす影響		平成26年10月	日本薬学会関東支部大会 町田	前川俊久、間祐太郎、三木涼太 郎、大島新司、江川祐哉、関俊暢
27 A membrane impregnated with a poly(dimethylsiloxane)/poly(ethylene glycol) copolymer for a high-throughput screening of the permeability of compounds across the human skin		平成26年11月	The 3rd International Conference on Nutraceutical and Cosmetic Sciences 新宿区	Ryotaro Miki, Yasuna Ichitsuka, Soichiro Kimura, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Kazuhiko Juni, Hideo Ueda, Yasunori Morimoto
28 ロタキサン構造を持つ糖応答性ゲルの調製とモデル薬物放出性		平成26年11月	第20回創剤フォーラム若手 研究会 八王子市	小島裕、高橋大樹、江川祐哉、三 木涼太郎、関俊暢
29 糖センサー分子修飾によるインスリンの糖応答性血中移行制御の試み		平成26年11月	第20回創剤フォーラム若手 研究会 八王子市	関智宏、鈴木健太、井上知子、並 木美仁、江川祐哉、三木涼太郎、 関俊暢
30 皮膚適用後のタクロリムスの全身吸収への血管収縮剤の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	前川 俊久、増田 裕行、間 祐太 朗、三木 涼太郎、大島 新司、江 川 祐哉、関 俊暢
31 シクロデキストリンおよび高分子鎖への糖センサー二重修飾分子ネックレスの調製とその糖応答性		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	関 智宏、並木 美仁、江川 祐哉、 三木 涼太郎、関 俊暢
32 糖センサー修飾ポリエチレングリコールを用いて調製した分子ネックレスの糖応答性のメカニズムの調査		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	並木 美仁、関 智宏、江川 祐哉、 三木 涼太郎、関 俊暢
33 ボロン酸残基を有するクロコニン誘導体による蛍光糖化学センサーの構造解析		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	下村 有輝、江川 祐哉、三木 涼太 郎、関 俊暢
34 モデルタンパク質薬を含有した糖応答性微粒子の調製		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	武井 千弥、小島 裕、江川 祐哉、 三木 涼太郎、関 俊暢
35 シクロデキストリンによるタクロリムスの皮膚内動態制御の試み		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	内田 亘、間 祐太郎、前川 俊久、 三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢
36 架橋点にロタキサン構造を持ち、糖にตอบสนองして収縮するゲルの調製		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太 郎、関 俊暢
37 Preparation of a sugar-responsive polypseudorotaxane having a directly sugar-binding sensor.		平成27年 5月	Joint Conference of the 8th Asian Cyclodextrin Conference and the 32nd Cyclodextrin Symposium Kumamoto	Tomohiro Seki, Keigo Abe, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, and Toshinobu Seki

38 Complexation of phenylboronic acid-modified polyethylene glycol with native $\gamma$ -cyclodextrin for sugar-responsive molecular necklace		平成27年 5月	Joint Conference of the 8th Asian Cyclodextrin Conference and the 32nd Cyclodextrin Symposium Kumamoto	Tomohiro Seki, Misato Namiki, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	
39 Preparation of a sugar-responsive gel using rotaxane structures as cross-linkers		平成27年 5月	Joint Conference of the 8th Asian Cyclodextrin Conference and the 32nd Cyclodextrin Symposium Kumamoto	Yu Kojima, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki	
40 タクロリムス軟膏剤の全身性副作用の回避を目的とした皮膚内吸収動態の検討		平成27年 5月	日本薬剤学会第30年会 長崎	間 祐太郎、前川 俊久、Patel Avnish、三木 涼太郎、大島 新司、江川 祐哉、Lane Majella、関 俊暢	
41 糖応答性微粒子の調製条件が薬物放出性に及ぼす影響		平成27年 5月	日本薬剤学会第30年会 長崎	武井 千弥、小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
42 スライドラリング架橋点を有するゲルによる糖応答性パルプの構築		平成27年 5月	日本薬剤学会第30年会 長崎	小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
43 糖に应答して粘性が変化する臭化セチルトリメチルアンモニウム/フェニルボロン酸/水系の紐状ミセルの調製		平成27年 9月	日本油化学会第54回年会 名古屋	三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢、庵原 大輔、平山 文俊、上釜 兼人	
44 タクロリムス皮膚適用後の全身移行性に及ぼす皮膚状態の変化と血管収縮薬の影響		平成27年 9月	日本薬学会関東支部大会 船橋	前川 俊久、間 祐太郎、三木 涼太郎、大島 新司、江川 祐哉、関 俊暢	
45 溶出/移動/吸収の過程を連続的に評価する in vitro消化管吸収モデルに関する検討—薬物と食品成分の相互作用—		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	平山 悠花、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢	
46 ヘプタメチンシアニンを基本骨格としたボロン酸含有近赤外糖応答性プローブ		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	兼子 千咲都、下村 有輝、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
47 ポリロタキサン構造を利用した新規薬物担体調製の試み		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	内田 亘、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢	
48 ボロン酸とアゾ基の相互作用に基づく蛍光糖化学センサー		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	櫻井 萌子、下村 有輝、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
49 架橋点にロタキサン構造を持ち糖に繰り返し応答するゲルの調製		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	小島 裕、武井 千弥、関 智宏、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
50 臭化セチルトリメチルアンモニウム/フェニルボロン酸/水系の紐状ミセルゲルの形成とpHの関係についての考察		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	大谷 泰史、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢、庵原 大輔、平山 文俊、上釜 兼人	
51 アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いたタクロリムス軟膏皮膚適用後の全身および皮膚局所移行性に及ぼす皮膚状態の影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	間 祐太郎、内田 亘、前川 俊久、三木 涼太郎、大島 新司、江川 祐哉、関 俊暢	
52 タクロリムス皮膚適用後の全身移行性と局所滞留性のラットを用いた評価		平成28年 5月	日本薬剤学会第31年会 岐阜	前川 俊久、間 祐太郎、内田 亘、武井 千弥、小林 由希、三木 涼太郎、大島 新司、江川 祐哉、関 俊暢	
53 異なる下限臨界溶解温度を有するポリマーを組み合わせたブロックコポリマーの調製とその分子集合体の温度応答性の評価		平成28年 5月	日本薬剤学会第31年会 岐阜	星野 純貴、鈴木 貴大、小島 裕、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢	
54 The effect of cyclodextrins on the formation of microparticles composed of a block copolymer, polypropylene glycol and polycaprolactone		平成28年 6月	The 1st Workshop for Japan-Korea Young Scientists on Pharmaceutics Kyoto	Yuki Kobayashi, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki	
55 ポリオール化合物を認識するボリン酸誘導体の蛍光変化メカニズムの解明		平成28年 8月	第14回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム 大阪	下村 有輝、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
56 架橋点にロタキサン構造を有する糖応答性ゲルの調製と繰り返し応答性の評価		平成28年 9月	第33回シクロデキストリンシンポジウム 高松	小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
57 フェニルボロン酸修飾 $\gamma$ -CyDとポリビニルアルコールによる糖応答性ポリロタキサンジッパー		平成28年 9月	第33回シクロデキストリンシンポジウム 高松	内田 亘、吉川 真維樹、関 智宏、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢	
58 マイクロダイアリシス法による皮膚中タクロリムス濃度の新規測定法に関する検討		平成28年12月	第27回マイクロダイアリシス研究会 文京区	田中 雄也、前川 俊久、間 祐太郎、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢	
59 糖応答性分子マシンによるインスリンコントロールドリリース	単著	平成29年	薬剤学 第77巻		242頁～247頁

60	ポリボロン酸とポリビニルアルコールを組み合わせたヒドロゲルの調製と糖応答性挙動の評価	平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	武井 千弥、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
61	蛍光性ポリン酸誘導体 (JoSai-Red) の過酸化水素応答及びグルコースセンサーへの応用	平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	下村 有輝、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
62	架橋部にポリロタキサン構造を有するフェニルボロン酸修飾ゲルの調製と糖応答性の評価	平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
63	ボロン酸修飾インスリンを用いた糖応答性交互積膜	平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 大宮	武井 千弥、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
64	ポリビニルアルコールとフェニルボロン酸修飾 $\gamma$ -シクロデキストリンからなるハイドロゲルからの糖応答性薬物放出	平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 大宮	内田 亘、吉川 眞維樹、関 智宏、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
65	ボロン酸修飾インスリンと糖鎖の相互作用を利用した血管内徐放法の試み	平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 大宮	大野 由依、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
66	ビニル-シクロデキストリンを用いたスライドリングゲルのワンポット調製	平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 大宮	小林 由希、小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
67	ビニル基修飾 CyD とイソブレンの重合によるスライドリングゲルのワンポット調製と物性評価	平成29年 8月～平成29年 9月	第34回シクロデキストリンシンポジウム 名古屋	小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
68	フェニルボロン酸修飾 $\gamma$ -CyD による包接複合体と化学結合同時形成からなるハイドロゲルの調製とその糖応答性薬物放出への利用	平成29年 8月～平成29年 9月	第34回シクロデキストリンシンポジウム 名古屋	内田 亘、吉川 眞維樹、関 智宏、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
69	ボロン酸含有紐状ミセルゲルのグルコースによるレオロジー特性の変化	平成29年 9月	第23回創剤フォーラム若手研究会 港区	三木 涼太郎、大谷 泰史、江川 祐哉、関 俊暢、庵原 大輔、安楽 誠、平山 文俊、上釜 兼人
70	糖鎖との相互作用に基づく持続作用を示すボロン酸修飾インスリン	平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部大会 港区	大野 由依、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
71	ビニル基修飾 $\gamma$ -シクロデキストリンとN-イソプロピルアクリルアミドを用いたスライドリング架橋ゲルの調製	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	鈴木 好真、小林 由希、小島 裕、三木 涼太郎、関 俊暢、江川 祐哉
72	胃傷害による胃排出の変化とそれによる薬物吸収性への影響	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	原 裕一、大野 雅斗、片岸 光平、塩谷 勇登、田中 諒、松永 秀春、杉野 雅浩、三木 涼太郎、細谷 治、江川 祐哉、從二 和彦、関 俊暢
73	インスリン由来アミロイドーシスを回避可能な新規インスリン誘導体	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	大野 由依、川村 知裕、三木 涼太郎、江川 祐哉、杉野 雅浩、細谷 治、関 俊暢
74	ビニル基修飾シクロデキストリンと各種モノマーの共重合によるスライドリングゲルのワンポット調製とその物性評価	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
75	ボロン酸修飾インスリンとポリビニルアルコールからなる糖応答性ゲルの調製	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	武井 千弥、吉田 綾華、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
76	マイクロサイズのプロースルーセルを用いた紐状ミセルゲルからの糖応答性薬物放出の評価	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	吉田 綾華、武井 千弥、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢
77	ブロック共重合体とシクロデキストリンから形成される複合粒子に関する研究	平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	久保田 亮翔、小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
78	Sugar Responsive Molecular Machines based on the Combination of Phenylboronic Acid and Cyclodextrins	平成30年 4月	The 19th International Cyclodextrin Symposium 千代田区	Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki
79	One-Pot Preparation of Slide-Ring Gels Using a Vinyl-Modified Cyclodextrin	平成30年 4月	The 19th International Cyclodextrin Symposium 千代田区	Yuki Kobayashi, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki
80	フェニルボロン酸修飾インスリンのアミロイド形成抑制要因の調査	平成30年 5月～平成30年 6月	日本薬剤学会第33年会 静岡市	川村 知裕、大野 由依、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢
81	One-Pot Preparation of Slide-Ring Gels Using A Vinyl-Modified Cyclodextrin and Vinyl-Based Monomers	平成30年 7月	The 2nd Workshop for Korea-Japan Young Scientists on Pharmaceutics ソウル	Yuki Kobayashi, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki
82	DDS 基剤として応用可能なビニル基修飾シクロデキストリンと各種モノマーの共重合によるスライドリングゲルの調製	平成30年 8月	第43回製剤・創剤セミナー 三浦	小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢

83 グルコースモニタリングに向けたポリリン酸誘導体蛍光モノマーの合成と高分子材料への導入		平成30年 9月	次世代を担う若手のための フィジカル・ファーマ フォーラム 三浦	鈴木 貴大、三木 涼太郎、江川 祐 哉、関 俊暢	
84 生理的 pH における糖応答性紐状ミセルの調製およびレオロジー特性の評価		平成30年 9月	日本油化学会第57回年会 神戸学院大学 有瀬キャン パス	三木 涼太郎、川嶋 康介、塩野 さ やか、江川祐哉、関 俊暢	
85 ビニル基修飾CyDと各種ビニルモノマーの共重合による機能性ゲルのワンポット調製とその物性評価		平成30年 9月	第35回シクロデキストリン シンポジウム 甲府	小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太 郎、関 俊暢	
86 フェニルボロン酸修飾 $\gamma$ -CyD とポリビニルアルコールからなるグルコースオキシダーゼ含有糖応答性ハイドロゲル		平成30年 9月	第35回シクロデキストリン シンポジウム 甲府	江川 祐哉、内田 亘、三木 涼太 郎、関 俊暢	
87 糖応答性紐状ミセルゲルからのグルコース依存的薬物放出性		平成30年 9月	第24回創剤フォーラム若手 研究会 神戸	三木 涼太郎、吉田 綾華、武井 千 弥、江川 祐哉、関 俊暢	
III 学会等および社会における主な活動					
平成29年 4月～現在に至る		ファルマシア編集委員会 編集委員			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 沼尻 幸彦	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1)国際センター研究員		平成18年 4月～平成26年 3月	姉妹校であるカリフォルニア大学リバーサイド校における薬学部生のための語学研修及びインターンシップ(病院・薬局見学)教育プログラムの開発、及び城西大学海外研修プログラムの開発(マレーシア科学大学、ハワイ大学ヒロ校薬学部)を行っている。		
2)授業への取り組み		平成21年 4月～現在に至る	「薬事法制度概論演習」では、単元ごとに演習問題を作成し、夫々の学生が理解不十分な単元に対しては、学生が復習レポートを提出することで理解を深める工夫をした。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
1 お茶を摂取しているワルファリンカリウム服用患者への服薬指導について(査読付)	共著	平成26年 4月	薬局薬学 第6巻 第1号	沼尻幸彦、石川麻友美、秋山(山玉丸)靖子、田島敬一、新津 勝	93頁～96頁
2 医師調剤医療施設と保険薬局における備蓄医薬品調査(査読付)	共著	平成26年 6月	社会薬学 第33巻 第1号	井上 裕、森田夕貴、斉藤麗美、天野留美子、沼尻幸彦、金本郁男、杉林堅次	30頁～35頁
3 Gas Chromatography-Mass Spectrometry Analysis of Structural Isomers of Linear Hexaamines Found in Thermophilic Bacteria(査読付)	共著	平成27年 2月	Chromatography vol. 36	Takemitsu Furuchi, Hiroe Okuda, Sachihiko Numajiri, Koei Hamana, Masaru Niitsu	pp. 25～pp. 28
その他					
1 ポリアミンベンゾイル誘導体の逆相HPLCにおける分離挙動		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	高橋 徹、池尻靖之、志賀茉紀、山崎健一、沼尻幸彦、古地壯光、新津 勝	
2 ThermoexamineとHomohexamineの合成とGC-MS分析		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	奥田洋枝、田澤彩乃、庄 志騎、山崎健一、沼尻幸彦、古地壯光、新津 勝	
3 医薬品服用時の水の飲用に関する実態調査		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会 第34回学術研究講演会 坂戸	田中宏和、沼尻幸彦、大島新司、大嶋 繁、小林大介、新津 勝、新井律夫、白滝美智子、小平詔子、原 邦之、大野泰規	
4 長鎖ポリアミン構造異性体のGC-MS分析		平成26年 8月	第27回 バイオメディカル分析化学シンポジウム 東京	田澤彩乃、奥田洋枝、沼尻幸彦、古地壯光、新津 勝	
5 これからの日本の医療に望ましい薬学教育・薬剤師像について ～各国の薬剤師教育制度と国家試験制度及び医療制度の調査・研究～		平成26年 9月	第24回 日本医療薬学会 年会 名古屋	小林俊博、池田祐子、沼尻幸彦、井上 裕、新津 勝、金本郁男、杉林堅次	
6 Fact Finding Survey about Halal Understanding in Japan		平成26年11月	3rd International Conference on Nutraceutical and Cosmetic Sciences Tokyo	Yasuko Akiyama, Jaya Sakyhi Yagambra, Lim Yi Min, Mutsumi Fukaya, Sachihiko Numajiri, Masahiro Wada	
7 シクロホスファミドの医療用グローブ透過性に及ぼす化学的・光学的ストレスの影響		平成27年 3月	日本臨床腫瘍薬学会学術大会 京都	新井聡美、持田太郎、杉野雅浩、沼尻幸彦、細谷 治、新津 勝、従二和彦	
8 ポリアミンの各種蛍光誘導体の逆相HPLCにおける分離挙動		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	池尻靖之、山口拓真、石川莉菜、沼尻幸彦、古地壯光、新津 勝	

9 ポリアミンベンゾイル誘導体のNMR分析		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	上田大貴、江川祐哉、沼尻幸彦、 新津 勝、古地壯光
10 健康食品に対する知識および認識の実態調査 ー薬剤師・登録販売者を対象としてー		平成27年 5月	第50回食生活学会 東京	吉田優仁果、山田沙奈恵、沼尻幸彦、 古地壯光、新津 勝、山王丸靖子
11 Fact-finding survey on the intake of health food and awareness		平成27年 5月	12th Asian Congress of Nutrition Yokohama	Yasuko Sannomaru, Takeshi Akiyama, Mutsumi Fukaya, Sachihiko Numajiri, Masahiro Wada, Akira Terao
12 自動分包機ローターカセット内の硝酸イソソルビド錠の安定性について		平成27年11月	第25回 日本医療薬学会年会 横浜	林 真優、高橋謙大、沼尻幸彦、 大島新司、新津 勝、古地壯光、 小林大介、秋山滋男、磯野淳一
13 トランスグルタミナーゼの新規活性測定法の開発		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	千葉玲子、谷岡裕司、沼尻幸彦、 白幡 晶、新津 勝、古地壯光
14 MALDI-TOF/MSを用いた生体試料中のポリアミンの定量法の開発		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	齋藤和文、古地壯光、沼尻幸彦、 新津 勝
15 シクロホスファミドの医療用グローブ透過性に及ぼす伸展の影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	神田尚輝、持田太郎、新井聡美、 沼尻幸彦、杉野雅浩、細谷 治、 古地壯光、新津 勝、從二和彦
16 D-アミノ酸定量のためのLC-MS/MS法の開発		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	高野友輔、小林正樹、新津 勝、 沼尻幸彦、古地壯光
17 新規デオキシハイブシン合成酵素活性測定法の開発		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	下田郁菜、菅野綾香、沼尻幸彦、 小林正樹、五十嵐一衛、白幡 晶、新津 勝、古地壯光
18 葛根湯と一般用かぜ薬の証に基づく効果の比較		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	弥吉優希、沖田光良、大原厚佑、 根岸彰生、秋元勇人、井上直子、 沼尻幸彦、大嶋 繁、大野泰徳、 大島新司、小林大介
19 血液脳関門機能低下マウスにおけるタイトジャンクション関連タンパク質に及ぼす葛根湯投与の影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	大原厚佑、森 勇人、倉持 圭、 長山佳世、蛭川紗希、秋元勇人、 沖田光良、根岸彰生、井上直子、 大嶋 繁、沼尻幸彦、大島新司、 秋元雅之、本間精一、小林大介
20 健康食品の薬剤師、登録販売者及び消費者に対する意識調査		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	沼尻幸彦、吉田優仁果、山田沙奈恵、 山王丸靖子、古地壯光、新津 勝
III 学会等および社会における主な活動				
平成 6年 9月～現在に至る		埼玉医療薬学懇話会		
平成19年 2月～現在に至る		坂戸市 総合政策部健康づくり政策室		

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 細谷 治	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
1) 「特集・専門職連携教育 (IPE) の現状と展望」彩の国連携力育成プロジェクトについて		平成27年12月	専門職連携教育 (IPE) の現状と展望 医薬ジャーナル12月号		
2) 高齢者の薬の使い方「オピオイド」		平成29年 2月			
3) 薬剤師・管理栄養士のための「今日からはじめる薬局栄養指導」		平成29年 8月			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
1) 医学生の緩和ケア教育のための授業実践大会・オピオイドの服薬指導		平成28年11月	医学卒前教育における緩和ケア講義の質の向上を目指し、エキスパートの講義を体験して教育者としての気づきを得る		
2) 在宅医療推進ステップアップ講習会STEP5 緩和ケア・講師		平成30年 2月			
3) IPE総合課程・講師		平成30年10月			
4) 多職種連携基礎研修・講師		平成30年11月			
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) 学生クラス担任		平成20年 4月～現在に至る	1, 2, 3年生の学生を担当		
2) 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム (TJUP) 学内説明会		平成30年 9月			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン2014年版	分担執筆	平成26年 6月	金原出版	日本緩和医療学会編集、細谷 治 (共著)	
2 「公衆衛生領域における連携と協働～理念から実現に向けて～」、地域基盤型IPEによる連携力の育成	分担執筆	平成27年10月	日本公衆衛生協会出版	武藤孝司、他、編集 細谷 治 (共著)	
3 医薬ジャーナル12月号「特集・専門職連携教育 (IPE) の現状と展望」、彩の国連携力育成プロジェクトについて	分担執筆	平成27年12月	医薬ジャーナル社	細谷 治	
4 調剤と情報2017年1月号 高齢者の薬の使い方「オピオイド」	単著	平成29年 2月	じほう		
5 薬剤師・管理栄養士のための「今日からはじめる薬局栄養指導」	共著	平成29年 8月	日経メディカル開発	日経メディカル開発編	担当部分： 薬局薬剤師が担うべき薬と栄養・食事のマネジメント
論文					
1 Preparation of Polypseudorotaxanes Composed of Cyclodextrin and Polymers in Microspheres (査読付)	共著	平成26年10月	Chem. Pharm. Bull. vol.62 No.10	K. Shinohara, M. Yamashita, W. Uchida, C. Okabe, S. Oshima, M. Sugino, Y. Egawa, R. Miki, O. Hosoya, T. Fujihara, Y. Ishimaru, T. Kishino, T. Seki, K. Juni	pp.962～ pp.966
2 各種リドカインテープ製剤の粘着特性、薬物放出性及び皮膚透過性に及ぼす粘着基剤の影響 (査読付)	共著	平成27年 8月	日本薬学会 薬学雑誌 第135巻 第8号	杉野 雅浩, 三上 充宏, 石原 智樹, 細谷 治, 従二 和彦	977頁～985頁
3 The development of a novel in vitro gastrointestinal absorption model comprising drug dissolution/migration/permeation processes: interactions between a drug and an excipient (査読付)	共著	平成28年12月	Alternatives to Animal Testing and Experimentation (AATEX) vol.21	I. R. Miki, Y. Kobayashi, Y. Nakamura, T. Asaka, N. Imai, Y. Hirayama, O. Hosoya, Y. Egawa, T. Seki	pp.1～pp.13
4 Safety evaluation of dermal exposure to phthalates: Metabolism-dependent percutaneous absorption (査読付)	共著	平成29年 5月	Toxicol. Appl. Pharmacol. vol.328	Masahiro Sugino, Tomomi Hatanaka, Hiroaki Todo, Yuko Mashimo, Takamasa Suzuki, Miho Kobayashi, Osamu Hosoya, Hideto Jinno, Kazuhiko Juni, Kenji Sugibayashi	pp.10～ pp.17
5 イントロダクション：多職種連携教育 (IPE) と薬学教育 -彩の国連携力育成プロジェクト- (査読付)	単著	平成29年 7月	日本薬学会 YAKUGAKU ZASSHI 第137巻 第7号		847頁～852頁

6 大学生における地域基盤型専門職連携教育自己評価尺度の開発(査読付)	共著	平成29年 8月	日本健康教育学会 日本健康教育学会誌 第25巻 第3号	大部令絵, 川俣実, 柴崎智美, 萱場一則, 細谷治	168頁~179頁
7 Preclinical Study of Tacrolimus Ointment for Prevention of Its Systemic Absorption in Atopic Dermatitis Model Mice According to Their Skin Conditions (査読付)	共著	平成29年 9月	Japanese Society of Pharmaceutical Health Care and Sciences Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. vol.43 No.9	・ Yutaro Hazama, Wataru Uchida, Toshihisa Maekawa, Ryotaro Miki, Shinji Oshima, Yuya Egawa, Osamu Hosoya, Toshinobu Seki	pp.477~pp.491
8 A Study on an In Vitro Changeable pH Dissolution/permeation System That Reflects pH Shifts of the Gastrointestinal Tract: A Case of a Poorly Soluble Basic Drug (査読付)	共著	平成29年12月	日本動物実験代替法学会 Alternatives to Animal Testing and Experimentation vol.22	R. Miki, Y. Hara, N. Imai, M. Sugino, Y. Egawa, O. Hosoya, K. Juni, T. Seki	pp.107~pp.114
9 薬剤師と管理栄養士の連携がもたらすもの—大学教員の立場から—	単著	平成30年 6月	日本臨床栄養協会誌 New Diet Therapy 第34巻 第1号		25頁~33頁
その他					
1 エステル化合物皮膚適用後の代謝物の皮膚透過性および皮膚刺激性評価		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会さいたま市		
2 エボエチンカップバ750II製剤の週1回および2回投与の臨床的検討		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会さいたま市		
3 Polypropylene glycolを用いた酸およびアルカリ溶解性高分子微粒子の調製		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会さいたま市		
4 彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成 (SAIPE) -第1報-		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会さいたま市		
5 The Effectiveness and Challenges of a joint project in interprofessional education		平成26年 6月	All Together Better Health VII Pittsburgh, USA		
6 薬剤師のプロフェッショナルリズムを考える～専門職連携教育の先にみえるもの～		平成26年 8月	日本病院薬剤師会関東ブロック第44回学術大会さいたま市		
7 リドカインテープの製剤特性の比較検討		平成26年 9月	第24回日本医療薬学会年会愛知		
8 アセトアミノフェン口腔内崩壊錠の開発-1		平成26年10月	第8回日本緩和医療薬学会年会愛媛		
9 モルヒネの体内動態に及ぼす摂食制限の影響		平成26年10月	第8回日本緩和医療薬学会年会愛媛		
10 緩和医療学・IPW 演習-緩和ケア教育における専門職連携教育の可能性について -		平成26年10月	第8回日本緩和医療薬学会年会愛媛		
11 彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成		平成26年10月	「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」シンポジウム千葉		
12 シクロホスファミドの医療用グローブ透過性に及ぼす化学的・光学的ストレスの影響		平成27年 3月	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2015 京都		
13 胃粘膜傷害によるモルヒネ血中濃度上昇の懸念		平成27年 3月	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2015 京都		
14 ヒト皮膚中エステラーゼ活性の個人差がシックハウス症候群の発症に及ぼす影響		平成27年 7月	埼玉医療薬学懇話会第35回学術講演会 埼玉	竹内仁美、杉野雅浩、細谷 治、従二和彦	
15 ワルファリンカリウム服用患者の血液凝固能に及ぼす絶食の影響		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年会横浜	滝久美子、杉野雅浩、細谷 治、安野伸浩、従二和彦	
16 地域基盤型多職種連携教育の試み-大学連携による住民の暮らしを支える専門職の育成-		平成28年 1月	日本私立大学連盟・平成27年度医療系学部長等会議 東京		
17 胃潰瘍存在下における経口投与後のモルヒネの血中濃度の変化		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	原 裕一、杉野雅浩、田中 享、細谷 治、従二和彦	
18 多職種連携教育 (IPE) と薬学教育—彩の国連携力育成プロジェクト—、シンポジウム03-1「徹底討論！多職種連携教育 (IPE) は薬学教育に何をもたらすのか」		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜		

19 埼玉県薬剤師会のアドバンストワーク ショップへの取り組みについて		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	中島孝則、田島敬一、日比 徹、細 谷 治、大澤京子、菅野敦之、久津 間信明、小佐野博史、藤井和江、 藤田照子、武藤香絵、山崎あす か、畑中典子、鯉淵 肇
20 シクロオソファミドの医療用グローブ透 過性に及ぼす伸展の影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	神田尚樹、持田太郎、新井聡美、 沼尻幸彦、杉野雅浩、細谷 治、 古地壯光、新津 勝、從二和彦
21 ドセタキセル注射薬の最適な混和方法の確 立②-混和中に発生する泡沫の影響-		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	山崎敬太・栗城善章・原 裕一・ 杉野雅浩・佐野元彦・細谷 治・ 岸野 亨・從二和彦
22 ドセタキセル注射薬の最適な混和方法の確 立①-簡便な操作と時間短縮への挑戦-		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	佐野元彦、栗城善章、山崎敬太、 原 裕一、杉野雅浩、細谷 治、 從二和彦、岸野 亨
23 胃潰瘍によりモルヒネの血中濃度は変化す る-胃組織温度とモルヒネの吸収性ととの関係-		平成28年 6月	第10回日本緩和医療薬学会 年会 静岡	原 裕一、杉野雅浩、細谷 治、 茅野義和、從二和彦
24 シックハウス症候群の原因物質の皮膚透過 性に関する基礎研究		平成28年 7月	埼玉医療薬学懇話会第36回 学術研究講演会 埼玉	田沼周平、齋藤広大、杉野雅浩、 細谷 治、從二和彦
25 各種注射用抗がん剤の血管外漏出時の細胞 毒性の発現予測に関する基礎的検討		平成28年 7月	第14回日本臨床腫瘍学会学 術集会 神戸	杉野雅浩、細谷 治、佐野元彦、 岸野 亨、從二和彦
26 ドセタキセル注射薬の最適な混和方法の確 立3-新規混和方法とシリンジ内混和方法との 比較-		平成28年 9月	第26回日本医療薬学会年会 京都	栗城善章、山崎敬太、佐野元彦、 原 裕一、杉野雅浩、細谷 治、 近藤正巳、從二和彦
27 薬学生の死生観に関する意識調査		平成28年10月	第40回日本死の臨床研究会 年次大会 北海道	中園円香、杉野雅浩、細谷 治、 從二和彦
28 胃潰瘍モデルラットにおける薬物吸収に関 する研究		平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 さいたま市	
29 卒前教育～5W1H 緩和ケア領域の底上げに 向けて～		平成29年 6月	第22回日本緩和医療学会学 術大会 横浜	
30 加温によるドセタキセル注射剤後発品の混 合調製操作の改善に関する検討		平成29年 7月	埼玉医療薬学懇話会第37回 学術研究講演会 さいたま市	栗城善章、杉野雅浩、細谷 治、佐 野元彦、從二和彦、関 俊暢
31 地域基盤型専門職連携教育～地域包括ケア システムで役に立つ人材の育成～		平成29年 8月	第49回日本医学教育学会大 会 札幌	
32 地域医療実習における地域基盤型専門職連 携教育の効果		平成29年 8月	第49回日本医学教育学会大 会 札幌	
33 薬学教育における多職種連携教育の重要性 一彩の国連携力育成プロジェクト・2017年新 たなスタートー		平成29年 9月	第2回日本薬学教育学会大 会 愛知	
34 医学部卒前教育における専門職連携教育社 会医学実習の中期的な学修成果に関する検討		平成29年 9月	第10回日本保健医療福祉連 携教育学会学術集会 千葉	
35 彩の国連携力育成プロジェクト専門職連携 教育実習の学習プロセスの分析 (第2報)		平成29年 9月	第10回日本保健医療福祉連 携教育学会学術集会 千葉	
36 彩の国連携力育成プロジェクト専門職連携 教育実習の学習プロセスの分析 (第1報)		平成29年 9月	第10回日本保健医療福祉連 携教育学会学術集会 千葉	
37 薬剤師と管理栄養士の連携がもたらすもの ～大学教員の立場から～、シンポジウム7 地 域包括ケア栄養連携の実践と問題点		平成29年10月	第39回日本臨床栄養学会総 会 千葉	
38 L-Glutamine及びTNF- $\alpha$ を添加した後の Caco-2細胞の生理的状態の評価		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 石川	
39 インスリン由来アミロイドーシスを回避可 能な新規インスリン誘導体		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 石川	
40 胃傷害による胃排出の変化とそれによる薬 物吸収性への影響		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 石川	
41 各種インスリンアナログにおけるアミロイ ド形成に関する基礎的検討		平成30年 5月	第61回日本糖尿病学会年次 学術集会 東京	

42 大学間連携によるIPW実習における「葛藤」の内実		平成30年 8月	第50回日本医学教育学会大会 東京		
43 埼玉県における大学間連携共同教育推進事業専門職連携教育の取り組み		平成30年 8月	第50回日本医学教育学会大会 東京		
44 社会医学実習履修後の多職種連携に関する卒業生調査の考察		平成30年 8月	第11回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 茨城		
45 インスリンアナログの in vitro および in vivo におけるアミロイド形成性の比較		平成30年 8月	第6回日本アミロイドーシス研究会学術集会 長野		
46 新モデル・コアカリキュラムに従う学びの過程のルーブリックを用いた継続的な評価		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会 東京		
47 卒業時アンケートに基づく、学びにおける状況の確認と問題点の抽出		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会 東京		
48 Interprofessional Education (IPE) and Pharmacy Education: Saitama Interprofessional Education Project		平成30年10月	Joint Conference of The 1st International Conference on Halal Pharmaceuticals and Cosmetics and The 7th Conference of Asia Pacific Pharmacy Education Network Saitama		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成16年 1月～現在に至る	城南緩和ケア研究会 世話人				
平成20年 1月～現在に至る	日本医療薬学会 認定指導薬剤師				
平成20年 4月～平成27年 3月	埼玉県薬剤師会薬学生実務実習委員会委員				
平成20年 7月～現在に至る	日本緩和医療薬学会 編集委員				
平成21年 8月～現在に至る	埼玉県病院薬剤師会生涯研修委員会専門研修部会（がん薬物療法・疼痛緩和領域）委員				
平成21年 9月～現在に至る	リレーフォーライフジャパン川越				
平成21年12月～現在に至る	横浜市金沢区薬剤師会顧問				
平成22年 2月～現在に至る	埼玉がん緩和ケア研究会世話人				
平成22年 2月～現在に至る	埼玉がんリハビリテーション研究会世話人				
平成22年 6月～現在に至る	日本緩和医療薬学会 評議員				
平成23年 8月～現在に至る	日本臨床死生学会 テキスト編集委員会作業部会メンバー				
平成23年10月～現在に至る	かわごえ緩和ケアネットワーク世話人				
平成24年 9月～平成26年 7月	日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会がん疼痛薬物療法ガイドライン改訂WPG執筆WG・WG員				

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 准教授		氏名 谷川 尚		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
論文							
1 Sphingomyelin Synthase 2, but not Sphingomyelin Synthase 1, is Involved in HIV-1 Envelope-mediated Membrane Fusion. (査読付)		共著	平成26年 9月	The Journal of biological chemistry vol.289 No.44	Hayashi Y, Nemoto-Sasaki Y, Tanikawa T, Oka S, Tsuchiya K, Zama K, Mitsutake S, Sugiura T, Yamashita A		pp.30842~pp.30856
2 Glycerophosphate/Acylglycerophosphate acyltransferases. (査読付)		共著	平成26年11月	Biology vol.3 No.4	Yamashita A, Hayashi Y, Matsumoto N, Nemoto-Sasaki Y, Oka S, Tanikawa T, Sugiura T		pp.801~pp.830
3 Myeloid-Derived Suppressor Cells Endow Stem-like Qualities to Breast Cancer Cells through IL6/STAT3 and NO/NOTCH Cross-talk Signaling. (査読付)		共著	平成28年 6月	Cancer research vol.76 No.11	Peng D, Tanikawa T, Li W, Zhao L, Vatan L, Szeliga W, Wan S, Wei S, Wang Y, Liu Y, Staroslawska E, Szubstarski F, Rolinski J, Grywalska E, Stanislawek A, Polkowski W, Kurylcio A, Kleer C, Chang AE, Wicha M, Sabel M, Zou W, Kryczek I		pp.3156~pp.3165
4 Carboxyl-terminal Tail-mediated Homodimerizations of Sphingomyelin Synthases Are Responsible for Efficient Export from the Endoplasmic Reticulum. (査読付)		共著	平成29年 1月	The Journal of biological chemistry vol.292 No.3	Hayashi Y, Nemoto-Sasaki Y, Matsumoto N, Tanikawa T, Oka S, Tanaka Y, Arai S, Wada I, Sugiura T, Yamashita A		pp.1122~pp.1141
5 Coenzyme-A-Independent Transacylation System; Possible Involvement of Phospholipase A2 in Transacylation. (査読付)		共著	平成29年 3月	Biology vol.6 No.2	Yamashita A, Hayashi Y, Matsumoto N, Nemoto-Sasaki Y, Koizumi T, Inagaki Y, Oka S, Tanikawa T, Sugiura T		
6 Identification of optineurin as an interleukin-1 receptor-associated kinase 1-binding protein and its role in regulation of MyD88-dependent signaling. (査読付)		共著	平成29年10月	The Journal of biological chemistry vol.292 No.42	Tanishima M, Takashima S, Honda A, Yasuda D, Tanikawa T, Ishii S, Maruyama T		pp.17250~pp.17257
7 Complex formation of sphingomyelin synthase 1 with glucosylceramide synthase increases sphingomyelin and decreases glucosylceramide levels. (査読付)		共著	平成30年	J. Biol. Chem.			
8 Aerobic Glycolysis Controls Myeloid-Derived Suppressor Cells and Tumor Immunity via a Specific CEBPB Isoform in Triple-Negative Breast Cancer. (査読付)		共著	平成30年 7月	Cell metabolism vol.28 No.1	Li W, Tanikawa T, Kryczek I, Xia H, Li G, Wu K, Wei S, Zhao L, Vatan L, Wen B, Shu P, Sun D, Kleer C, Wicha M, Sabel M, Tao K, Wang G, Zou W		pp.87~pp.103
その他							
III 学会等および社会における主な活動							

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 吉田 彰宏	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
その他					
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 准教授	氏名 渡辺 知恵	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
その他					
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 大島 新司		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日		概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 予習の促し			平成29年 4月～現在に至る		次回講義内容のポイントをデジタル資料としてWebクラスにアップロードし予備知識の修得を促している。講義では予備知識の確認ならびに解説・補足に充てている。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) 医薬品情報学 第4版			平成28年 3月～平成30年 2月				
2) 医薬品情報学 第4版補訂版			平成30年 3月～現在に至る				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
1) 新制度薬剤師国家試験における試験問題の文字数及び文章の難易度の調査-「法規・制度・倫理」の試験問題から-			平成30年 9月		第3回日本薬学教育学会大会にて発表		
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) R言語を用いた統計解析演習			平成25年 4月～現在に至る		Rソフトウェアを用いた統計解析を演習形式で行っている。		
2) ICTを取り入れた授業形態			平成27年 4月～現在に至る		講義で使用した教材をWebClassにアップロードし、積極的にICTを取り入れた授業形態を導入している。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
1 軟膏・クリーム配合変化ハンドブック 第2版		共著	平成27年11月	株式会社じほう	大谷道輝, 江藤隆史, 大島新司, 小林大介 他		
2 医薬品情報学 第4版		共著	平成28年 3月	東京大学出版会	山崎 幹夫 (監修), 望月 眞弓, 武笠 啓子, 堀 里子 (編), 大島新司 他		
3 医薬品情報学 第4版補訂版		共著	平成30年 3月	東京大学出版会	山崎 幹夫 (監修), 望月 眞弓, 武笠 啓子, 堀 里子 (編), 大島新司 他		
論文							
1 Preparation of polypseudorotaxanes composed of cyclodextrin and polymers in microspheres (査読付)		共著	平成26年 7月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin vol.62 No.10	Katsunori Shinohara, Miki Yamashita, Wataru Uchida, Chie Okabe, Shinji Oshima, Masahiro Sugino, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Osamu Hosoya, Takashi Fujihara, Yoshihiro Ishimaru, Tohru Kishino, Toshinobu Seki, Kazuhiko Juni		pp.962～pp.966
2 Absorption kinetics of subcutaneously administered ceftazidime in hypoperfused guinea pigs (査読付)		共著	平成26年 9月	Current therapeutic research, clinical and experimental vol.77	Tsuyoshi Ebihara, Shinji Oshima, Mitsuyoshi Okita, Sayumi Shiina, Akio Negishi, Kosuke Ohara, Shigeru Oshima, Hiroyuki Iwasaki, Akira Yoneyama, Eiji Kitazumi, Daisuke Kobayashi		pp.7～pp.13
3 薬剤師が行うべき在宅業務の潜在需要と患者属性の検討 (査読付)		共著	平成26年12月	薬局薬学 第7巻 第1号	大嶋繁, 宮本実央, 根岸彰生, 大島新司, 清野恵理子, 小林大介		44頁～51頁
4 The inhibitory effect of kakkonto, Japanese traditional (kampo) medicine, on brain penetration of oseltamivir carboxylate in mice with reduced blood-brain barrier function (査読付)		共著	平成27年 1月	Hindawi Evidence-based complementary and alternative medicine	Kousuke Ohara, Shinji Oshima, Nanami Fukuda, Yumiko Ochiai, Ayumi Maruyama, Aki Kanamuro, Akio Negishi, Seichi Honma, Shigeru Oshima, Masayuki Akimoto, Shingo Takenaka, and Daisuke Kobayashi		
5 Effect of Physiological Changes in the Skin on Systemic Absorption of Tacrolimus Following Topical Application in Rats (査読付)		共著	平成27年12月	公益社団法人 日本薬学会 Biological & Pharmaceutical Bulletin vol.39 No.3	Yutaro Hazama, Toshihisa Maekawa, Ryotaro Miki, Shinji Oshima, Yuya Egawa, Kazuhiro Morimoto, Toshinobu Seki		pp.343～pp.352

6 A survey of subcutaneous blood flow in subjects with SMID and subcutaneous administration using mentholated warm compresses in healthy subjects (査読付)	共著	平成27年12月	SAGE Journal of International Medical Research vol.44 No.2	Tsuyoshi Ebihara, <u>Shinji Oshima</u> , Yuko Yasuda, Mitsuyoshi Okita, Kousuke Ohara, Akio Negishi, Shigeru Ohshima, Hiroyuki Iwasaki, Akira Yoneyama, Eiji Kitazumi, Daisuke Kobayashi	pp.248～ pp.257
7 Identification of the discrepancies between pharmacists' and patients' perception of the pharmacist's role as an advisor on drug therapy based on social science theory (査読付)	共著	平成27年12月	公益社団法人 日本薬学会 Biological & Pharmaceutical Bulletin vol.39 No.3	<u>Shinji Oshima</u> , Kazuhiko Senoo, Akio Negishi, Hayato Akimoto, Kousuke Ohara, Naoko Inoue, Shigeru Ohshima, Nobuaki Kutsuma, Kazuhiko Juni, Daisuke Kobayashi	pp.313～ pp.322
8 演習型講習会により抽出された薬剤師の在宅業務の課題 (査読付)	共著	平成28年 3月	日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリー・ケア連合学会誌 第39巻 第3号	大嶋 繁, 山田 真理絵, 根岸 彰生, 大島 新司, 齋木 実, 小林 大介	175頁～178 頁
9 Assessment of the Risk of Suicide-Related Events Induced by Concomitant Use of Antidepressants in Cases of Smoking Cessation Treatment with Varenicline and Assessment of Latent Risk by the Use of Varenicline (査読付)	共著	平成28年 9月	Public Library of Science PLOS ONE vol.11	Hayato Akimoto, <u>Shinji Oshima</u> , Akio Negishi, Kousuke Ohara, Shigeru Ohshima, Naoko Inoue, Daisuke Kobayashi	pp. e0163583
10 高齢者の安全な薬物治療ガイドラインを用いたdeprescribingの実践と患者のQOLおよびADLの変化 (査読付)	共著	平成29年 1月	公益社団法人 日本薬学会 薬学雑誌 第137巻 第5号	大嶋 繁, 原 彩加, 阿部卓巳, 秋元 勇人, 大原厚祐, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 井上直子, 沼尻幸彦, 小川越史, 齋木 実, 小林 大介	623頁～633 頁
11 High-Resolution Magic-Angle Spinning- <sup>1</sup> H NMR Spectroscopy-Based Metabolic Profiling of Hippocampal Tissue in Rats with Depression-Like Symptoms (査読付)	共著	平成29年 2月	公益社団法人 日本薬学会 Biological & Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.6	Hayato Akimoto, <u>Shinji Oshima</u> , Kousuke Ohara, Akio Negishi, Hanako Hiroshima, Tadashi Nemoto, Daisuke Kobayashi	pp.789～ pp.796
12 Identification and characteristics of time-related shifts in Suicide-related event frequency during smoking cessation treatment with Varenicline (査読付)	共著	平成29年 5月	International Journal of Medical Sciences vol.14 No.10	Hayato Akimoto, Haruna Wakiyama, <u>Shinji Oshima</u> , Akio Negishi, Kousuke Ohara, Sachihiko Numajiri, Mitsuyoshi Okita, Shigeru Ohshima, Naoko Inoue, Daisuke Kobayashi	pp.920～ pp.926
13 Study on the increased probability of detecting adverse drug reactions based on Bayes' theorem: evaluation of the usefulness of information on the onset timing of adverse drug reactions (査読付)	共著	平成29年 5月	公益社団法人 日本薬学会 Biological & Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.9	<u>Shinji Oshima</u> , Takako Enjuji, Akio Negishi, Hayato Akimoto, Kousuke Ohara, Mitsuyoshi Okita, Sachihiko Numajiri, Naoko Inoue, Shigeru Ohshima, Akira Terao, Daisuke Kobayashi	pp.1389～ pp.1398
14 Comparison of the benefit feeling rate based on the Sho of OTC kakkonto, cold remedy and cold remedy with kakkonto combination product (査読付)	共著	平成29年 7月	公益社団法人 日本薬学会 Biological & Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.10	Mitsuyoshi Okita, Yuki Yayoshi, Kousuke Ohara, Akio Negishi, Hayato Akimoto, Naoko Inoue, Sachihiko Numajiri, Shigeru Ohshima, Seiichi Honma, <u>Shinji Oshima</u> , Daisuke Kobayashi	pp.1730～ pp.1738
15 Preclinical study of Tacrolimus ointment for prevention of its systemic absorption in atopic dermatitis model mice according to their skin conditions (査読付)	共著	平成29年 7月	一般社団法人 日本医療薬学会 医療薬学 vol.43 No.9	Yutaro Hazama, Wataru Uchida, Toshihisa Maekawa, Ryotaro Miki, <u>Shinji Oshima</u> , Yuya Egawa, Osamu Hosoya, Toshinobu Seki	pp.477～ pp.491
16 介護支援専門員調査より得られた薬剤師が優先的に取り組む要介護者の抱える薬の問題 (査読付)	共著	平成30年 3月	一般社団法人日本老年薬学会 日本老年薬学会雑誌 第1巻 第2号	堀井徳光, 井上直子, 大嶋 繁, 沖田光良, 秋元勇人, 根岸彰生, 大島新司, 沼尻幸彦, 小林大介	28頁～33頁
17 『調剤指針』のテキストマイニングから明らかになった調剤の概念の変遷 (査読付)	共著	平成30年 6月	日本社会薬学会 社会薬学 第37巻 第2号	井上直子, 安田和誠, 森 勇人, 秋元勇人, 大原厚祐, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 從二和彦, 小林大介	81頁～90頁
18 Metabolic Profiling of the hippocampus of rats experiencing nicotine-withdrawal symptoms (査読付)	共著	平成30年 9月	公益社団法人 日本薬学会 Biological & Pharmaceutical Bulletin vol.41 No.12	Hayato Akimoto, <u>Shinji Oshima</u> , Yuichi Michiyama, Akio Negishi, Tadashi Nemoto, Daisuke Kobayashi	pp.1879～ pp.1884

19 Onset timing of statin-induced musculoskeletal adverse events (MAEs), and concomitant drug-associated shift in onset timing of MAEs (査読付)	共著	平成30年10月	British Pharmacological Society, American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics Pharmacology research & perspectives vol.6 No.6	Hayato Akimoto, Akio Negishi, <u>Shinji Oshima</u> , Mitsuyoshi Okita, Sachihiko Numajiri, Naoko Inoue, Shigeru Ohshima, Daisuke Kobayashi	pp. e00439
20 Changes in brain metabolites related to stress resilience: Metabolomic analysis of the hippocampus in a rat model of depression (査読付)	共著	平成30年11月	Elsevier BV Behavioural Brain Research vol.359	Hayato Akimoto, <u>Shinji Oshima</u> , Tomoaki Sugiyama, Akio Negishi, Tadashi Nemoto, Daisuke Kobayashi	pp.342~ pp.352
その他					
1 うつ病モデル動物の行動および脳内物質に及ぼす漢方製剤投与の影響		平成26年 3月	第134回日本薬学会年会 熊本	大原 厚祐, 中荒井 佑喜, 大林 愛実, 近江谷 広人, 根岸 彰生, 大島 新司, 大野 泰規, 大嶋 繁, 竹中 伸五, 秋元 雅之, 本間 精一, 小林 大介	
2 フェニトインのPK/PDに及ぼす炎症の影響: 脳波を用いた薬効評価		平成26年 3月	第134回日本薬学会年会 熊本	根岸彰生, 神田 茜, 佐藤真衣, 大原厚祐, 大野泰規, 大島新司, 小林大介	
3 麻黄湯/葛根湯投与によるLPS誘発炎症モデルマウスのオセルタミビルカルボキシレート脳内移行抑制効果		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 埼玉	金室亜希, 加賀屋 陽子, 石田 愛, 大原厚祐, 根岸彰生, 大島新司, 本間精一, 竹中伸五, 小林大介	
4 1H-NMRを用いたうつ病モデルラットの脳内メタボローム解析		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 埼玉	大原厚祐, 中荒井 佑喜, 大林愛実, 近江谷 広人, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 竹中伸五, 秋元雅之, 本間精一, 小林大介	
5 フェニトインの薬効低下と炎症の関係: AERSの症例と炎症ラットによる検討		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 埼玉	根岸彰生, 佐藤真衣, 永見 希, 神田 茜, 大原厚祐, 大野泰規, 大島新司, 小林大介	
6 有害事象自発報告データベースを利用したフェニトインの薬効に及ぼす諸因子の解析		平成26年 6月	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム医療薬学フォーラム2014 東京	永見 希, 根岸彰生, 大原厚祐, 大島新司, 小林大介	
7 訪問診療医師数に影響を及ぼす諸因子のシミュレーション解析		平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会 第34回 学術研究講演会 埼玉	鈴木 美保子, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 小林大介	
8 インターネットリサーチの回答母集団の新規信頼性評価法の検討		平成26年 7月	第17回日本医薬品情報学会 学術大会 鹿児島	片山 隼, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 大嶋 繁, 小林大介	
9 LPS誘発炎症モデルマウスのBBB機能及び死亡率に対する漢方製剤投与の影響		平成26年 8月	第31回和漢医療薬学会学術 大会 千葉	加賀屋 陽子, 金室亜希, 扇 可奈美, 大原厚祐, 根岸彰生, 大島新司, 竹中伸五, 本間精一, 小林大介	
10 うつ病モデル動物の脳内モノアミン濃度に及ぼす漢方製剤投与の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 兵庫	大原 厚祐, 市川 麻美, 樋口 滋, 根岸 彰生, 大島 新司, 大嶋 繁, 久津間 信明, 竹中 伸五, 秋元 雅之, 本間 精一, 小林 大介	
11 LPS 誘発炎症ラットの Voltage-Dependent Sodium Channel 発現の評価		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 兵庫	根岸 彰生, 山田 千晴, 大原 厚祐, 大野 泰規, 久津間 信明, 大島 新司, 小林 大介	
12 皮膚適用後のタクロリムスの全身吸収への血管収縮剤の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 兵庫	前川 俊久, 増田 裕行, 間 祐太郎, 三木 涼太郎, 大島 新司, 江川 祐哉, 関 俊暢	
13 有害事象自発報告データを用いたフェニトインの治療管理失敗要因の探索		平成27年 6月	第18回日本医薬品情報学会 学術大会 岡山	大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 大野 泰規, 大嶋 繁, 小林大介	
14 インターネットリサーチにより収集された医学研究データの信頼性評価-日本人の体質保有率の傾向を利用した母集団評価法の検討-		平成27年 7月	埼玉医療薬学懇話会第35回 学術研究講演会 埼玉 さいたま	溝呂木 梨奈, 根岸 彰生, 大島 新司, 小林 大介	
15 LPS誘発炎症モデルマウスの脳中トランスポーター発現量に及ぼす麻黄湯/葛根湯投与の影響		平成27年 8月	第32回和漢医療薬学会学術 大会 富山	石田愛, 大原厚祐, 秋元勇人, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 井上直子, 本間精一, 小林大介	
16 タクロリムス皮膚適用後の全身移行性に及ぼす皮膚状態の変化と血管収縮薬の影響		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部 大会 千葉県船橋市	前川 俊久, 間 祐太郎, 三木 涼太郎, 大島 新司, 江川 祐哉, 関 俊暢	

17 禁煙治療時の抗うつ薬投与と自殺リスクとの関係		平成27年 9月	第1回 次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム 千葉県船橋市	秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 井上直子, 大嶋 繁, 小林大介
18 在宅患者に使用されている注射薬の現状調査のための予備的検討		平成27年11月	第21回埼玉県薬剤師会学術大会 埼玉県さいたま市	大嶋 繁, 井上直子, 鬼山結希, 大原厚祐, 秋元勇人, 根岸彰生, 大島新司, 小林大介
19 自動分包機ロータリーカセット内の硝酸イソソルビド錠の安定性について		平成27年11月	第35回日本医療薬学会年会 神奈川県 横浜	林 真優, 高橋謙太, 沼尻幸彦, 大島新司, 新津 勝, 古地壮光, 小林大介, 秋山滋男, 磯野淳一
20 HRMAS- <sup>1</sup> H NMRを用いた慢性変動ストレス負荷によるラット脳組織中代謝物パターンの可視化		平成28年 2月	第15回産総研・産技連L S-BT合同研究発表会 茨城県つくば市	大島新司, 秋元勇人, 松本 明日香, 大原厚祐, 根岸彰生, 廣山華子, 根本 直, 小林大介
21 フェニトイン使用患者の発作管理の失敗に及ぼす併存症リスク評価: FAERS登録症例を用いた解析		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	根岸彰生, 秋元勇人, 大原厚祐, 大島新司, 井上直子, 大嶋繁, 大野泰規, 小林大介
22 バレニクリンによる禁煙治療(VSCT)の自殺関連有害事象リスクと各種抗うつ薬治療との関係及びVSCTの潜在リスクの評価		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 大嶋 繁, 井上直子, 小林大介
23 香蘇散および抑肝散の抗うつ効果: うつ病モデルラットにおける脳内トリプトファンヒドロキシラーゼ活性に及ぼす影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	大島新司, 秋元勇人, 扇 可奈美, 益子英李, 赤尾玲香, 大原厚祐, 根岸彰生, 井上直子, 大嶋 繁, 本間精一, 小林大介
24 PMDA副作用自発報告データベースを用いた副作用症状の早期発見につながる発現時期の調査		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	保坂茂, 延寿寺恭子, 根岸彰生, 大島新司, 秋元勇人, 大原厚祐, 井上直子, 大嶋繁, 久津間信明, 小林大介
25 葛根湯による血液脳関門の機能回復メカニズムの解明		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	大原厚祐, 倉持 圭, 長山佳世, 森 勇人, 秋元勇人, 根岸彰生, 大島新司, 井上直子, 大嶋 繁, 久津間 信明, 秋元雅之, 本間精一, 小林大介
26 アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いたタクロリムス軟膏皮膚適用後の全身および皮膚局所移行性に及ぼす皮膚状態の影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 神奈川県横浜市	間 祐太郎, 内田 亘, 前川俊久, 三木 涼太郎, 大島新司, 江川祐哉, 関 俊暢
27 「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」を使用した在宅患者の処方見直しと処方変更後の患者アセスメントに関する研究		平成28年 7月	埼玉医療薬学懇話会第36回学術研究講演会 埼玉 さいたま	井上直子, 原 彩伽, 阿部卓巳, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 齋木 実, 小川越史, 小林大介
28 HRMAS- <sup>1</sup> H NMRを用いたうつ病モデルラットの脳内代謝物プロファイリング		平成28年 7月	日本プロテオーム学会2016年大会 東京都港区	秋元勇人, 大島新司, 松本 明日香, 大原厚祐, 根岸彰生, 廣山華子, 根本 直, 小林大介
29 うつ病ラットを把握せよ! - 行動薬理と海馬組織の直接NMR-MP -		平成28年 9月	JASIS2016 ライフサイエンスイノベーション イノベーションフォーラム1 千葉県千葉市	大島新司
30 日本の薬局業務への心理尺度の導入に関する検討: SF-12v2 および TSQM-9の実用性		平成28年10月	第10回日本薬局学会学術総会 京都府京都市	芝田裕磨, 大島新司, 根岸彰生, 秋元勇人, 大原厚祐, 川井 舞, 高裕之, 小林大介
31 薬局主導の医薬品評価: 薬剤師業務のアウトカム評価		平成29年 1月	第1回城西大学・城西国際大学・みよの台薬局グループ意見交換会 東京都北区	大島新司
32 慢性ストレス負荷ラットのうつ病様状態に及ぼすバレニクリン投与の影響: HRMAS- <sup>1</sup> H NMRによる脳内メタボローム解析		平成29年 1月~平成29年 2月	第16回産総研・産技連L S-BT合同研究発表会 茨城県つくば市	大島新司, 秋元勇人, 根岸彰生, 大原厚祐, 廣山華子, 根本 直, 小林大介
33 薬物治療アドバイザーとしての薬剤師の役割に対する患者と薬剤師の認識の違い: 社会科学的理論に基づく解析		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 宮城県仙台市	大島新司, 妹尾和彦, 根岸彰生, 秋元勇人, 大原厚祐, 井上直子, 大嶋 繁, 久津間 信明, 從二和彦, 小林大介
34 葛根湯と一般用かぜ薬の証に基づく効果の比較		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 宮城県仙台市	弥吉優希, 沖田光良, 大原厚祐, 根岸彰生, 秋元勇人, 井上直子, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 大野泰規, 大島新司, 小林大介
35 慢性ストレスモデルラットのうつ病様状態に及ぼすバレニクリン投与の影響: HRMAS- <sup>1</sup> H NMRによる脳内メタボローム解析		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 宮城県仙台市	秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 廣山華子, 根本 直, 小林大介

36 血液脳関門機能低下マウスにおけるタイトジャンクション関連タンパク質に及ぼす葛根湯投与の影響		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 宮城県仙台市	大原厚祐, 森 勇人, 倉持 圭, 長山佳世, 蛭川紗希, 秋元勇人, 沖田光良, 根岸彰生, 井上直子, 大嶋 繁, 沼尻幸彦, 大島新司, 秋元雅之, 本間精一, 小林大介	
37 バレニクリンによる禁煙治療中に発現する自殺関連事象報告数の時系列推移とその特徴		平成29年 7月	第20回日本医薬品情報学会 学術大会 東京都港区	脇山春菜, 秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 大原厚祐, 沼尻幸彦, 沖田光良, 大嶋 繁, 井上直子, 小林大介	
38 「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」の索引の作成と有用性について		平成29年 7月	埼玉医療薬学懇話会第37回 学術研究講演会 埼玉 さいたま	井上直子, 森木真斗, 森 勇人, 秋元勇人, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 小林大介	
39 炎症によるフェニトインの薬効低下の要因: 電位依存性ナトリウムイオンチャネルの発現量に及ぼすLPS曝露の影響		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部 大会 東京都港区	浦田 唯, 根岸彰生, 森 勇人, 秋元勇人, 大島新司, 大原厚祐, 沖田光良, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋 繁, 小林大介	
40 バレニクリン使用により誘発されるうつ病および自殺要因の検討: ニコチン退薬症候モデルラットの脳内メタボローム解析		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部 大会 東京都港区	道山雄一, 秋元勇人, 大島新司, 大原厚祐, 根岸彰生, 根本 直, 小林大介	
41 社会情勢が調剤報酬改定に与える影響と調剤技術料から算出した薬局薬剤師の収益の変化		平成29年11月	第11回日本薬局学会学術総 会 埼玉県さいたま市	山本佳奈, 森 勇人, 秋元勇人, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 井上直子, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 小林大介	
42 医療用医薬品添付文書における投与中止に関する記載内容の調査		平成29年11月	第11回日本薬局学会学術総 会 埼玉県さいたま市	青木麻智子, 森 勇人, 秋元勇人, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 井上直子, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 大野 泰規, 小林大介	
43 NMR-メタボリックプロファイリングによるニコチン退薬症候状態とうつ病状態の比較		平成30年 2月	第17回産総研・産技連L S -BT合同研究発表会 茨城県つくば市	秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 小林大介, 根本直	
44 城西大学に在籍する学生、教員、職員を対象とした「かかりつけ薬剤師・薬局」に対する意識調査: 城西大学薬局の役割 (査読付)	共著	平成30年 3月	城西情報科学研究 第25巻 第1号	井上直子, 鎌野祐輔, 秋元勇人, 大原厚祐, 根岸彰生, 沖田光良, 大島新司, 武藤香絵, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 小林大介	1頁~12頁
45 OTC鎮痛薬の効果と使用者の性格特性: インターネットリサーチによる効果とビッグ・ファイブの調査		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 石川県金沢市	池上勇介, 沖田光良, 秋元勇人, 根岸彰生, 井上直子, 沼尻幸彦, 大嶋 繁, 大島新司, 小林大介	
46 役割理論に基づく薬剤師の役割に対する認知の短期縦断的検討: 薬剤師法改訂前後の患者および薬剤師の認知の違い		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 石川県金沢市	山岸真理, 大島新司, 沖田光良, 秋元勇人, 根岸彰生, 山王丸 靖子, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋 繁, 和田政裕, 小林大介	
47 ニコチン退薬症候とうつ病との類似性: NMR spectroscopyを用いたメタボローム解析		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 石川県金沢市	秋元勇人, 大島新司, 道山雄一, 根岸彰生, 根本直, 小林大介	
48 新制度薬剤師国家試験における試験問題の文字数及び文章の難易度の調査-「法規・制度・倫理」の試験問題から-		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大 会 東京都品川区	沼尻幸彦, 小島裕, 黒田陽子, 木村聡一郎, 近藤誠一, 荻原政彦, 新津勝, 北原嘉泰, 堀井徳光, 井上直子, 大嶋繁, 脇山春菜, 秋元勇人, 沖田光良, 根岸彰生, 大島新司, 小林大介	
49 フェニトインの脳中遊離型濃度と痙攣閾値上昇効果に及ぼす Lipopolysaccharide 投与の影響		平成30年 9月	第62回日本薬学会関東支部 大会 東京都中野区	山内康寛, 根岸彰生, 脇山春菜, 秋元勇人, 沖田光良, 堀井徳光, 大島新司, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋繁, 小林大介	
50 ストレスレジリエンスに関連したラット海馬組織内の代謝物変動		平成30年10月	第12回メタボロームシンポ ジウム in 鶴岡 山形県鶴岡市	杉山智章, 秋元勇人, 大島新司, 根岸彰生, 根本直, 小林大介	
51 スタチン系薬物の横紋筋融解症発現タイミング: 作用強度や併用薬による影響		平成30年11月	第12回日本薬局学会学術総 会 愛知県名古屋	樋口智也, 秋元勇人, 脇山春菜, 根岸彰生, 沖田光良, 堀井徳光, 大島新司, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋 繁, 小林大介	
52 日本の保険薬局における患者のQOLの現状と自己採点による健康状態点数との関連性		平成30年11月	第12回日本薬局学会学術総 会 愛知県名古屋	大原駿汰, 堀井徳光, 武藤香絵, 井上直子, 脇山春菜, 秋元勇人, 沖田光良, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 小林大介	
III 学会等および社会における主な活動					
平成18年 7月~現在に至る		埼玉医療薬学懇話会 事務局員			
平成26年 5月		平成26年度第2回関東調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (薬学教育者ワークショップ)			

平成27年 4月～現在に至る	埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター 評価委員会 委員
平成27年 5月	平成27年度第2回関東調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）
平成27年 9月	平成27年度第9回関東調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）
平成29年 1月	第1回城西大学・城西国際大学・みよの台薬局グループ意見交換会
平成29年 7月	平成29年度第9回関東調整機構認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ
平成29年 9月	平成29年度第3回関東調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）
平成30年10月	平成30年度第28回関東調整機構認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 木村 哲		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) 薬学実習教育推進室 実習コーディネーターとして			平成19年 4月～現在に至る	<p>実習一元化を推進する過程において学生が実習を通していろいろなことを体験し学ぶことの楽しさを実感できるようソフト・ハード両面からサポートしている。具体的には実習室内の改装や実験台の修繕修復を通して実習環境の改善に努めている。</p> <p>また使用備品や機器類の管理や実習時の安全確保に関しては実習テーマ変更に伴う利用頻度を考慮しながら要不要を問い合わせ、執行部と協議し随時不足分の補充や年次更新による大幅な新機種買い換え、定期的なメンテナンスそして廃棄を行っている。</p> <p>同時に実習時の安全対策としてガス元栓や電気配電盤の整備と共に大型機器のレイアウトを検討し避難経路の確保に努めている。</p> <p>特筆事項として本学には手動型車椅子を利用した男子学生 (以後「当該学生」と略称) が1名在籍していたので在籍時から卒業までに対応した経緯がある。1年次から3年次までの学内実習時には避難経路を考慮し、既設実験台の横等に車椅子が侵入可能な固定式小型の高低可動実験台を別途特注し設置対応した。学外長期実務実習に向けた4年次の薬学総合実習演習Ⅱ・Ⅲでは特に実技項目の軟膏調剤、手洗い・注射製剤そして模擬薬局内での計数・計量調剤や水剤実習に際してO S C Eも視野に入れ重点的に種々対応した結果、当該学生は5年進級時の長期実務実習において無事に薬局実習や病院実習も終了できた。その背景として学内対応してきた項目別の実習環境整備を中心に報告する。</p> <p>方法としては事前に当該学生乗車時の全体外観サイズと共に車椅子の採寸、実動回転半径や機能などを確認、更に入出りの木工・水道関連業者立ち合いのもとにヒアリング、そして学内実習室現場での入念な打ち合わせを繰り返すことで、実習項目ごとの特注実習台が完成した。製作に際しては本人の上腕可動範囲と握力面を特に考慮すると共に周囲の実習生達との共有スペース内における</p>			
2) 長期実務実習担当教員として			平成22年 5月～現在に至る	<p>実務実習担当教員として、薬局・病院訪問時に実習先の担当薬剤師の先生方とコミュニケーションを介して本来の業務を十分に理解し役割を担っている。</p>			
3) 学内実習委員会副委員長として			平成29年 4月～現在に至る	<p>2017年4月から副委員長としての任務に就いた。そこで過去二年間の経過を概説した。</p> <p>任務を遂行するに際して大きな環境の変化があった。その特徴の一つ目は21号館が新設されたことにより移設に伴う種々の対応が必要であったこと。二つ目は大学評価機構の求めに応じた新規評価方法として「ルーブリック評価法の適用と運用」が開始することになった点である。</p> <p>以下にこれまでの経過を年度別 (A)・(B)に分けて記載した。</p>			
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
論文							
1 学生中心型出席管理システムの構築	共著	平成26年 3月	城西情報科学研究 第23巻 第1号	木村哲、白幡晶	29頁～44頁		
2 出席管理システムOSの変更と維持整備	共著	平成28年 3月	城西情報科学研究 第24巻 第1号	木村 哲、白幡 晶	7頁～21頁		
3 学生中心型出席管理システム運用業務の体系化 -ITILによる検証-	共著	平成30年 3月	城西情報科学研究 第25巻 第1号	木村 哲、白幡 晶	19頁～53頁		
その他							
1 出席管理システムOSの変更と機能開発対応		平成26年10月	第58回 日本薬学会関東支部大会 昭和薬科大学	木村 哲、白幡 晶、中村 和洋、吉原 毅彦、江口 和成、松本正弘、佐藤 尚宏			

2 出席管理システムの維持整備と充実化		平成27年 9月	第59回 日本薬学会関東支部大会 日本大学	木村 哲、白幡 晶、中村 和洋、吉原 毅彦、江口 和成、松本正弘、佐藤 尚宏	
3 長期実務実習の効果的運用 担当教員の役割 (インタビューシートの活用)		平成28年 8月	第1回日本薬学教育学会大会 京都薬科大学	木村 哲	
4 障害学生の修学支援—学外長期実務実習を見据えた学内実習環境の整備—		平成29年 9月	第2回日本薬学教育学会大会 名古屋市立大学	木村哲、小林大介	
5 学内実習教育の一元化について —実習系相互の連携を図り、引継ぎを念頭においた検証—		平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会 昭和大学	木村哲、小林大介	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 高山 淳		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
1 PRACTICAL 基礎化学		単著	平成27年 3月	京都廣川書店			担当部分 : 有機化学
論文							
1 Structure-based design, synthesis, X-ray studies, and biological evaluation of novel HIV-1 protease inhibitors containing isophthalamide-derived P2-ligands (査読付)		共著	平成27年 5月	ScienceDirect Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters		Arun K. Ghosh, Luke A. Kassekert, Jean-Rene Ella-Menye, Sofiya Yashchuk, Johnson Agniswamy, Yuan-Fang Wang, Manabu Aoki, Masayuki Amano, Irene T. Weber, Hiroaki Mitsuya	
2 Systematic evaluation of methyl ester bioisosteres in the context of developing alkenyldiarylmethanes (ADAMs) as non-nucleoside reverse transcriptase inhibitors (NNRTIs) for anti-HIV-1 chemotherapy (査読付)		共著	平成28年 5月	ScienceDirect Bioorganic & Medicinal Chemistry vol.24 No.13		Ayako Hoshi, Takeshi Sakamoto, Jun Takayama, Meiyuan Xuan, Mari Okazaki, Tracy L. Hartman, Robert W. Buckheit Jr., Christophe Pannecouque, Mark Cushman	pp.3006~ pp.3022
3 Oxidative Dearomatic Cyclization of N-Substituted Benzanilide Derivatives: Conformational Effect of Amide Groups on the Reaction (査読付)		共著	平成28年 8月	The Lapan Institute of Heterocyclic Chemistry Heterocycles vol.92 No.10		Kousuke Hayashi, Jun Takayama, Meiyuan Xuan, Misaki Suda, Hiroyuki Teramae, Takeshi Sakamoto	pp.1785~ pp.1795
4 Hamiltonian algorithm and its application to the aromatic oxidative cyclization on N-methoxy-N-prenylbenzamide (査読付)		共著	平成28年12月	AIP Conference Proceedings vol.1790 No.1		Hiroyuki Teramae, Kousuke Hayashi, Jun Takayama, Takeshi Sakamoto	
5 A fission yeast cell-based system for multidrug resistant HIV-1 proteases (査読付)		共著	平成29年 1月	BioMed Central Cell & Bioscience		Zsigmond Benko, Dong Liang, Ge Li, Robert T. Elder, Anindya Sarkar, Jun Takayama, Arun K. Ghosh, Richard Y. Zhao	
6 Design of novel HIV-1 protease inhibitors incorporating isophthalamide-derived P2-P3 ligands: Synthesis, biological evaluation and X-ray structural studies of inhibitor-HIV-1 protease complex (査読付)		共著	平成29年 4月	ScienceDirect Bioorganic & Medicinal Chemistry vol.in press		Arun K. Ghosh, Margherita Brindisi, Prasanth R. Nyalapatla, Jun Takayama, Jean-Rene Ella-Menye, Sofiya Yashchuk, Johnson Agniswamy, Yuan-Fang Wang, Manabu Aoki, Masayuki Amano, Irene T. Weber, Hiroaki Mitsuya	
その他							
1 超原子価ヨウ素化合物を用いた2-アザスピロ [4, 5] デカン構造の合成研究			平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本		島野 洋祐, 小玉 健太郎, 石原友梨, 岩井 恵子, 玄 美燕, 坂本 武史	
2 抗HIV逆転写酵素阻害剤アルケニルジアリールメタン類の合成とFMO法による分子間相互作用の解析			平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本		星 絢子, 江本 晴美, 江尻 実央, 玄 美燕, 坂本 武史, マーク クッシュマン	
3 新規アルケニルジアリールメタン (ADAM) 誘導体の合成と抗HIV活性の評価、並びにFMO計算による解析			平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 昭和薬科大学		星 絢子, 馬場 弥生, 薦田 麻莉子, 玄 美燕, 坂本 武史	
4 酸化的脱芳香化反応を用いる2-アザスピロ環合成におけるアミド窒素上の置換基効果			平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 昭和薬科大学		島野 洋祐, 須田 岬, 玄 美燕, 寺前 裕之, 坂本 武史	
5 構造最適化計算を併用した2-アザスピロ環化合物の効率的合成			平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸		小玉 健太郎, 島野 洋祐, 須田 岬, 玄 美燕, 寺前 裕之, 坂本 武史	

6 オキサジアゾール環を有する非核酸系HIV-1逆転写酵素阻害剤アルケニルジアリールメタン類の合成と活性評価		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	星 絢子, 鍋倉 聡志, 林 浩輔, 大島 康平, 萩原 綾菜, 玄美燕, 坂本 武史
7 新規フェルラ酸誘導体をマトリックスに用いるタンパク質及びペプチドのMALDI-TOF-MS解析		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	加藤 洋介, 福田 護, 玄美燕, 岡崎 真理, 坂本 武史, 広澤 成美, 坂本 安
8 超原子価ヨウ素化合物を用いるスピロオキシンドール環の合成		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部	佐藤尚也, 林浩輔, 見澤翼, 島野洋祐, 須田岬, 玄美燕, 寺前裕之, 坂本武史
9 エステル生物学的等価体としてスルホキシドを有する新規NNRTIアルケニルジアリールメタンの開発		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部	林浩輔, 新井悠太, 久津間貴司, 本屋敷彬鼓, 星絢子, 玄美燕, 坂本武史
10 新規フェルラ酸誘導体のMALDIマトリックスへの応用と評価		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部	加藤洋介, 福田護, 松田千代子, 玄美燕, 岡崎真理, 坂本武史, 広澤成美, 坂本安
11 スピロオキシンドール環合成におけるアミド窒素の置換基の影響		平成28年 6月～平成28年 7月	創薬懇話会 in 2016 蓼科	林浩輔, 佐藤尚也, 島野洋祐, 玄美燕, 高山淳, 坂本武史, 須田岬, 寺前博之
12 新規フェルラ酸誘導体の合成とMALDI Matrixへの応用及び評価		平成28年 6月～平成28年 7月	創薬懇話会 in 2016 蓼科	加藤洋介, 松田千代子, 辻村和博, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史, 広澤成美, 坂本安
13 新規フェルラ酸誘導体の合成とプロテオーム解析用MALDIマトリックスへの応用		平成28年 9月	第60回日本薬学会 関東支部大会 東京大学大学院	加藤洋介, 松田千代子, 辻村和博, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史, 広澤成美, 坂本安
14 ベンズアニリド誘導体の酸化的脱芳香化反応におけるアミド窒素の置換基効果		平成28年 9月	第60回日本薬学会 関東支部大会 東京大学大学院	林浩輔, 佐藤尚也, 見澤翼, 島野洋祐, 須田岬, 玄美燕, 高山淳, 寺前裕之, 坂本武史
15 酸化的脱芳香化反応を利用した2-アザスピロ[4.5]デカン類の合成		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	林浩輔, 堀田理帆, 石原友梨, 須田岬, 玄美燕, 高山淳, 寺前裕之, 坂本武史
16 CF3置換オキサジアゾールを有するADAM誘導体の合成と抗HIV-1活性の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	星絢子, 二本木奏美, 吉川千尋, 本山貴之, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史
17 スルホキシド置換アルケニルジアリールメタン類の合成と抗HIV-1活性の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	武井貴紀, 林浩輔, 岩本悠, 久津間貴司, 新井悠太, 星絢子, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史
18 MALDI-TOFMS PMF解析用マトリックスとしてのフェルラ酸誘導体の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	加藤洋介, 松田千代子, 辻村和博, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史, 広澤成美, 坂本安
19 PC12細胞におけるフェルラ酸誘導体FAD012の酸化ストレス障害抑制メカニズムの検討		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	玄美燕, 中村梨花, 林浩輔, 加藤洋介, 高山淳, 坂本武史, 松崎広和, 岡崎真理
III 学会等および社会における主な活動				

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 小泉 晶彦		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 講義中のデモ				平成28年 4月～現在に至る		有機化学の講義では大型の分子模型を用いて立体配座の安定性や立体化学に関するデモを行っている。基礎物理学では力学に関する実験のデモを行っている。	
2) 動画の利用				平成28年 4月～現在に至る		基礎物理学の波動の講義では、動画を用いて波動の動きを実際に見せている。	
3) 実習のルーブリック評価				平成30年 4月～現在に至る		薬学実習Aにおいてルーブリックを作成し評価している	
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) 授業評価委員会				平成28年 4月～現在に至る		薬学科の各講義の授業アンケートを実施している、	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
論文							
1 Glycan specificity of a testis-specific lectin chaperone calmeglin and effects of hydrophobic interactions. (査読付)		共著	平成26年 4月	Biochim. Biophys. Acta. vol.1840 No.9	M. Sakono, A. Seko, Y. Takeda, J. Aikawa, M. Hachisu, A. Koizumi, K. Fujikawa, Y. Ito.		pp.2904～pp.2913
2 Construction of high-mannose-type glycan library by renewed top-down chemo-enzymatic approach (査読付)		共著	平成27年 1月	Chem. Eur. J. vol.21 No.8	K. Fujikawa, A. Koizumi, M. Hachisu, A. Seko, Y. Takeda, Y. Ito.		pp.3224～pp.3233
3 Bacterial $\beta$ -Kdo glycosyltransferases represent a new glycosyltransferase family (GT99) (査読付)		共著	平成28年 5月	Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A. vol.113	O. G. Ovchinnikova, E. Mallette, A. Koizumi, T. L. Lowary, M. S. Kimber, C. Whitfield		pp.E3120～pp.E3129
4 Influence of high-mannose glycan whose glucose moiety is substituted with 5-thiogluco-5-ene on calnexin/calreticulin cycle (査読付)		共著	平成28年 8月	RSC Adv. vol.6	M. Sakono, A. Seko, Y. Takeda, M. Hachisu, A. Koizumi, K. Fujikawa, H. Seto, Y. Ito		pp.76879～pp.76882
5 Synthesis of Unprecedented Sulfonylated Phosphono-exo-Glycals Designed as Inhibitors of the Three Mycobacterial Galactofuranose Processing Enzymes (査読付)		共著	平成28年 9月	Chem. Eur. J. vol.22	C. J.-M. Frédéric, A. Tikad, J. Fu, W. Pan, R. B. Zheng, A. Koizumi, X. Xue, T. L. Lowary, S. P. Vincent		pp.15913～pp.15920
6 Efficient D-Fructopyranosylation Method Catalyzed By Scandium Triflate and Preparation of New Sucrose Analogs (査読付)		共著	平成29年 1月	Heterocycles vol.95	T. Yamanoi, T. Saitoh, Y. Oda, N. Misawa, M. Watanabe, J. Ishikawa, A. Koizumi		pp.167～pp.171
7 Single polysaccharide assembly protein that integrates polymerization, termination, and chain-length quality control (査読付)		共著	平成29年 1月	Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A. vol.114	Danielle M. Williams, Olga G. Ovchinnikova, Akihiko Koizumi, Iain L. Mainprize, Matthew S. Kimber, Todd L. Lowary, and Chris Whitfield		pp.E1215～pp.E1223
8 1,2-cis- $\alpha$ -Glucoside Formation from a 2-Benzyloxycarbonylamino-2-deoxy- $\alpha$ -D-glucopyranosyl Acetate Derivative by an Activating System That Used a Combination of Ytterbium(III) Triflate and a Catalytic Boron Trifluoride Diethyl Etherate Complex (査読付)		共著	平成29年 9月	Heterocycles vol.94 No.11	T. Yamanoi, Y. Oda, K. Fujita, A. Koizumi		pp.2031～pp.2037
9 Synthetic polyprenol-pyrophosphate linked oligosaccharides are efficient substrates for mycobacterial galactan biosynthetic enzymes (査読付)		共著	平成30年 2月	Org. Biomol. Chem. vol.16 No.11	X. Xue, R. B. Zheng, A. Koizumi, L. Han, J. S. Klassena, T. L. Lowary		pp.1939～pp.1957

その他					
1 結核関連糖鎖の化学合成とその生物活性評価		平成28年 3月	日本薬学会第136年会		
2 結核関連糖鎖の化学合成		平成28年 9月	第35回日本糖質学会年会		
3 糖鎖抗原を用いた迅速な寄生虫感染症診断法の開発		平成29年 7月	第36回日本糖質学会年会		
4 糖鎖抗原を用いた迅速な多包虫症診断法の開発		平成30年 8月	第37回日本糖質学会年会 仙台		
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 助教	氏名 三木 涼太郎	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) 授業ノート評価		平成30年 4月～現在に至る	化学A演習にて学生が講義前の予習、講義中、講義後の復習時に作成したノートをルーブリックを利用して評価し、成績の10%分として組み込んでいる。		
2) 薬学総合演習A, Bにおける能動的学習のサポート		平成30年 9月～現在に至る	ジグソー法を用いた能動的学習。科目ごと的小テーマを設定し、学生は予め個別に与えられた小テーマを学習してくる。授業当日、同じ小テーマを与えられた学生がグループになって、そのテーマを他の人に説明し、質問を受け、議論することで理解を深める。その後、別々の小テーマを与えられた人たちがグループを作り、それぞれが学習してきたことをグループの人に説明し、理解を含める。グループでそれらを統合してその科目の理解を深める。複数の教員でこの授業の監督を行う。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
1) 学生実習Dの実習書作成・編集		平成28年 4月～現在に至る	学生実習Dの物理系分野において実習書の「日本薬局方演習」について作成・編集している。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 Skin Permeation and Disposition of Therapeutic and Cosmeceutical Compounds	共著	平成29年12月	Springer Japan	Toshinobu Seki, Ryotaro Miki	担当部分: Related Topic: Measurement of Diffusion Coefficient of Chemicals, pp. 377-384
論文					
1 Development of a membrane impregnated with a poly(dimethylsiloxane)/poly(ethylene glycol) copolymer for a high-throughput screening of the permeability of drugs, cosmetics, and other chemicals across the human skin (査読付)	共著	平成27年 1月	the European Federation for Pharmaceutical Sciences (EUFEPS) European Journal of Pharmaceutical Sciences vol. 66 No. 23	Ryotaro Miki, Yasuna Ichitsuka, Takumi Yamada, Soichiro Kimura, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Kazuhiko Juni, Hideo Ueda, Yasunori Morimoto	pp. 41～pp. 49
2 Sugar-responsive pseudopolyrotaxanes and their application in sugar-induced release of PEGylated insulin (査読付)	共著	平成27年 3月	springer Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol. 82 No. 3-4	Tomohiro Seki, Keigo Abe, Kiminobu Nakamura, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp. 417～pp. 424
3 Pseudopolyrotaxane composed of phenylboronic acid-modified polyethylene glycol and $\gamma$ -cyclodextrin (査読付)	共著	平成27年 3月	MDPI Materials vol. 8 No. 3	Tomohiro Seki, Misato Namiki, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp. 1341～pp. 1349
4 Effect of physiological changes in the skin on systemic absorption of tacrolimus following topical application in rats (査読付)	共著	平成28年 3月	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol. 39 No. 3	Yutaro Hazama, Toshihisa Maekawa, Ryotaro Miki, Shinji Oshima, Yuya Egawa, Kazuhiro Morimoto, Toshinobu Seki	pp. 343～pp. 352
5 Red fluorophore comprising of a borinate-containing xanthene analogue as a polyol sensor (査読付)	共著	平成28年11月	RSC Publishing Organic & Biomolecular Chemistry vol. 14 No. 42	Naoki Shimomura, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Takashi Fujihara, Yoshihiro Ishimaru, Toshinobu Seki	pp. 10031～pp. 10036
6 The development of a novel in vitro gastrointestinal absorption model comprising drug dissolution/migration/permeation processes: interactions between a drug and an excipient (査読付)	共著	平成28年12月	日本動物実験代替法学会 Alternatives to Animal Testing and Experimentation vol. 21 No. 1	Ryotaro Miki, Yuki Kobayashi, Yuko Nakamura, Tomoko Asaka, Nahomi Imai, Yuka Hirayama, Osamu Hosoya, Yuya Egawa, Toshinobu Seki	pp. 1～pp. 13

7 A pseudopolyrotaxane for glucose-responsive insulin release: The effect of binding ability and spatial arrangement of phenylboronic acid group (査読付)	共著	平成28年12月	ACS publications Molecular Pharmaceutics vol.13 No.11	Tomohiro Seki, Keigo Abe, Yuya Egawa, <u>Ryotaro Miki</u> , Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.3807~ pp.3815
8 Polyol-responsive pseudopolyrotaxanes based on phenylboronic acid-modified polyethylene glycol and cyclodextrins (査読付)	共著	平成29年 4月	springer Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol.87 No.3	Yu Kojima, Tomoyuki Okano, Tomohiro Seki, Misato Namiki, Yuya Egawa, <u>Ryotaro Miki</u> , Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.295~ pp.303
9 Preclinical study of tacrolimus ointment for prevention of its systemic absorption in atopic dermatitis model mice according to their skin conditions (査読付)	共著	平成29年 9月	NPC 日本印刷株式会社 Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences vol.43 No.9	Yutaro Hazama, Wataru Uchida, Toshihisa Maekawa, <u>Ryotaro Miki</u> , Shinji Oshima, Yuya Egawa, Osamu Hosoya, Toshinobu Seki	pp.477~ pp.491
10 A polyrotaxane gel using boronic acid-appended $\gamma$ -cyclodextrin as a hybrid cross-linker (査読付)	共著	平成29年12月	springer Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol.89 No.3-4	Wataru Uchida, Maiki Yoshikawa, Tomohiro Seki, <u>Ryotaro Miki</u> , Toshinobu Seki, Takashi Fujihara, Yoshihiro Ishimaru, Yuya Egawa	pp.281~ pp.288
11 A study on an in vitro changeable pH dissolution/permeation system that reflects pH shifts of the gastrointestinal tract: a case of a poorly soluble basic drug (査読付)	共著	平成29年12月	日本動物実験代替法学会 Alternatives to Animal Testing and Experimentation vol.22 No.1	<u>Ryotaro Miki</u> , Yuuichi Hara, Nahomi Imai, Masahiro Sugino, Yuya Egawa, Osamu Hosoya, Kazuhiko Juni, Toshinobu Seki	pp.107~ pp.114
12 Glucose Responsive Rheological Change and Drug Release from a Novel Worm-like Micelle Gel Formed in Cetyltrimethylammonium Bromide/Phenylboronic Acid/Water System (査読付)	共著	平成30年 3月	ACS Publications Molecular Pharmaceutics vol.15 No.3	<u>Ryotaro Miki</u> , Chihiro Takei, Yasushi Ohtani, Kosuke Kawashima, Ayaka Yoshida, Yu Kojima, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Daisuke Iohara, Makoto Anraku, Fumitoshi Hirayama, Kaneto Uekama	pp.1097~ pp.1104
13 Sugar-Responsive Layer-by-Layer Film Composed of Phenylboronic Acid-Appended Insulin and Poly(vinyl alcohol) (査読付)	共著	平成30年 4月	日本薬学会 Chemical and Pharmaceutical Bulletin vol.66	Chihiro Takei, Yui Ohno, Tomohiro Seki, <u>Ryotaro Miki</u> , Toshinobu Seki, Yuya Egawa	pp.368~ pp.374
14 Single-step preparation of topological gels using vinyl-modified $\beta$ -cyclodextrin as a figure-of-six cross-linker (査読付)	共著	平成30年12月	springer Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry vol.92 No.3-4	Yuki Kobayashi, Yu Kojima, <u>Ryotaro Miki</u> , Toshinobu Seki, Takashi Fujihara, Yoshihiro Ishimaru, Yuya Egawa	pp.311~ pp.317
その他					
1 紫外領域から可視領域へ色調変化を示す糖化学センサーの構造解析		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	下村有輝、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
2 糖に反応して架橋が切断するフェニルボロン酸修飾インスリン複合体の調製		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	関 智宏、井上知子、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
3 微粒子化した難溶性化合物の溶解性とそれに及ぼす水溶性高分子の影響		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	新井舞花、三木涼太郎、江川祐哉、関 俊暢	
4 フェニルボロン酸修飾シクロデキストリンと末端修飾ポリエチレングリコールによるポリシュードドラキサンの形成過程の調査		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	阿部圭吾、関 智宏、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
5 シクロデキストリンと高分子によるポリシュードドラキサンの形成過程の解析		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	小林由希、関 智宏、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
6 陽電荷を導入した糖応答性スライディングゲルにおける膨潤挙動の評価		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	小島裕、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
7 ジボロン酸含有微粒子化ゲルからのタンパク薬の糖応答性放出の評価		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	武井千弥、宮原菜生、小島裕、江川祐哉、三木涼太郎、関 俊暢	
8 タクロリムス炎症皮膚適用後の角層バリア能及び皮内状態に依存した吸収動態の解析		平成26年 3月	日本薬学会第134年会 熊本	間 祐太郎、三木涼太郎、大島新司、江川祐哉、関 俊暢	
9 糖応答性ポリシュードドラキサンの崩壊特性への鎖長の影響		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	阿部圭吾、関智宏、小林由希、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢	
10 糖センサー化学修飾分子ネックレスからのPEG鎖放出の糖応答性改善の試み		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	関智宏、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢	
11 種々炎症モデルヘアレスラットにおけるタクロリムス皮膚内動態の解析		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	間祐太郎、増田裕行、三木涼太郎、大島新司、江川祐哉、関俊暢	
12 DDS基材として利用可能なポリエステル-ポリエーテル共重合体の調製と評価		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	小林由希、関智宏、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢	
13 物理的刺激により放出制御する紐状ミセル水溶液に関する検討		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	三木涼太郎、前川俊久、勝田有紀、江川祐哉、関俊暢	
14 難溶性化合物の溶解性改善を目的としたボトムアップ法による微粒子の調製		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	新井舞花、三木涼太郎、江川祐哉、関俊暢	

15 ヒト皮膚透過性予測のHigh throughput化に向けた共重合体含浸膜に関する検討		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	市塚靖菜、三木涼太郎、江川祐哉、関俊暢
16 非酵素的な血糖値測定を目指した近赤外領域で糖応答性を示す色素		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	下村有輝、岸宏樹、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
17 フェニルボロン酸修飾インスリンのラット皮下投与後の吸収の評価		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	鈴木健太、関智宏、三木涼太郎、江川祐哉、関俊暢
18 消化管内のpH変化を模倣可能なin vitro消化管吸収モデルの検討		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	今井尚美、三木涼太郎、江川祐哉、関俊暢
19 糖応答性スライドラッシングゲルからのモデル薬物放出性の評価		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	小島裕、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
20 血糖値依存型溶解性と分散安定性を有するインスリン粒子の調製		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	内田亘、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
21 フェニルボロン酸修飾インスリンの糖結合特性の調査		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	井上知子、関智宏、三木涼太郎、江川祐哉、関俊暢
22 モデルタンパク薬を含有した微粒子化ゲルの調製と糖応答放出の評価		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 大宮	武井千弥、宮原菜生、小島裕、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
23 無色から有色への色調変化を示すボロン酸を二つ有するアゾ色素による糖化学センサー		平成26年 5月～平成26年 6月	第12回ホスト・ゲスト化学シンポジウム 目黒区	山口恵司、下村 有輝、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
24 糖と直接結合可能なセンサー修飾基を有する糖応答PEG鎖放出ポリシユードロタキサン		平成26年 9月	第31回会シクロデキストリンシンポジウム 松江市	関智宏、阿部圭吾、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
25 糖化学センサー修飾ポリシユードロタキサンのインスリンデリバリーへの応用		平成26年 9月	第31回会シクロデキストリンシンポジウム 松江市	江川祐哉、関智宏、阿部圭吾、三木涼太郎、関俊暢
26 皮膚微小循環の変化がタクロリムス経皮吸収動態に及ぼす影響		平成26年10月	日本薬学会関東支部大会 町田	前川俊久、間祐太郎、三木涼太郎、大島新司、江川祐哉、関俊暢
27 A membrane impregnated with a poly(dimethylsiloxane)/poly(ethylene glycol) copolymer for a high-throughput screening of the permeability of compounds across the human skin		平成26年11月	The 3rd International Conference on Nutraceutical and Cosmetic Sciences 新宿区	Ryotaro Miki, Yasuna Ichitsuka, Soichiro Kimura, Yuya Egawa, Toshinobu Seki, Kazuhiko Juni, Hideo Ueda, Yasunori Morimoto
28 糖センサー分子修飾によるインスリンの糖応答性血中移行制御の試み		平成26年11月	第20回創剤フォーラム若手研究会 八王子市	関智宏、鈴木健太、井上知子、並木美仁、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
29 ロタキサン構造を持つ糖応答性ゲルの調製とモデル薬物放出性		平成26年11月	第20回創剤フォーラム若手研究会 八王子市	小島裕、高橋大樹、江川祐哉、三木涼太郎、関俊暢
30 架橋点にロタキサン構造を持ち、糖にตอบสนองして収縮するゲルの調製		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
31 皮膚適用後のタクロリムスの全身吸収への血管収縮剤の影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	前川 俊久、増田 裕行、間 祐太郎、三木 涼太郎、大島 新司、江川 祐哉、関 俊暢
32 シクロデキストリンおよび高分子鎖への糖センサー二重修飾分子ネックレスの調製とその糖応答性		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	関 智宏、並木 美仁、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
33 糖センサー修飾ポリエチレングリコールを用いて調製した分子ネックレスの糖応答性のメカニズムの調査		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	並木 美仁、関 智宏、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
34 ボロン酸残基を有するクロコニン誘導体による蛍光糖化学センサーの構造解析		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	下村 有輝、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
35 モデルタンパク質薬を含有した糖応答性微粒子の調製		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	武井 千弥、小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
36 シクロデキストリンによるタクロリムスの皮膚内動態制御の試み		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	内田 亘、間 祐太郎、前川 俊久、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢
37 スライドラッシング架橋点を有するゲルによる糖応答性バルブの構築		平成27年 5月	日本薬剤学会第30年会 長崎	小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
38 タクロリムス軟膏剤の全身性副作用の回避を目的とした皮膚内吸収動態の検討		平成27年 5月	日本薬剤学会第30年会 長崎	間 祐太郎、前川 俊久、Patel Avnish、三木 涼太郎、大島 新司、江川 祐哉、Lane Majella、関 俊暢
39 糖応答性微粒子の調製条件が薬物放出性に及ぼす影響		平成27年 5月	日本薬剤学会第30年会 長崎	武井 千弥、小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
40 糖にตอบสนองして粘性が変化する臭化セチルトリメチルアンモニウム/フェニルボロン酸/水系の紐状ミセルの調製		平成27年 9月	日本油化学会第54回年会 名古屋	三木 涼太郎、江川 祐哉、関俊暢、庵原 大輔、平山 文俊、上釜 兼人
41 タクロリムス皮膚適用後の全身移行性に及ぼす皮膚状態の変化と血管収縮薬の影響		平成27年 9月	日本薬学会関東支部大会 船橋	前川 俊久、間 祐太郎、三木 涼太郎、大島 新司、江川 祐哉、関 俊暢

42 アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いたタクロリムス軟膏皮膚適用後の全身および皮膚局所移行性に及ぼす皮膚状態の影響		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	間 祐太郎、内田 亘、前川 俊久、 三木 涼太郎、大島 新司、江川 祐 哉、関 俊暢
43 溶出/移動/吸収の過程を連続的に評価する in vitro消化管吸収モデルに関する検討—薬 物と食品成分の相互作用—		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	平山 悠花、三木 涼太郎、江川 祐 哉、関 俊暢
44 ヘプタメチンシアニンを基本骨格としたボ ロン酸含有近赤外糖応答性プローブ		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	兼子 千咲都、下村 有輝、江川 祐 哉、三木 涼太郎、関 俊暢
45 ポリロタキサン構造を利用した新規薬物担 体調製の試み		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	内田 亘、三木 涼太郎、江川 祐 哉、関 俊暢
46 ボロン酸とアゾ基の相互作用に基づく蛍光 糖化学センサー		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	櫻井 萌子、下村 有輝、江川 祐 哉、三木 涼太郎、関 俊暢
47 架橋部にロタキサン構造を持ち糖に繰り返 し応答するゲルの調製		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	小島 裕、武井 千弥、関 智宏、江 川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊暢
48 臭化セチルトリメチルアンモニウム/フェ ニルボロン酸/水系の紐状ミセルゲルの形成と pHの関係についての考察		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	大谷 泰史、三木 涼太郎、江川 祐 哉、関 俊暢、庵原 大輔、平山 文 俊、上釜 兼人
49 異なる下限臨界溶解温度を有するポリマー を組み合わせたブロックコポリマーの調製と その分子集合体の温度応答性の評価		平成28年 5月	日本薬剤学会第31年会 岐阜	星野 純貴、鈴木 貴大、小島 裕、 三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢
50 タクロリムス皮膚適用後の全身移行性と局 所滞留性のラットを用いた評価		平成28年 5月	日本薬剤学会第31年会 岐阜	前川 俊久、間 祐太郎、内田 亘、 武井 千弥、小林 由希、三木 涼太 郎、大島 新司、江川 祐哉、関 俊 暢
51 The effect of cyclodextrins on the formation of microparticles composed of a block copolymer, polypropylene glycol and polycaprolactone		平成28年 6月	The 1st Workshop for Japan-Korea Young Scientists on Pharmaceutics Kyoto	Yuki Kobayashi, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki
52 ポリオール化合物を認識するボリン酸誘導 体の蛍光変化メカニズムの解明		平成28年 8月	第14回次世代を担う若手 のためのフィジカル・ファー マフォーラム 大阪	下村 有輝、江川 祐哉、三木 涼 太郎、関 俊暢
53 マイクロダイアリシス法による皮膚中タク ロリムス濃度の新規測定法に関する検討		平成28年12月	第27回マイクロダイアリシ ス研究会 文京区	田中 雄也、前川 俊久、間 祐太 朗、三木 涼太郎、江川 祐哉、関 俊暢
54 架橋部にポリロタキサン構造を有するフェ ニルボロン酸修飾ゲルの調製と糖応答性の評 価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	小島 裕、江川 祐哉、三木 涼太 郎、関 俊暢
55 ポリボロン酸とポリビニルアルコールを組 み合わせたヒドロゲルの調製と糖応答性挙動 の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	武井 千弥、江川 祐哉、三木 涼太 郎、関 俊暢
56 蛍光性ボリン酸誘導体 (JoSai-Red) の過 酸化水素応答及びグルコースセンサーへの応 用		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	下村 有輝、江川 祐哉、三木 涼太 郎、関 俊暢
57 ボロン酸修飾インスリンを用いた糖応答性 交互累積膜		平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 大宮	武井 千弥、江川 祐哉、三木 涼 太郎、関 俊暢
58 ビニル-シクロデキストリンを用いたスライ ドリングゲルのワンポット調製		平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 大宮	小林 由希、小島 裕、江川 祐哉、 三木 涼太郎、関 俊暢
59 ボロン酸修飾インスリンと糖鎖の相互作用 を利用した血管内徐放化の試み		平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 大宮	大野 由依、江川 祐哉、三木 涼 太郎、関 俊暢
60 ポリビニルアルコールとフェニルボロン酸 修飾 $\gamma$ -シクロデキストリンからなるハイドロ ゲルからの糖応答性薬物放出		平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 大宮	内田 亘、吉川 眞維樹、関 智宏、 江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊 暢
61 胃潰瘍モデルラットにおける薬物吸収に関 する研究		平成29年 5月	日本薬剤学会第32年会 大宮	原 裕一、杉野 雅浩、三木 涼太 郎、細谷 治、從二 和彦、関 俊暢
62 ビニル基修飾 CyD とイソブレンの重合に よるスライドリングゲルのワンポット調製と 物性評価		平成29年 8月～平成 29年 9月	第34回シクロデキストリン シンポジウム 名古屋	小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太 郎、関 俊暢
63 フェニルボロン酸修飾 $\gamma$ -CyD による包接 複合体と化学結合同時形成からなるハイドロ ゲルの調製とその糖応答性薬物放出への利用		平成29年 8月～平成 29年 9月	第34回シクロデキストリン シンポジウム 名古屋	内田 亘、吉川 眞維樹、関 智宏、 江川 祐哉、三木 涼太郎、関 俊 暢
64 ボロン酸含有紐状ミセルゲルのグルコース によるレオロジー特性の変化		平成29年 9月	第23回創剤フォーラム若手 研究会 港区	三木 涼太郎、大谷 泰史、江川 祐 哉、関 俊暢、庵原 大輔、安楽 誠、平山 文俊、上釜 兼人
65 糖鎖との相互作用に基づく持続作用を示す ボロン酸修飾インスリン		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部 大会 港区	大野 由依、江川 祐哉、三木 涼太 郎、関 俊暢

66	ビニル基修飾 $\gamma$ -シクロデキストリンと N-イソプロピルアクリルアミドを用いたスライドラリング架橋ゲルの調製		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	鈴木 好真、小林 由希、小島 裕、 三木 涼太郎、関 俊暢、江川 祐哉	
67	ブロック共重合体とシクロデキストリンから形成される複合粒子に関する研究		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	久保田 亮翔、小林 由希、江川 祐哉、 三木 涼太郎、関 俊暢	
68	マイクロサイズのプロスルーセルを用いた紐状ミセルゲルからの糖応答性薬物放出の評価		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	吉田 綾華、武井 千弥、三木 涼太郎、 江川 祐哉、関 俊暢	
69	ボロン酸修飾インスリンとポリビニルアルコールからなる糖応答性ゲルの調製		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	武井 千弥、吉田 綾華、江川 祐哉、 三木 涼太郎、関 俊暢	
70	ビニル基修飾シクロデキストリンと各種モノマーの共重合によるスライドラリングゲルのワンポット調製とその物性評価		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太郎、 関 俊暢	
71	インスリン由来アミロイドーシスを回避可能な新規インスリン誘導体		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	大野 由依、川村 知裕、三木 涼太郎、 江川 祐哉、杉野 雅浩、細谷 治、 関 俊暢	
72	胃傷害による胃排出の変化とそれによる薬物吸収性への影響		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	原 裕一、大野 雅斗、片岸 光平、 塩谷 勇登、田中 諒、松永 秀春、 杉野 雅浩、三木 涼太郎、細谷 治、 江川 祐哉、從二 和彦、関 俊暢	
73	Sugar Responsive Molecular Machines based on the Combination of Phenylboronic Acid and Cyclodextrins		平成30年 4月	The 19th International Cyclodextrin Symposium 千代田区	Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki	
74	One-Pot Preparation of Slide-Ring Gels Using a Vinyl-Modified Cyclodextrin		平成30年 4月	The 19th International Cyclodextrin Symposium 千代田区	Yuki Kobayashi, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki	
75	フェニルボロン酸修飾インスリンのアミロイド形成抑制要因の調査		平成30年 5月～平成30年 6月	日本薬剤学会第33年会 静岡市	川村 知裕、大野 由依、三木 涼太郎、 江川 祐哉、関 俊暢	
76	One-Pot Preparation of Slide-Ring Gels Using A Vinyl-Modified Cyclodextrin and Vinyl-Based Monomers		平成30年 7月	The 2nd Workshop for Korea-Japan Young Scientists on Pharmaceutics ソウル	Yuki Kobayashi, Yuya Egawa, Ryotaro Miki, Toshinobu Seki	
77	DDS 基剤として応用可能なビニル基修飾シクロデキストリンと各種モノマーの共重合によるスライドラリングゲルの調製		平成30年 8月	第43回製剤・創剤セミナー 三浦	小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太郎、 関 俊暢	
78	グルコースモニタリングに向けたポリリン酸誘導体蛍光モノマーの合成と高分子材料への導入		平成30年 9月	次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム 三浦	鈴木 貴大、三木 涼太郎、江川 祐哉、 関 俊暢	
79	ビニル基修飾CyDと各種ビニルモノマーの共重合による機能性ゲルのワンポット調製とその物性評価		平成30年 9月	第35回シクロデキストリンシンポジウム 甲府	小林 由希、江川 祐哉、三木 涼太郎、 関 俊暢	
80	フェニルボロン酸修飾 $\gamma$ -CyD とポリビニルアルコールからなるグルコースオキシダーゼ含有糖応答性ハイドロゲル		平成30年 9月	第35回シクロデキストリンシンポジウム 甲府	江川 祐哉、内田 亘、三木 涼太郎、 関 俊暢	
81	生理的 pH における糖応答性紐状ミセルの調製およびレオロジー特性の評価		平成30年 9月	日本油化学会第57回年会 神戸学院大学 有瀬キャンパス	三木 涼太郎、川嶋 康介、塩野 さやか、 江川祐哉、関 俊暢	
82	糖応答性紐状ミセルゲルからのグルコース依存的薬物放出性		平成30年 9月	第24回創剤フォーラム若手研究会 神戸	三木 涼太郎、吉田 綾華、武井 千弥、 江川 祐哉、関 俊暢	
83	フェニルボロン酸を用いたグルコース応答性新規紐状ミセルゲルの調製と薬物放出特性	単著	平成31年 1月	日本油化学会 オレオサイエンス 第19巻 第1号		5頁～11頁
III 学会等および社会における主な活動						

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。  
① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。  
② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 助教	氏名 中山 光治	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
その他					
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 堀井 徳光		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 調剤処方学				平成30年11月～現在に至る	実務経験に基づいた授業を展開している。授業範囲内の国家試験問題を解くことで、現在わからない箇所を明確にするように促している。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
1) 新制度薬剤師国家試験における試験問題の文字数及び文章の難易度の調査-「法規・制度・倫理」の試験問題から-				平成30年 9月			
2) 平成30年度 第29回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のための アドバンスワークショップ				平成30年12月			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
論文							
1 介護支援専門員調査より得られた薬剤師が優先的に取り組む要介護者の抱える薬の問題 (査読付)		共著	平成30年 3月	日本老年薬学会 日本老年薬学会雑誌 第1巻 第2号	「堀井徳光, 井上直子, 大嶋 繁, 沖田光良, 秋元勇人, 根岸彰生, 大島新司, 沼尻幸彦, 小林大介」		28頁～33頁
その他							
1 フェニトインの脳中遊離型濃度と痙攣閾値上昇効果に及ぼす Lipopolysaccharide 投与の影響			平成30年 9月	第62回日本薬学会関東支部大会 東京都中野区	「山内康寛, 根岸彰生, 脇山春菜, 秋元勇人, 沖田光良, 堀井徳光, 大島新司, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋繁, 小林大介」		
2 新制度薬剤師国家試験における試験問題の文字数及び文章の難易度の調査-「法規・制度・倫理」の試験問題から-			平成30年 9月	第3回日本薬学会教育学会大会 東京都品川区	「沼尻幸彦, 小島裕, 黒田陽子, 木村聡一郎, 近藤誠一, 荻原政彦, 新津勝, 北原嘉泰, 堀井徳光, 井上直子, 大嶋繁, 脇山春菜, 秋元勇人, 沖田光良, 根岸彰生, 大島新司, 小林大介」		
3 薬剤師が在宅業務で行う高齢者総合的機能評価 (CGA) ツール作成のための予備的文献調査			平成30年10月	日本社会薬学会第37年会 千葉県船橋市	「大西祐輔, 荻原康平, 堀井徳光, 武藤香絵, 井上直子, 大嶋繁」		
4 スタチン系薬物の横紋筋融解症発現タイミング: 作用強度や併用薬による影響			平成30年11月	第12回日本薬局学会学術総会 愛知県名古屋市	「樋口智也, 秋元勇人, 脇山春菜, 根岸彰生, 沖田光良, 堀井徳光, 大島新司, 沼尻幸彦, 井上直子, 大嶋 繁, 小林大介」		
5 日本の保険薬局における患者のQOLの現状と自己採点による健康状態点数との関連性			平成30年11月	第12回日本薬局学会学術総会 愛知県名古屋市	「大原駿汰, 堀井徳光, 武藤香絵, 井上直子, 脇山春菜, 秋元勇人, 沖田光良, 根岸彰生, 大島新司, 大嶋 繁, 小林大介」		
III 学会等および社会における主な活動							

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。  
 ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。  
 ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。  
 ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。  
 ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 松崎 広和		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 薬学総合演習A、Bにおけるループブック作成および能動学習のサポート				平成30年 9月～現在に至る	ジグソー法による能動学習を行う際の監督・サポート、および自己評価・ピア評価のループブック表の作成をサポート。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
論文							
1 Matrin 3 Augments the Transcriptional Activity of an SV40 Promoter-Mediated Luciferase Gene with a Highly Repetitive DNA Component (査読付)	共著	平成26年	Journal of molecular and genetic medicine vol.8	Shinya Kamiuchi, Mutsumi Fukaya, Tatsuhiro Usui, Naohiro Iwata, Mari Okazaki, Hirokazu Matsuzaki, Katsuyoshi Sunaga, Yasuhide Hibino	pp.146		
2 Orally administrated ascorbic acid suppresses neuronal damage and modifies expression of SVCT2 and GLUT1 in the brain of diabetic rats with cerebral ischemia-reperfusion. (査読付)	共著	平成26年	Nutrients vol.6	Iwata N, Okazaki M, Xuan M, Kamiuchi S, Matsuzaki H, Hibino Y	pp.1554～pp.1577		
3 Chronic Treatment with a Water-Soluble Extract from the Culture Medium of Ganoderma lucidum Mycelia Prevents Apoptosis and Necroptosis in Hypoxia/Ischemia-Induced Injury of Type 2 Diabetic Mouse Brain (査読付)	共著	平成27年	Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine	Meiyan Xuan, Mari Okazaki, Naohiro Iwata, Satoshi Asano, Shinya Kamiuchi, Hirokazu Matsuzaki, Takeshi Sakamoto, Yoshiyuki Miyano, Hiroshi Iizuka, Yasuhide Hibino			
4 Effects of Etanercept against Transient Cerebral Ischemia in Diabetic Rats (査読付)	共著	平成27年	BioMed research international vol.2015	Naohiro Iwata, Hiroko Takayama, Meiyan Xuan, Shinya Kamiuchi, Hirokazu Matsuzaki, Mari Okazaki, and Yasuhide Hibino	pp.189292		
5 Protective Effects of Ferulic Acid against Chronic Cerebral Hypoperfusion-Induced Swallowing Dysfunction in Rats (査読付)	共著	平成29年	International journal of molecular sciences vol.18 No.3	Takashi Asano, Hirokazu Matsuzaki, Naohiro Iwata, Meiyan Xuan, Shinya Kamiuchi, Yasuhide Hibino, Takeshi Sakamoto and Mari Okazaki	pp.550		
6 Perfluorododecanoic Acid Induces Cognitive Deficit in Adult Rats (査読付)	共著	平成29年	Toxicological sciences vol.157 No.2	Kohei Kawabata, Hirokazu Matsuzaki, Sahoko Nukui, Mari Okazaki, Ayako Sakai, Yoichi Kawashima and Naomi Kudo	pp.421～pp.428		
その他							
1 慢性脳低灌流ラットの嚥下機能障害に対するフェルラ酸の改善作用		平成26年 3月	第87回日本薬理学会年会	松崎 広和, 浅野 昂志, 中田 由佳里, 横瀬 祐太, 日比野 康英, 岡崎 真理			
2 慢性脳低灌流ラットの嚥下機能障害に対するフェルラ酸の効果とその神経メカニズム		平成26年 3月	日本薬学会第134年会	浅野 昂志, 松崎 広和, 中田 由佳里, 横瀬 祐太, 日比野 康英, 岡崎 真理			
3 新規フェルラ酸誘導体の抗酸化活性評価と細胞保護効果の検討		平成26年 3月	日本薬学会第134年会	友野 聖己, 玄 美燕, 林 浩輔, 亀川 真理子, 可児 大輔, 松崎 広和, 高山 淳, 坂本 武史, 岡崎 真理			
4 ラットにおける長鎖ペルフルオロカルボン酸の脳に対する影響		平成26年 3月	日本薬学会第134年会	川畑 公平, 貫井 早穂子, 藤井 宏樹, 松崎 広和, 岡崎 真理, 川嶋 洋一, 工藤 なをみ			

5 慢性脳低灌流ラットの学習障害に対する eugenol の効果		平成26年11月	第17回日本補完代替医療学会学術集会	松崎 広和, 高塚 麻実, 玄 美燕, 日比野 康英, 岡崎 真理
6 慢性脳低灌流ラットの嚙下機能障害に対するオイゲノールの効果		平成26年11月	第17回日本補完代替医療学会学術集会	浅野 昂志, 松崎 広和, 小井土 愛里, 松井 駿, 日比野 康英, 岡崎 真理
7 新規フェルラ酸誘導体の抗酸化活性評価と細胞保護効果の検討		平成26年11月	第17回日本補完代替医療学会学術集会	玄 美燕, 岡部 祥子, 林 浩輔, 松崎 広和, 高山 淳, 坂本 武史, 岡崎 真理
8 慢性脳低灌流ラットの学習障害に対するオイゲノールの効果		平成27年 3月	第88回日本薬理学会年会	松崎 広和, 高塚 麻実, 玄 美燕, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
9 慢性脳低灌流ラットの嚙下機能障害に対するオイゲノールの効果		平成27年 3月	第88回日本薬理学会年会	浅野 昂志, 松崎 広和, 小井土 愛里, 松井 駿, 玄 美燕, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
10 2型糖尿病マウスの低酸素脳虚血における霊芝菌糸体培養培地抽出物のネクロトーシス抑制作用		平成27年 3月	第88回日本薬理学会年会	玄 美燕, 岡崎 真理, 岩田 直洋, 浅野 哲, 神内 伸也, 松崎 広和, 坂本 武史, 宮野 義之, 飯塚 博, 日比野 康英
11 ラットの反復拘束ストレス負荷による睡眠障害に対するフェルラ酸の効果		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	松崎 広和, 山本 知佳, 玉井 伶奈, 日比野 康英, 岡崎 真理
12 慢性脳低灌流ラットの嚙下反射機能障害に対する eugenol の効果		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	浅野 昂志, 松崎 広和, 小井土 愛里, 松井 駿, 玄 美燕, 日比野 康英, 岡崎 真理
13 KKAYマウスの低酸素脳虚血障害における霊芝菌糸体培養培地抽出物のネクロトーシス抑制効果		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	玄 美燕, 岡崎 真理, 岩田 直洋, 浅野 哲, 神内 伸也, 松崎 広和, 坂本 武史, 宮野 義之, 飯塚 博, 日比野 康英
14 糖尿病態ラットの虚血性脳障害に対するアスコルビン酸の保護作用		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	岩田 直洋, 岡崎 真理, 玄 美燕, 神内 伸也, 松崎 広和, 日比野 康英
15 霊芝菌糸体培養培地抽出物 (MAK) による2型糖尿病モデルマウスの肝臓での脂質代謝に与える影響		平成27年 3月	日本薬学会第135年会	神内 伸也, 新藤 由梨, 岩田 直洋, 松崎 広和, 岡崎 真理, 宮野 義之, 飯塚 博, 日比野 康英
16 反復拘束ストレス負荷ラットにおけるシイタケ醗酵米糠抽出物 (LEF) の睡眠障害軽減効果		平成27年11月	第18回日本補完代替医療学会学術集会 金沢	松崎 広和, 大山 将治, 辻 有希, 丸井 若菜, 新井 俊佑, 池田 千尋, 玄 美燕, 日比野 康英, 飯塚 博, 岡崎 真理
17 新規フェルラ酸誘導体FAD012の反復拘束ストレス負荷ラットにおける睡眠障害軽減効果		平成28年 3月	第89回日本薬理学会年会 横浜	松崎 広和, 田村 衣里, 玄 美燕, 林 浩輔, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
18 新規フェルラ酸誘導体FAD012は慢性脳低灌流ラットの脳血流量を増加し嚙下反射機能低下を改善する		平成28年 3月	第89回日本薬理学会年会 横浜	浅野 昂志, 松崎 広和, 玄 美燕, 林 浩輔, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
19 ラットのスコボラミン誘発学習障害に対するオイゲノールの効果		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	松崎 広和, 石井 奈津季, 吉弘 麻衣, 村上 真奈美, 竹内 望美, 日比野 康英, 岡崎 真理
20 慢性脳低灌流ラットにおける新規フェルラ酸誘導体FAD012の嚙下反射機能改善メカニズムの検討		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	浅野 昂志, 松崎 広和, 玄 美燕, 林 浩輔, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
21 PC12細胞の酸化ストレス障害に対する新規フェルラ酸誘導体FAD024の保護メカニズムの検討		平成28年 9月	第60回日本薬学会関東支部大会 東京	玄 美燕, 木下 智史, 荒野 舞, 加藤 洋介, 高山 淳, 坂本 武史, 松崎 広和, 岡崎 真理
22 慢性脳低灌流ラットにおけるフェルラ酸誘導体FAD012の脳保護効果		平成28年11月	第19回日本補完代替医療学会学術集会 金沢	浅野 昂志, 松崎 広和, 奥平 嵩士, 金本 貴文, 玄 美燕, 林 浩輔, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
23 脳虚血再灌流ラットにおけるフェルラ酸誘導体FAD012の脳保護効果		平成29年 3月	第90回日本薬理学会年会 長崎	浅野 昂志, 松崎 広和, 岩田 直洋, 林 浩輔, 玄 美燕, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
24 慢性脳低灌流ラットにおいてフェルラ酸誘導体FAD012は黒質線条体ドパミン神経系を保護し嚙下反射機能を改善する		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	浅野 昂志, 松崎 広和, 岩田 直洋, 林 浩輔, 玄 美燕, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理
25 PC12細胞におけるフェルラ酸誘導体FAD012の酸化ストレス障害抑制メカニズムの検討		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	玄 美燕, 中村 梨花, 林 浩輔, 加藤 洋介, 高山 淳, 坂本 武史, 松崎 広和, 岡崎 真理
26 フェルラ酸誘導体FAD012の慢性脳低灌流ラットにおける学習障害軽減効果		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	松崎 広和, 清水 杏里, 金本 貴文, 奥平 嵩士, 浅野 昂志, 玄 美燕, 林 浩輔, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理

27 フェルラ酸誘導体 FAD012の予防的投与によるラット中大脳動脈閉塞時の脳血流維持作用		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	浅野 昂志, 遠藤 諒, 林 浩輔, 岩田 直洋, 松崎 広和, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理	
28 慢性拘束ストレス負荷マウスの回腸における炎症性反応と収縮機能異常に対するクルクミンの予防的投与の効果		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	松崎 広和, 矢崎 渉, 坂本 武史, 日比野 康英, 岡崎 真理	
29 FAD012, a ferulic acid derivative, protects against middle cerebral artery occlusion (MCAO)-induced ischemic stroke by preserving cerebral blood flow in rats		平成30年 7月	18th World congress of basic and clinical pharmacology Kyoto	Takashi Asano, Ryo Endo, Kosuke Hayashi, Yosuke Kato, Naohiro Iwata, Hirokazu Matsuzaki, Takeshi Sakamoto, Yasuhide Hibino, Mari Okazaki	
30 FAD012, a ferulic acid derivative, improves cerebral blood flow and enhances swallowing reflux in a rat chronic cerebral hypoperfusion model		平成30年 7月	18th World congress of basic and clinical pharmacology Kyoto	Hirokazu Matsuzaki, Takashi Asano, Yosuke Kato, Kosuke Hayashi, Meiyun Xuan, Naohiro Iwata, Jun Takayama, Takeshi Sakamoto, Yasuhide Hibino, Mari Okazaki	
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 助教	氏名 武藤 香絵	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
その他					
1 彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成 (SAIPE) ー第1 報ー		平成26年 5月	日本薬剤学会第29年会 埼玉	細谷治、大嶋繁、江端みどり、高尾浩一、武藤香絵、古屋牧子、竹中伸五、大部令絵、新井利民、米岡裕美、柴崎智美、瀬戸真弓、勝木祐仁、杉林堅次	
2 埼玉県薬剤師会のアドバンストワーク ショップへの取り組みについて		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	中島孝則、田島敬一、日比徹、細谷治、大澤京子、菅野敏之、久津間信明、小佐野博史、藤井和江、藤田照子、武藤香絵、山崎あずか、畑中典子、鯉淵肇	
3 城西大学薬局における在宅業務の業務量と収益の現状		平成30年 7月	埼玉医療薬学懇話会第38回 学術研究講演会 埼玉	大橋悠、堀井徳光、武藤香絵、井上直子、大嶋繁	
4 薬剤師が在宅業務で行う高齢者総合的機能評価 (CGA) ツール作成のための予備的文献調査		平成30年10月	日本社会薬学会第37年会 千葉	大西祐輔、荻原康平、堀井徳光、武藤香絵、井上直子、大嶋繁	
5 終末期の在宅医療の患者を対象としたSTOPP Frail基準の適用		平成30年11月	第29回日本在宅医療学会学術集会 横浜	大嶋繁、渡辺有貴、堀井徳光、武藤香絵、井上直子	
6 インターネット調査から明らかとなった保険薬局利用患者のQOL分布の特徴		平成30年11月	第12回日本薬局学会学術総会 名古屋	大原駿汰、堀井徳光、武藤香絵、井上直子、脇山春菜、秋元勇人、沖田光良、根岸彰生、大島新司、大嶋繁、小林大介	
III 学会等および社会における主な活動					
平成13年～現在に至る	日本薬学会 会員				
平成16年～現在に至る	日本TDM学会 会員				
平成16年～現在に至る	日本臨床薬理学会 会員				
平成27年 6月～現在に至る	一般社団法人埼玉県薬剤師会 薬学生実務実習委員会 委員				

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 茂木 肇		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) 科学啓発運動委員会				平成22年 4月～現在に至る			
2) 入試実施委員会				平成30年 4月～現在に至る			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
論文							
1 L-Ascorbic Acid- and L-Ascorbic Acid 2-Glucoside Accelerate In Vivo Liver Regeneration and Lower Serum Alanine Aminotransaminase Activity in 70% Partially Hepatectomized Rats. (査読付)		共著	平成26年 2月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.37	Kimura M., <u>Moteki H.</u> , Uchida M., Natsume H., Ogihara M.		pp.597～pp.603
2 Signal transduction pathway for L-ascorbic acid- and L-ascorbic acid 2-glucoside-induced DNA synthesis and cell proliferation in primary cultures of adult rat hepatocytes.		共著	平成26年 3月	European Journal of Pharmacology vol.683 No.1-3	Moteki H, Shimamura Y, Kimura M, Ogihara M.		pp.276～pp.284
3 Involvement of endogenous transforming growth factor- $\alpha$ in signal transduction pathway for interleukin-1 $\beta$ -induced hepatocyte proliferation. (査読付)		共著	平成26年11月	European Journal of Pharmacology vol.745	Mitutoshi Kimura, <u>Haiime Moteki</u> , Masahiko Ogihara.		pp.223～pp.233
4 Signal Transduction Mechanism for Serotonin 5-HT <sub>2B</sub> Receptor-Mediated DNA Synthesis and Proliferation in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes. (査読付)		共著	平成28年 1月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.39 No.1	Naito K, Tanaka C, Mitsuhashi M, <u>Moteki H.</u> , Kimura M, Natsume H, Ogihara M.		pp.121～pp.129
5 Serotonin 5-HT <sub>2B</sub> Receptor-Stimulated DNA Synthesis and Proliferation Are Mediated by Autocrine Secretion of Transforming Growth Factor- $\alpha$ in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes. (査読付)		共著	平成28年 1月	Biological and Pharmaceutical Bulletin	Naito K, <u>Moteki H.</u> , Kimura M, Natsume H, Ogihara M		
6 カルシウム拮抗薬とグレープフルーツジュースの相互作用に関するパンフレット配布による教育効果の検討 (査読付)		単著	平成28年 4月	薬局学会 薬局薬学 第8巻 第1号			114頁～120頁
7 Effects of oxethazaine and gamma-cyclodextrin complex formation on intestinal contractions (査読付)		単著	平成28年 8月	World Journal of Pharmaceutical Sciences vol.4 No.9			pp.269～pp.280
8 リウマトレックス®による間質性肺炎を例にした重篤な副作用の情報提供に対する非関節リウマチ患者の意識調査 (査読付)		単著	平成29年	日本薬局学会 薬局薬学			
その他							
1 ビタミンCによる成熟ラット初代培養肝実質細胞の増殖促進作用はIGF-1受容体を介している			平成26年 3月	日本薬学会 第134年会 ホテル日航熊本、熊本大学 黒髪キャンパス、熊本市総合体育館	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦		
2 PTP包装による誤飲対策に関する薬学的調査			平成26年 7月	埼玉医療薬学懇話会 第34回学術研究講演会 城西大学薬学部	遠藤 沙紀、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦		

3 日本 の精神疾患患者における禁煙治療の現状と諸外国の場合との比較について		平成26年 7月	埼玉医療懇話会 第34回学術研究講演会 城西大学薬学部	関口 菜都子、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
4 かかりつけ薬局と服薬アドヒアランスの関係性について		平成26年 7月	埼玉医療懇話会第34学術研究講演会 城西大学薬学部	岩野 貢典、石渡 知子、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
5 薬局来局者におけるOTC医薬品ネット販売に関する意識調査		平成26年 7月	埼玉医療懇話会第34回学術研究講演会	小田 翔平、長島 こぎく、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
6 Ca拮抗薬とグレープフルーツジュースの飲み合わせを例にした患者の薬に対する知識の定着を目指した取り組みについて		平成26年 7月	埼玉医療懇話会第34回学術研究講演会 城西大学薬学部	中村 梨絵、茂木 肇、木村 光利、白石 卓也、荻原 政彦
7 後発医薬品に対する医師・薬剤師の意識について		平成26年 7月	埼玉医療懇話会第34回学術研究講演会 城西大学薬学部	渡部 秀樹、渡部 秀人、太田 昌一郎、齋藤 耕一、時任 敏基、杉本 あけみ、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
8 患者の内服薬の飲み忘れにおける残薬の管理と服薬に関する調査研究		平成26年 7月	埼玉医療懇話会第34回学術研究講演会 城西大学薬学部	
9 山梨大学医学部附属病院の薬務室における安全・安心な医療の提供に関する薬剤師の役割と連携について		平成26年 7月	埼玉医療懇話会第34回学術研究講習会 城西大学薬学部	二階堂 綾美、茂木 肇、木村 光利、長澤 みわ子、寺島 朝子、荻原 政彦
10 70%部分肝切除マウスにおけるカルパコールの肝再生促進作用に関する研究		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 昭和薬科大学	野呂 昌代、矢田 祐平、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
11 70%部分肝切除ラットにおけるプロスタグランジンE2の肝再生促進作用に関する組織化学的研究		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 昭和薬科大学	内藤 浩太、北澤 知英、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
12 初代培養肝実質細胞におけるアスコルビン酸の増殖促進作用に対するアドレナリン作動性調節機構の検討		平成27年 3月	第88回日本薬理学会年会 名古屋国際会議場	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
13 70%部分肝切除ラットにおけるL-アスコルビン酸及びその誘導体による肝再生促進作用に関する検討		平成27年 3月	日本薬学会135年会（神戸） 神戸サンボーホール	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
14 70%部分肝切除ラットにおけるプロスタグランジンE2の肝再生促進作用に関する組織化学的研究		平成27年 7月	第132回日本薬理学会関東支部会 明海大学浦安キャンパス	内藤 浩太、北澤 知英、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
15 業務形態別かかりつけ薬局の利用推進に関する調査研究		平成27年 7月	埼玉医療懇話会第35回学術研究講演会 さいたま市文化センター	山本 夕貴、深澤 貴弥、白井 滋、小松 由美子、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
16 高血圧患者に対する薬剤師の家庭血圧測定指導効果に関する調査研究		平成27年 7月	埼玉医療懇話会第35回学術研究講演会 さいたま市文化センター	加藤 美徳、茂木 肇、木村 光利、前田 勝代、荻原 政彦
17 地域薬局におけるセルフメディケーションに対する患者の意識に関する調査研究		平成27年 7月	埼玉医療懇話会第35回学術研究講演会 さいたま市文化センター	小島 望、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
18 薬局におけるメトトレキサートを例にした重篤な副作用の情報提供に対する患者の意識に関する調査研究		平成27年 9月	第59回薬学会関東支部大会 日本大学薬学部	遠藤 菜、茂木 肇、木村 光利、田中 真奈美、小松 由美子、大山 邦之、荻原 政彦
19 オキセサゼイン- $\gamma$ -シクロデキストリン抱接化合物のマウス抽出回腸に対する収縮抑制作用に関する研究		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部	金井 里紗、茂木 肇、木村 光利、井上 裕、金本 都男、荻原 政彦
20 ラット初代培養肝実質細胞に対するインターロイキン1 $\beta$ の増殖促進作用の検討		平成28年 3月	第89回 日本薬理学会年会 パシフィコ横浜	内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
21 ラット初代培養肝実質細胞に対するインターロイキン1 $\beta$ の細胞増殖 促進作用はトランスフォーミング増殖因子 $\alpha$ の分泌を介している		平成28年 3月	第89回 日本薬理学会年会 パシフィコ横浜	茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
22 セロトニンの成熟ラット初代培養肝実質細胞における細胞増殖促進機構に関する検討		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 パシフィコ横浜	内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
23 病院における非高齢者のカルシウム拮抗薬服用後の胃腸障害発症率に関する調査研究		平成28年 7月	埼玉医療薬学懇話会 第36回学術研究講演会 さいたま市文化センター	星野 広太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
24 70%部分肝切除ラットにおける血清アミノ酸の変動に関する検討		平成28年 9月	第60回日本薬学会関東支部大会 東京大学大学院薬学系研究科、山上会館	阪本 恵、田中 里、内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦

25 Serotonin-induced hepatocyte mitogenesis is mediated by epidermal growth factor /transforming growth factor-alpha receptor tyrosine kinase pathway.		平成29年 3月	第90回日本薬理学会年会 長崎ブリックホール	Kota Naito, Hajime Moteki, Mitsutoshi Kimura, Masahiko Ogihara
26 Effect of serotonin on phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase in primary cultures of adult rat hepatocytes.		平成29年 3月	第90回日本薬理学会年会 長崎ブリックホール	Hajime Moteki, Kota Naito, Mitsutoshi Kimura, Masahiko Ogihara
27 ラット初代培養肝実質細胞におけるインターロイキン1βの増殖促進作用機構に関する検討		平成29年 3月	日本薬学会第137年会	内藤 浩太、茂木 肇、木村 光利、荻原 政彦
28 リウマトレックス®による間質性肺炎を例にした重篤な副作用の情報提供に対する非関節リウマチ患者の意識調査		平成29年 7月	埼玉医療薬学懇話会第 37 回学術研究講演会 東大宮コミュニティセン ター	仁宮 勇人、遠藤 菜、茂木 肇、 木村 光利、小松 由美子、荻原 政 彦
29 ラット初代培養肝実質細胞におけるEGF誘発細胞増殖促進作用に対するカルバコールの抑制効果に関する研究		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部 大会 慶応義塾大学薬学部	小鷹麻衣、河原井珠美、鈴木里 奈、杉谷幸子、内藤浩太、茂木 肇、木村光利、荻原政彦
30 アセトアミノフェン誘発肝障害マウスにおけるシステインの肝障害抑制作用に関する検討		平成29年 9月	第61回日本薬学会関東支部 大会 慶応義塾大学薬学部	木下和、石井梨恵、仲村翔太郎、 青柳颯太、内藤浩太、茂木肇、木 村光利、荻原政彦
31 カルシウム拮抗薬とグレープフルーツジュースの相互作用に関するパンフレット配布による教育効果の検討		平成29年11月	第23回埼玉県薬剤師会学術 大会 埼玉県 県民健康センター	森崎 佳菜、蛭田美和、茂木肇、 中村梨絵、木村光利、白石卓也、 荻原政彦
32 セロトニンによるEGFR/MAPK経路の活性化に対する特異的シグナル伝達因子阻害薬の効果の検討		平成30年 3月	日本薬学会 第138年会（金 沢） もてなしドーム（金沢）	内藤浩太、栗原一樹、茂木肇、木 村光利、荻原政彦
33 セロトニンの肝実質細胞増殖促進作用に対する増殖関連シグナル伝達因子活性の経時的変化の検討		平成30年 3月	日本薬学会 第138年会（金 沢） もてなしドーム（金沢）	栗原一樹、内藤浩太、茂木肇、木 村光利、荻原政彦
34 Signal Transduction Mechanism for 5-HT2B Receptor-Stimulated Autocrine Secretion of Transforming Growth Factor-α in Primary Cultures of Adult Rat Hepatocytes.		平成30年 7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology Kyoto International Conference Center	Hajime Moteki, Kota Naito, Mitsutoshi Kimura and Masahiko Ogihara.
35 Serotonin-induced DNA synthesis and proliferation are mediated by autocrine secretion of transforming growth factor-α in primary cultures of adult rat hepatocytes		平成30年 7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology Kyoto International Conference Center	Kota Naito, Hajime Moteki, Mitsutoshi Kimura and Masahiko Ogihara
36 健康サポート薬局における健康相談会の有用性に関する調査研究		平成30年 7月	埼玉医療薬学懇話会第 38 回学術研究講演会 日本薬科大学	山本雅人、茂木肇、荻原政彦、白 井達洋、木村光利
37 ラット初代培養肝実質細胞における葉酸の細胞増殖抑制作用に関する検討		平成30年 9月	第62回日本薬学会関東支部 大会 帝京平成大学	中西航汰、田中彰太、関口祐、栗 原一樹、内藤浩太、茂木肇、荻原 政彦、木村光利
38 ミグリトール-シクロデキストリン包接化合物の血糖上昇抑制効果に関する検討		平成30年 9月	第62回日本薬学会関東支部 大会 帝京平成大学	田中優弥、栗原一樹、内藤浩太、 茂木肇、荻原政彦、木村光利
III 学会等および社会における主な活動				
平成26年 8月	平成26年度「ひらめき☆ときめきサイエンス」－ようこそ大学の研究室へ－			
平成26年10月	平成26年度「スーパーサイエンスハイスクール」－城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」－			
平成27年 7月	平成27年度「ひらめき☆ときめきサイエンス」－ようこそ大学の研究室へ－			
平成27年10月	平成27年度「スーパーサイエンスハイスクール」－城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」－			

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 野村 陽恵		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 確認小テスト				平成30年 4月～現在に至る	授業後にwebclassを利用して確認小テストを実施することで、知識の定着を図っている。また、成績は確認小テストを20%組み込んでいる。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
論文							
1 Effects of Oakmoss and its Components on Acanthamoeba castellanii ATCC 30234 and the Uptake of Legionella pneumophila JCM 7571 (ATCC 33152) into A. castellanii (査読付)	共著	平成27年	日本防菌防黴学会 Biocontrol Science vol.20 No.1	Nomura Harue, Isshiki Yasunori, Sakuda Keisuke, Sakuma Kastuya, Kondo Seiichi	pp.59～pp.65		
2 Effects of fragrance ingredients on the uptake of Legionella pneumophila into Acanthamoeba castellanii (査読付)	共著	平成30年	日本防菌防黴学会 Biocontrol Science vol.23 No.4	Nomura Harue, Isshiki Yasunori, Sakuda Keisuke, Sakuma Kastuya, Kondo Seiichi			
その他							
1 天然香料 oakmoss 及びその含有成分のアメーバ及びアメーバ内 Legionella pneumophila に対する影響		平成26年 3月	日本薬学会第 134 年会 熊本県	野村陽恵, 一色恭徳, 作田圭亮, 佐久間克也, 近藤誠一			
2 抗菌物質の抗菌作用解析に関する研究		平成26年 3月	日本薬学会第 134 年会	新里めぐみ, 野村陽恵, 一色恭徳, 作田圭亮, 佐久間克也, 近藤誠一			
3 天然香料 oakmoss とその含有成分のアメーバとアメーバ内 Legionella pneumophila に対する影響		平成27年 9月	日本防菌防黴学会 第 42 回年次大会	野村陽恵, 一色恭徳, 作田圭亮, 佐久間克也, 近藤誠一			
4 天然香料 oakmoss 及びその含有成分のアメーバ内 Legionella pneumophila に対する抗菌活性評価		平成28年 3月	日本薬学会第 136 年会	野村陽恵, 一色恭徳, 作田圭亮, 佐久間克也, 近藤誠一			
5 香料のアメーバとアメーバ内 Legionella pneumophila に対する影響		平成28年 9月	第 60 回 日本薬学会関東支部大会	野村陽恵, 高橋佐規子, 東原由樹, 一色恭徳, 作田圭亮, 佐久間克也, 近藤誠一			
6 香料と抗菌薬の抗菌作用の解析		平成29年 3月	第 90 回 日本細菌学会総会	野村陽恵, 山田敦士, 新里めぐみ, 一色恭徳, 作田圭亮, 佐久間克也, 近藤誠一			
7 腸炎ビブリオ 07 リポ多糖の糖鎖構造		平成29年 3月～平成29年 9月	第90回日本細菌学会総会 仙台	一色 恭徳, 内村 嘉孝, 野村 陽恵, 近藤 誠一			
8 香料の Pseudomonas aeruginosa 薬剤排出ポンプに対する影響		平成29年 3月	日本薬学会第 137 年会	野村陽恵, 一色恭徳, 作田圭亮, 佐久間克也, 近藤誠一			
9 シクロデキストリン誘導体を用いたヒノキチオール固体分散体における抗菌活性の評価		平成29年 8月	第34回シクロデキストリンシンポジウム 愛知				
10 緑膿菌の抗菌薬感受性に及ぼす香料の影響		平成30年 3月	日本薬学会第138年会 金沢	野村陽恵, 一色恭徳, 作田圭亮, 佐久間克也, 近藤誠一			
11 腸炎ビブリオ07リポ多糖の多糖部構造解析		平成30年 3月	第91回日本細菌学会総会 福岡	一色恭徳、天野瑞恵、石川恵美、松島茉莉子、野村陽恵、近藤誠一			
12 天然香料又はその主要成分の抗菌薬との併用によるMRSA の抗菌薬感受性に及ぼす影響		平成30年 9月	第62回日本薬学会関東支部大会 東京	若島果穂, 喜多村幸, 野村陽恵, 一色恭徳, 作田圭亮, 佐久間克也, 近藤誠一			
13 香料と抗菌薬との併用による MRSA の抗菌薬感受性に及ぼす影響		平成30年 9月	第62回日本薬学会関東支部大会 東京	石崎美香、喜多村幸、野村陽恵、一色恭徳、作田圭亮、佐久間克也、近藤誠一			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動
--------------------

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 教授	氏名 古地 壯光	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) 講義方法の工夫		平成26年 4月～現在に至る	PowerPoint や AV機器を利用して分かりやすい講義になるように心掛けるとともに、前年度の講義内容やそれに対する授業アンケートの結果を踏まえて、スライドや配布資料の更新を行っている。		
2) 研究室における教育環境の整備		平成26年 4月～現在に至る	研究ならびに学習室の清掃と機器の移動による勉強ならび実験スペースの確保、新設備の導入、旧設備の更新など、研究を通して教育活動を行う上で重要と思われる環境の整備のために日々尽力している。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
1) 作成した教科書		平成27年 3月	生命科学における分析化学		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
1 Additional analysis of cyanobacterial polyamines — Distributions of spermidine, homospermidine, spermine, and thermospermine within the phylum Cyanobacteria. — (査読付)	共著	平成28年 7月	日本微生物資源学会 Microbial Resources and Systematics vol.32 No.2	Koei Hamana, Takemitsu Furuchi, Hidenori Hayashi and Masaru Niitsu	pp.179～pp.186
2 Occurrence of penta-amines, hexa-amines and N-methylated polyamines in unicellular eukaryotic organisms belonging to the phyla Heterokontophyta and Labyrinthulomycota of the subdomain Stramenopiles. (査読付)	共著	平成28年10月	Applied Microbiology, Molecular and Cellular Biosciences Research Foundation The Journal of General and Applied Microbiology vol.62 No.2	Hamana K, Furuchi T, Nakamura T, Hayashi H, Niitsu M	pp.320～pp.325
3 Occurrence of two novel linear penta-amines, pyropentamine and homopyropentamine, in extremely thermophilic <i>Thermus compositi</i> . (査読付)	共著	平成28年11月	Applied Microbiology, Molecular and Cellular Biosciences Research Foundation The Journal of General and Applied Microbiology vol.62 No.6	Hamana K, Furuchi T, Hayashi H, Itoh T, Ohkuma M, Niitsu M.	pp.334～pp.339
4 Polyamine analysis of brown-algal seaweeds (class Phaeophyceae) from food markets -Distribution of diamino-hexane, penta-amines, and hexa-amine- (査読付)	共著	平成29年 6月	Microbial Resources and Systematics vol.33 No.1	Hamana K., Kobayashi M., Furuchi T., Hayashi H., Niitsu M.	pp.3～pp.8
5 Identification of a novel acetylated form of branched-chain polyamine from a hyperthermophilic archaeon <i>Thermococcus kodakarensis</i> (査読付)	共著	平成29年 7月	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry vol.81 No.9		pp.1845～pp.1849
6 Polyamine distribution profiles in unicellular and multicellular red algae (phylum Rhodophyta) -Detection of 1,6-diamino-hexane, aminobutylcadaverine, canavalmine and aminopropylcanavalmine- (査読付)	共著	平成30年12月	日本微生物資源学会 Microbial Resources and Systematics vol.34 No.2	Hamana K., Kobayashi M., Furuchi T., Hayashi H., Niitsu M.	pp.83～pp.91
7 Polyamine analysis of unicellular, colonial, and multicellular green algae -Detection of aminobutylcadaverine, N1-aminopentylspermidine, N8-aminopentylspermidine, and penta-amines -, (査読付)	共著	平成30年12月	日本微生物資源学会 Microbial Resources and Systematics vol.34 No.2	Hamana K., Kobayashi M., Furuchi T., Hayashi H., Niitsu M.	pp.73～pp.82

8 Polyamine analysis of leguminous seed, sprout, leaf, flower, pod, root and root nodule : distribution of diaminohexane, aminobutyl cadaverine, methyl polyamines and alkanol polyamines (査読付)	共著	平成31年 1月	International Journal of Agriculture and Environmental Research vol. 5 No. 1	Hamana K., Furuchi T., Hayashi H., Niitsu M.	pp.113~ pp.129
9 Simplification of FDLA Pre-Column Derivatization for LC/MS/MS Toward Separation and Detection of d,l-Amino Acids (査読付)	共著	平成31年 3月	Springer Nature Chromatographia vol.82 No.3	Kobayashi M., Takano Y., Takishima H., Sakaitani S., Niitsu M., Furuchi T.	pp.705~ pp.708
その他					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 工藤 なをみ		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) 衛生化学詳解下				平成26年 9月～平成28年 8月			
2) 衛生化学詳解改訂第2版下				平成28年 9月～現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
1) 薬学教育協議会衛生薬学部薬剤師国家試験問題検討委員会委員				平成20年 4月～現在に至る		薬剤師国家試験問題のうち、衛生薬学分野の問題について薬科大学・薬学部の教科担当者間で検討する。	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
1 Toxicological Effects of Perfluoroalkyl and Polyfluoroalkyl Substances		共著	平成27年	Humana Press	Christopher Lau, Sonia Dagnino, Naomi Kudo, et al.		担当部分: Metabolism and Pharmacokinetics
2 衛生化学詳解 第2版		共著	平成28年 9月	京都廣川書店	浅野哲、阿部すみ子、大塚文徳、川嶋洋一、工藤なをみ、杉山晶規、中川靖一、光本篤史		担当部分: 第5部 毒理学
論文							
1 Inducing effect of clofibrac acid on stearyl-CoA desaturase in intestinal mucosa of rats. (査読付)		共著	平成26年11月	Springer American Oil Chemist's Society Lipids vol. 49	2. Yamazaki, T., Kadokura, M., Mutoh, Y., Sakamoto, T., Okazaki, M., Mitsumoto, A., Kawashima, Y., Kudo, N.		pp.1203～pp.1214
2 Effects of dietary fish oil on cytochrome P450 3A expression in the liver of SHR/NDmcr-cp(cp/cp) rats, an animal model for metabolic syndrome. (査読付)		共著	平成27年	The Japanese Society of Toxicology Fundamental Toxicological Sciences vol.2	Yamazaki, T., Ohki, T., Taguchi, H., Yamamoto, A., Okazaki, M., Sakamoto, T., Mitsumoto, A., Kawashima, Y., Kudo, N.		pp.127～pp.135
3 Abnormalities in the metabolism of fatty acids and triacylglycerols in the liver of the Goto-Kakizaki rat, a model for non-obese type 2 diabetes. (査読付)		共著	平成28年	Springer, Americal Oil Chemists' Society Lipids vol. 55	3. Karahashi, M., Hirata-Hanta, Y., Kawabata, K., Tsutsumi, D., Kametani, M., Takamatsu, N., Sakamoto, T., Yamazaki, T., Asano, S., Mitsumoto., Kawashima, Y., Kudo, N.		pp.955～pp.971
4 Fatty Acid $\beta$ -Oxidation plays a key role in regulating cis-palmitoleic acid levels in the liver (査読付)		共著	平成28年	The pahraceutical Society of Japan Biological and Pharmaceutical Bulletin vol. 39	Kawabata, K., Karahashi, M., Sakamoto, T., Tsuji, Y., Yamazaki, T., Okazaki, M., Mitsumoto, A., Kudo, N., Kawashima, Y.		pp.1995～pp.2008
5 Perfluorododecanoic acid induces cognitive deficit in adult rats (査読付)		共著	平成29年	The Society of Toxicology (USA) Toxicological Sciences vol.157	Kawabata, K., Matsuzaki, H., Nukui, S., Okazaki, M., Sakai, A., Kawashima, Y., Kudo, N.		pp.421～pp.428
6 Disposition of perfluorododecanoic acid in male rats after an oral administration (査読付)		共著	平成29年 7月	日本毒理学学会 Fundamental Toxicological Sciences vol.4 No.4			pp.179～pp.186
7 Short and long photoperiods differentially exacerbate corticosterone-induced physical and psychological symptoms in mice. (査読付)		共著	平成30年 2月	Biomedical Research Press Biomedical Research vol.39 No.1	Hiroshi KAWAI, Jin INABE, Takuya ISHIBASHI, Naomi KUDO, Yoichi KAWASHI ...		pp.47～pp.55
8 Chronopharmacological Analysis of Antidepressant Activity of a Dual-Action Serotonin Noradrenaline Reuptake Inhibitor (SNRI), Milnacipran, in Rats (査読付)		共著	平成30年 2月	The Pharmaceutical Society of Japan Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.41 No.2	Hiroshi Kawai, Megumi Machida, Takuya Ishibashi, Naomi Kudo, Yoichi Ka ...		pp.213～pp.219

9 Time of Administration of Acute or Chronic Doses of Imipramine Affects its Antidepressant Action in Rats (査読付)	共著	平成30年 5月	Bio Med Central Journal of Circadian Rhythms vol.16	Hiroshi Kawai, Natsumi Kodaira, Chika Tanaka, Takuya Ishibashi, Naomi Kudo, YoichiKawashima, Atsushi Mitsumoto	pp. 5
10 Reduction in Secretion of Very Low Density Lipoprotein-Triacylglycerol by a Matrix Metalloproteinase Inhibitor in a Rat Model of Diet-Induced Hypertriglyceridemia (査読付)	共著	平成30年 7月	The American Society of Pharmacology and Experimental Therapeutics Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics vol.366 No. 7	Yoichi Kawashima, Yoshihiro Eguchi, Tohru Yamazaki, Minako Karahashi, Hiroshi Kawai, and Naomi Kudo	pp.194～ pp. 204
その他					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成15年 4月～現在に至る	日本中央競馬会禁止薬物再検査制度立会人				
平成17年12月～現在に至る	日本薬学会 ファルマシア地区通信委員				
平成20年 2月～現在に至る	日本薬学会 関東支部幹事				
平成25年 2月～現在に至る	日本薬学会 代議員				
平成27年 9月～現在に至る	厚生労働省薬事・食品衛生審議会専門委員（動物用医薬品残留問題調査会）				
平成29年 1月～現在に至る	厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員（動物用医薬品等部会）				

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 竹田 明彦		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 医師として				平成16年 4月～現在に至る		臨床医として勤務を通して最新の医療情報を収集し授業に活かしている	
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
論文							
1 Human arm protein lost in epithelial cancers, on chromosome X 1 gene is transcriptionally regulated by CREB and Wnt/ $\beta$ -catenin signaling Cancer (査読付)		共著	平成22年	Cancer Science vol.101 No. 6		Iseki H, Takeda A*, Andoh T, Takahashi N, Kurochkin IV, Yarmishyn, A, Shimada H, Okazaki Y, Koyama I:	pp.1361～pp.1366
2 Reconstruction system of rat lymphatic tracts after total iliac lymphadenectomy (査読付)		共著	平成23年	Hepato-gastroenterology vol.158 No.109		Takahashi N, Andoh T, Iseki H, Satou T, Ichioka S, Takeda A	pp.1099～pp.1105
3 ALEX1 suppresses colony formation ability of human colorectal carcinoma cell lines (査読付)		共著	平成24年	Cancer Science vol.103 No. 7		Iseki H, Takeda A*, Andoh T, Kuwabara K, Takahashi N, Kurochkin I. V, Okazaki Y and Koyama I	pp.1267～pp.1271
その他							
III 学会等および社会における主な活動							
平成22年11月～現在に至る			日本癌学会 評議員				

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。  
 ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。  
 ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。  
 ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。  
 ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授	氏名 北澤 貴樹	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) 医療現場と立場から			平成22年 4月～現在に至る	これまで培ってきた知識、技術、経験等を学生の教育・育成に役立てている。	
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 トラニラスト服用患者尿に析出した薬剤性結晶の同定	共著	平成10年12月	医薬品研究		
2 新しい心停止・保護液の開発ーヒスチジン、ATP添加による心筋保護効果の改良ー	単著	平成11年10月	埼玉医科大学雑誌		
3 重症心疾患手術に対応したヒスチジン、ATP添加St. Thomas心停止液の開発、作成のコンセプトとその臨床成績の検討	共著	平成12年10月	低温医学		
論文					
その他					
III 学会等および社会における主な活動					
平成27年 4月～現在に至る		埼玉県病院薬剤師会 会長			

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 助教	氏名 小林 正樹	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) クラス担任		平成29年 4月～現在に至る			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
1 Targeting misuse of 2-amino-N-ethyl-1-phenylbutane in urine samples: in vitro-in vivo correlation of metabolic profiles and development of LC-TOF-MS method. (査読付)	共著	平成27年 2月	Drug Test Anal		
2 Drospirenone detected in postmortem blood of a young woman with pulmonary thromboembolism: A case report and review of the literature. (査読付)	共著	平成27年 3月	Legal Medicine		
3 Blood creatinine level in postmortem cases. (査読付)	共著	平成27年 3月	Science & Justice		
4 Polyamine analysis of brown-algal seaweeds (class Phaeophyceae) from food markets -distribution of diaminohexane, penta-amines, and hexa-amine-. (査読付)	共著	平成28年 6月	Microbial Resource and Systematics		
5 Identification of a novel acetylated form of branched-chain polyamine from a hyperthermophilic archaeon Thermococcus kodakarensis. (査読付)	共著	平成29年 7月	Biosci Biotechnol Biochem		
6 Polyamine analysis unicellular, colonial, and multicellular green algae-Detection of aminobutylcadaverine, N1-aminopentylspermidine, and penta-amines. (査読付)	共著	平成30年	Microbial Resource and Systematics		
7 Polyamine distribution profiles in unicellular and multicellular red algae (phylum Rhodophyta) -Detection of 1,6-deaminohexane, aminobutylcadaverine, canavamine and aminopropylcanavamine-. (査読付)	共著	平成30年	Microbial Resource and Systematics		
8 Simplification of FDLA Pre-Column Derivatization for LC/MS/MS Toward Separation and Detection of d,l-Amino Acids (査読付)	共著	平成30年12月	springer Chromatographia		
その他					
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。  
 ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 教授	氏名 関谷 剛	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
その他					
1 数字で見る生活習慣病 脂質異常症	単著	平成30年	アトムファイン 第2018巻 第夏号		10頁～11頁
2 数字で見る生活習慣病 肥満症	単著	平成30年	法研 アトムファイン 第2018巻 第秋号		10頁～11頁
3 平成29年におけるアナフィラキシー報告の検討		平成30年 7月	第81回臨床アレルギー研究会 アステラス製薬本社4階ホール	関谷剛, 斉藤美可子, 渡辺知恵	
4 ビギナーのための賢い健診活用ガイド	単著	平成30年11月	法研 ジャストヘルス 第375号		18頁
III 学会等および社会における主な活動					
平成27年10月	東京都電機健康保険組合 講演会				
平成28年 5月	『ストレスチェック制度について』				
平成28年 6月	東京自転車健康保険組合 健康セミナー				
平成29年11月	産業医カンファランス 気分障害				
平成30年 1月	健康セミナー 富山				
平成30年 4月	坂戸市 市民公開講座 運動と食習慣				
平成30年 4月	サントリー アレルギー対策に関して				
平成30年 6月	ハウスメイト 全国安全衛生大会 産業衛生活動の基本				
平成30年 8月	第4回産業医カンファランス 発達障害				
平成30年 9月	東京大学セミナー 産業衛生ビジネスに関して				
平成30年 9月	丸善石油化学 健康セミナー ガン予防				
平成30年10月	神奈川電気電子機器健康保険組合 健康委員会				
平成30年11月	健康セミナー バランスの良い生活習慣				
平成30年11月	東京機器健康保険組合 健康セミナー				
平成30年11月	竹内社労士事務所 メンタルセミナー				
平成31年 1月	ファーマコビジネスイノベーションセミナー				
平成31年 1月	産業医研修会				
平成31年 2月	東京大学政策ビジョンセンターライフスタイルデザイン研究ユニット設立記念シンポジウム				
平成31年 2月	CBD研究会				
平成31年 3月	全日本電設資材卸業協同組合連合会 労務管理セミナー				
平成31年 3月	東京文具健康保険組合 健康セミナー				
平成31年 3月	東京機器健康保険組合 健康セミナー				

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。  
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。  
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。  
 ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。  
 ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。  
 ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。  
 ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 北原 嘉泰		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 演習を取り入れた講義の実施				平成18年 4月～現在に至る		一方的に講義をするだけでなく、講義した内容に関連する問題を提示し、授業時間中に問題を解答させた後に解説を行い、理解を深められるようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) 第99回薬剤師国家試験問題 問題篇、解答・解説篇				平成26年 3月～平成26年 6月		第99回薬剤師国家試験問題のうち「化学」2問の解説を作成し、さらに解答・解説篇全体 (345問) の編集を行った。本書は薬学科1～6年生全員に配布している。	
2) 第100回薬剤師国家試験問題 問題篇、解答・解説篇				平成27年 3月～平成27年 6月		第100回薬剤師国家試験問題のうち「化学」2問の解説を作成し、さらに解答・解説篇全体 (345問) の編集を行った。本書は薬学科1～6年生全員に配布している。	
3) 第101回薬剤師国家試験問題 問題篇、解答・解説篇				平成28年 3月～平成28年 6月		第101回薬剤師国家試験問題のうち「化学」2問の解説を作成し、さらに解答・解説篇全体 (345問) の編集を行った。本書は薬学科1～6年生全員に配布している。	
4) 第102回薬剤師国家試験問題 問題篇、解答・解説篇				平成29年 3月～平成29年 6月		第102回薬剤師国家試験問題のうち「化学」2問の解説を作成し、さらに解答・解説篇全体 (345問) の編集を行った。本書は薬学科1～6年生全員に配布している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) 総合科目の試験問題の編集と校正、及び作成指導				平成23年 4月～平成30年 3月		薬学科 (6年制) 教育課程の締めくくりとして、これまでに学んだ薬学の学習内容を総括し、優れた薬剤師として社会に貢献できるようになるための知識・技能を確認することを目的として開講している総合科目 (総合医療薬学演習) の試験が適切に行われるように、試験問題全体の編集、校正を行うとともに、適切な問題が出題されるよう、出題基準の作成と出題者へのアドバイスをを行った。	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
論文							
その他							
III 学会等および社会における主な活動							
平成25年 2月～現在に至る			日本薬学会 代議員				
平成26年 4月～平成30年 3月			東京都立清瀬高等学校学校運営連絡協議会委員				

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。